

在宅介護実態調査報告書

平成29年11月

<島原地域広域市町村圏組合>

目次

第1 調査の概要

- 1 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 1]
- 2 調査の実施方法と回収状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 1]
- 3 調査結果を見る上での留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 1]

第2 (単純集計版) 在宅介護実態調査の集計結果

- 1 基本調査項目 (A票)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 4]
 - (1) 世帯類型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 4]
 - (2) 家族等による介護の頻度・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 5]
 - (3) 主な介護者の年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 6]
 - (4) 介護のための離職の有無・・・・・・・・・・・・[P. 8]
 - (5) 施設等検討の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 10]
- 2 主な介護者様用の調査項目 (B票)・・・・・・・・・・・・[P. 11]
 - (1) 主な介護者の勤務形態・・・・・・・・・・・・[P. 11]
 - (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況・・・・[P. 12]
 - (3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識・・・・[P. 14]
 - (4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護・・・・・・・・[P. 15]
- 3 要介護認定データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 17]
 - (1) 年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 17]
 - (2) 性別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 19]
 - (3) 二次判定結果 (要介護度)・・・・・・・・・・・・[P. 20]
 - (4) サービス利用の組み合わせ・・・・・・・・・・・・[P. 22]
 - (5) 訪問系サービスの合計利用回数・・・・・・・・[P. 24]
 - (6) 通所系サービスの合計利用回数・・・・・・・・[P. 26]
 - (7) 短期系サービスの合計利用回数・・・・・・・・[P. 28]
 - (8) 障害高齢者の日常生活自立度・・・・・・・・[P. 30]
 - (9) 認知症高齢者の日常生活自立度・・・・・・・・[P. 32]

第3 (クロス集計版) 在宅介護実態調査の集計結果

- 1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討・・・・・・・・[P. 35]
 - 1.1 集計・分析の狙い・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 35]
 - 1.2 集計結果と着目すべきポイント・・・・・・・・[P. 36]
 - (1) 基礎集計・・・・・・・・・・・・・・・・[P. 36]
 - (2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化・・・[P. 39]
 - (3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化・・・・[P. 46]

(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 54]
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 60]
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 66]
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 72]
1.3 考察	[P. 90]
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	[P. 91]
2.1 集計・分析の狙い	[P. 91]
2.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 92]
(1) 基本集計	[P. 92]
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	[P. 97]
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	[P. 102]
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	[P. 106]
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	[P. 110]
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	[P. 113]
2.3 考察	[P. 118]
3 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	[P. 119]
3.1 集計・分析の狙い	[P. 119]
3.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 120]
(1) 基礎集計	[P. 120]
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	[P. 122]
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	[P. 126]
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	[P. 132]
3.3 考察	[P. 139]
4 サービス未利用の理由など	[P. 140]
4.1 集計・分析の狙い	[P. 140]
4.2 集計結果（参考）	[P. 140]
(参考) 在宅介護実態調査 調査票	[P. 142]

第1 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、島原地域広域市町村圏組合の第7期介護保険事業計画の策定に向けて、基礎資料とすることを目的に、在宅で生活している要支援・要介護者及び介護をしている人を対象に、家族介護の実態、施設入所の検討状況、家族介護就労状況等を調査したものです。

2 調査の実施方法と回収状況

調査対象者	調査方法	回収数	
在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている方のうち、「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をされた方に対し調査員が訪問調査し回収	認定調査員による聞き取り調査	島原市	225
		雲仙市	206
		南島原市	219
		合計	650

3 調査結果を見る上での留意点

- 図表中の「n」(=number of samples) は、設問への回答者数を示しています。
- 回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 結果報告内の「障害高齢者の日常生活自立度」、「認知症高齢者の日常生活自立度」の定義については、次のとおりです。

障害高齢者の日常生活自立度

生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 1. 交通機関等を利用して外出する。 2. 隣近所へなら外出する。
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中に寝たり起きたりの生活をしている。
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
	C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。 1. 自力で寝返りをうつ。 2. 自力では寝返りもうてない。

認知症高齢者の日常生活自立度

I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

第 2 (単純集計版)

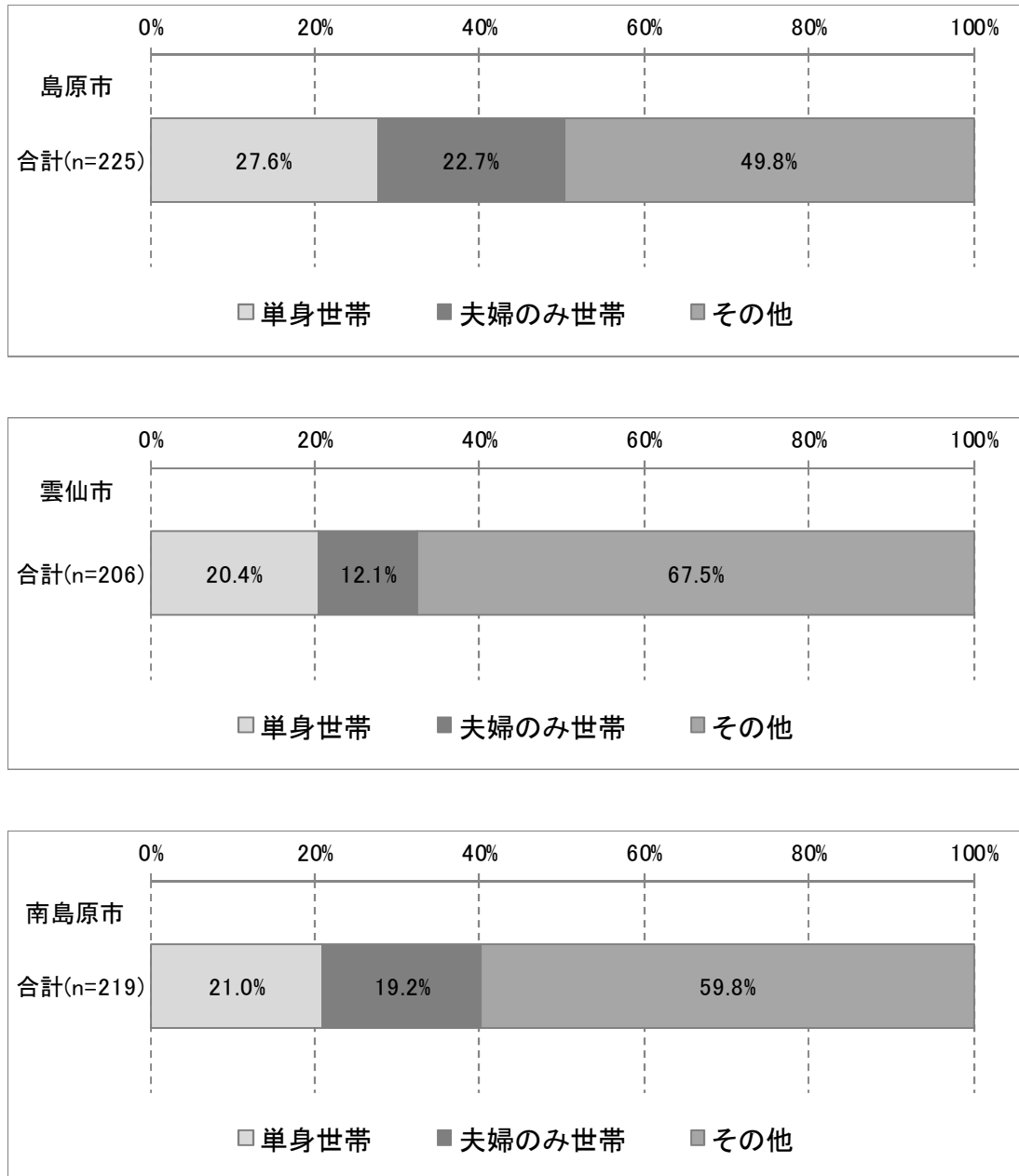
在宅介護実態調査の集計結果

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

○ 世帯類型は、3市とも「その他」が最も高くなっています（図表 1-1）。

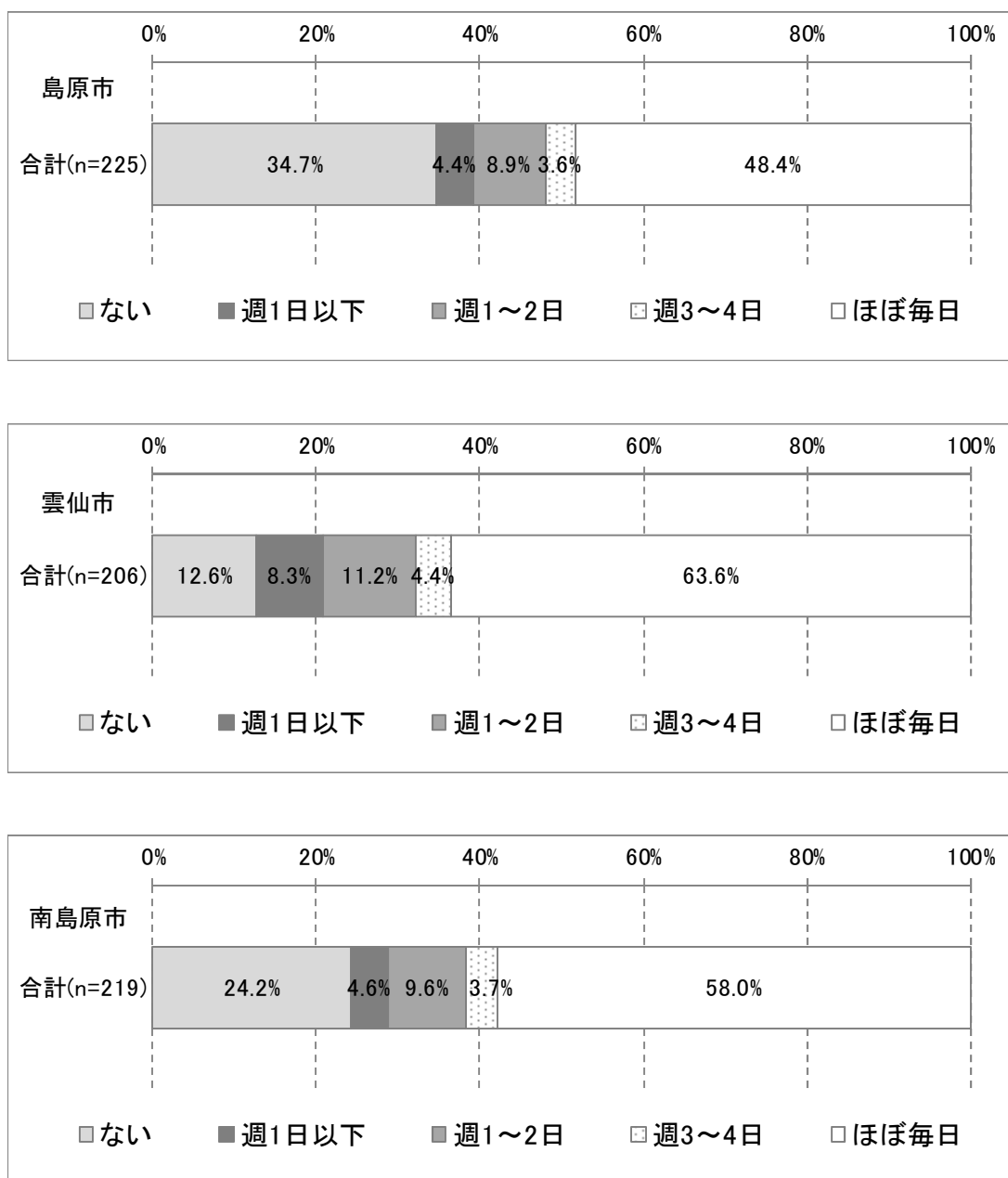
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

- 家族等による介護の頻度について、島原市は、雲仙市と南島原市と比べ「ない」の割合が高く、「ほぼ毎日」は低くなっています（図表 1-2）。

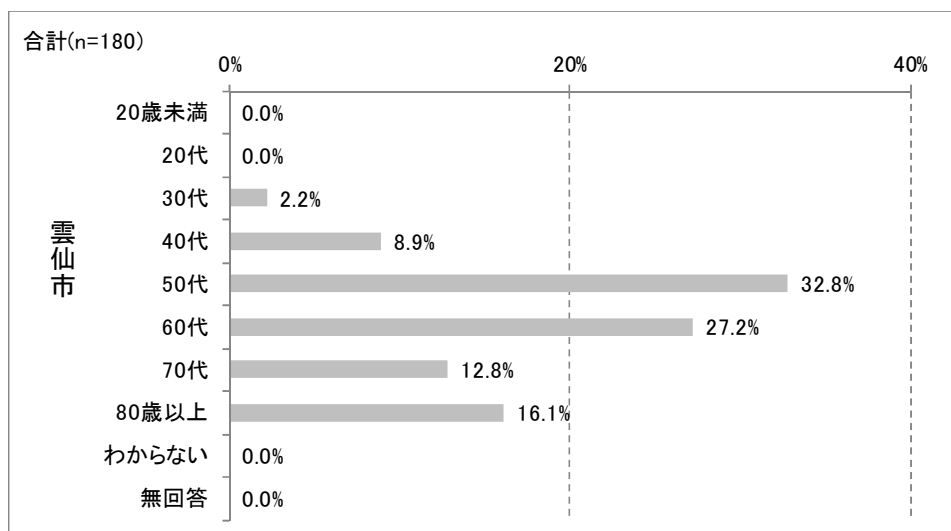
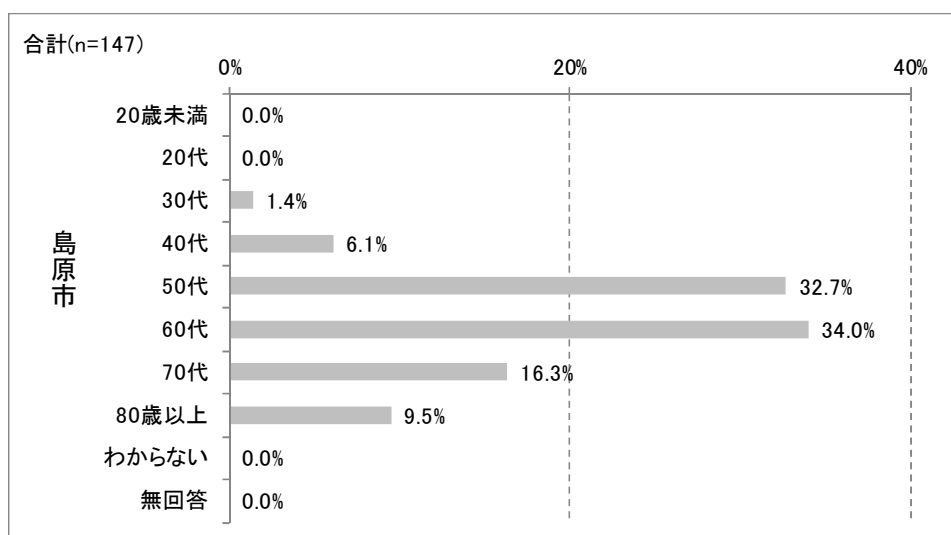
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）

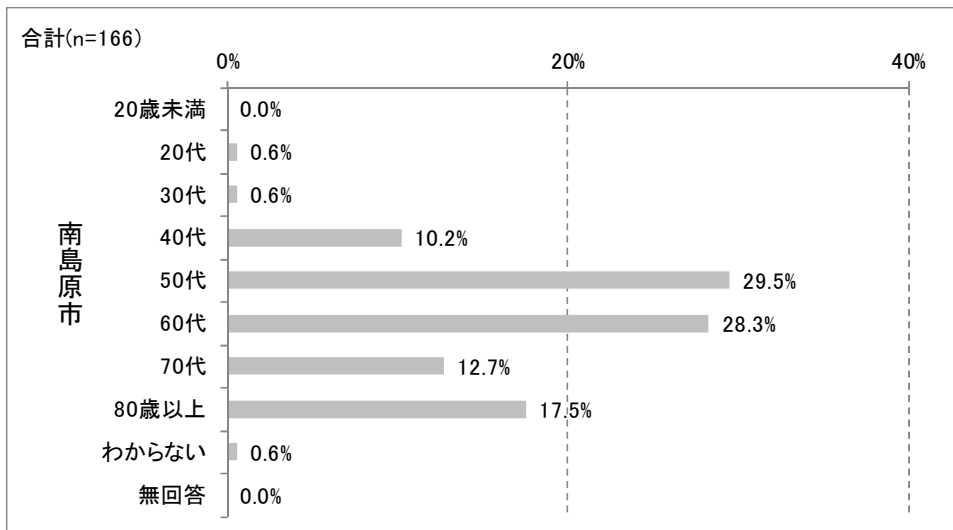


(3) 主な介護者の年齢

- 主な介護者の年齢については、3市とも「50代」、「60代」の割合が高く、雲仙市及び南島原市においては、「50代」、「60代」に次いで「80歳以上」の割合が高くなっています(図表 1-3)。

図表 1-3 主な介護者の年齢 (単数回答)

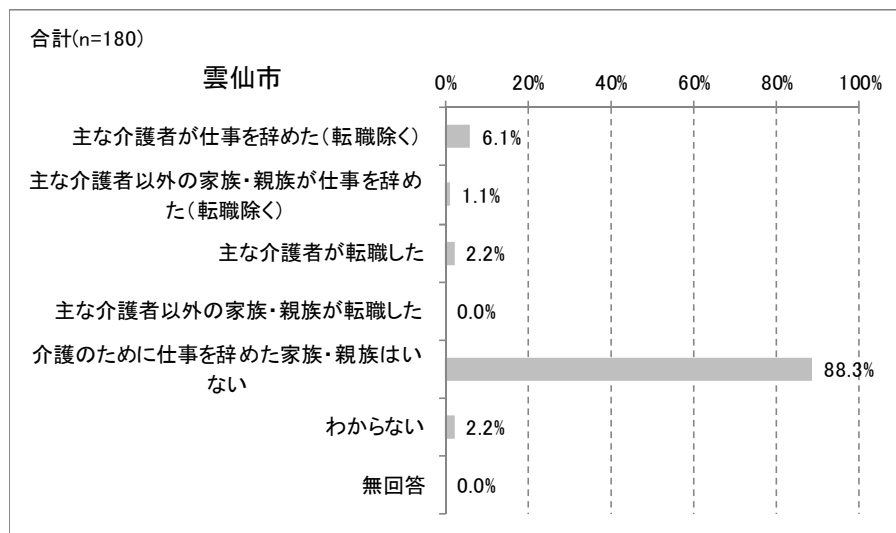
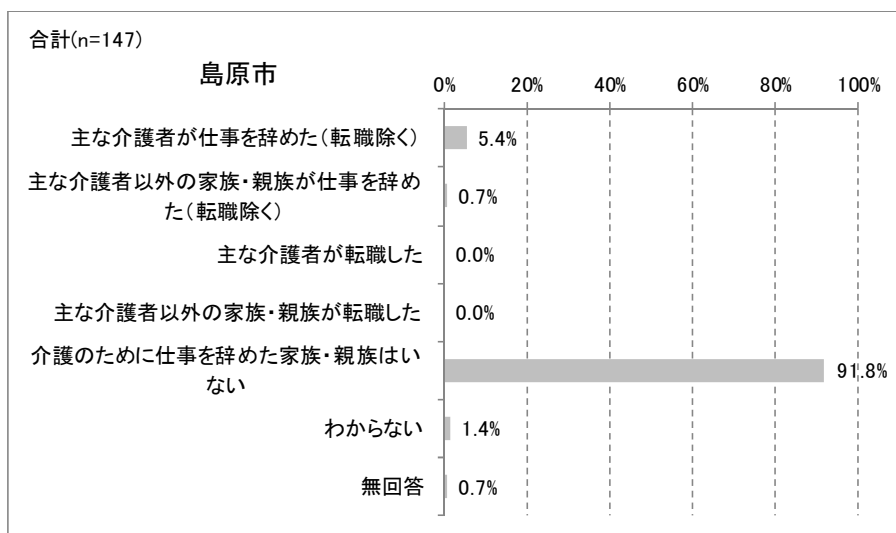




(4) 介護のための離職の有無

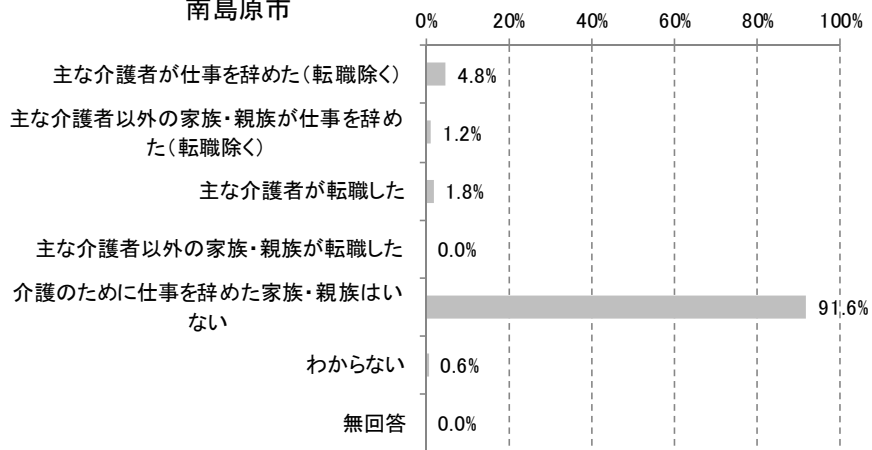
- 介護のための離職の有無では、3市とも「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が次に高くなっています（図表 1-4）。

図表 1-4 介護のための離職の有無（複数回答）



合計(n=166)

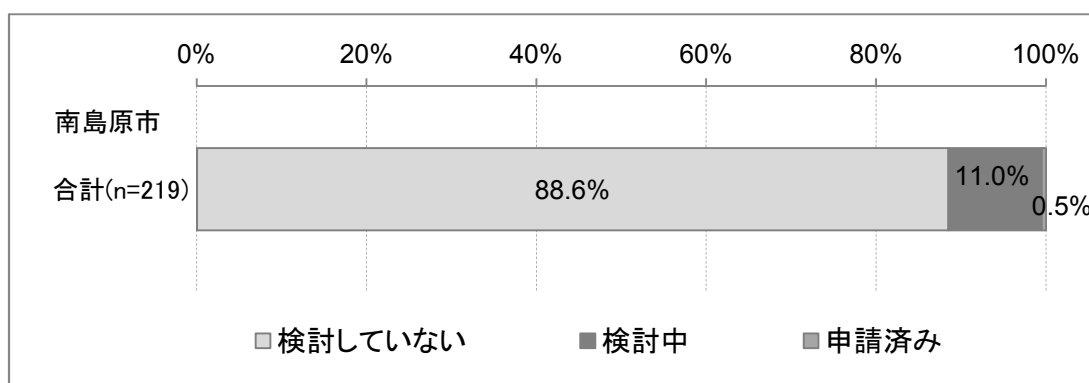
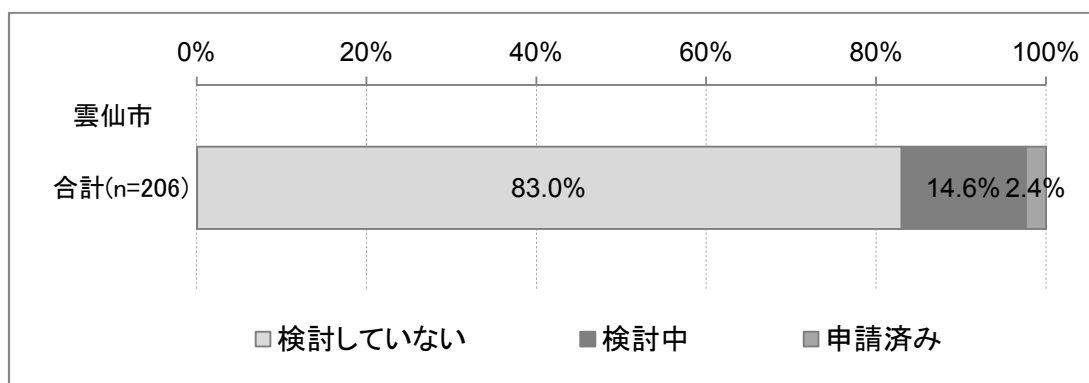
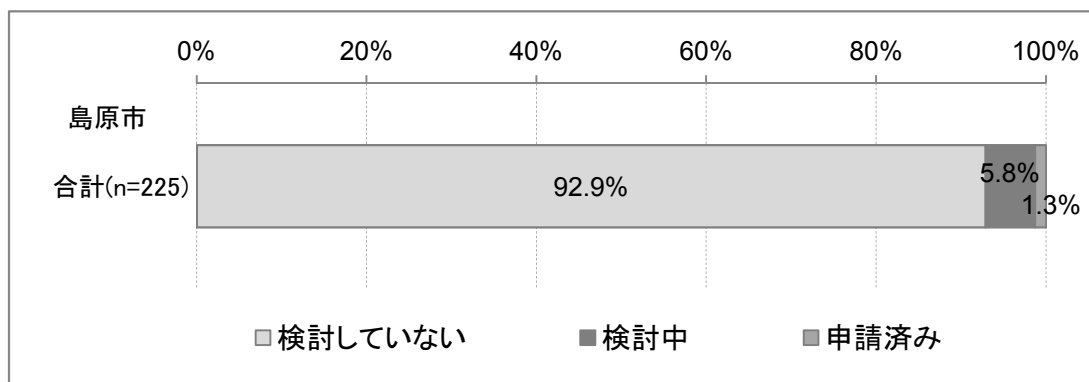
南島原市



(5) 施設等検討の状況

○ 施設等の検討状況は、3市とも「検討していない」の割合が最も高くなっています(図表1-5)。

図表 1-5 施設等検討の状況 (単数回答)

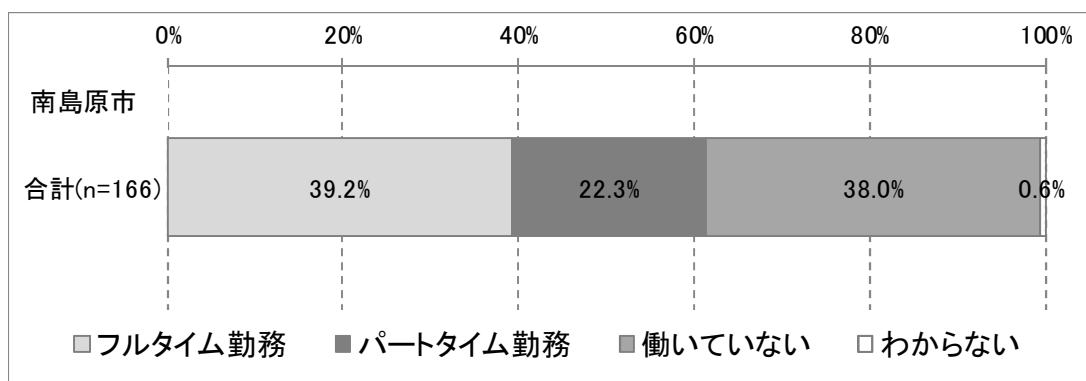
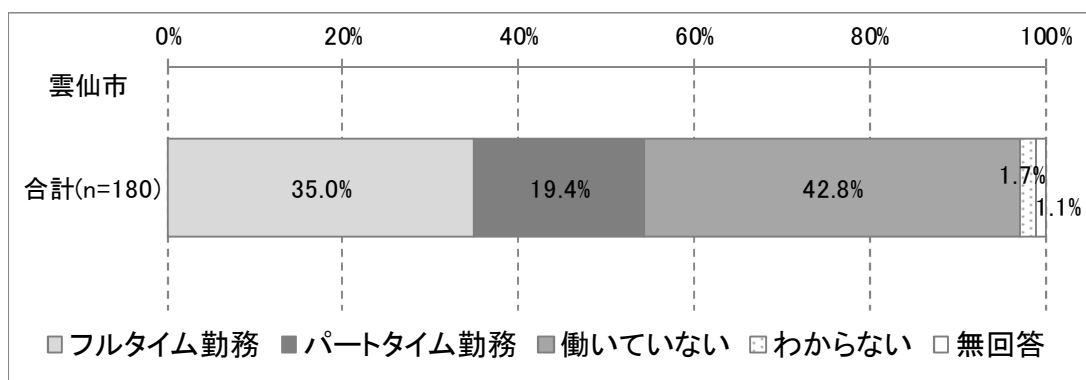
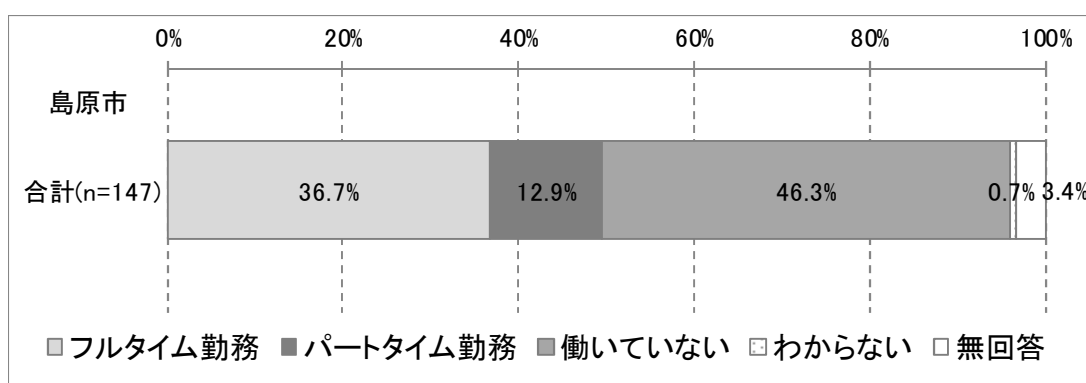


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

- 島原市及び雲仙市については、「働いていない」の割合が最も高く、南島原市については、「フルタイム勤務」が最も高くなっています（図表 2-1）。
- 「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」を合わせると、雲仙市と南島原市においては半数以上を占めています（図表 2-1）。

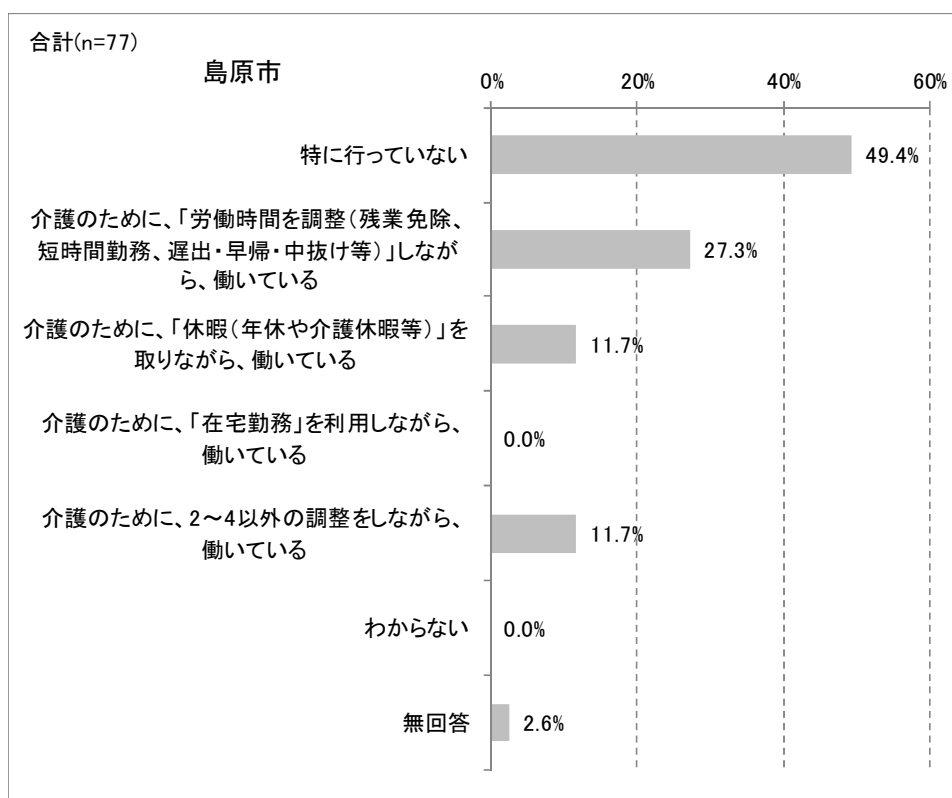
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）

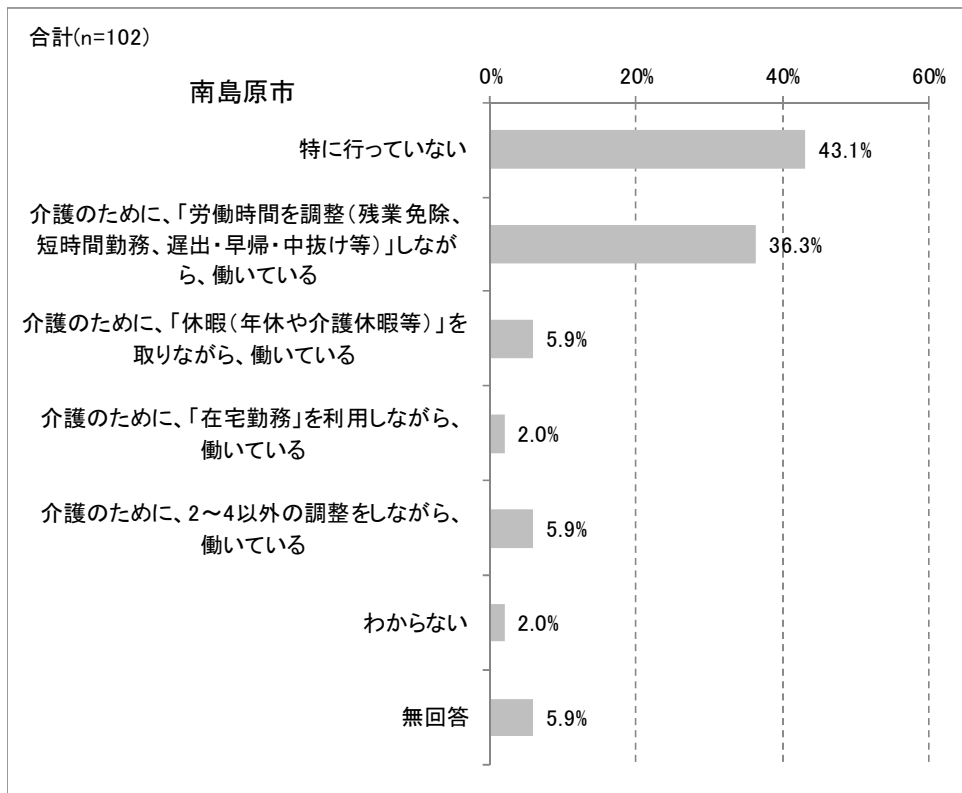
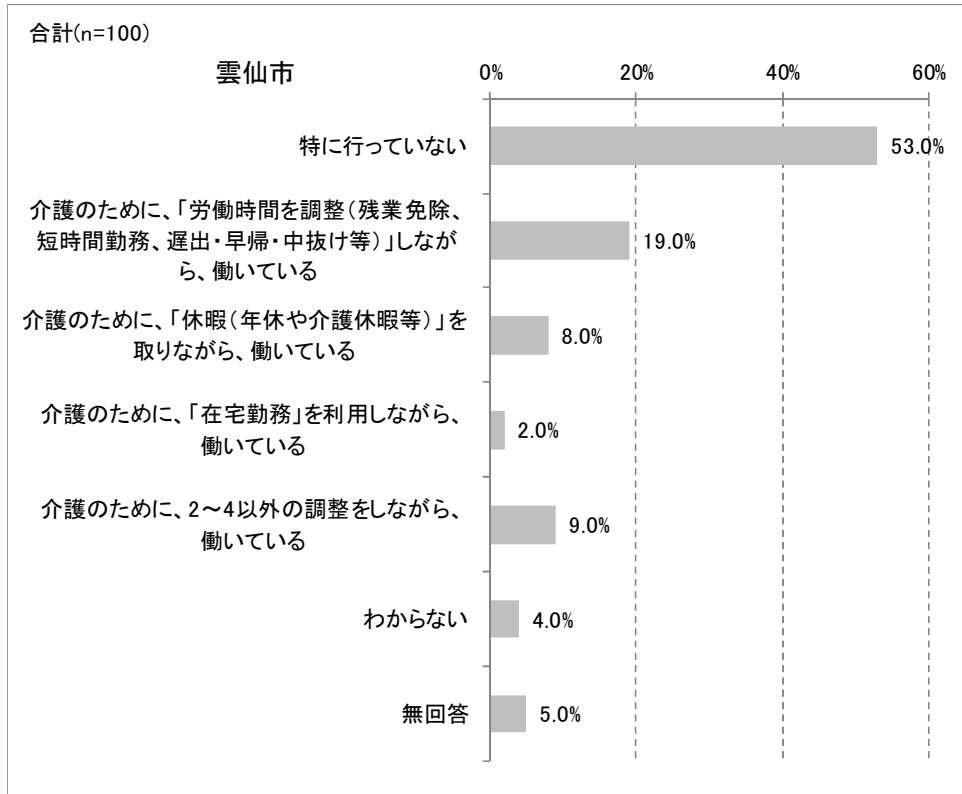


(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

- 働き方についての調整等は、3市とも「特に行っていない」の割合が最も高くなっています（図表 2-2）。
- 南島原市においては、島原市・雲仙市と比べ「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 36.3%と高くなっています（図表 2-2）。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

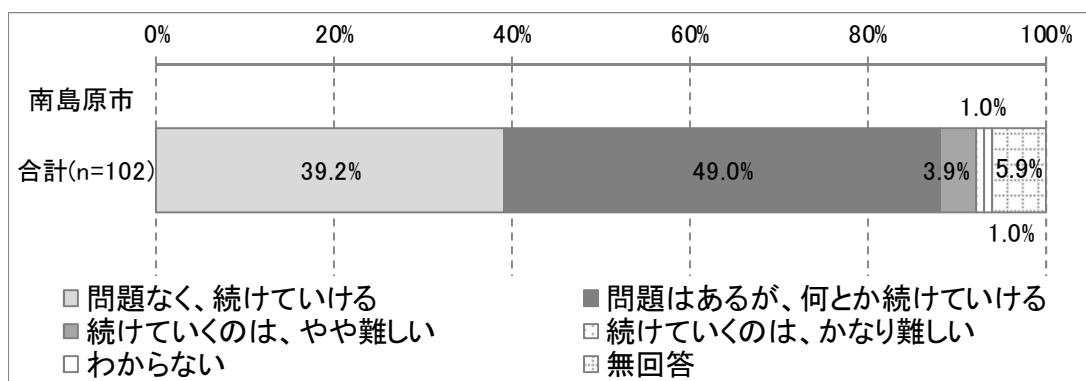
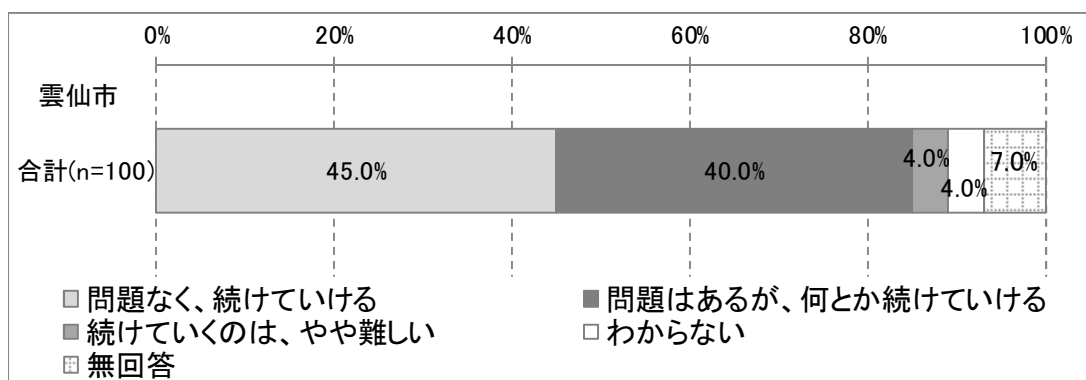
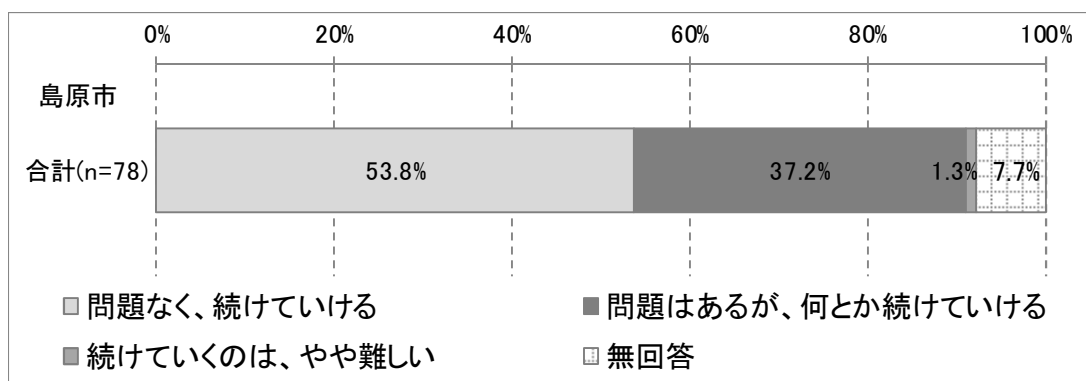




(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

- 主な介護者の就労継続の可否に係る意識は、島原市及び雲仙市では、「問題なく、続けていける」が最も高いのに対して、南島原市については、「問題はあるが、何とか続けている」が最も高くなっています（図表 2-3）。

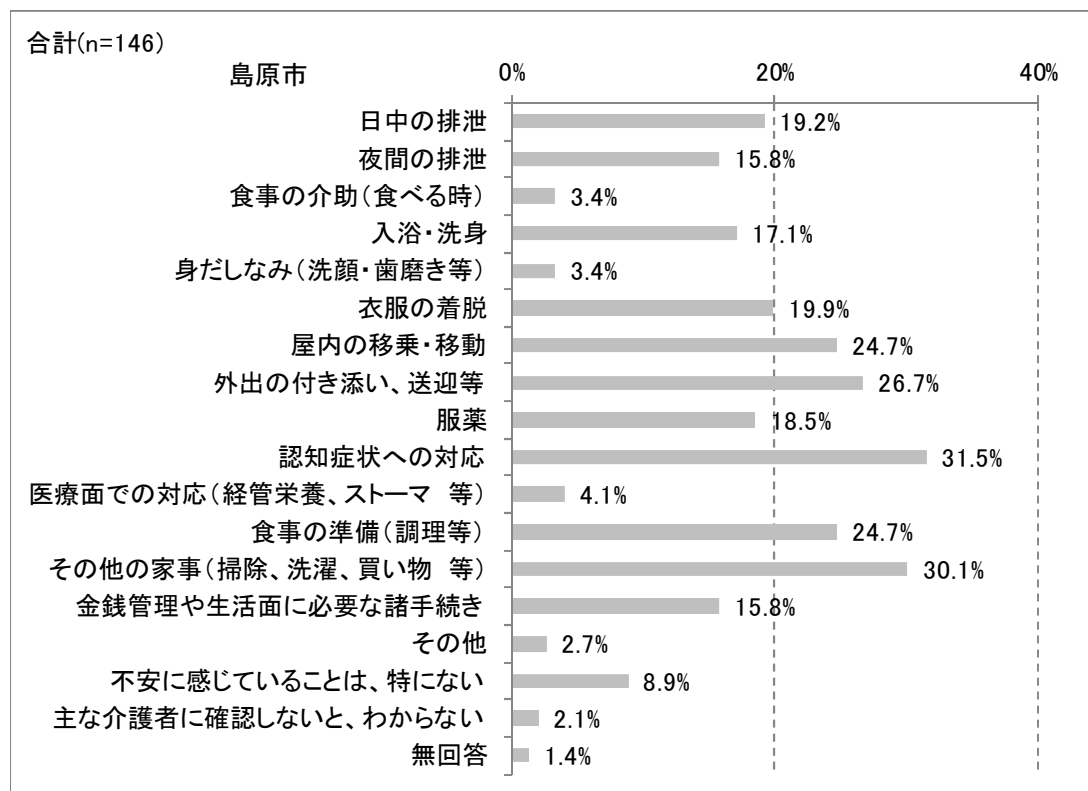
図表 2-3 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

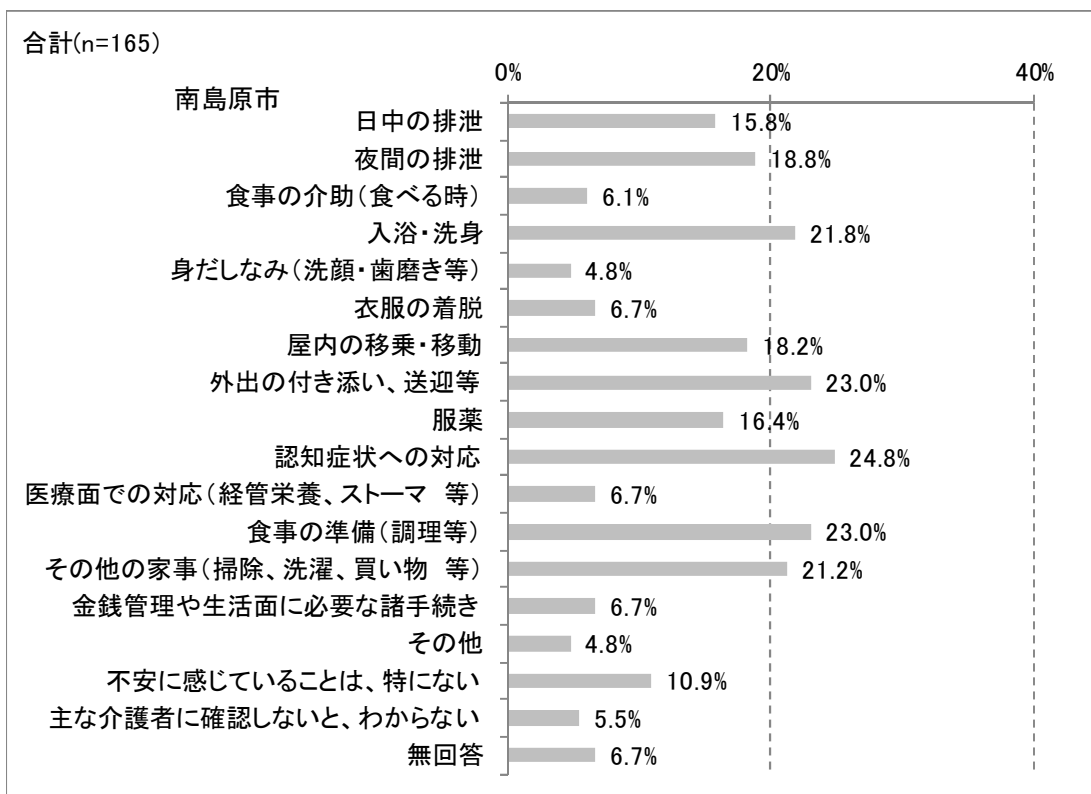
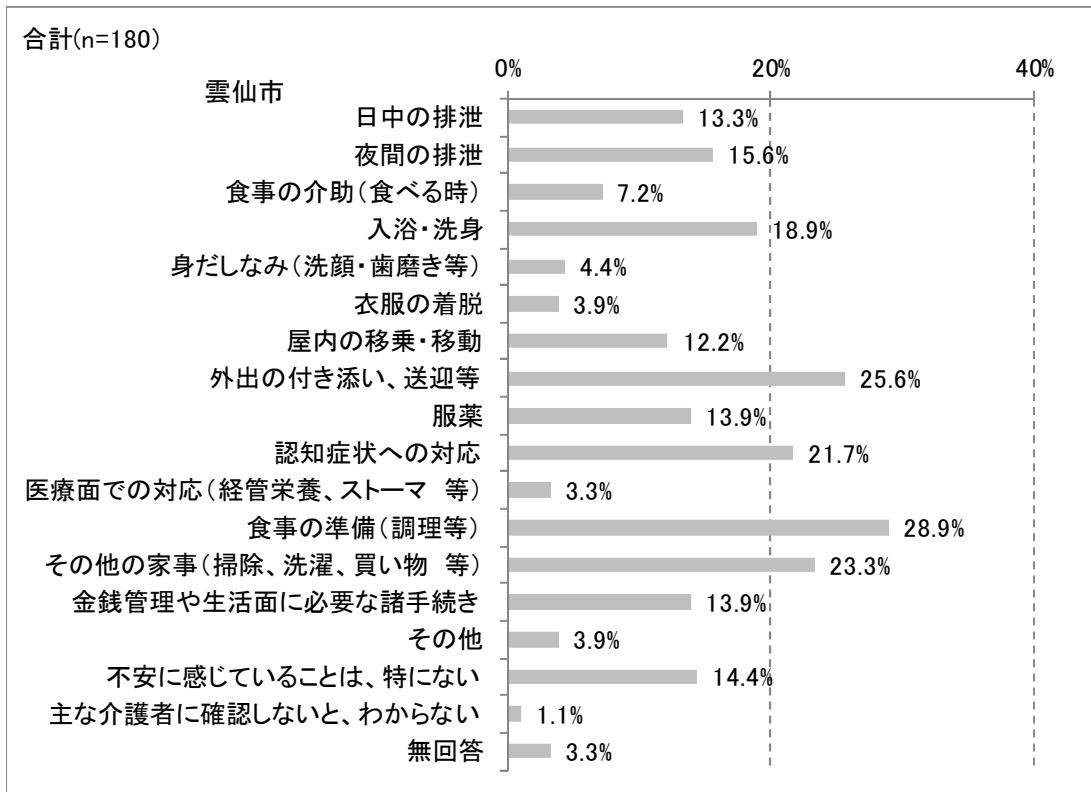


(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

- 島原市では、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「外出の付き添い、送迎等」が、雲仙市では、「食事の準備（調理等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が、南島原市では、「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」が高い割合となっています（図表 2-4）。

図表 2-4 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



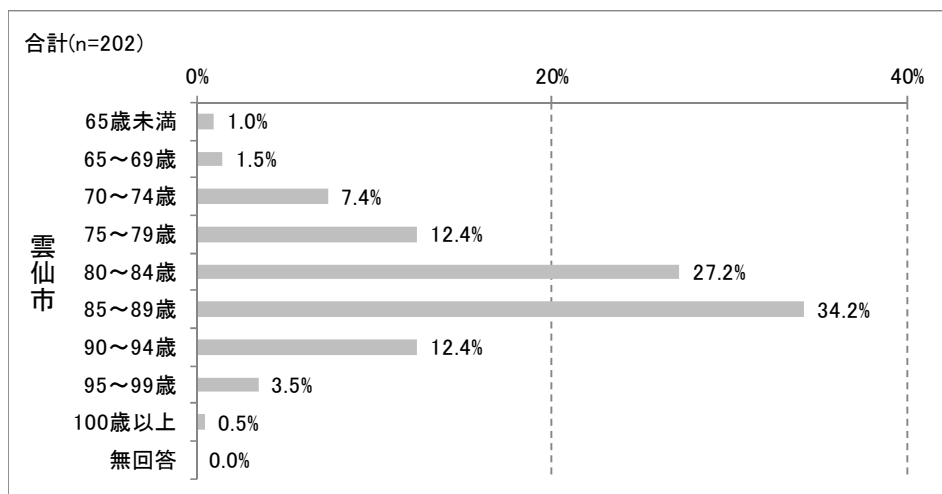
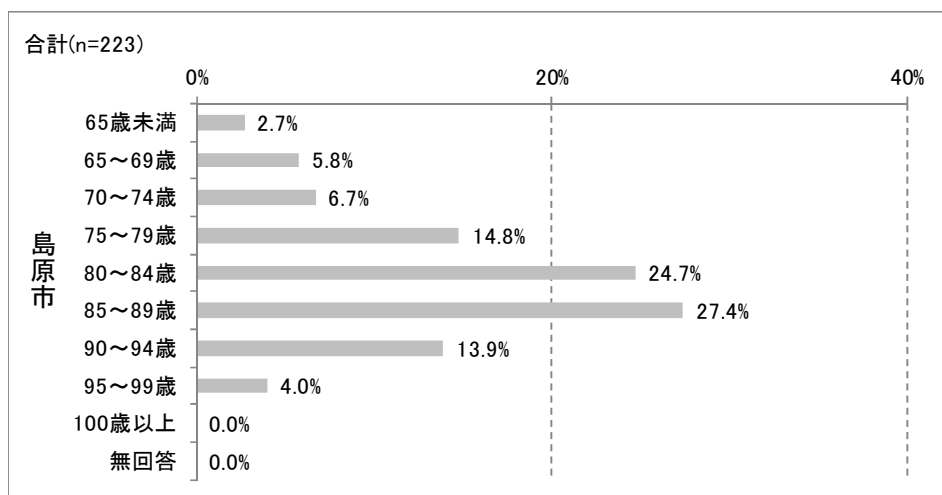


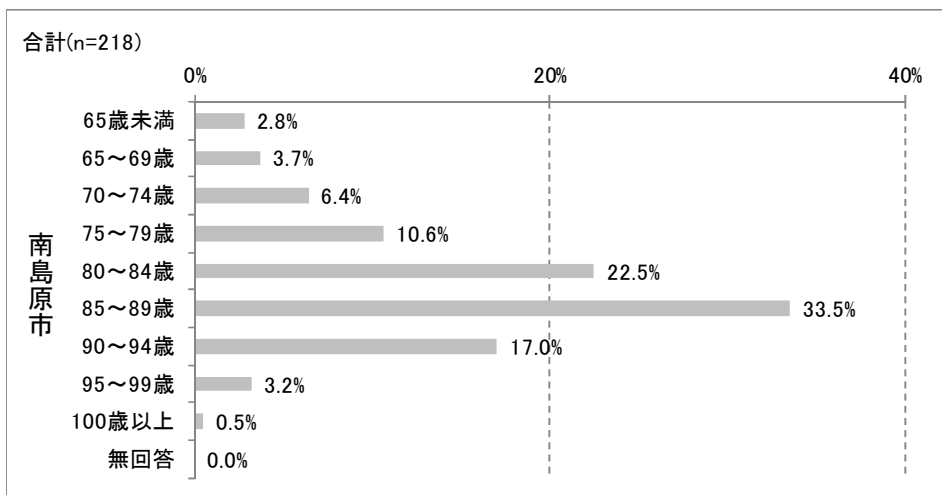
3 要介護認定データ

(1) 年齢

○ 割合が高いのは、3市とも「85～89歳」、次いで「80～84歳」となっています（図表3-1）。

図表3-1 年齢

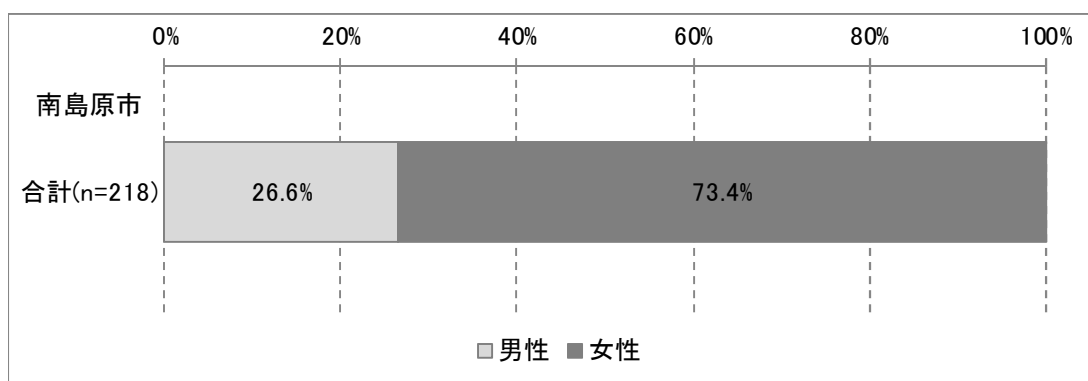
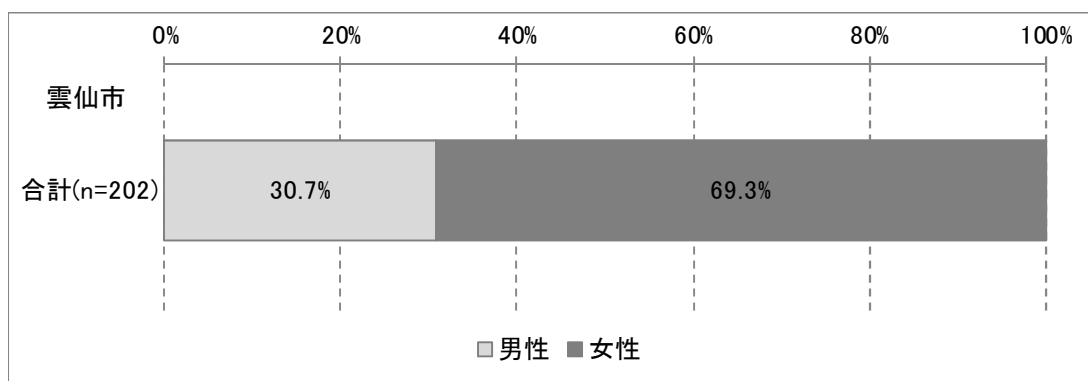
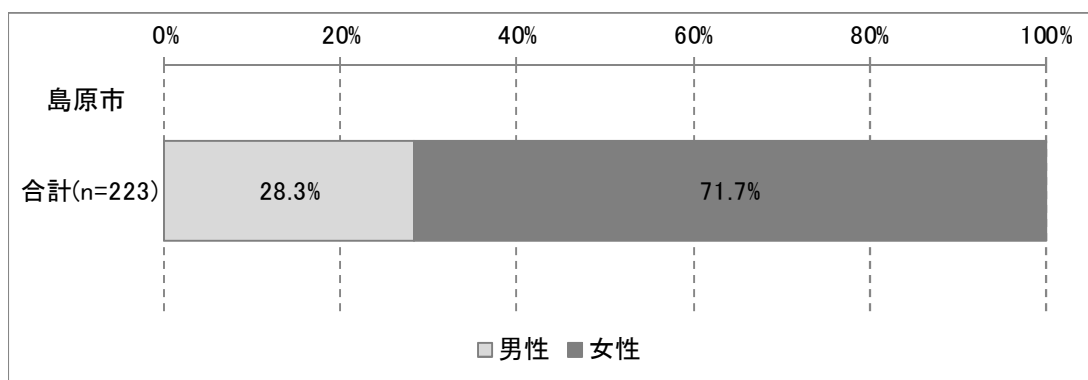




(2) 性別

- 3市とも「女性」の方が「男性」よりも高く、「男性」の2倍以上の割合になっています（図表3-2）。

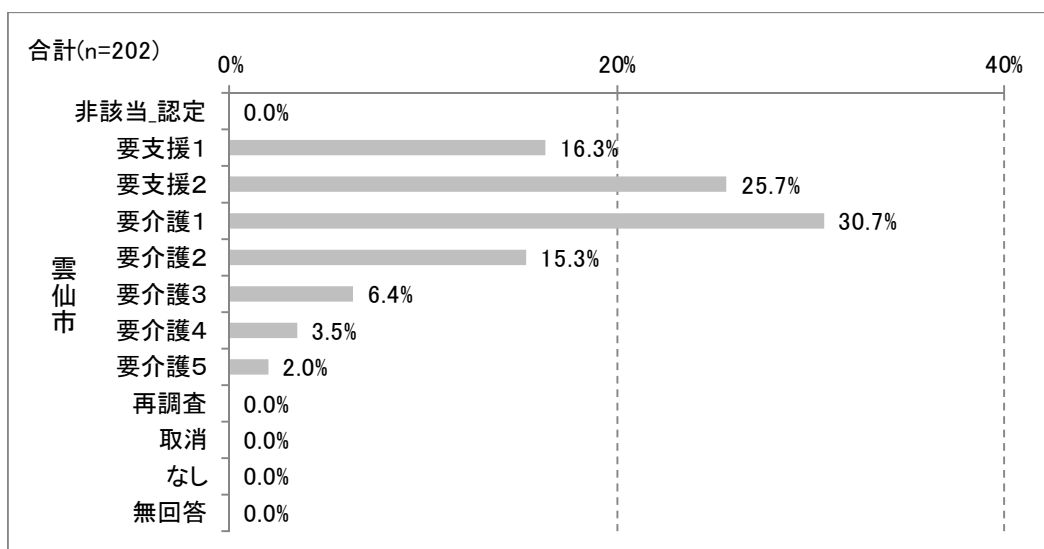
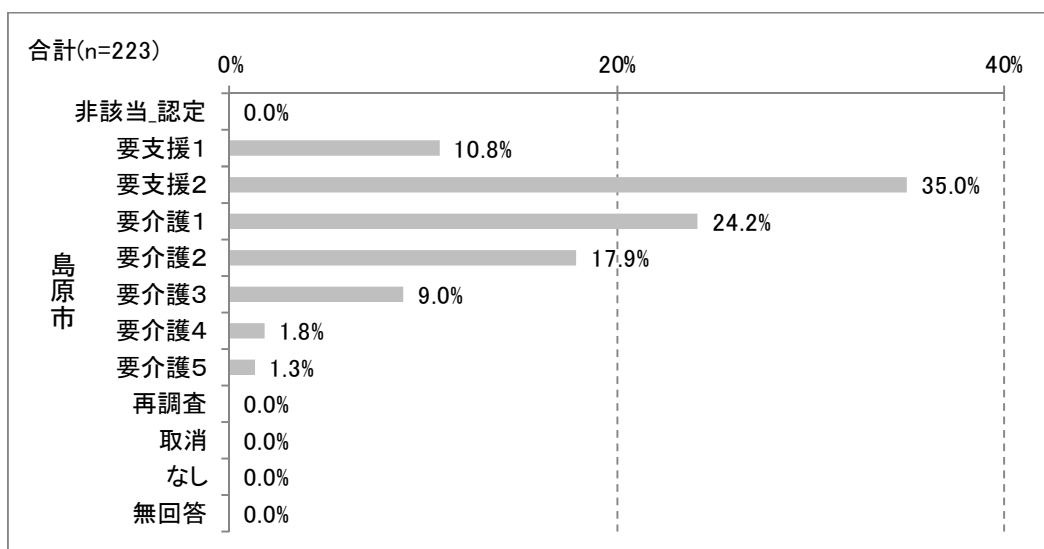
図表3-2 性別

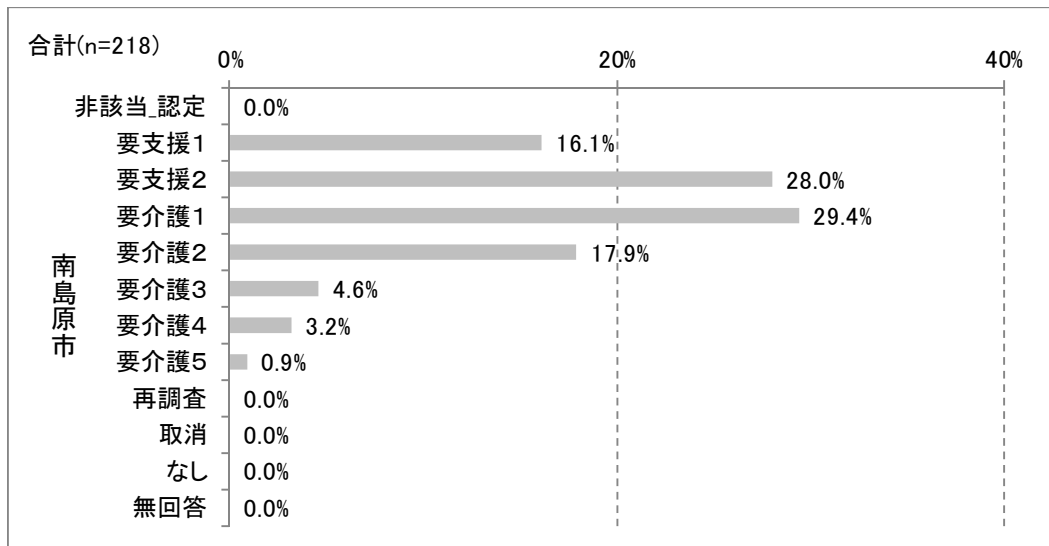


(3) 二次判定結果（要介護度）

- 二次判定とは、認定調査員による心身の状況調査（認定調査）及び主治医意見書に基づくコンピュータ判定を行う一次判定後に保健・医療・福祉の学識経験者により構成される介護認定審査会により、一次判定結果、主治医意見書等に基づき審査判定を行うことをいいます。
- 二次判定の結果について、島原市は「要支援2」が35%、雲仙市では「要介護1」が30.7%、南島原市では「要介護1」が29.4%と最も高くなっています（図表3-3）。

図表 3-3 二次判定結果

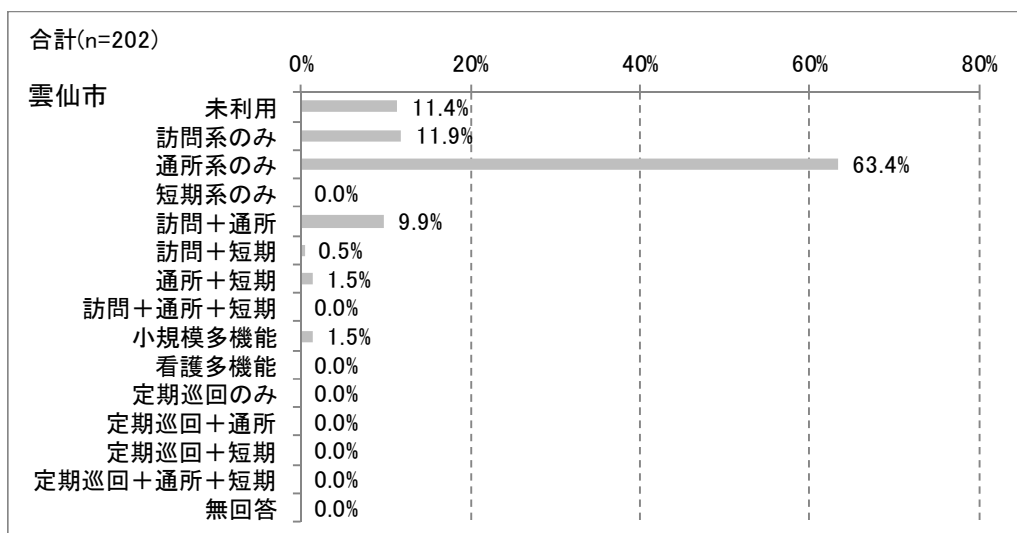
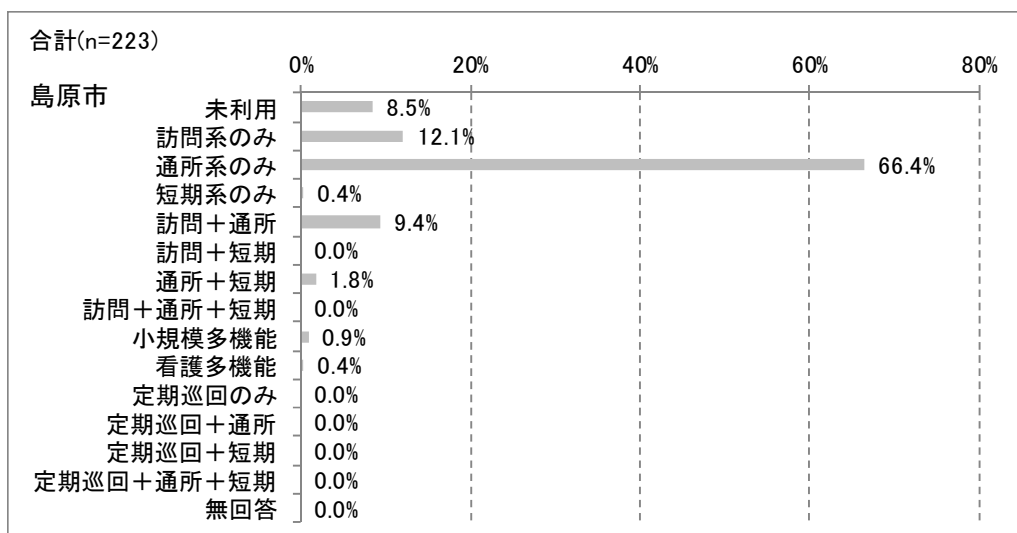


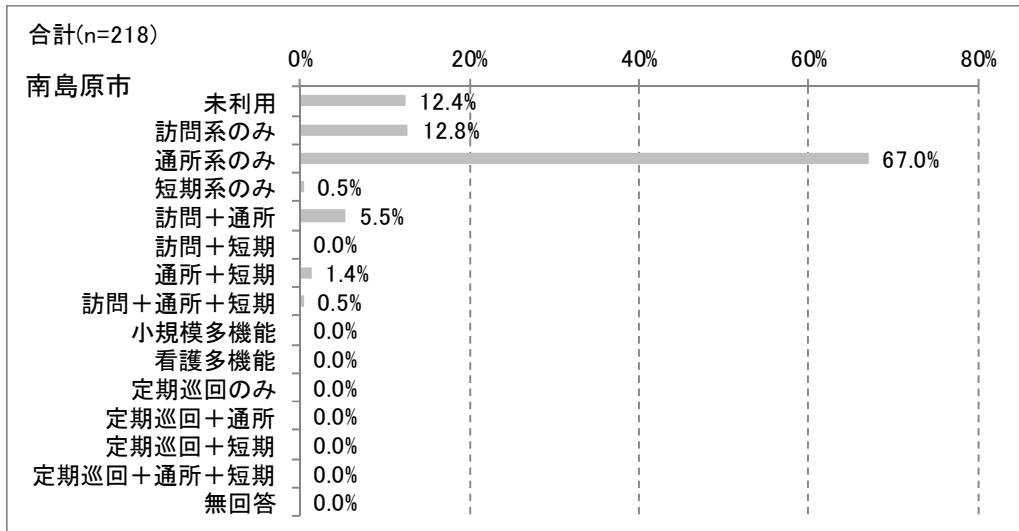


(4) サービス利用の組み合わせ

○ 3市とも「通所系のみ」が60%を超えています（図表3-4）。

図表3-4 サービス利用の組み合わせ

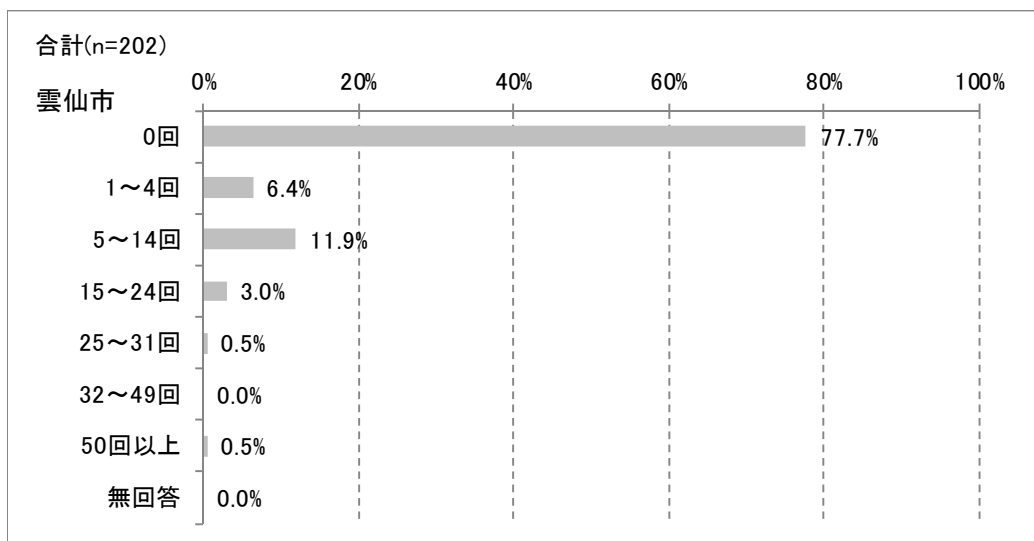
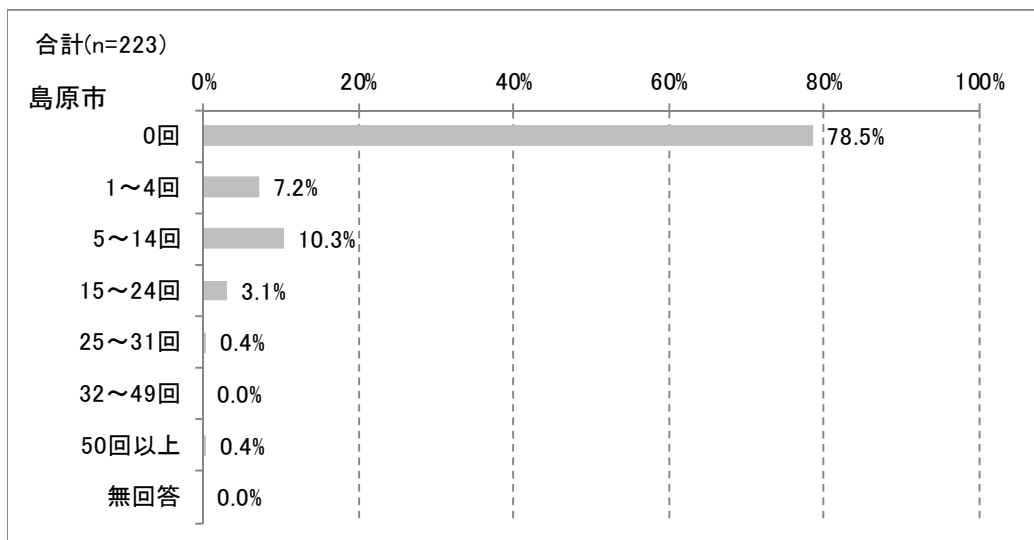


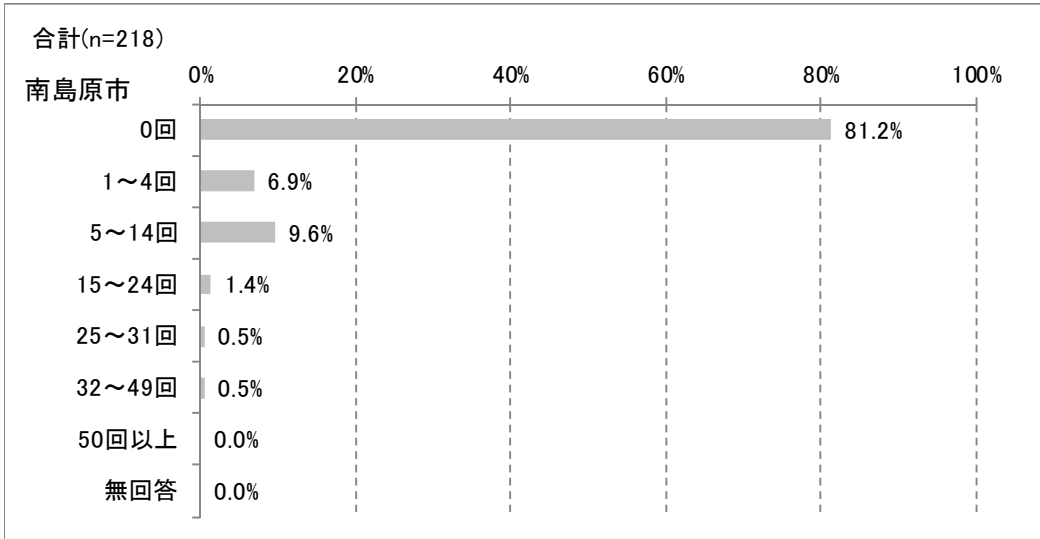


(5) 訪問系サービスの合計利用回数

○ 3市とも割合が高い順から「0回」、「5～14回」、「1～4回」となっています（図表3-5）。

図表3-5 サービスの利用回数（訪問系）

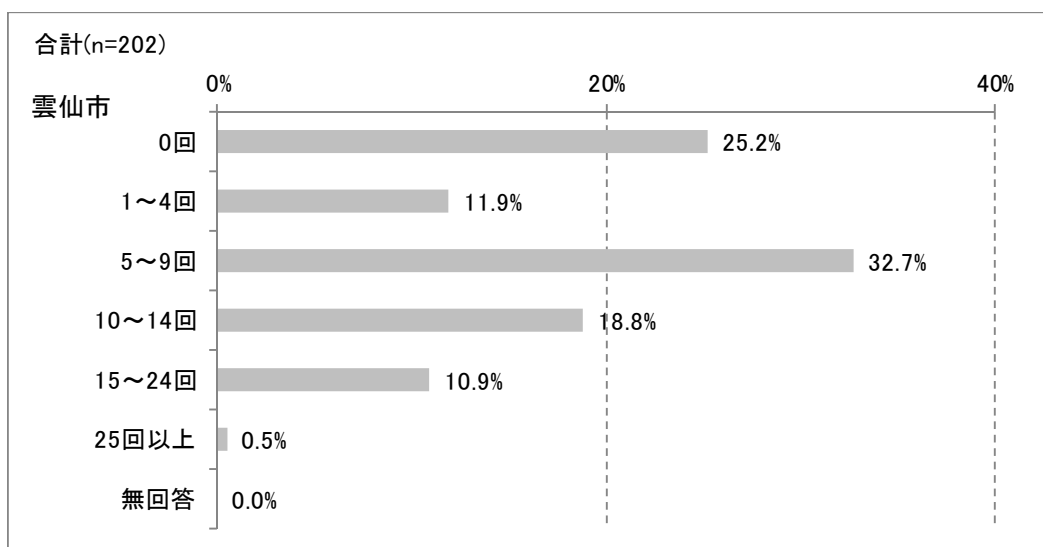
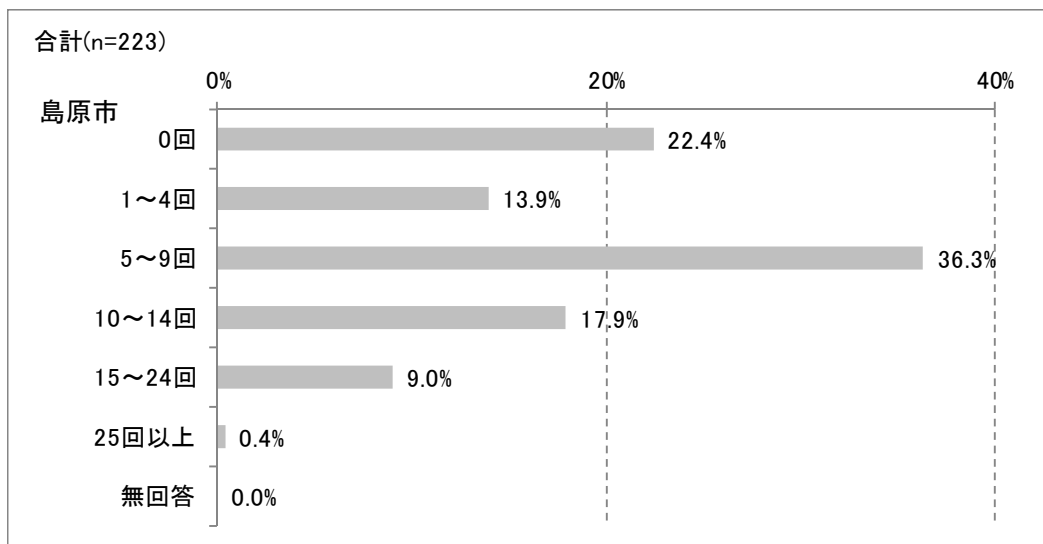


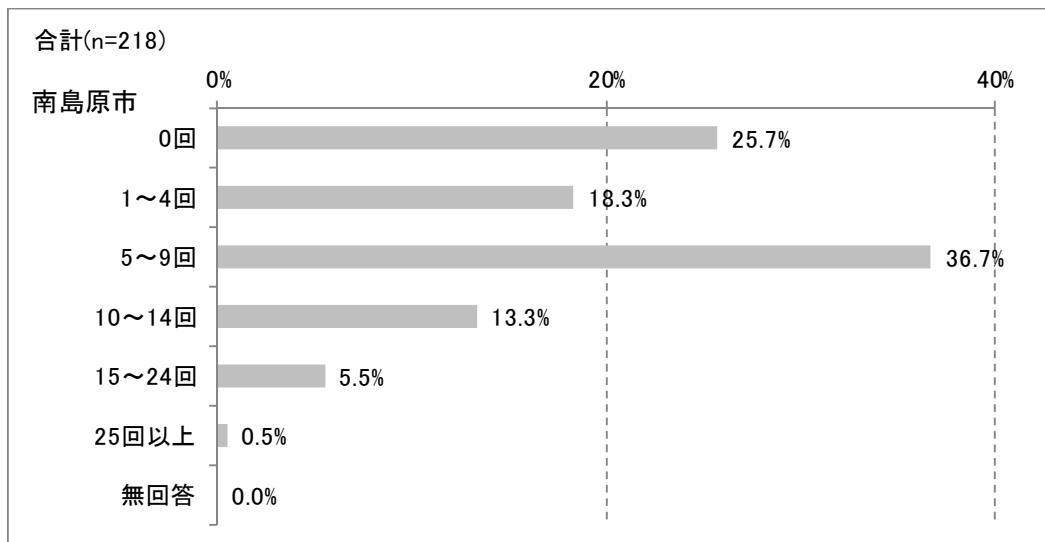


(6) 通所系サービスの合計利用回数

○ 3市とも「5～9回」が最も高く、次いで「0回」となっています（図表3-6）。

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）

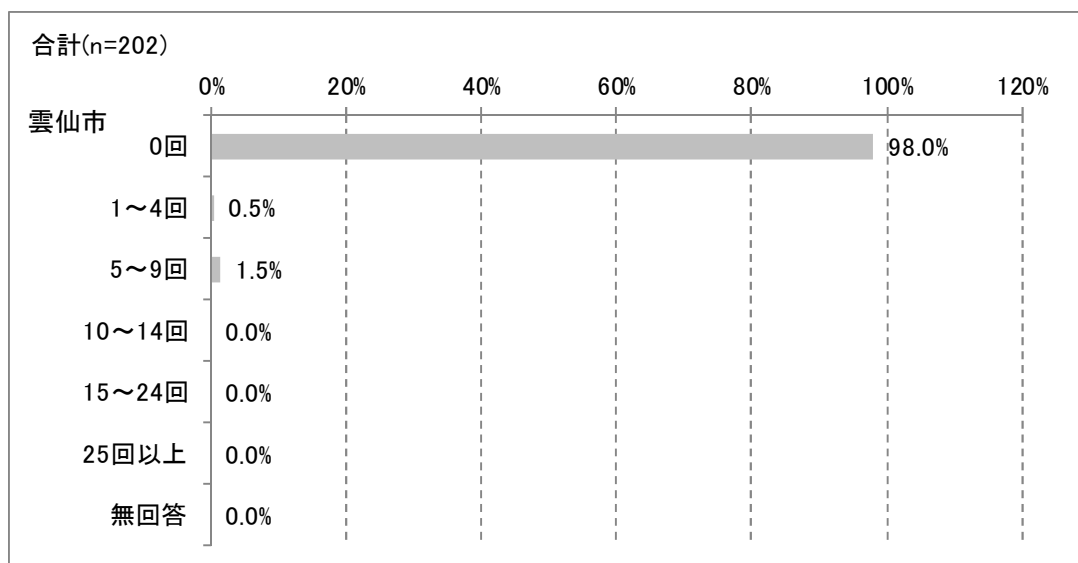
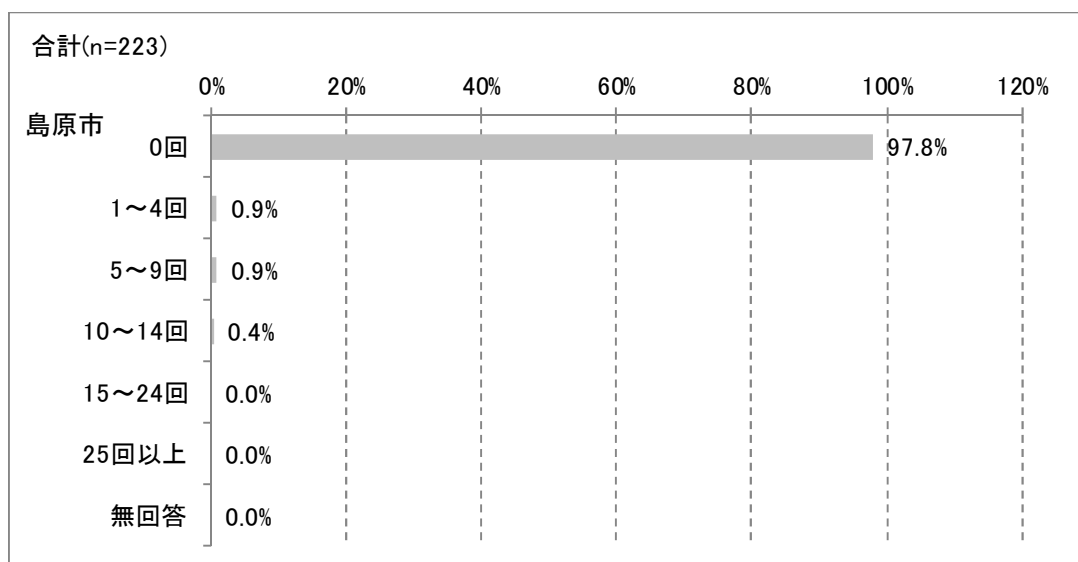


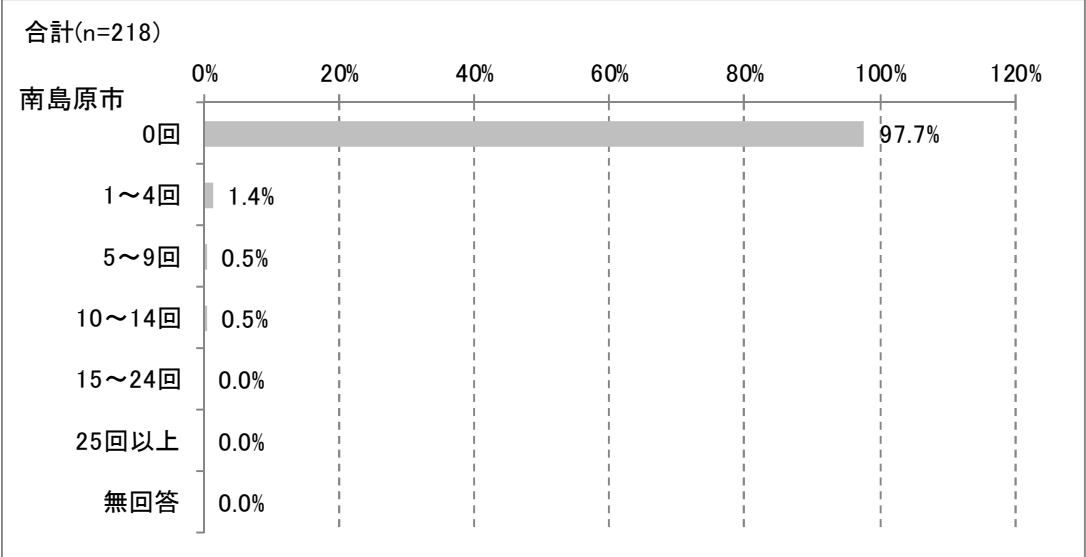


(7) 短期系サービスの合計利用回数

○ 3市とも「0回」が最も高く、90%以上を占めています（図表3-7）。

図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）

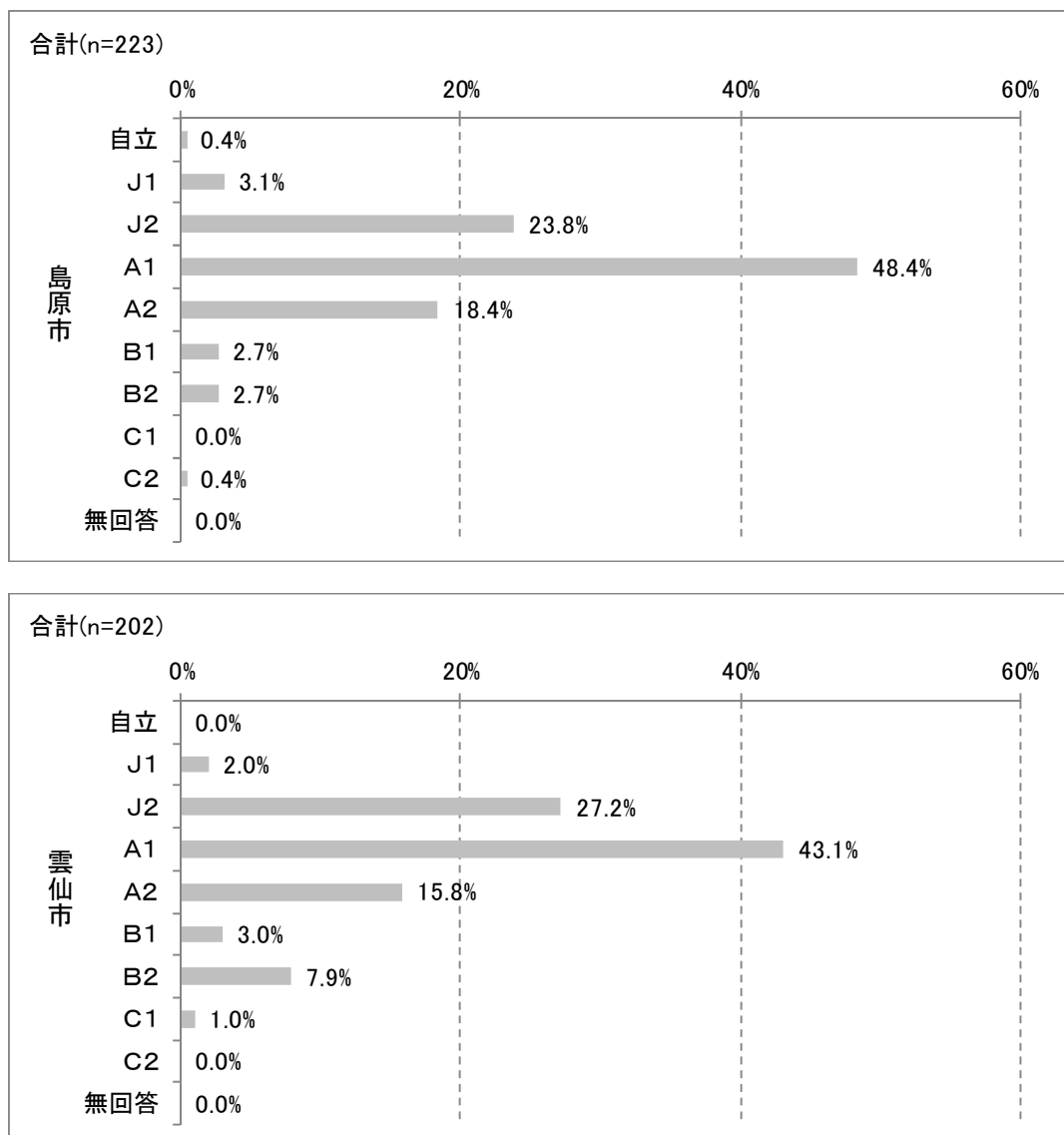


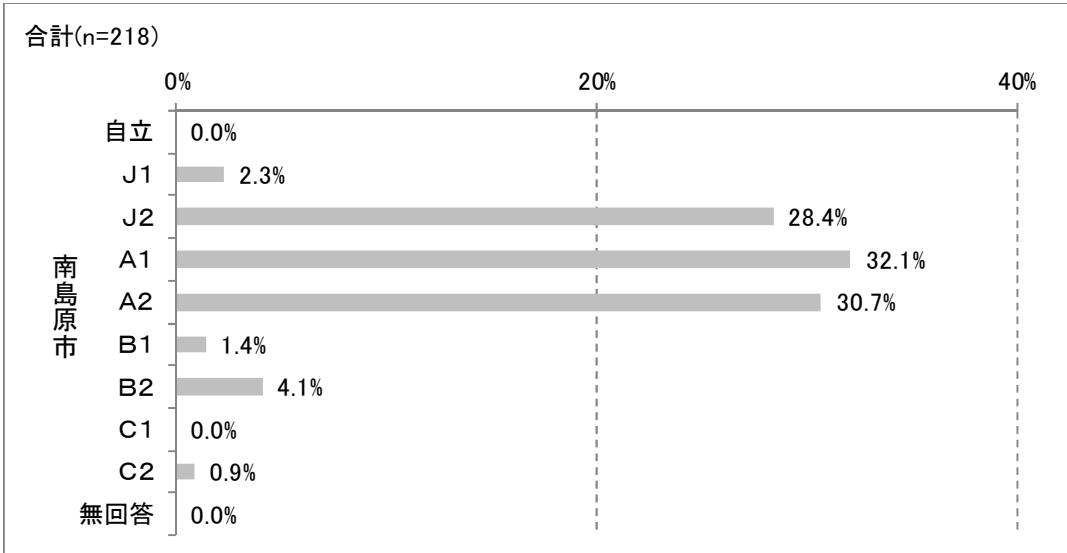


(8) 障害高齢者の日常生活自立度

- 島原市及び雲仙市については、「A1」次いで「J2」の割合が高く、南島原市は、「A1」に次いで「A2」が高くなっています（図表3-8）。

図表3-8 障害高齢者の日常生活自立度

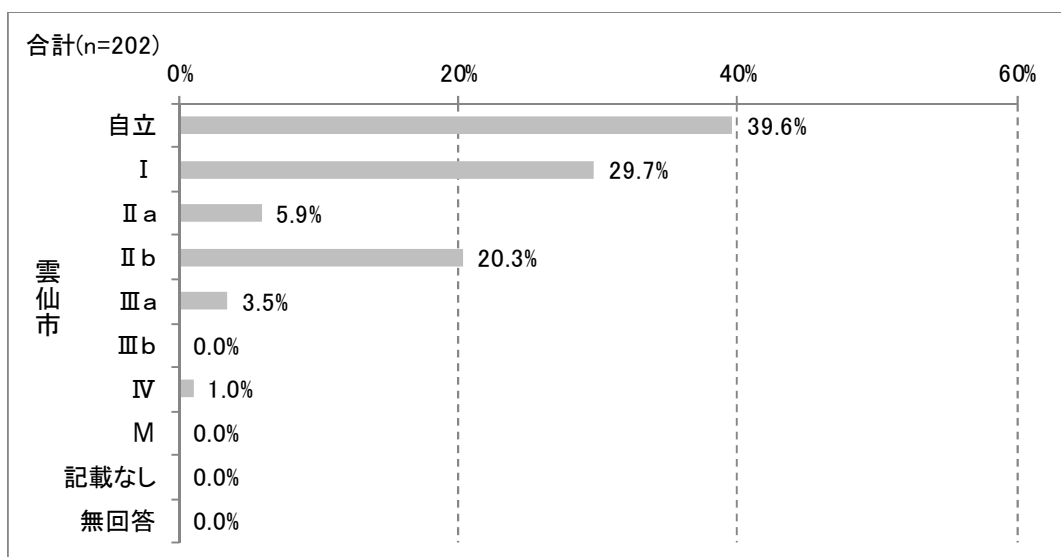
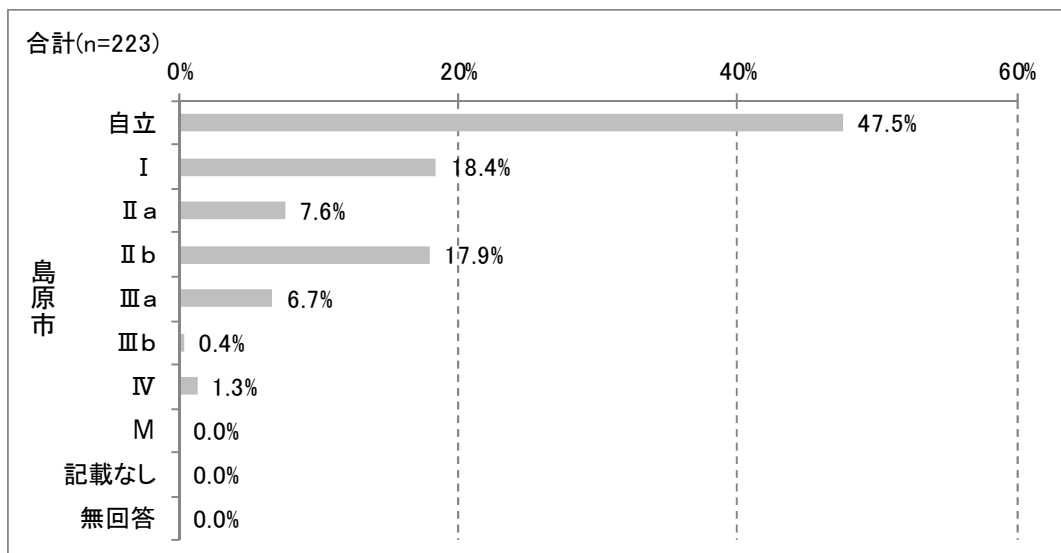


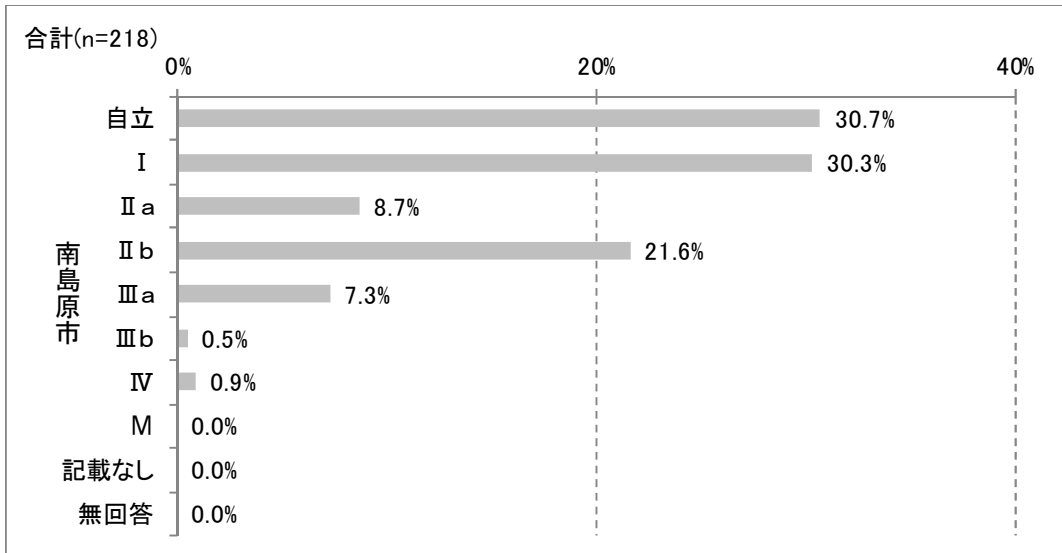


(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

○ 3市とも「自立」の割合が最も高く、次いで「I」、「II b」の順となっています（図表 3-9）。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度





第3(クロス集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

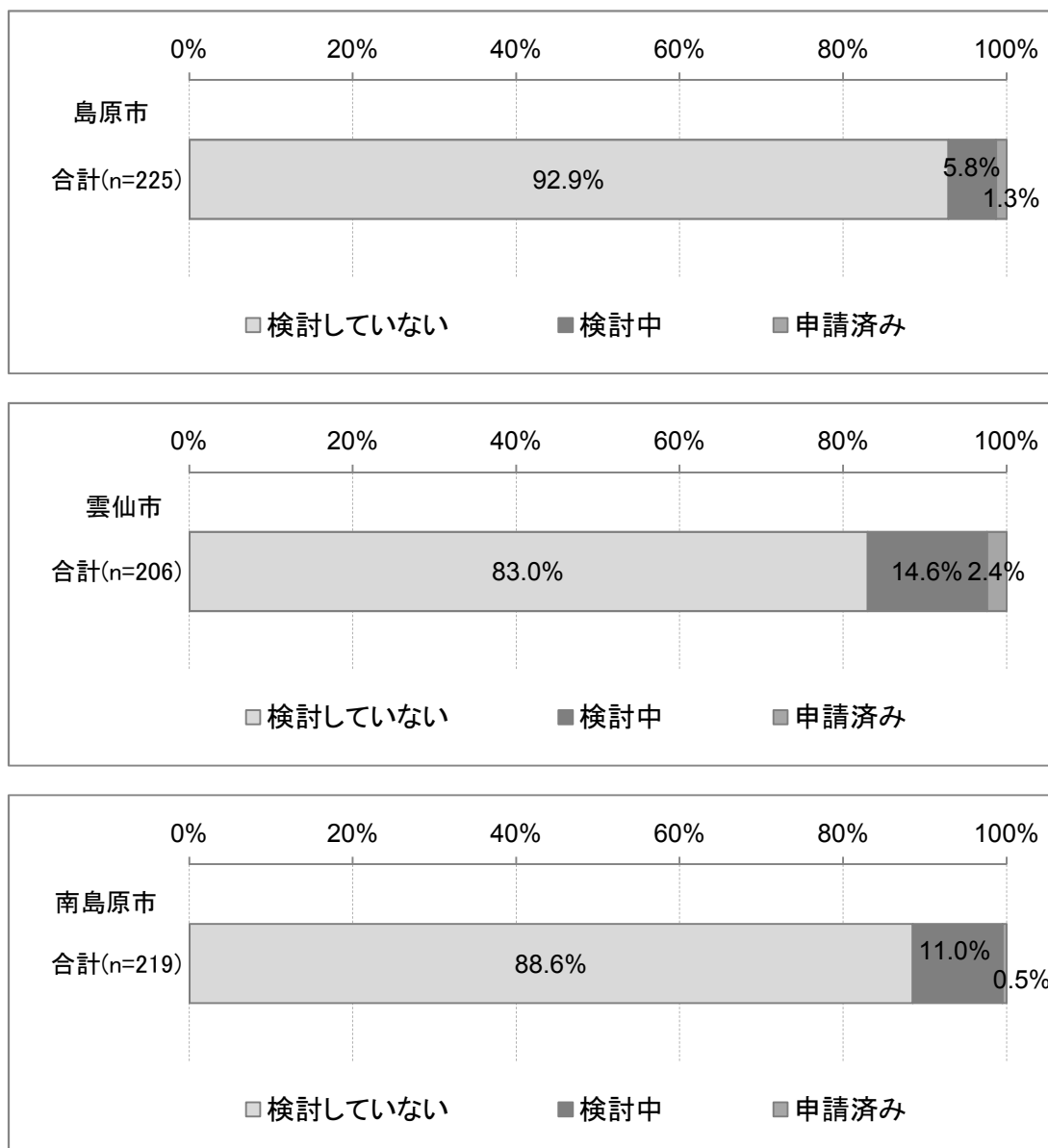
- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

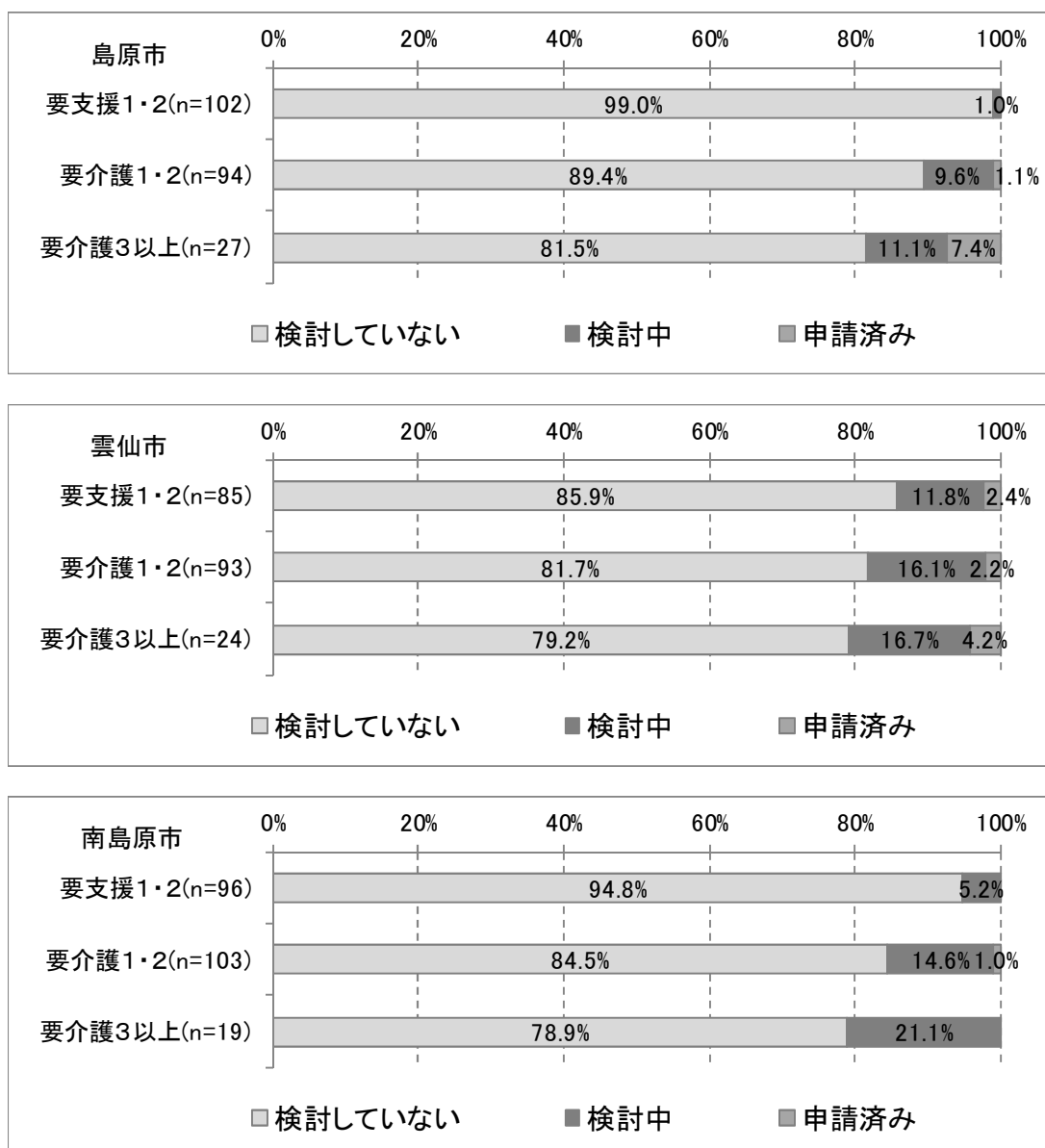
- 施設等の検討状況は、3市とも「検討していない」が最も高くなっています(図表 1-1)。

図表 1-1 施設等検討の状況



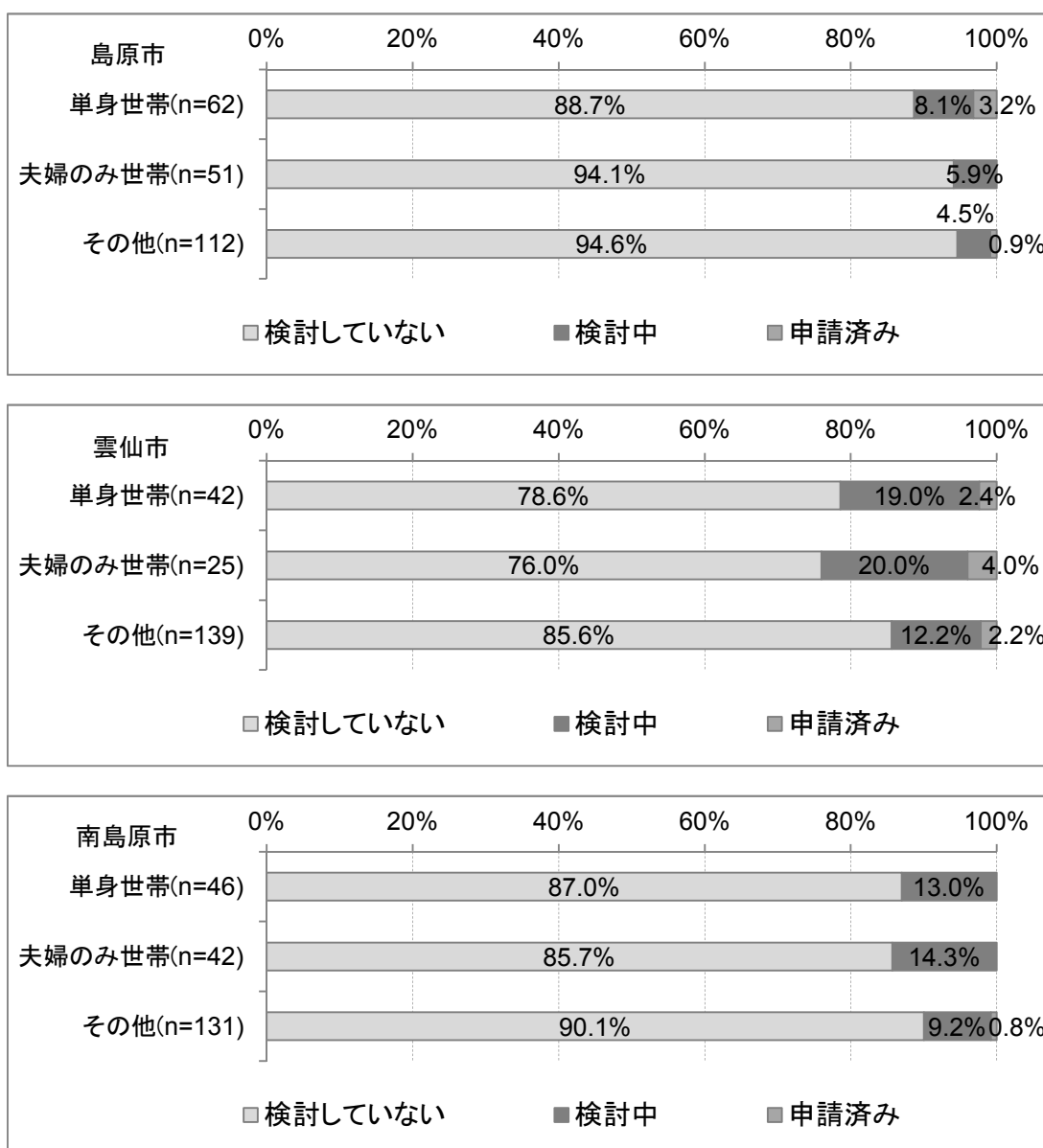
- 要介護度別では、3市とも、どの区分においても「検討していない」が最も高くなっています(図表 1-2)。
- 3市とも、介護度が上がるにつれ、「検討してない」の割合が下がり、「検討中」、「申請済」の割合が増えています(図表 1-2)。

図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



- 世帯類型別では、3市とも、どの区分においても「検討していない」が最も高くなっています(図表 1-3)。
- 雲仙市については、島原市及び南島原市と比べて、「検討中」の割合が高くなっています(図表 1-3)。

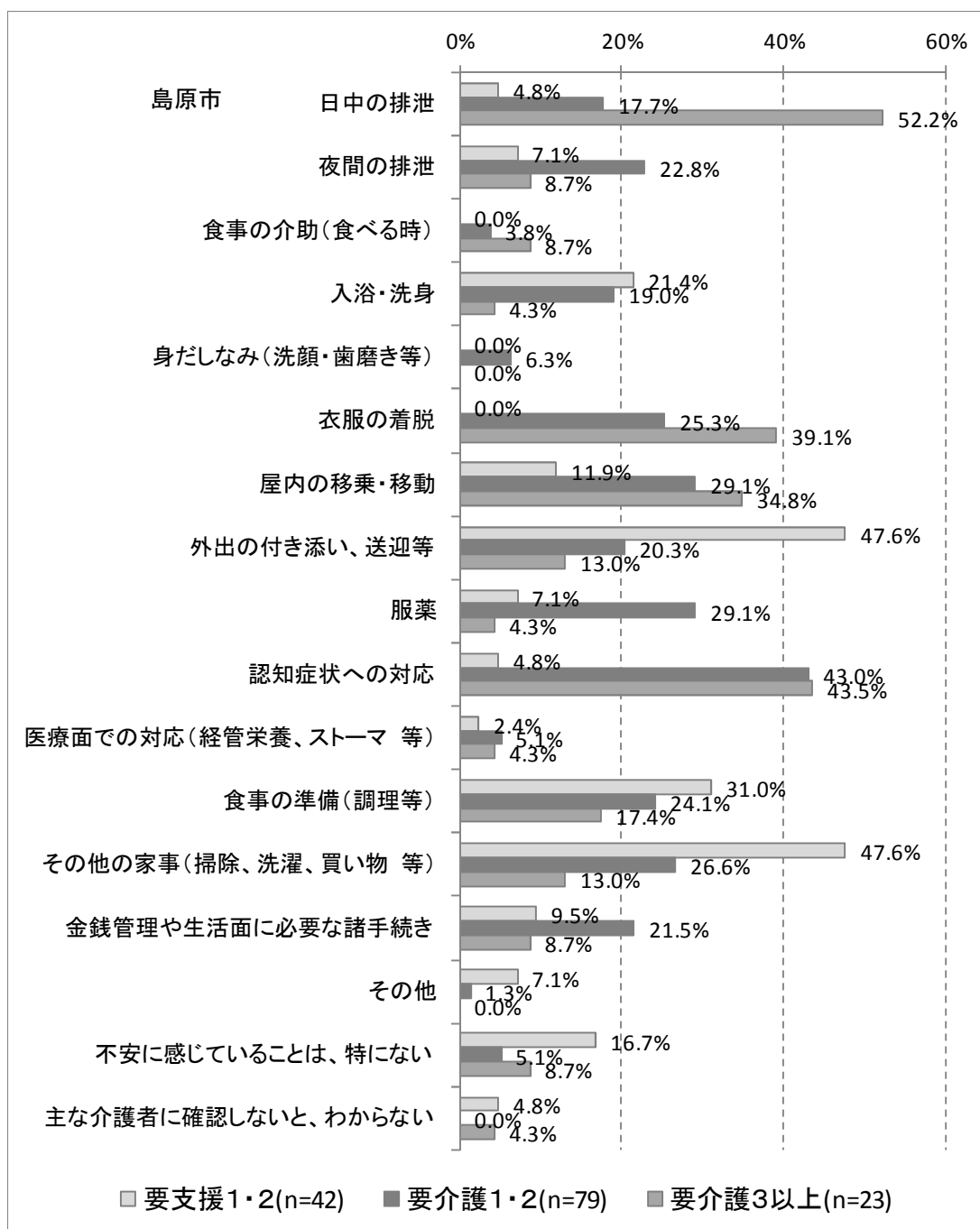
図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



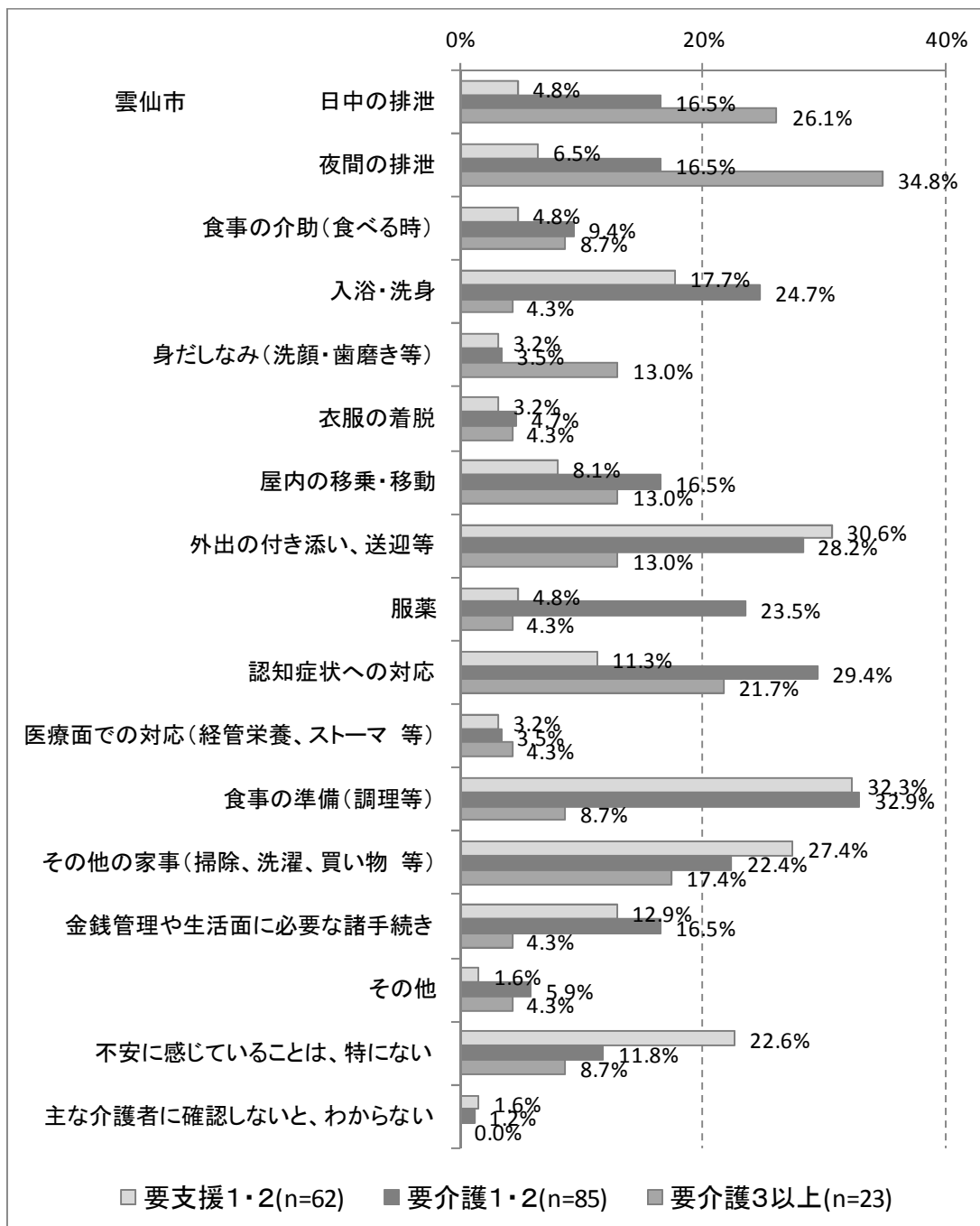
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

- 介護度による介護者が不安に感じる介護について、島原市は、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」が、要介護1・2では「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」、「服薬」が、要介護3以上では、「日中の排泄」、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」の割合が高くなっています(図表 1-4)。

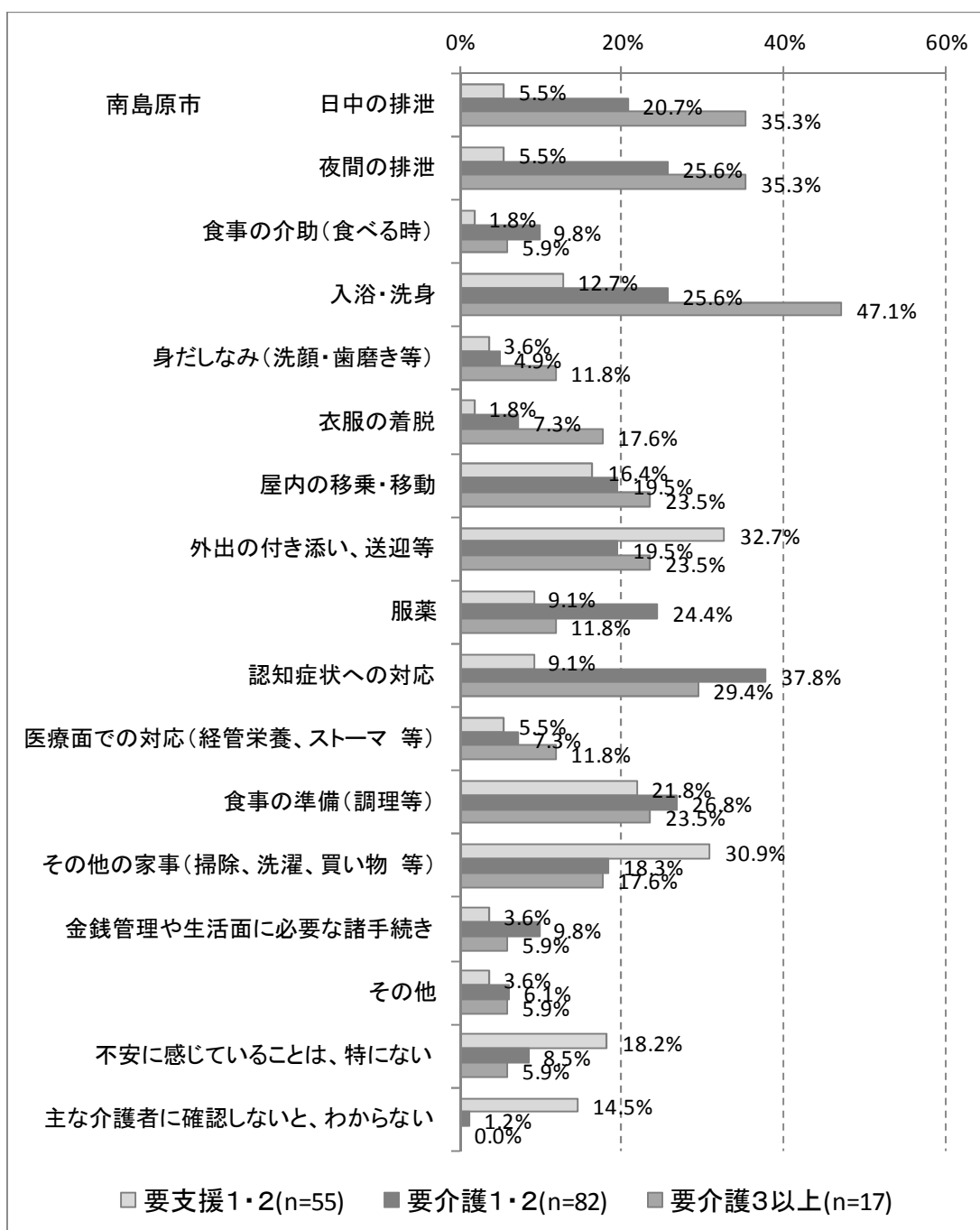
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



- 雲仙市は、要支援1・2では「食事の準備（調理等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が、要介護1・2では「食事の準備（調理等）」、「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」が、要介護3以上では、「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「認知症状への対応」の割合が高くなっています。

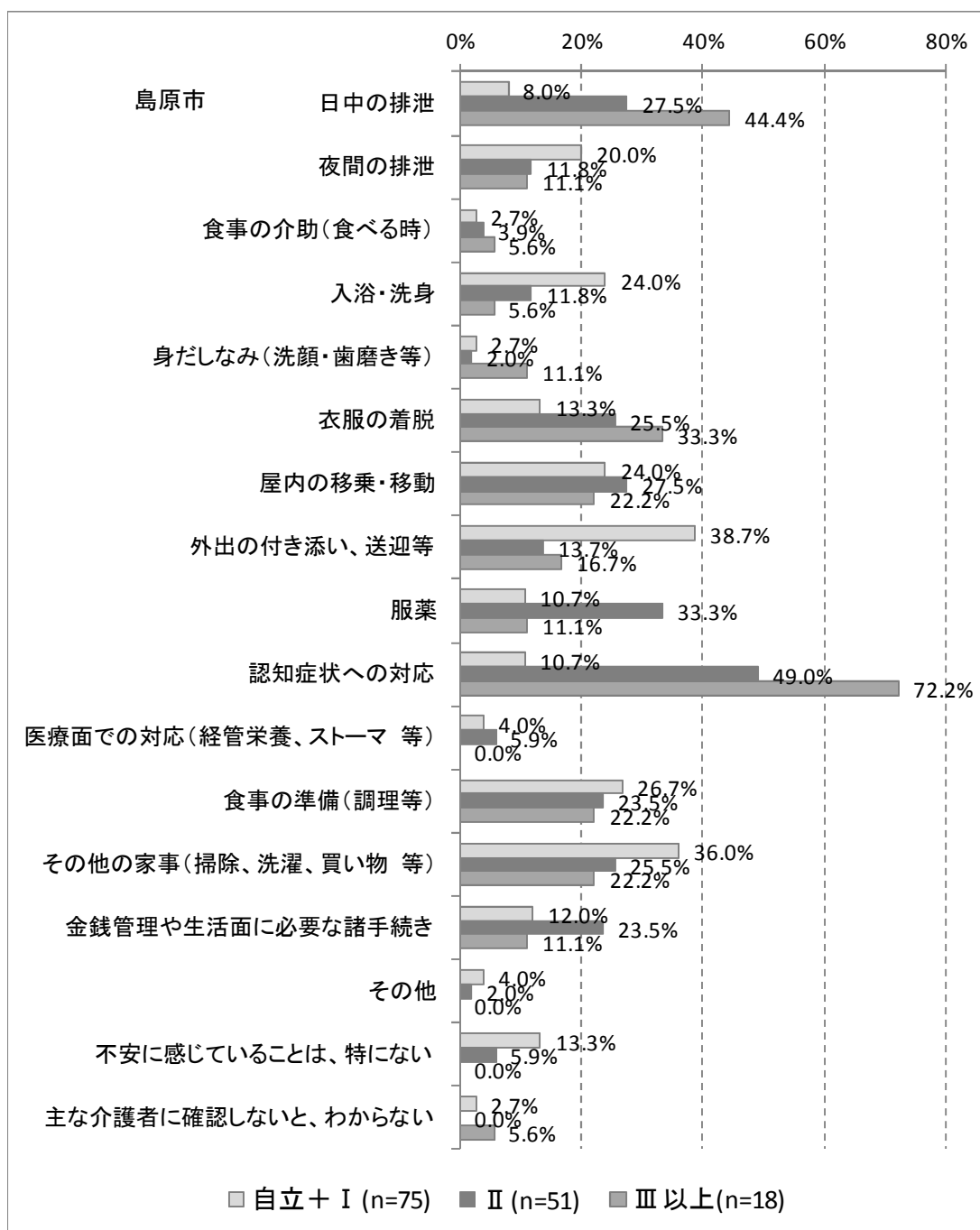


- 南島原市は、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」が、要介護1・2では「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が、要介護3以上では、「入浴・洗身」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

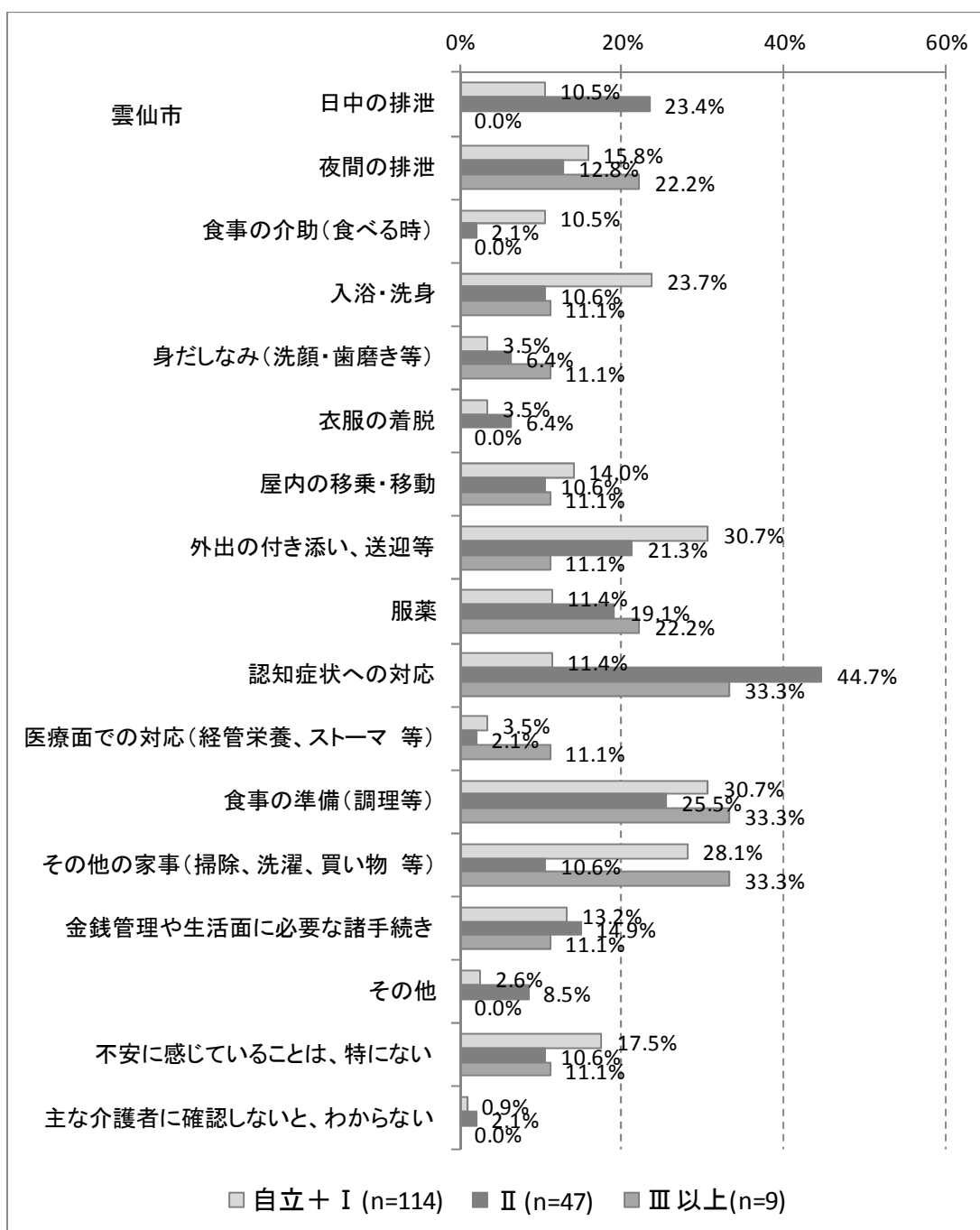


- 認知症自立度による介護者が不安に感じる介護について、島原市は、自立+ I では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」が、II では「認知症状への対応」、「服薬」、「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が、III 以上では、「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「衣服の着脱」の割合が高くなっています(図表 1-5)。

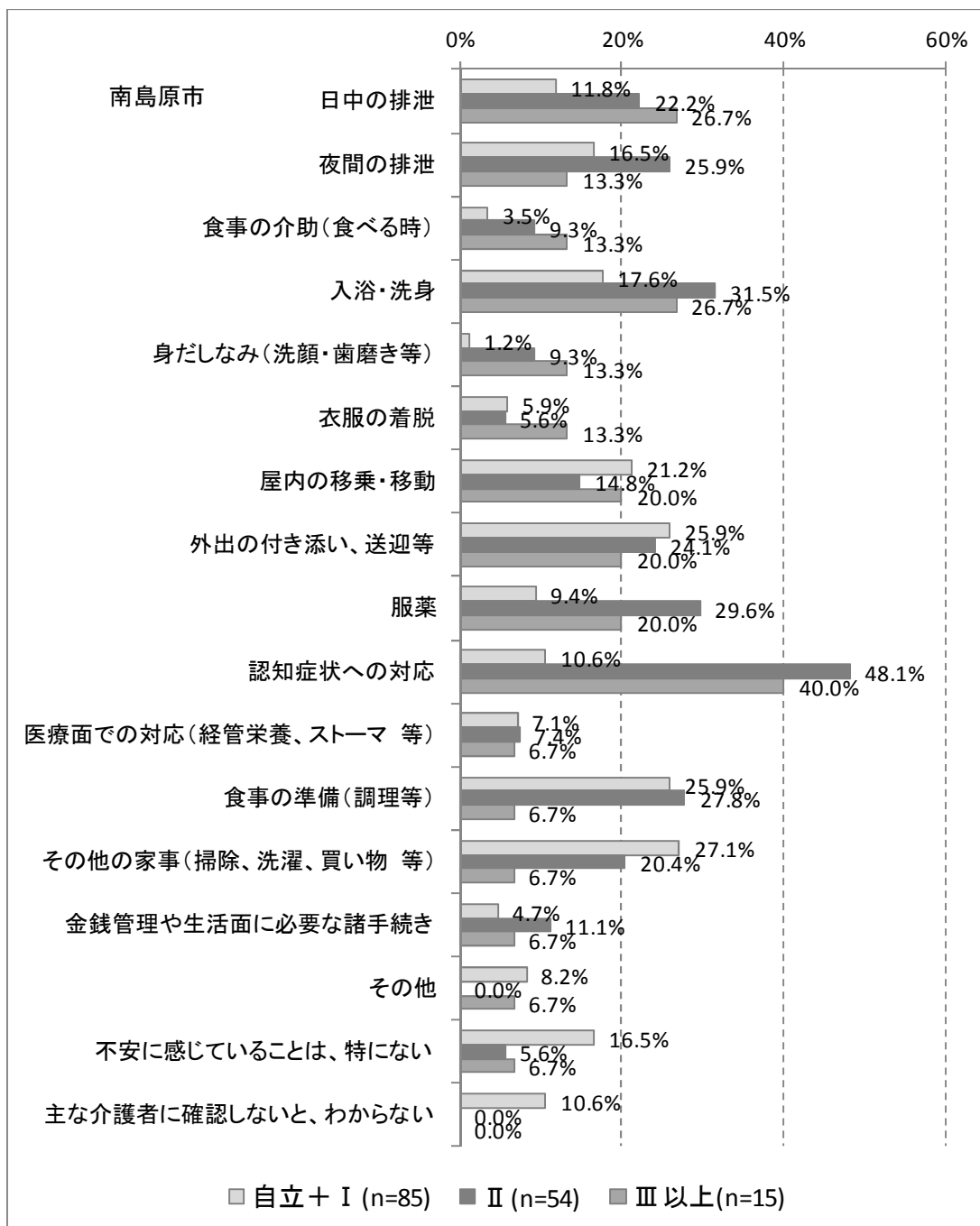
図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



- 雲仙市は、自立+ I では「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「入浴・洗身」が、II では「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」、「日中の排泄」、が、III 以上では、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が高くなっています。



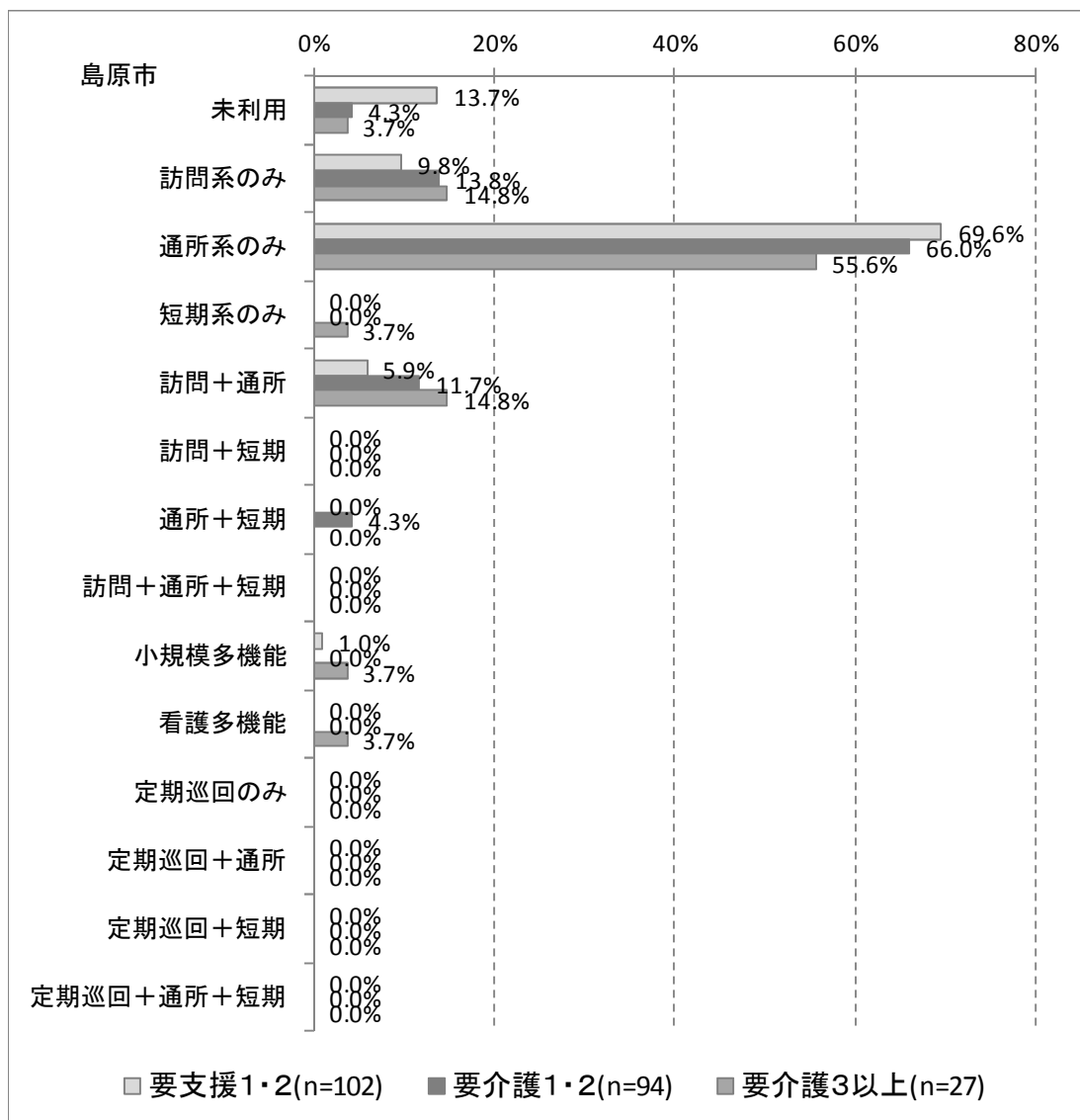
- 南島原市は、自立+Ⅰでは「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」が、Ⅱでは「認知症状への対応」、「入浴・洗身」、「服薬」、が、Ⅲ以上では、「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「入浴・洗身」の割合が高くなっています。



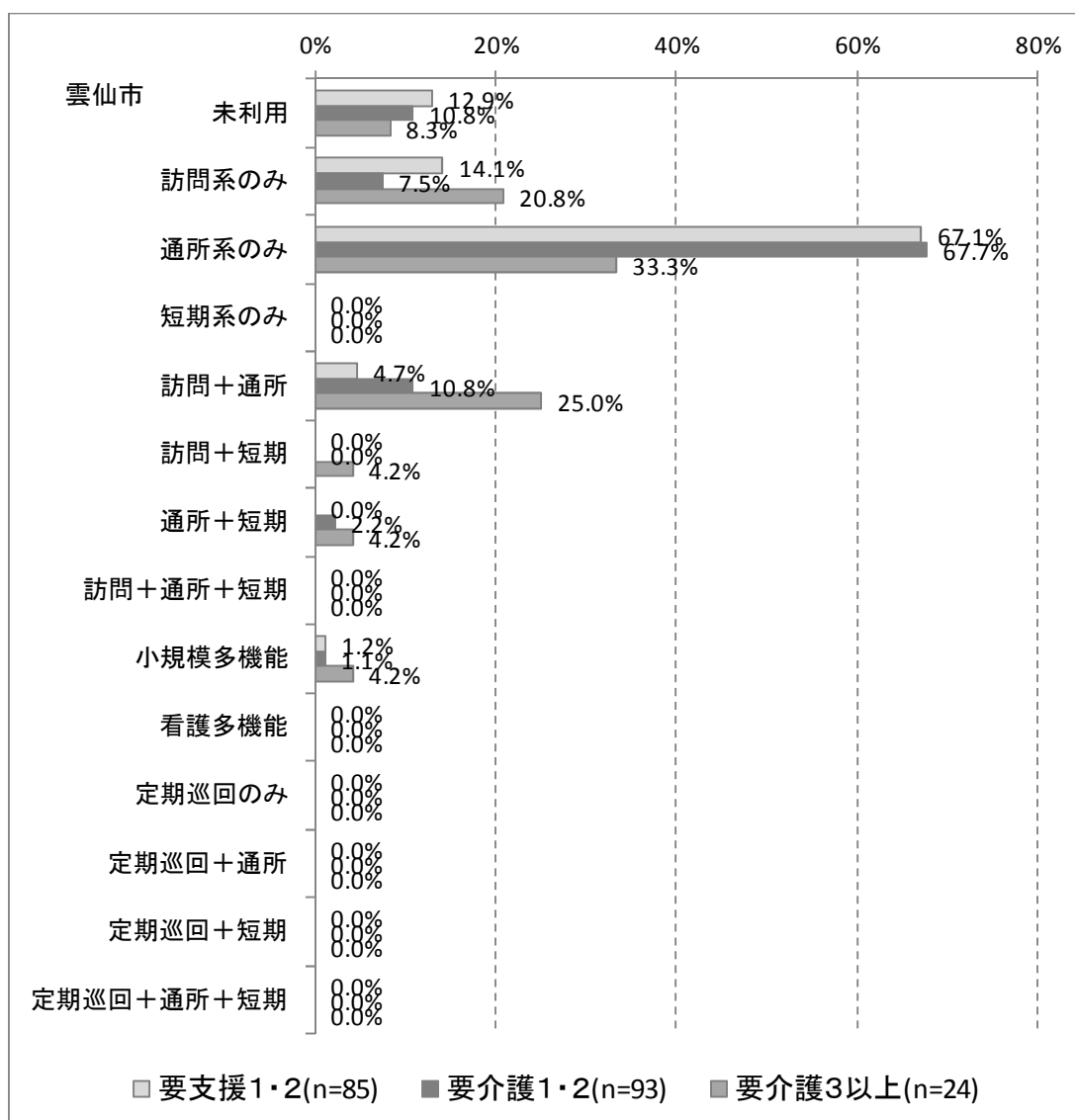
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

- 介護度別によるサービス利用の組み合わせについて、島原市は、要支援1・2、要介護1・2、要介護3以上すべてにおいて、「通所系のみ」が最も割合が高くなっています(図表1-6)。

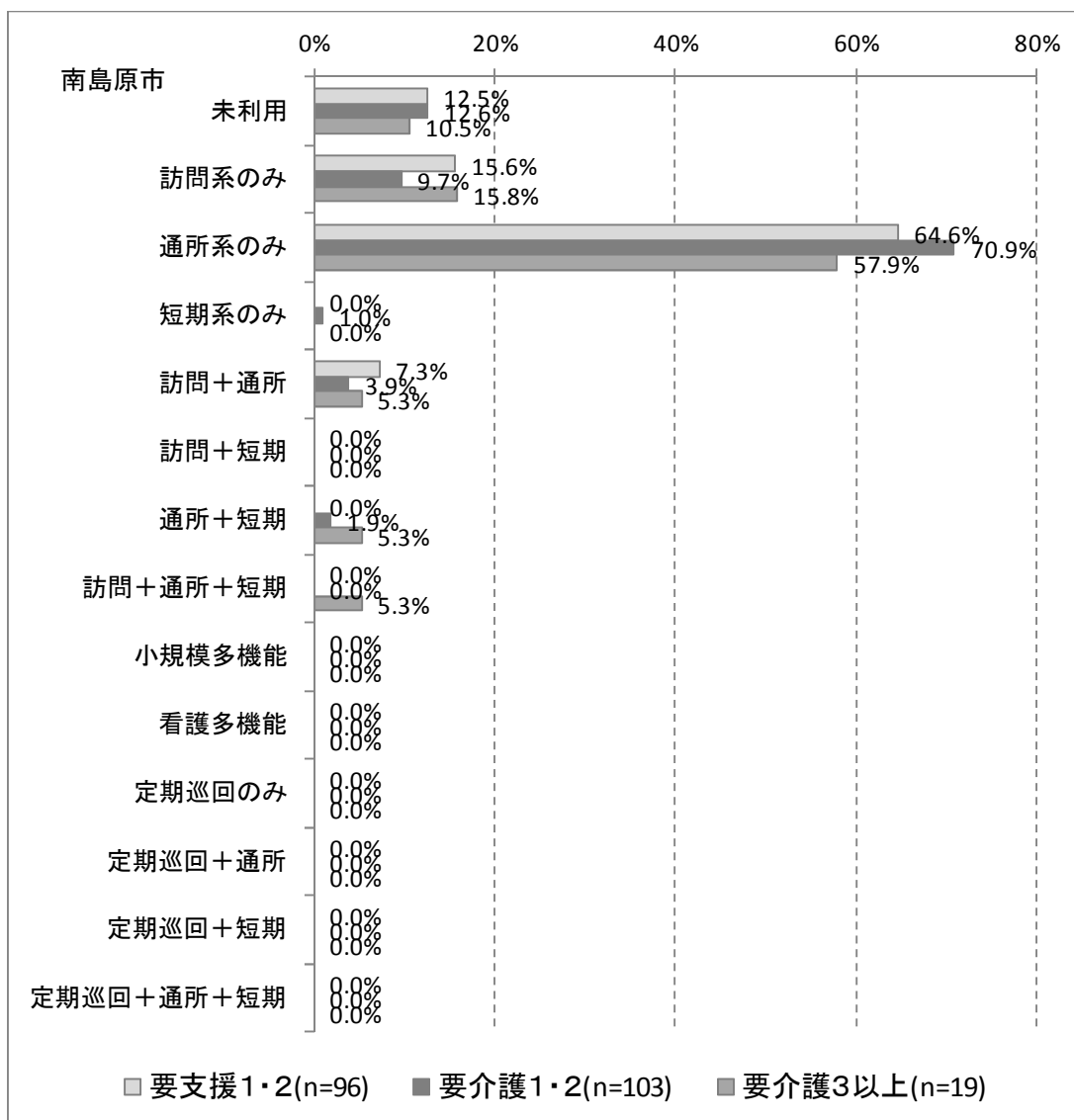
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



- 雲仙市は、要支援1・2、要介護1・2、要介護3以上すべてにおいて、「通所系のみ」が最も割合が高くなっています。
- 要介護3以上では、「訪問+通所」の割合が25%と他のサービス利用の組み合わせより高くなっています。

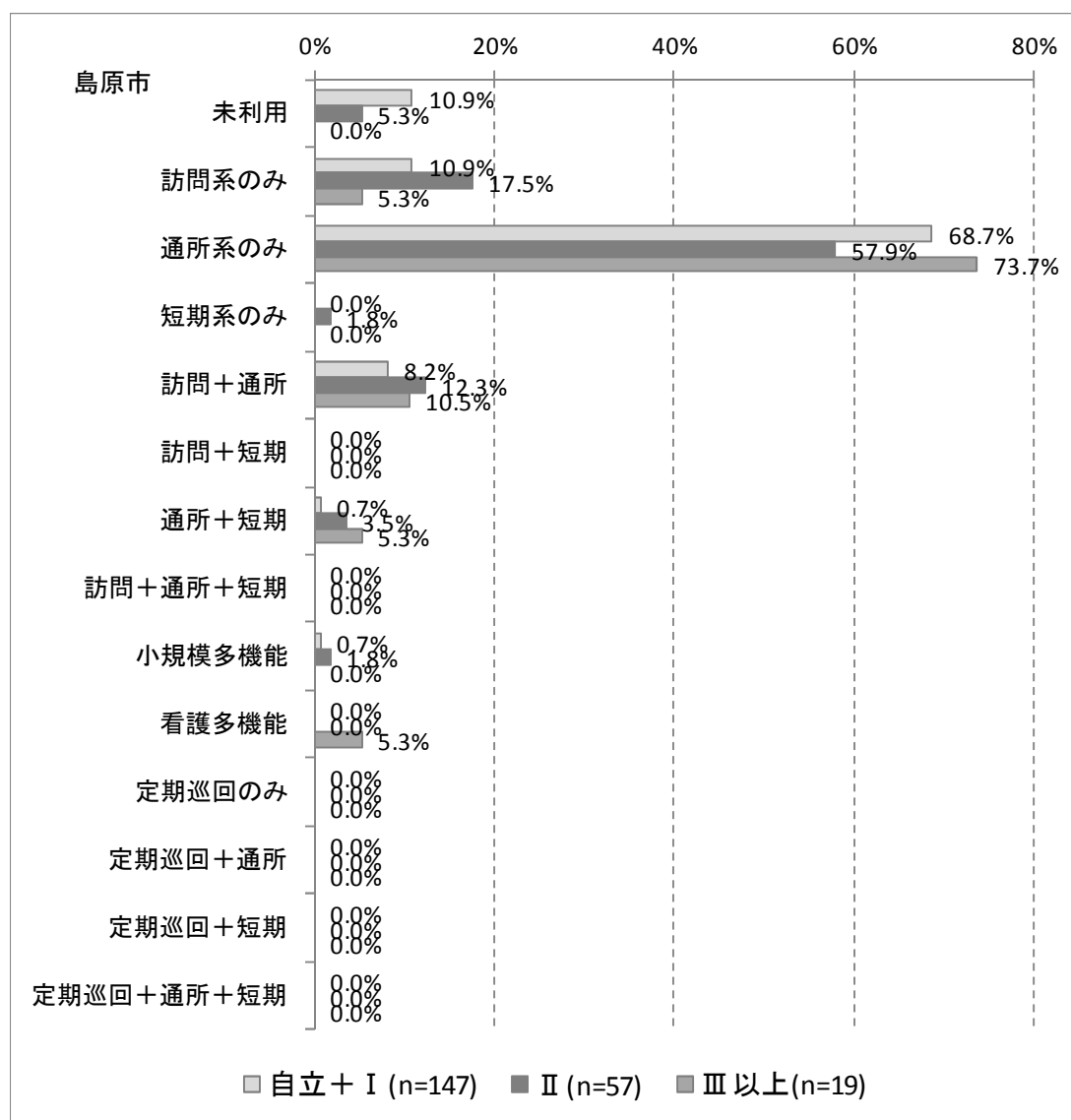


- 南島原市は、要支援1・2、要介護1・2、要介護3以上すべてにおいて、「通所系のみ」が最も割合が高くなっています。

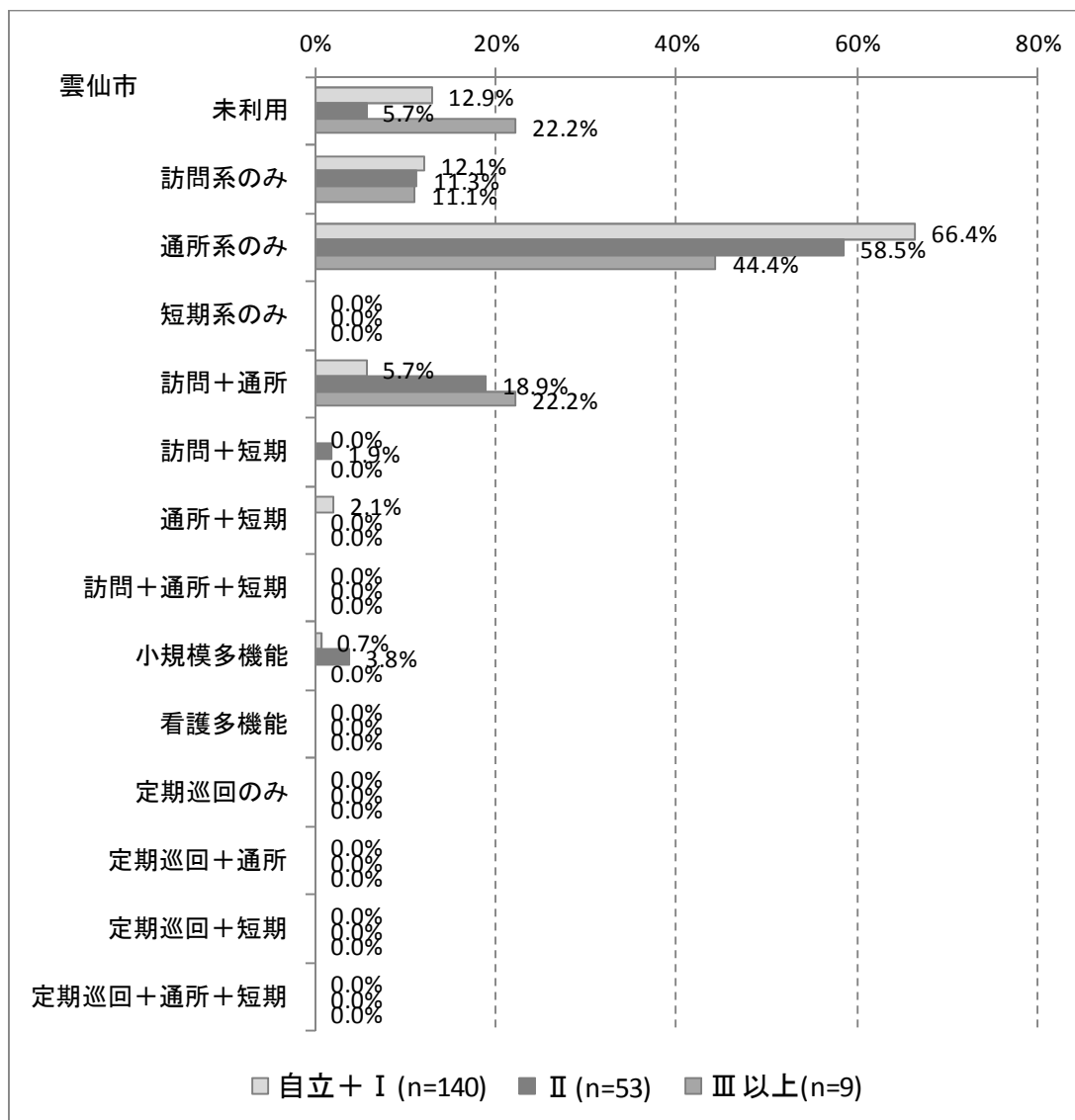


- 認知症自立度によるサービス利用の組み合わせについて、島原市は、自立+Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ以上すべてにおいて、「通所系のみ」が最も割合が高くなっています(図表 1-7)。
- Ⅱにおいては、「訪問系のみ」が自立+Ⅰ、Ⅲ以上と比べると高い一方で、「通所系のみ」では、自立+Ⅰ、Ⅲ以上より割合が低くなっています(図表 1-7)。

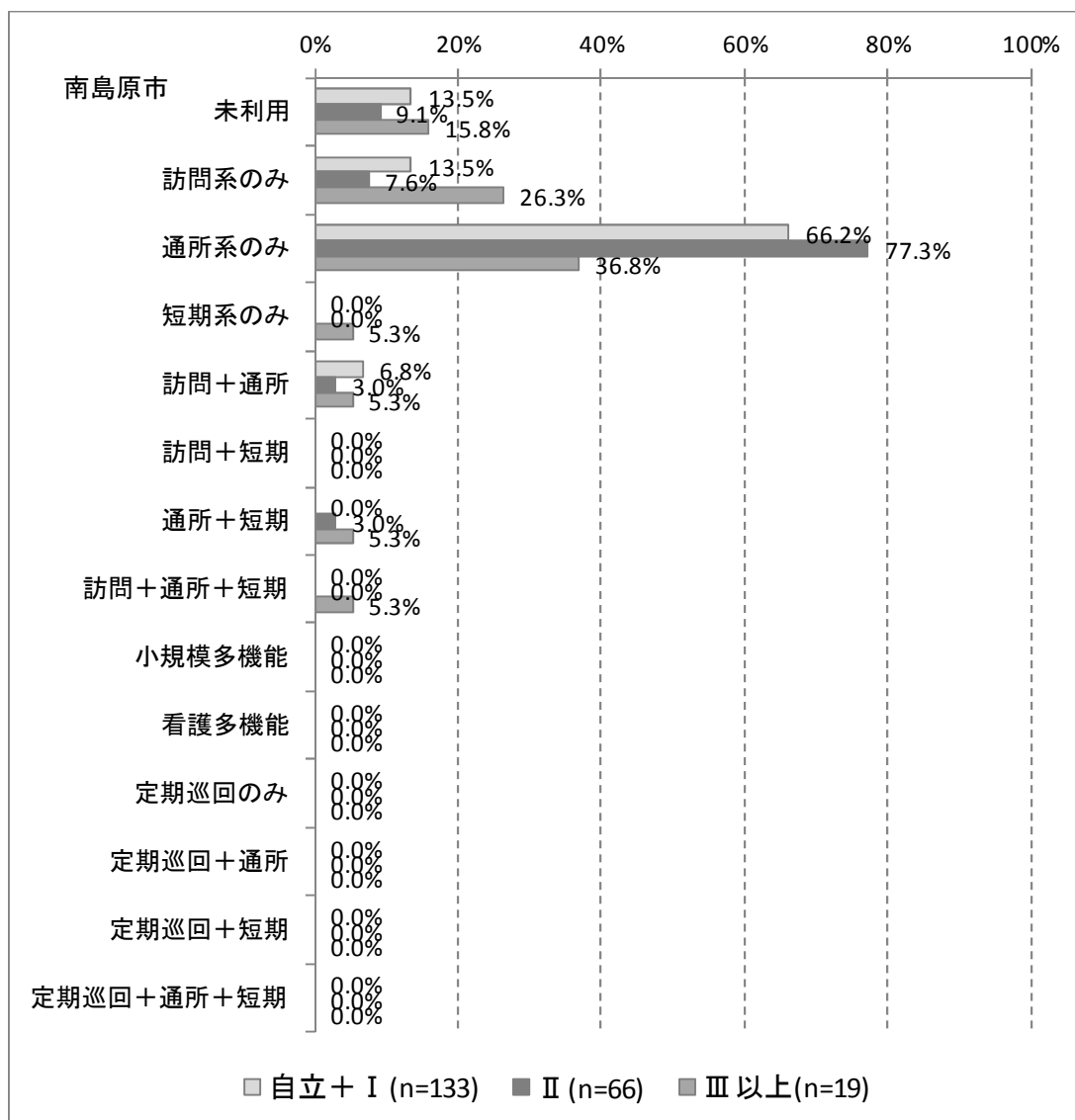
図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



- 雲仙市は、自立+ I、II、III以上すべてにおいて、「通所系のみ」が最も割合が高くなっています。
- III以上になると、「未利用」が22.2%であり、自立+ I、IIと比べると増加しています。



- 南島原市は、自立+Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ以上すべてにおいて、「通所系のみ」が最も割合が高くなっています。
- Ⅲ以上になると、「通所系」と併せて「訪問系」、「短期系」を利用していることがわかります。



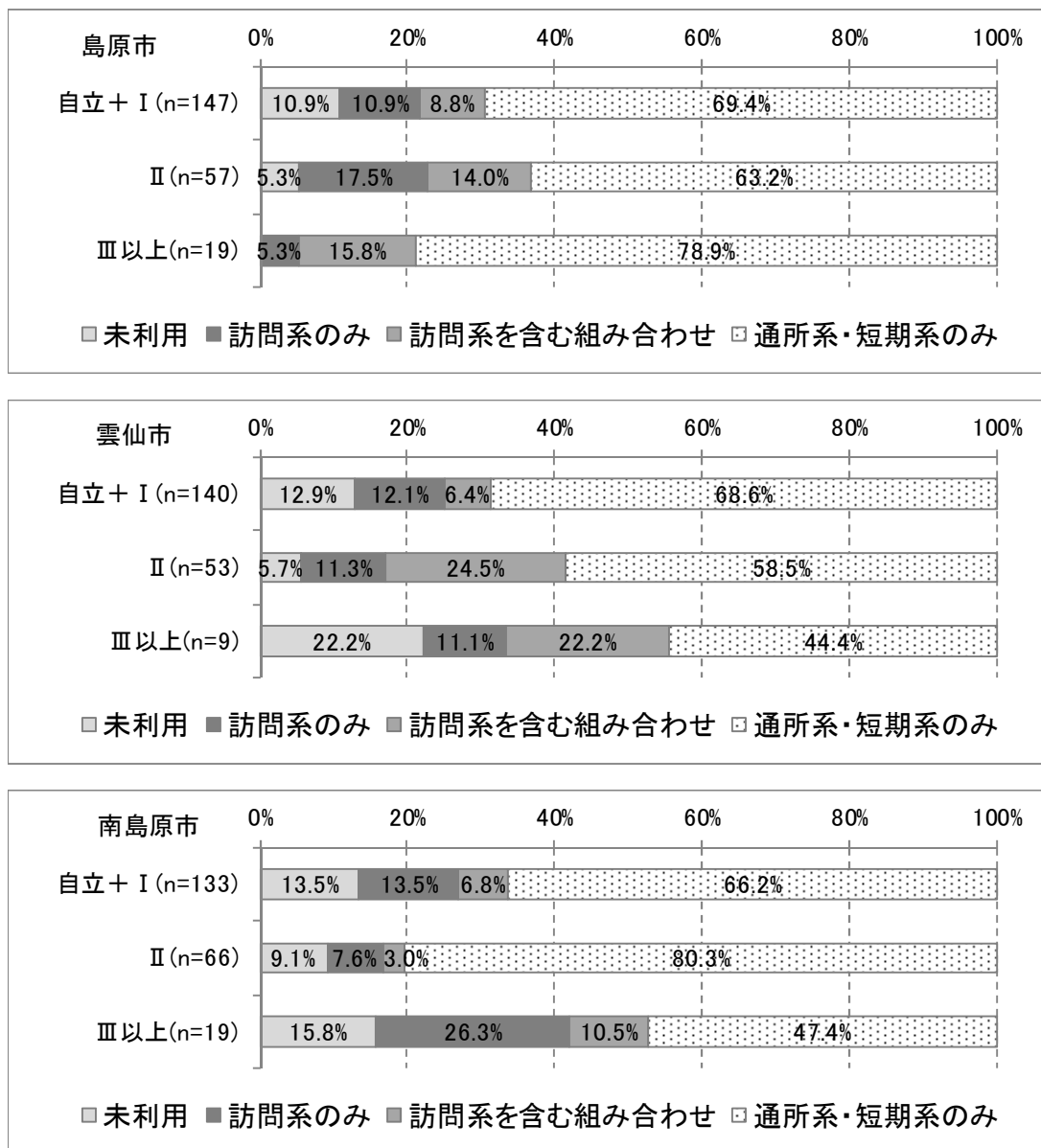
- 要介護度別サービス利用の組み合わせについては、3市とも介護度が重度化すると、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加しています(図表 1-8)。

図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



- 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせについては、島原市は、認知症自立度がⅢ以上になると、「通所系・短期系のみ」の割合が高くなり、雲仙市は、認知症が重度化すると、「通所系・短期系のみ」の割合が下がり、南島原市では、認知症自立度がⅢ以上になると、「訪問系のみ」の割合が高くなっています(図表 1-9)。

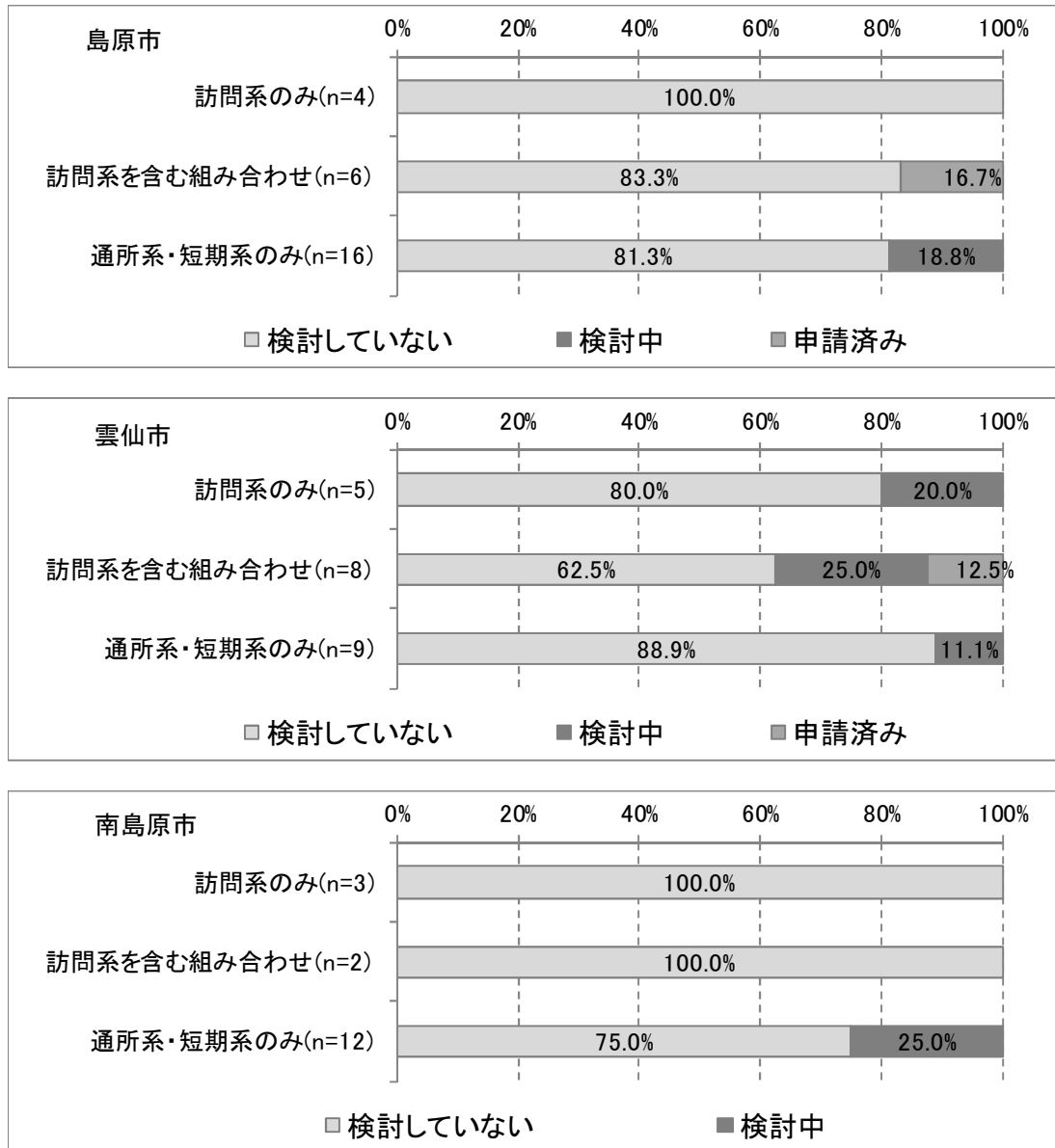
図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

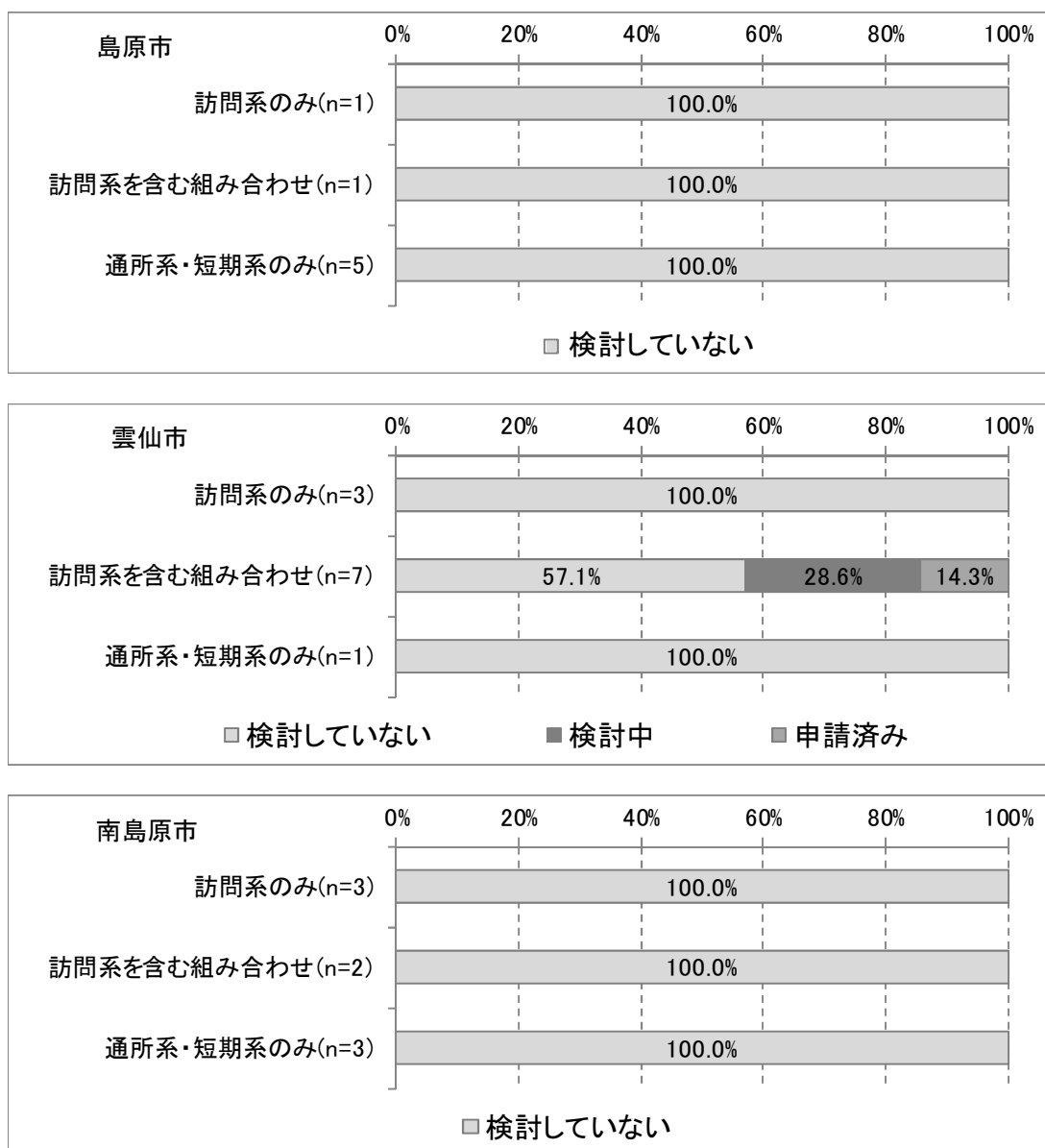
- 検討の状況（要介護3以上）については、「検討していない」の割合が高いのは、島原市では「訪問系のみ」、雲仙市では、「通所系・短期系のみ」、南島原市では、「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」となっています(図表 1-10)。

図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



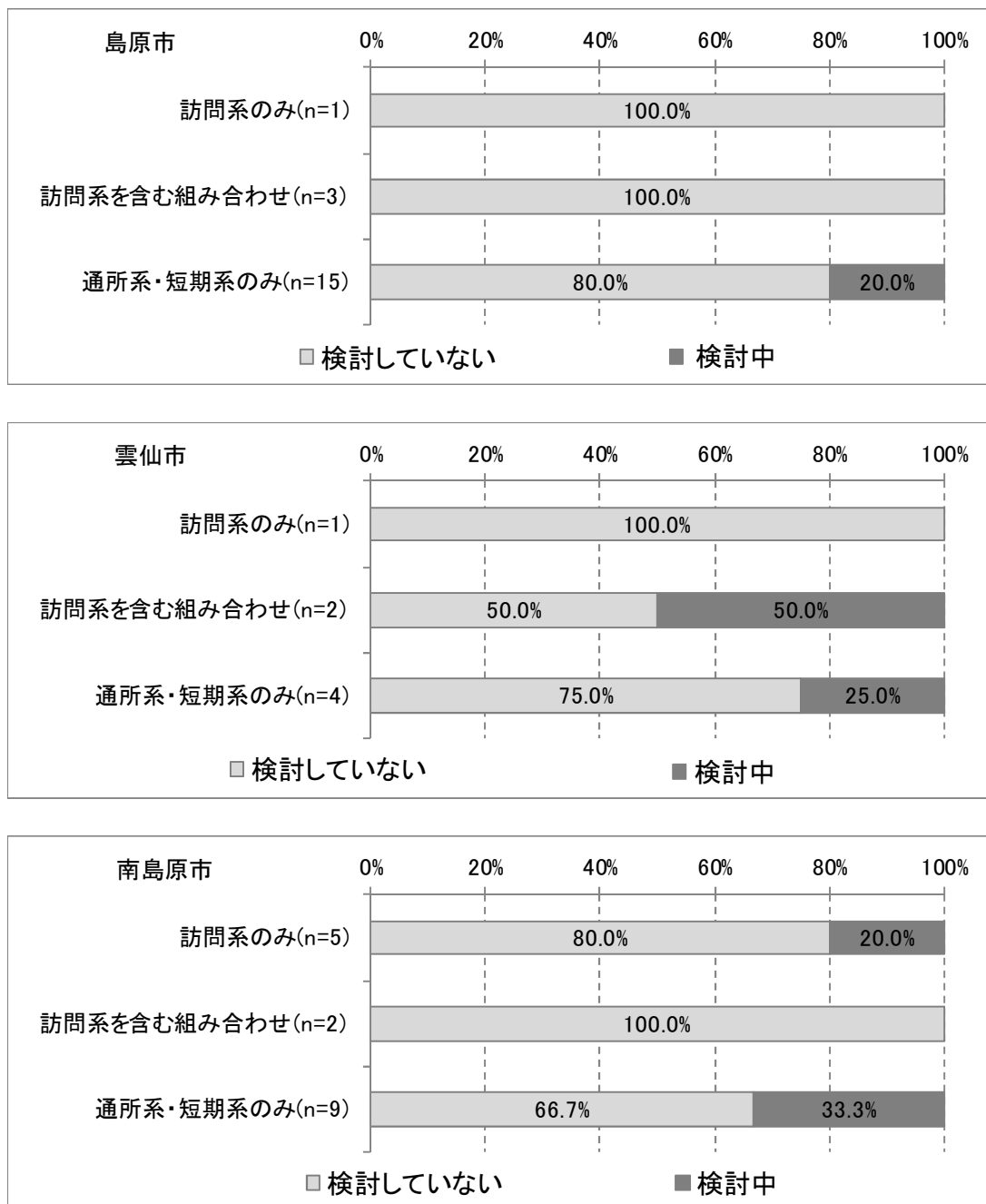
- サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）については、雲仙市の「訪問系を含む組み合わせ」を除く、すべてにおいて「検討していない」が100%となっています(図表 1-11)。

図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



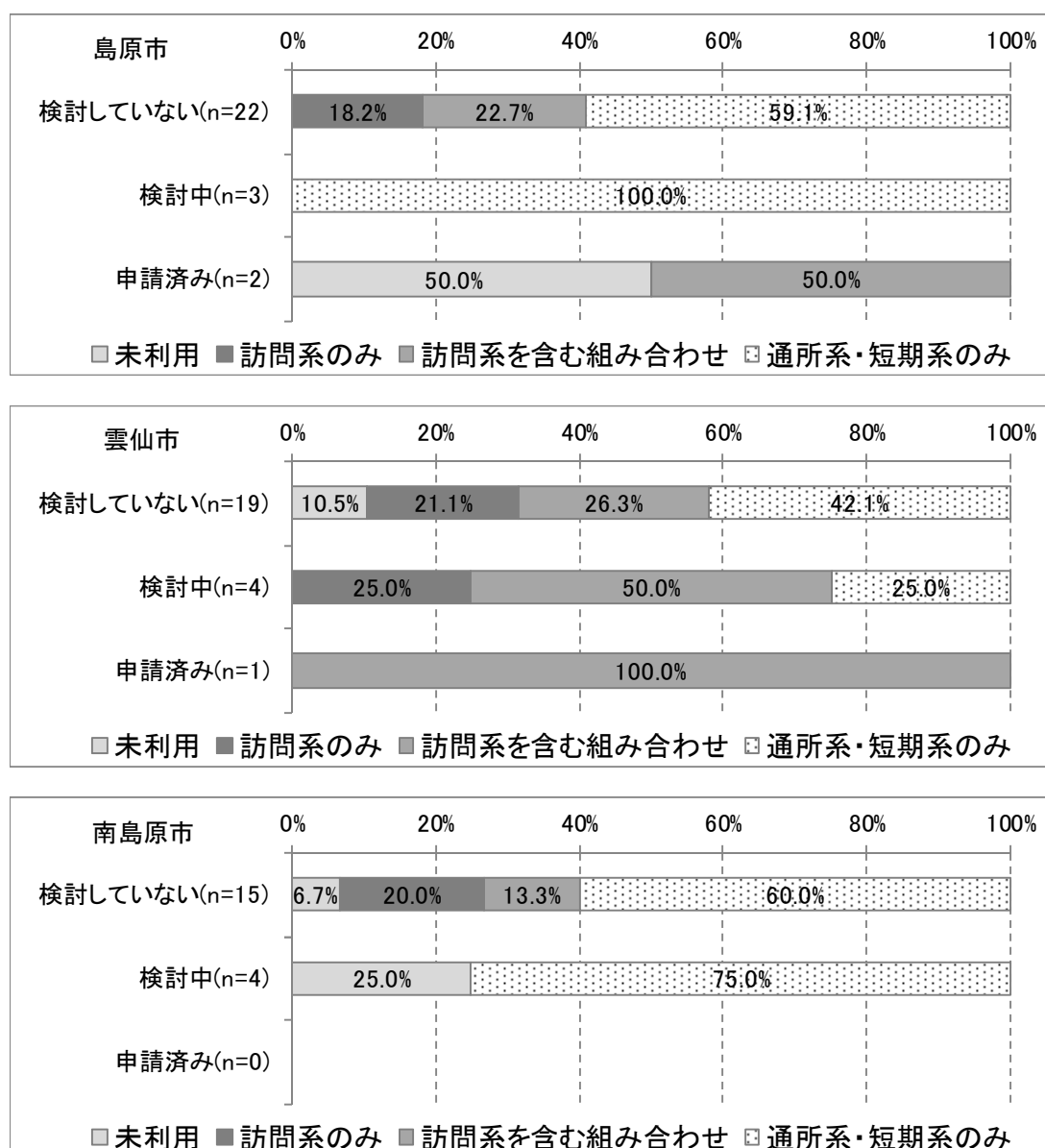
- サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）については、「通所系・短期系のみ」は3市とも「申請済み」はありません(図表 1-12)。

図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



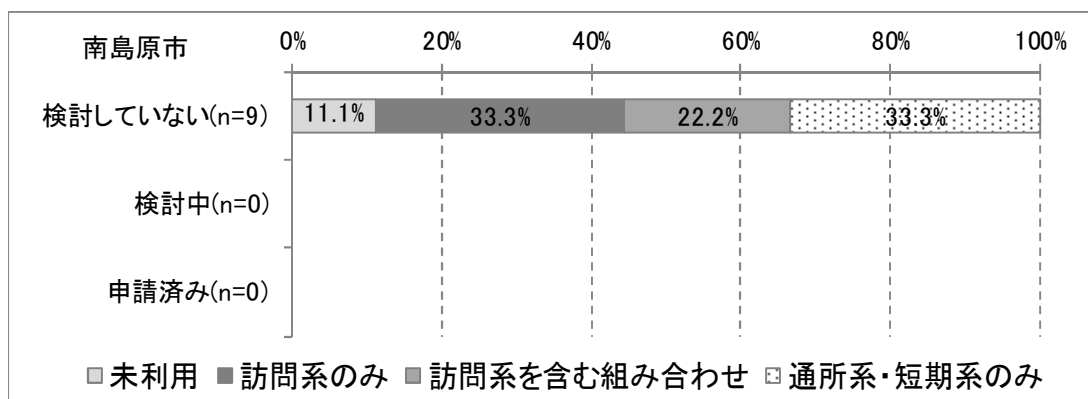
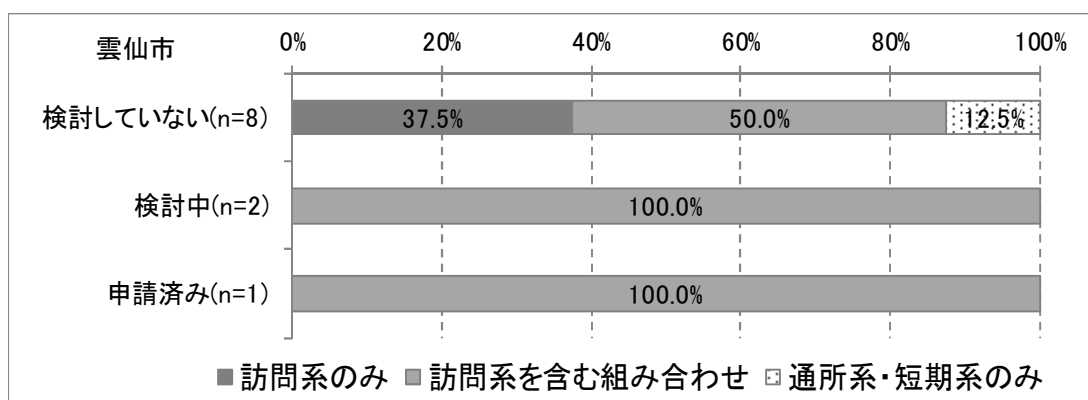
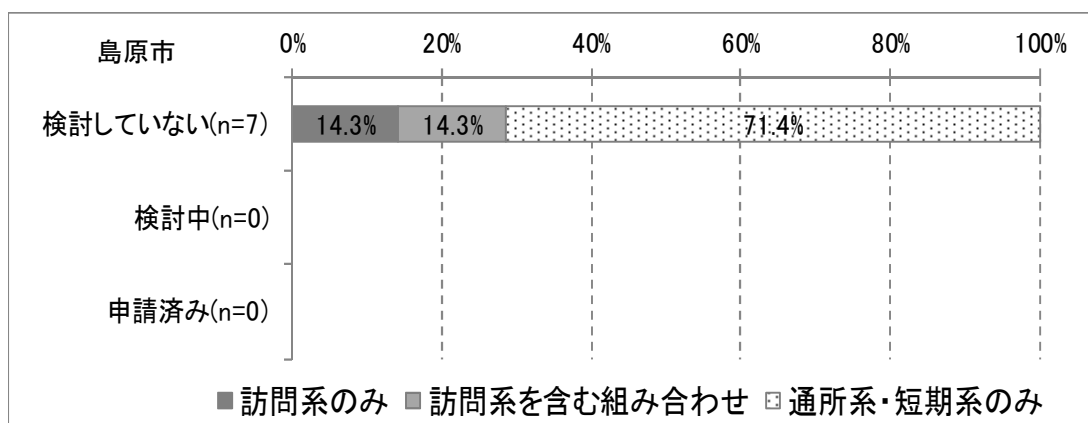
- サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）については、3市とも「検討していない」が最も多く、ついで、「検討中」、「申請済み」となっています(図表 1-13)。
- 「検討していない」では、3市とも「通所系・短期系のみ」の割合がやや高くなっています(図表 1-13)。

図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



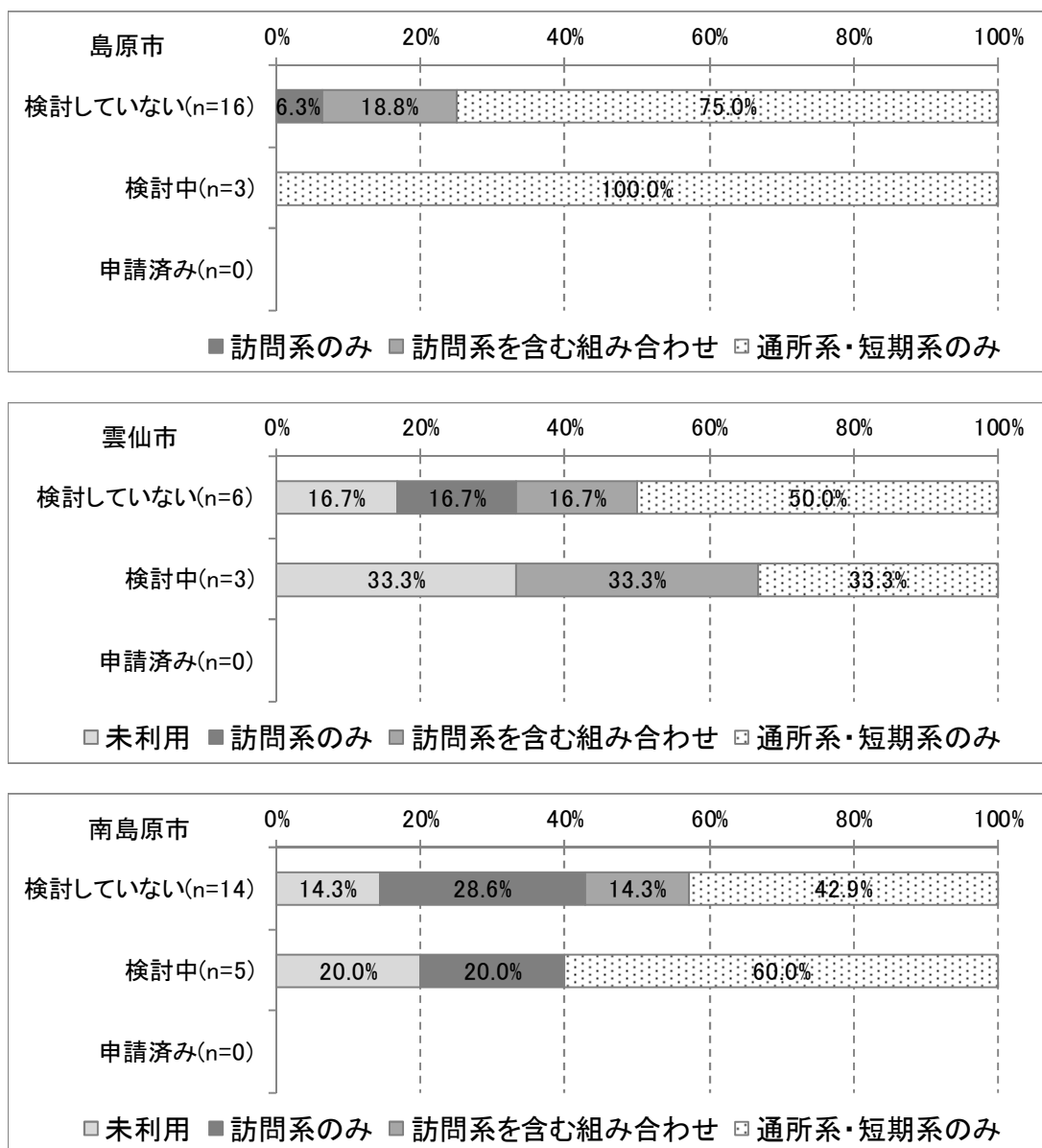
- サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）について、「検討していない」では、3市とも「検討していない」が多くなっています(図表 1-14)。
- 「検討していない」では、島原市では「通所系・短期系のみ」、雲仙市では「訪問系を含む組み合わせ」、南島原市では「訪問系のみ」「通所系・短期系のみ」の割合がやや高くなっています(図表 1-14)。

図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



- サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）について、「検討していない」では、3市とも「検討していない」が多くなっています(図表 1-15)。
- 「検討していない」では、3市とも「通所系・短期系のみ」の割合がやや高くなっています(図表 1-15)。

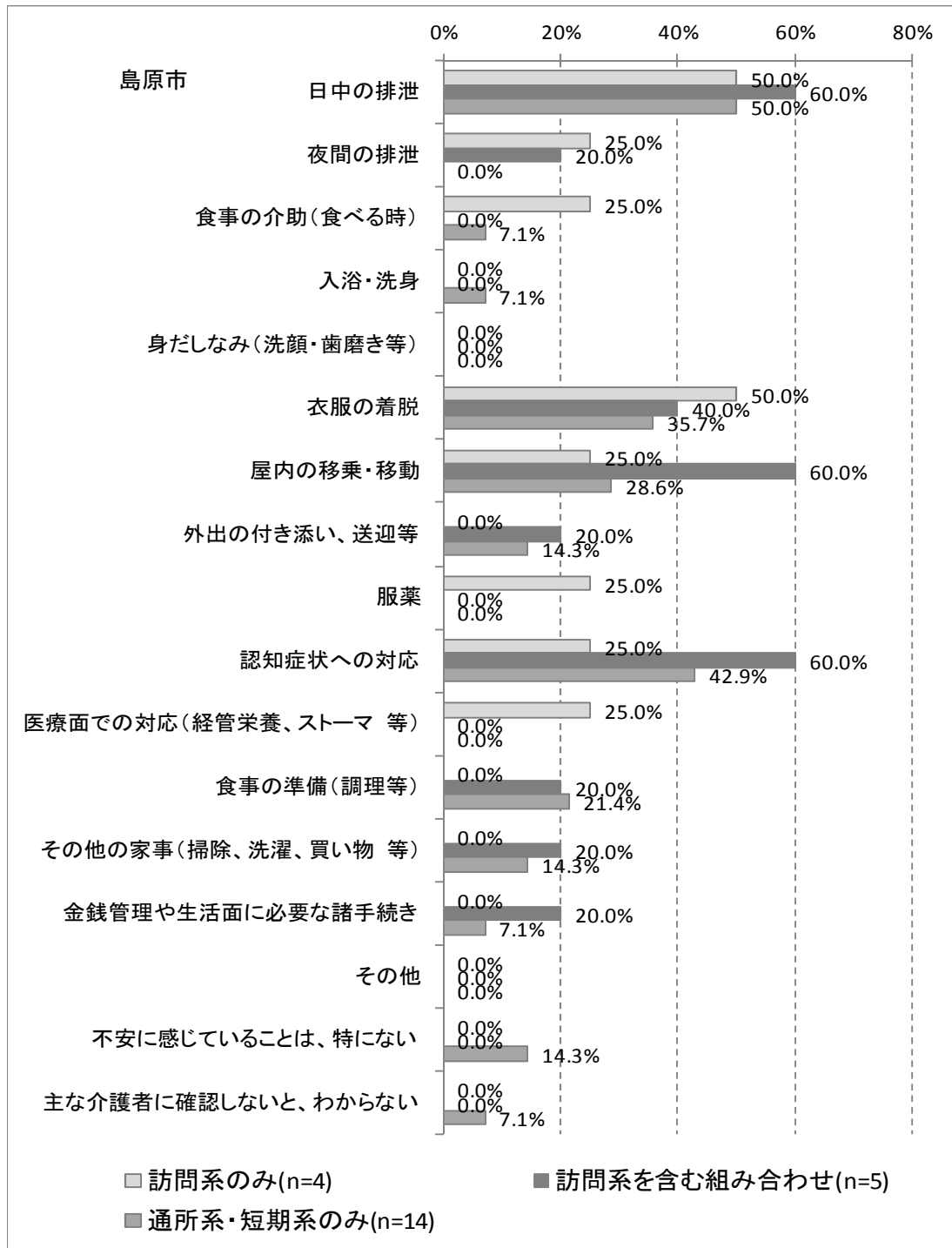
図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



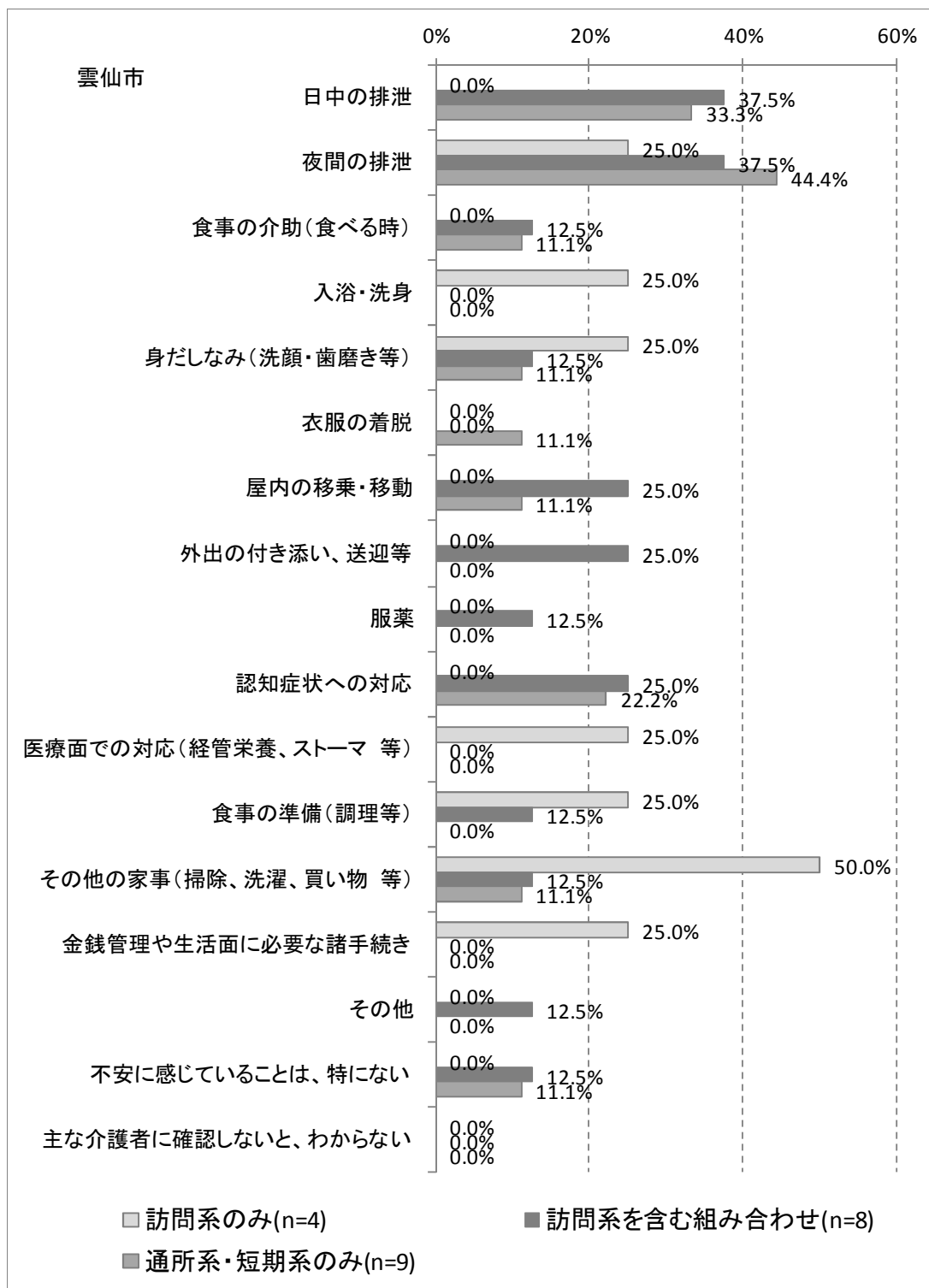
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

- サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）について、島原市では、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」、それぞれ「日中の排泄」の割合が高くなっています(図表 1-16)。

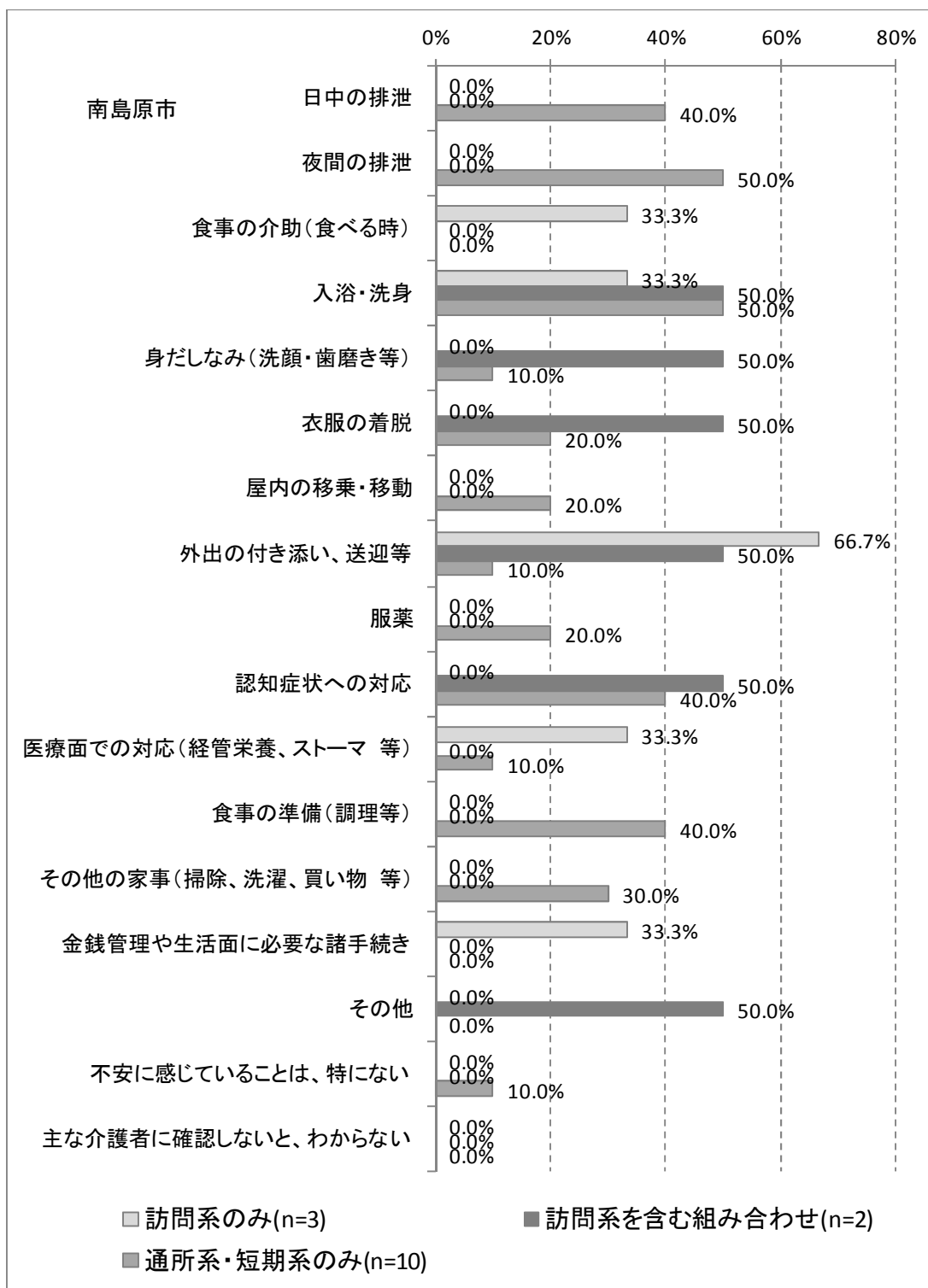
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



- 雲仙市では、「訪問系のみ」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が高く、「通所系・短期系のみ」では、「夜間の排泄」が高くなっています。

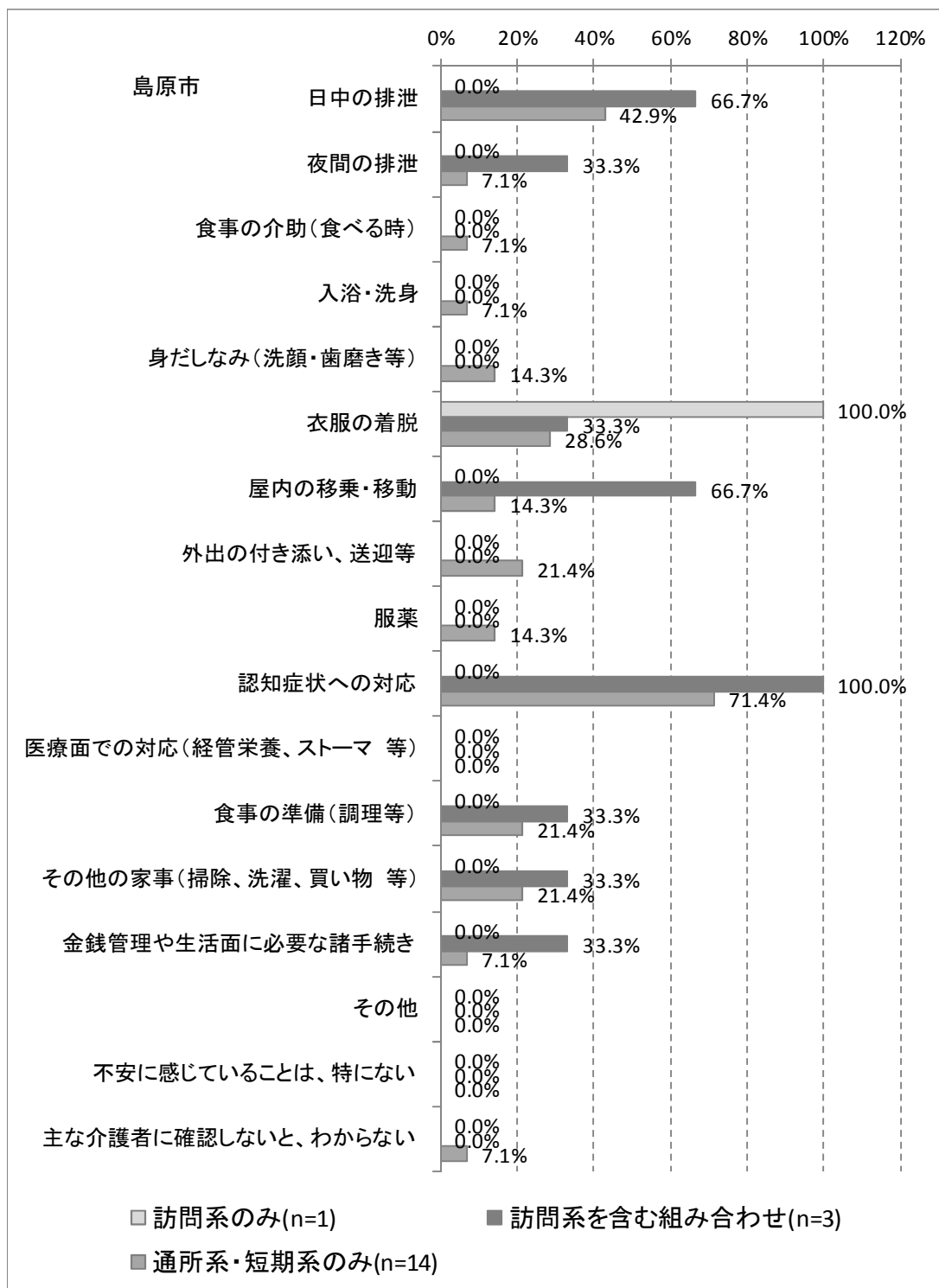


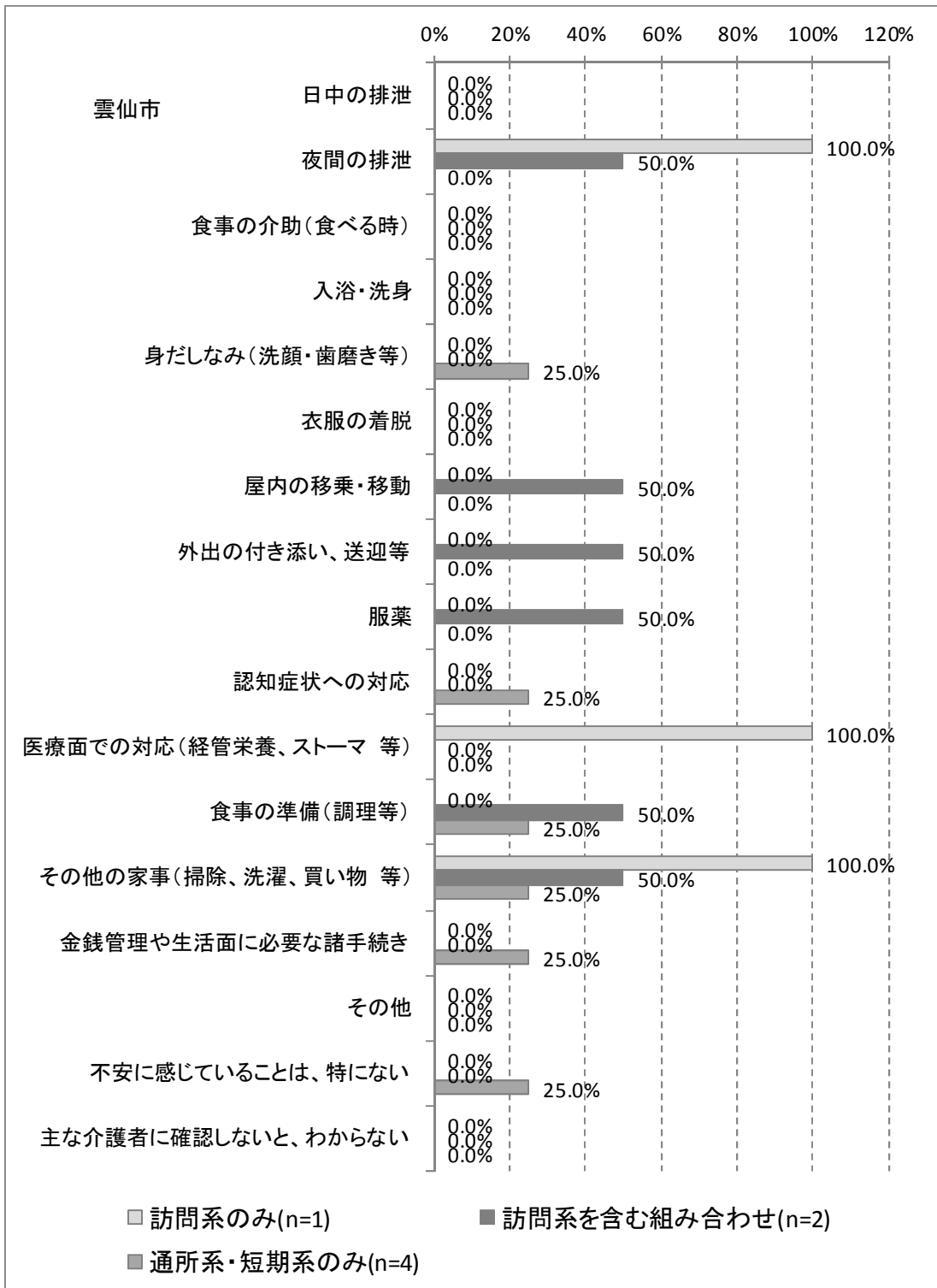
- 南島原市では、「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」では、「入浴・洗身」の割合が高く、「訪問系のみ」では、「外出の付き添い、送迎等」の割合が高くなっています。

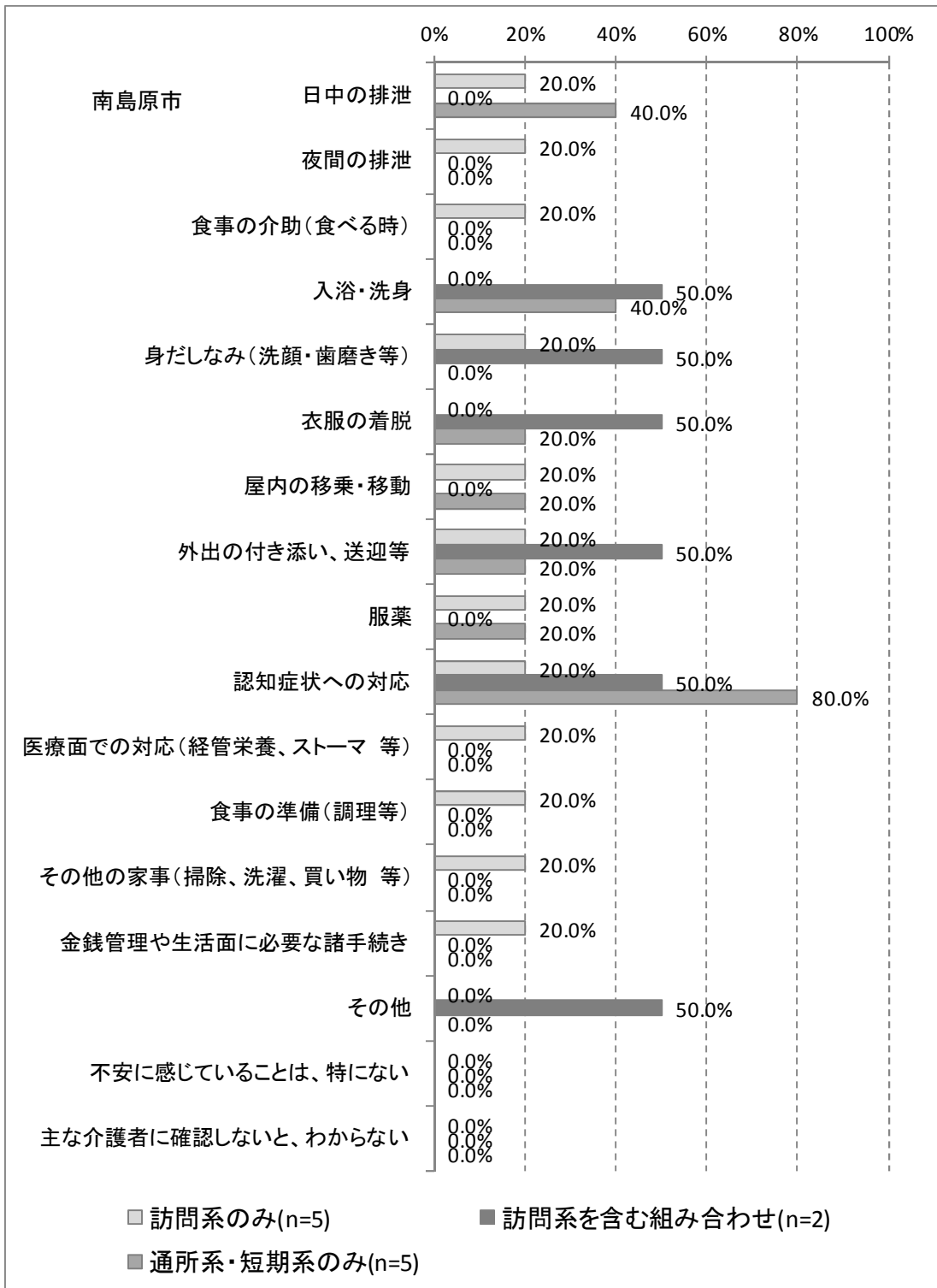


- 「サービス利用の組み合わせ」と「介護者が不安を感じる介護」の関係を、認知症Ⅲ以上のケースについてみると、「認知症状への対応」に係る介護者の不安がやや高くなっています(図表 1-17)。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



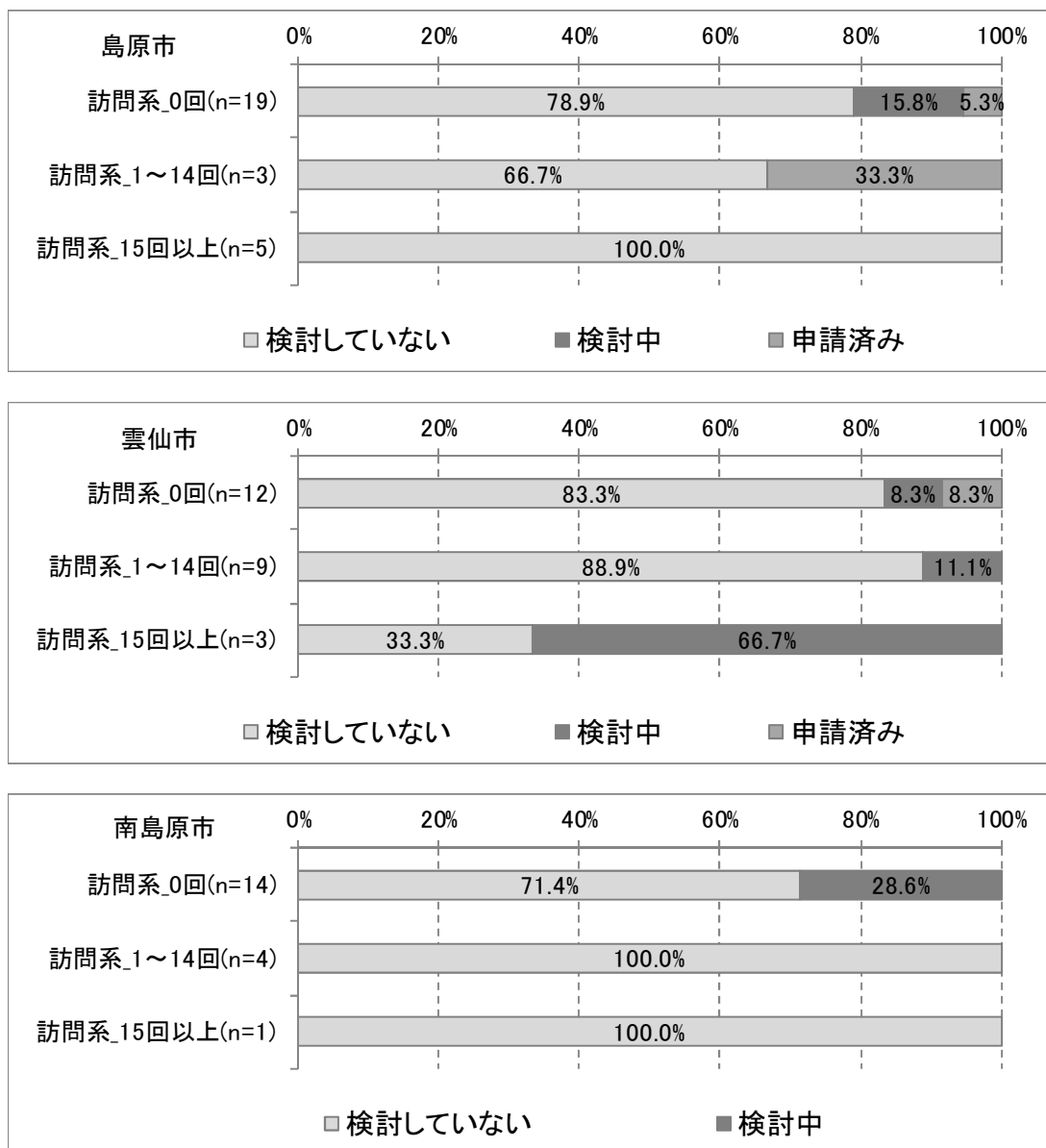




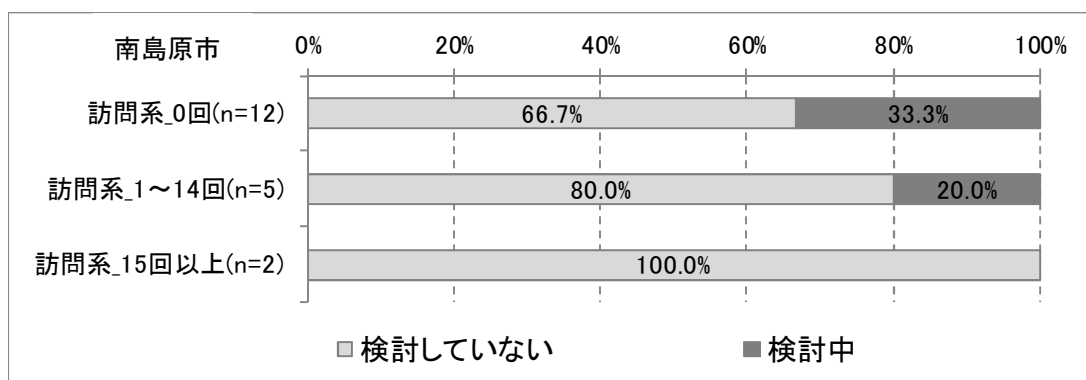
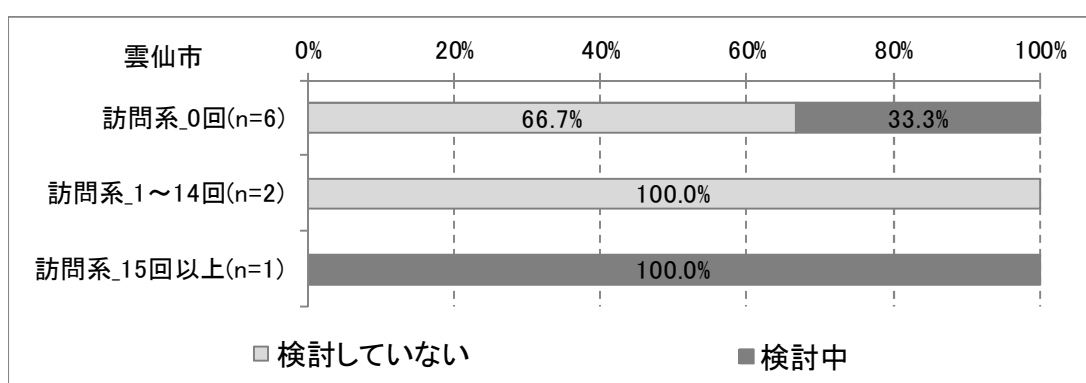
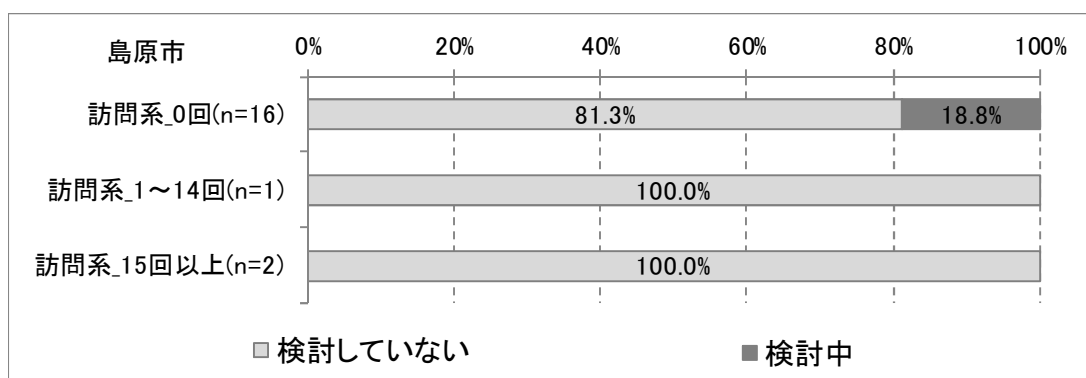
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

- 要介護3以上および認知症Ⅲ以上のケースにおいて、訪問系サービスの利用回数の増加が、施設等検討の状況における「検討していない」の割合を高く維持する傾向がみられます(図表 1-18～図表 1-19)。

図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）

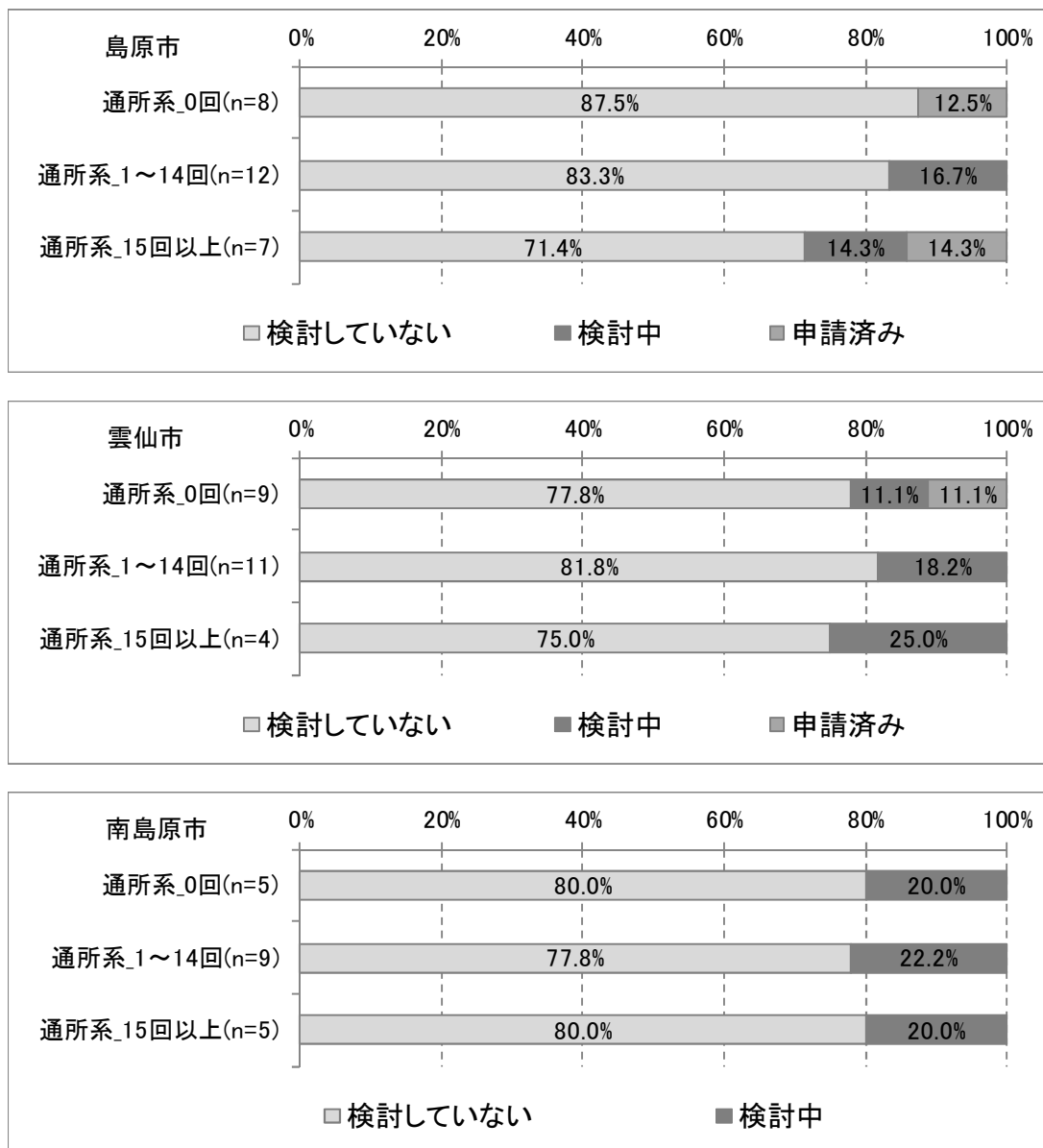


図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）

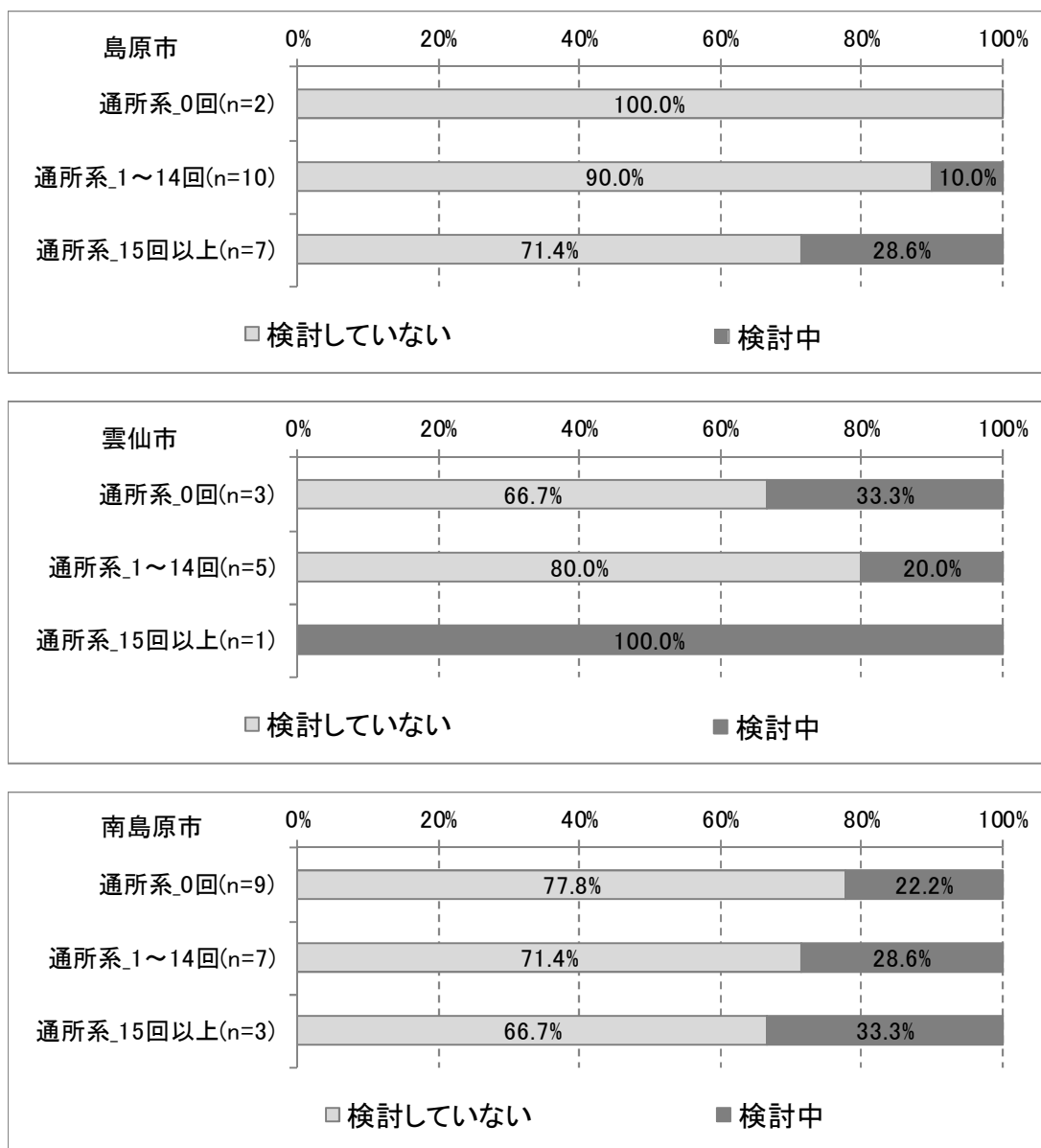


- 通所系と短期系のサービスについては、15回/月（短期系サービスについては10回/月）を超える利用では、施設等検討の状況における「検討していない」の割合が、下がる傾向がみられます(図表 1-20～図表 1-23)。

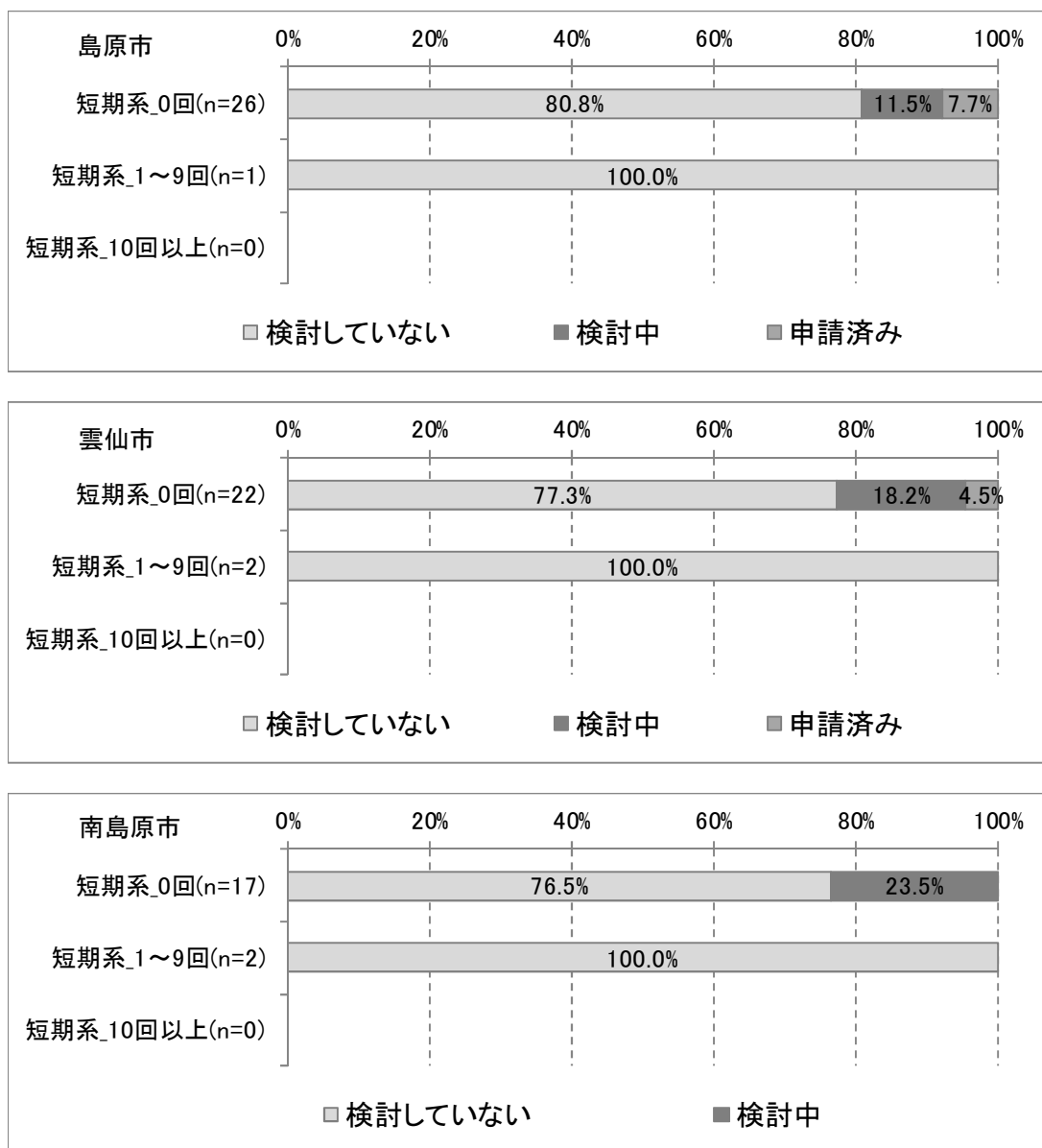
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



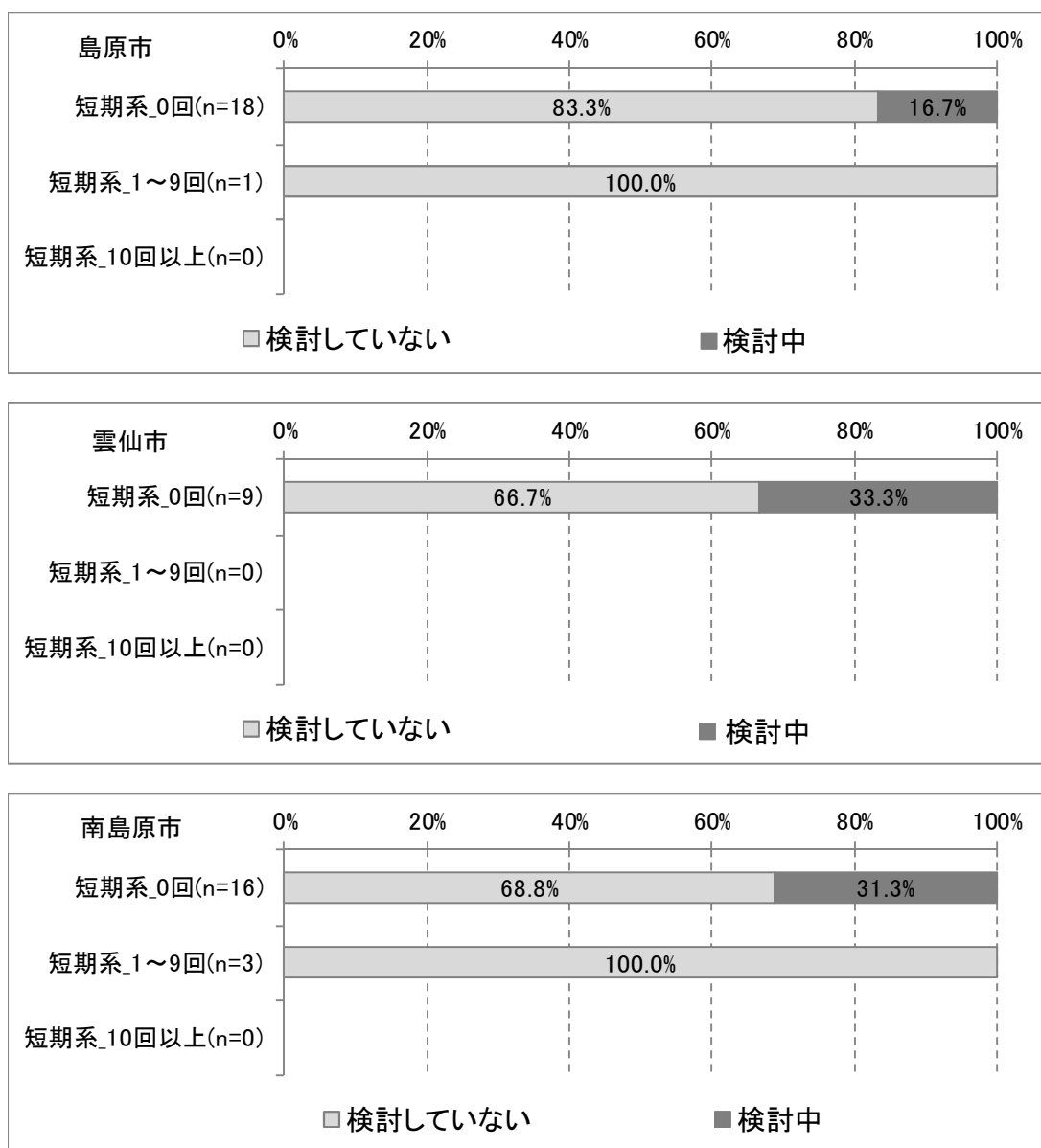
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



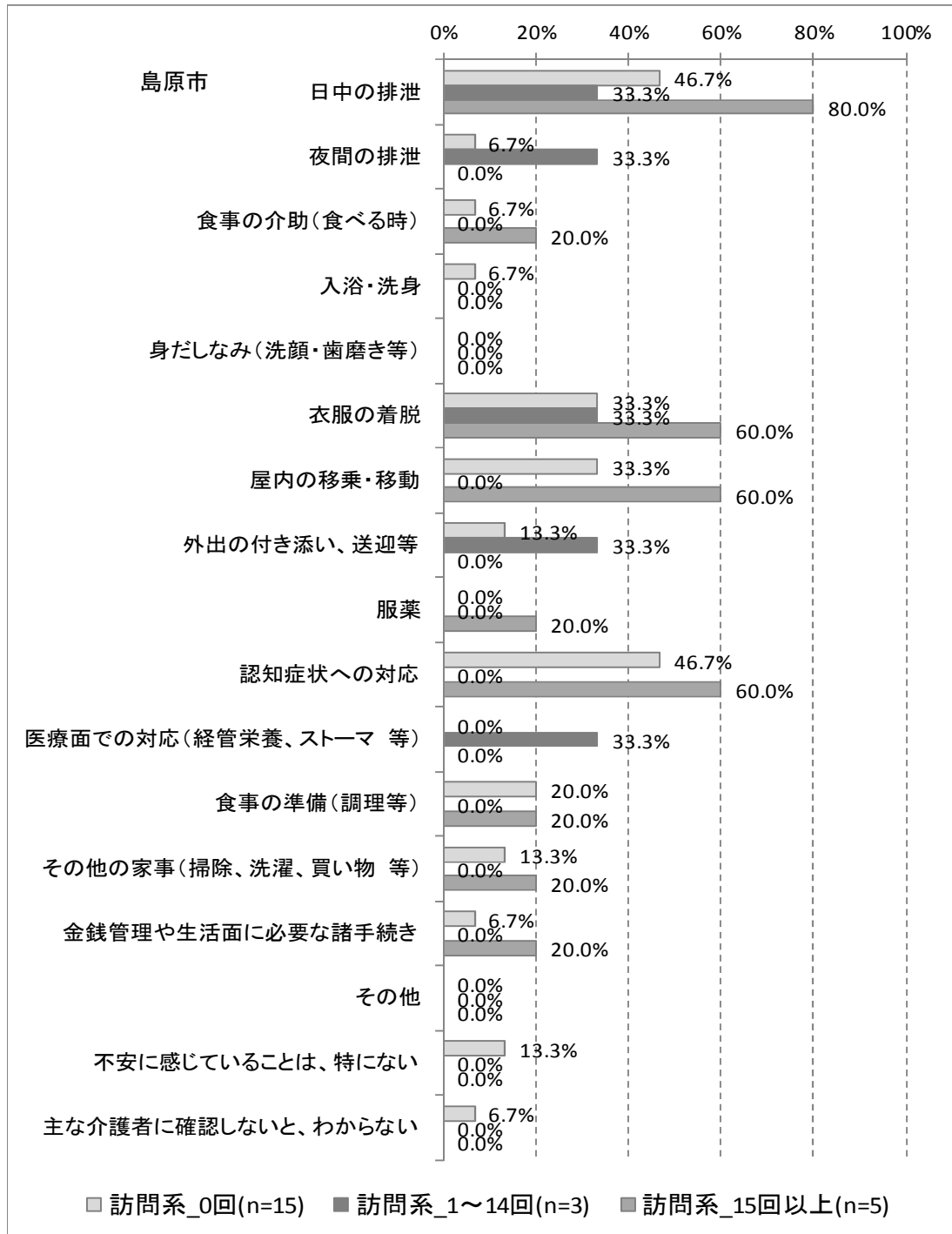
図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）

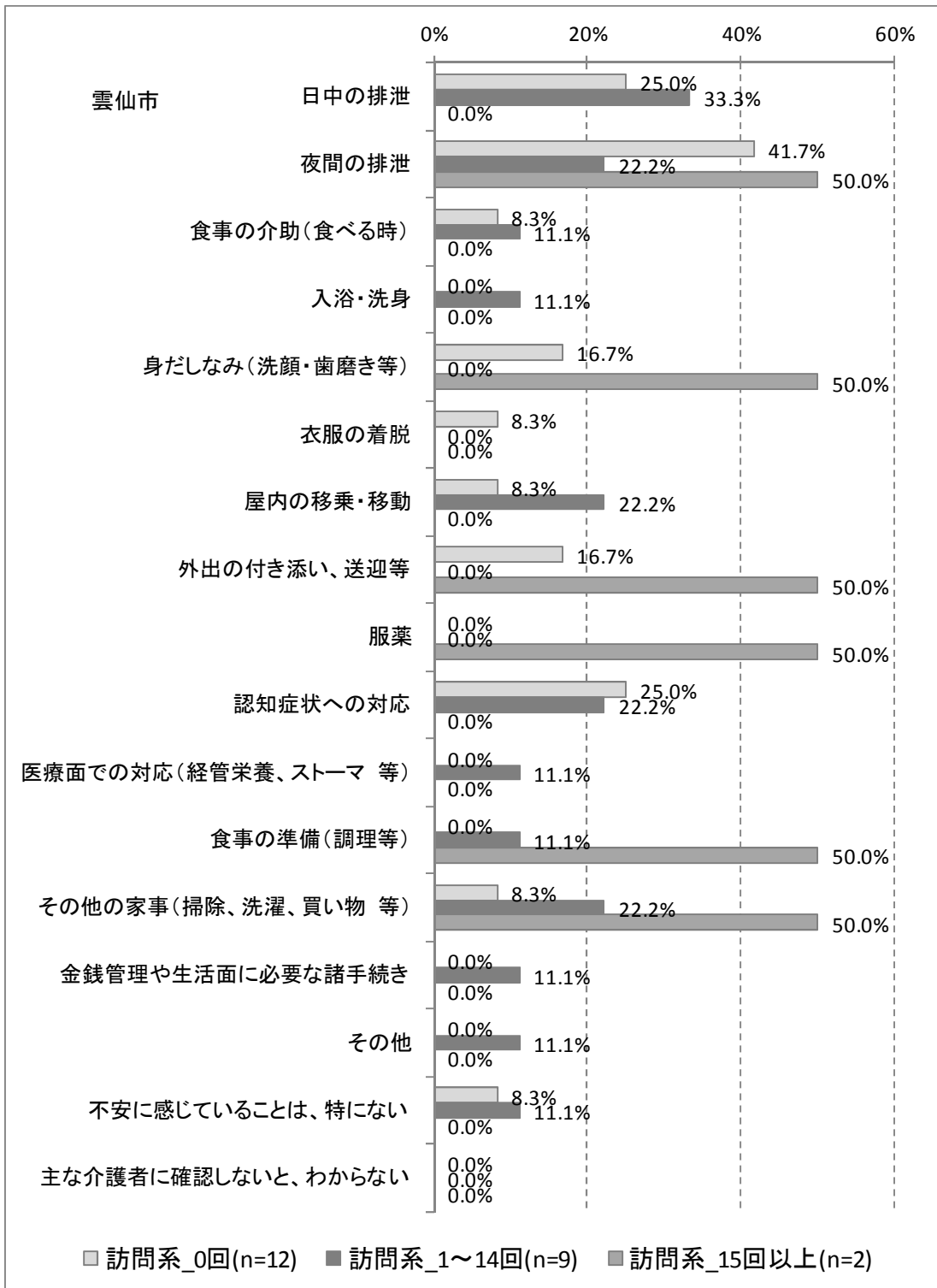


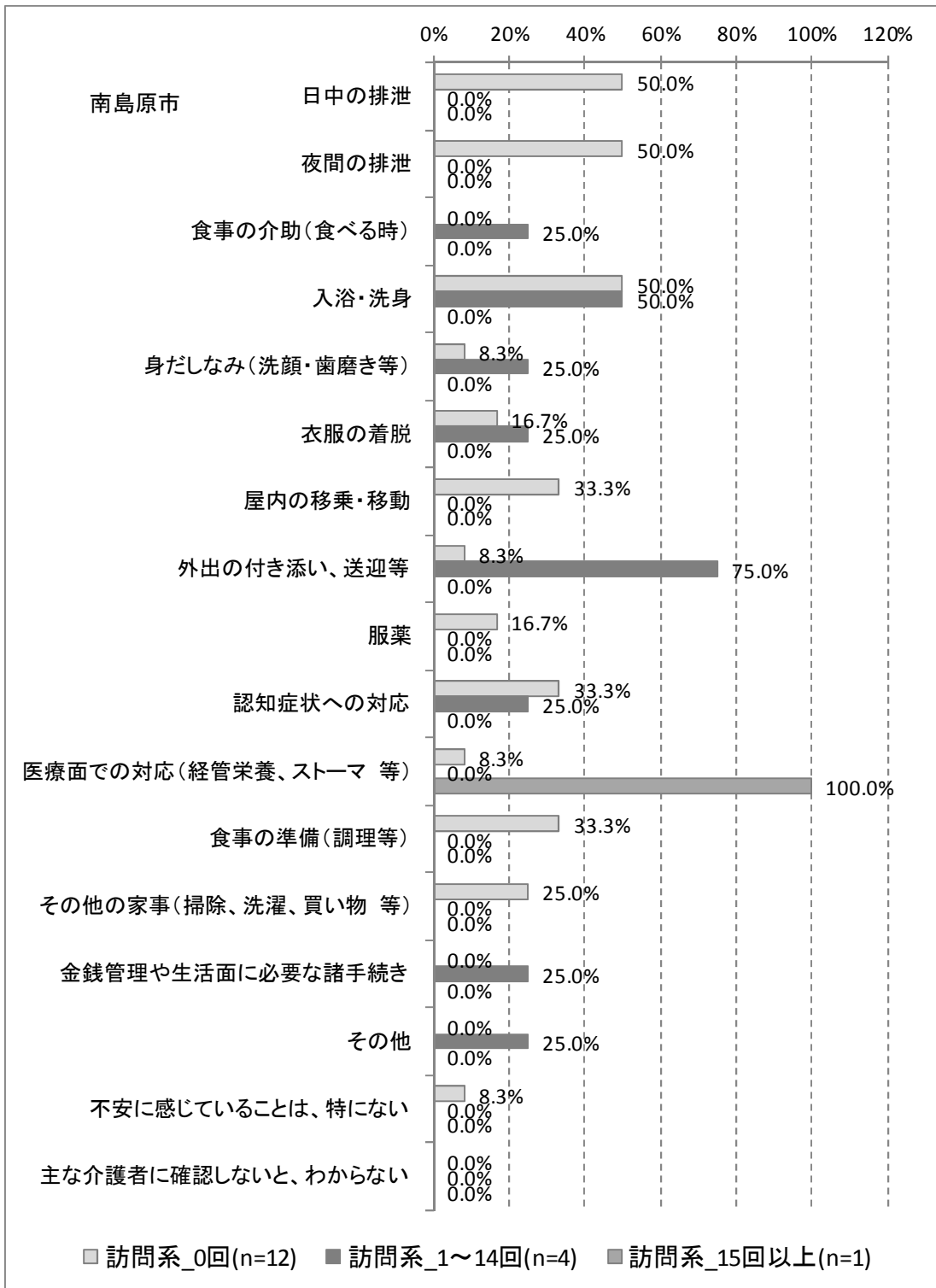
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

- 要介護3以上および認知症Ⅲ以上のケースにおいて、訪問系サービスの利用回数の増加が、介護者の「日中の排泄」に係る不安を軽減する傾向がみられます(図表 1-24～図表 1-25)。

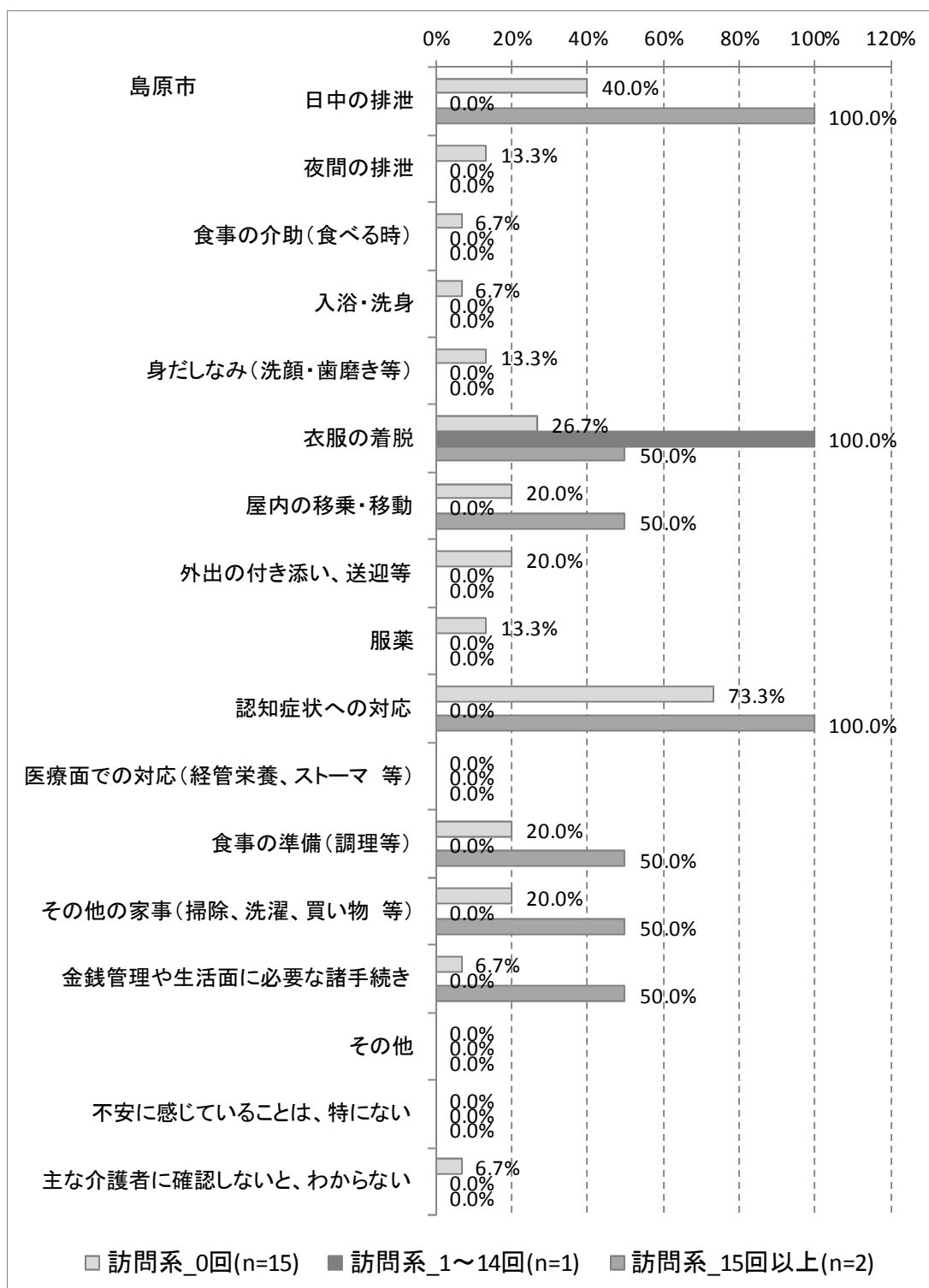
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）

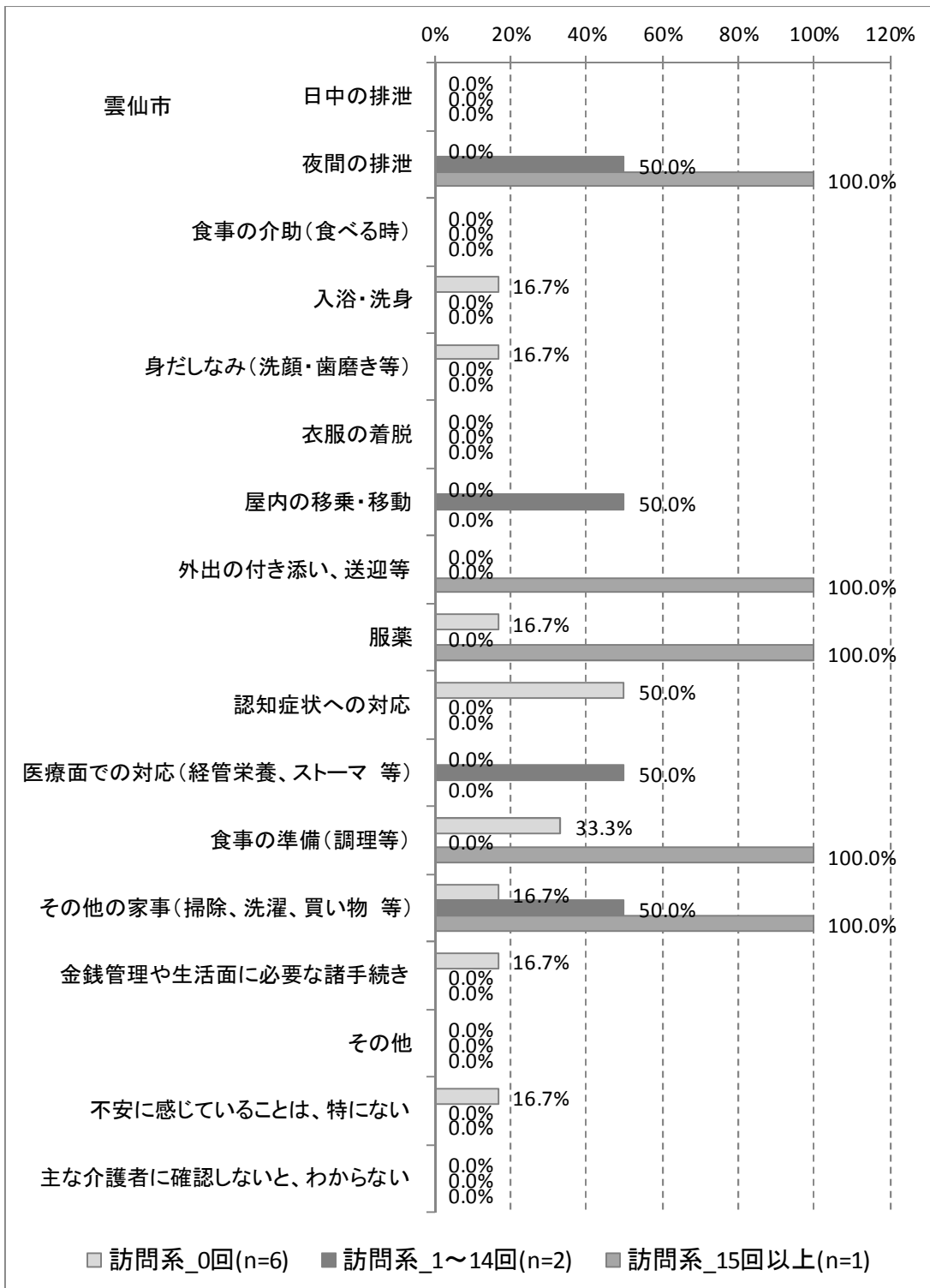


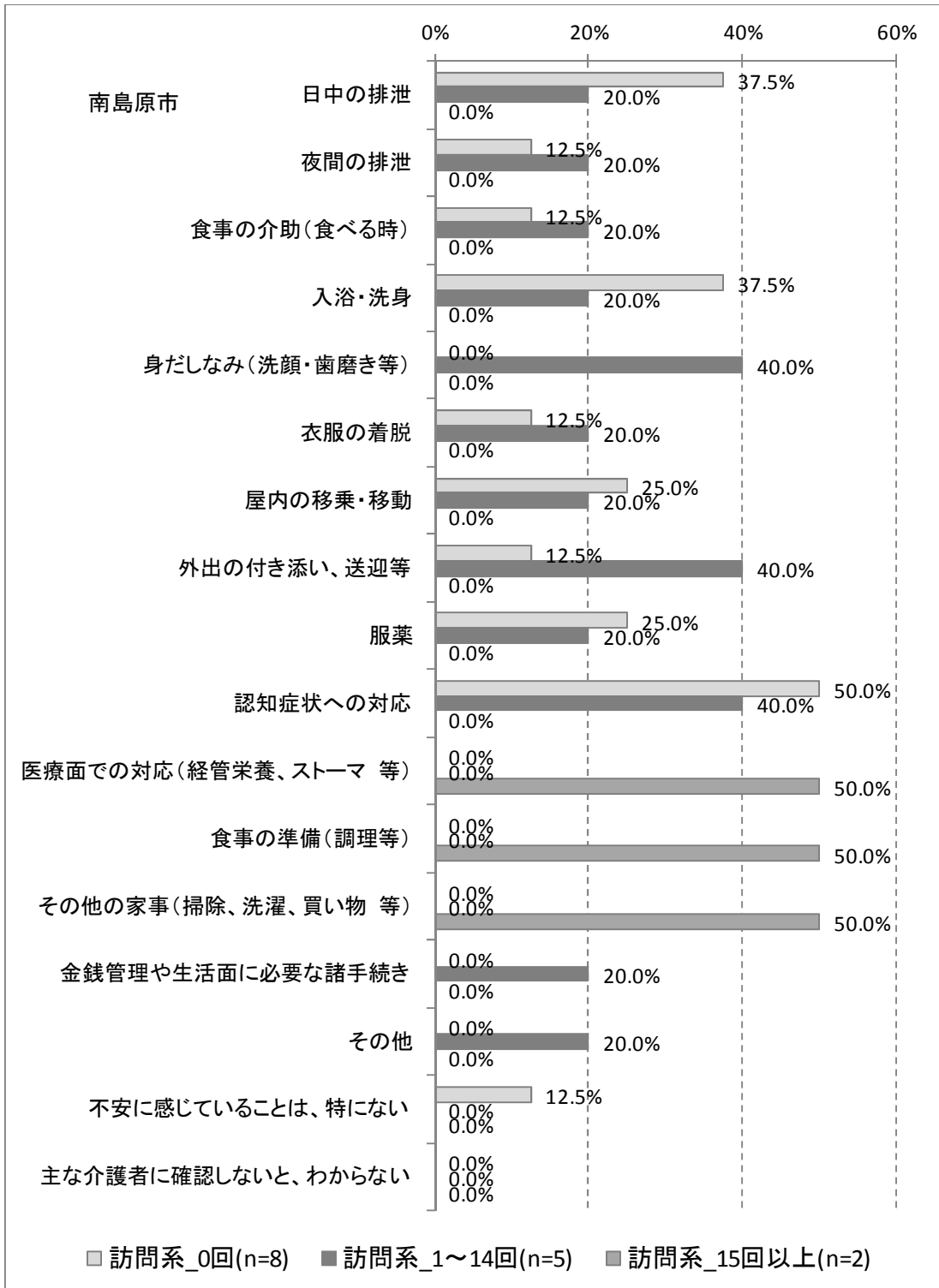




図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）

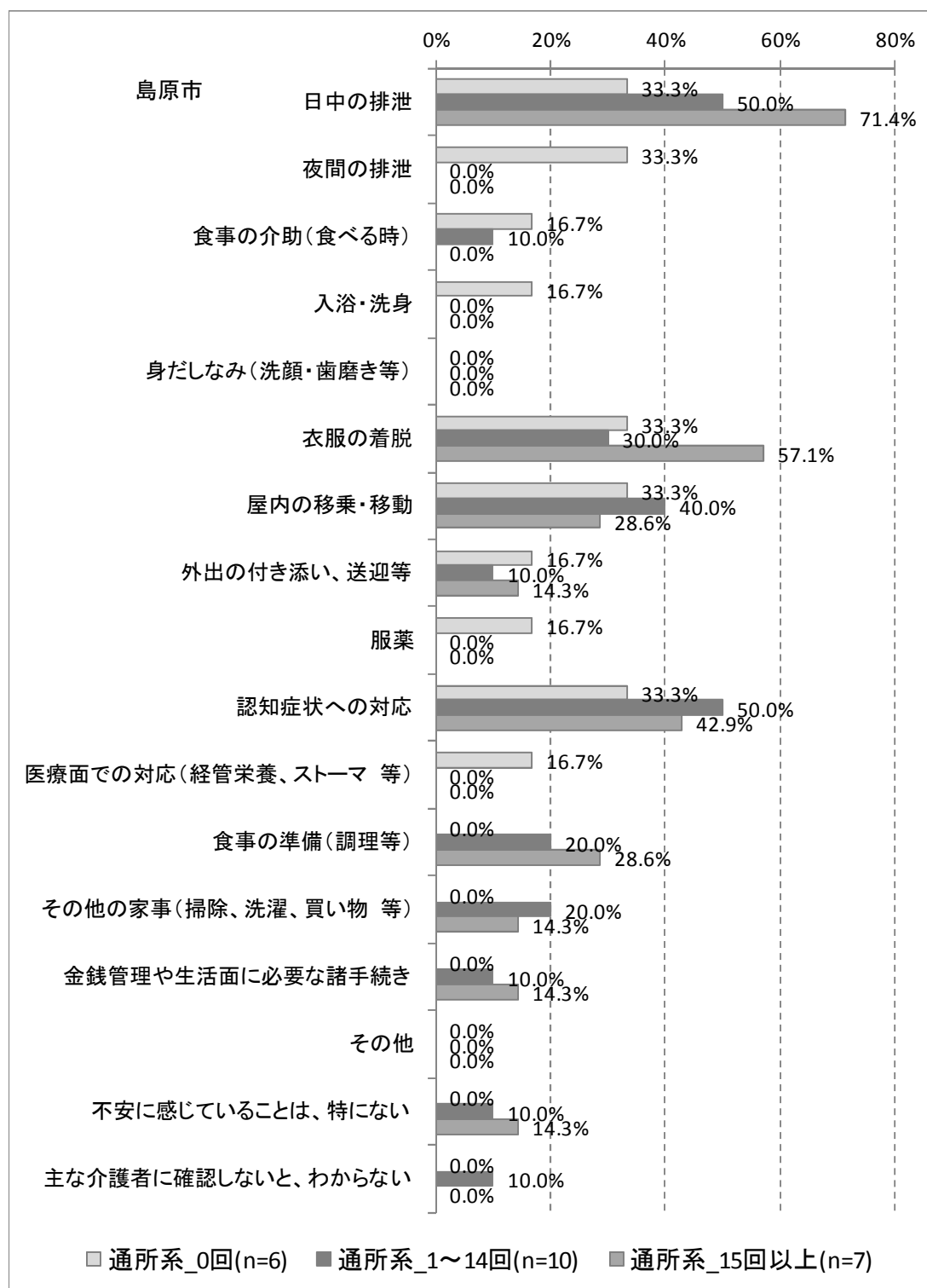


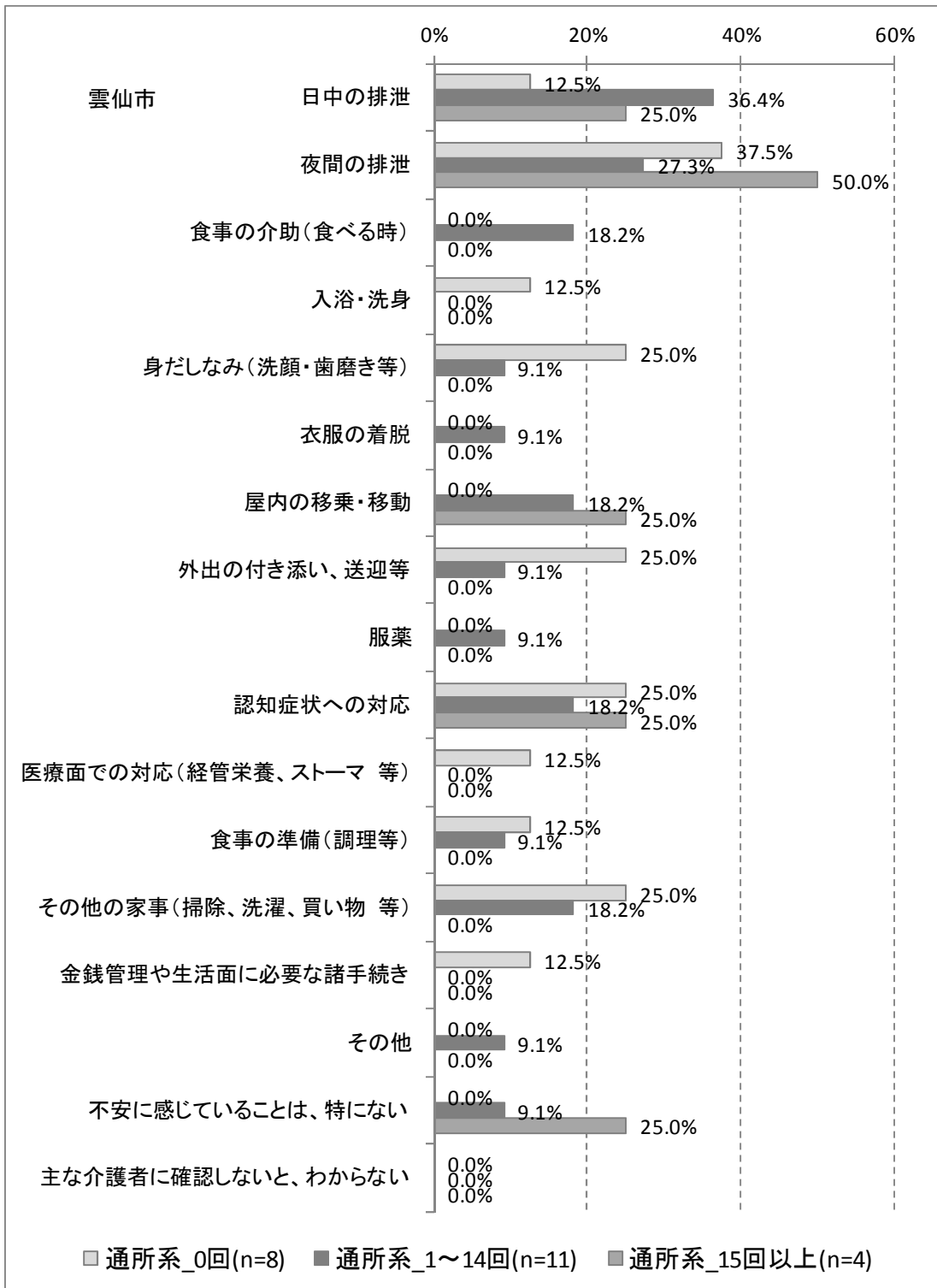


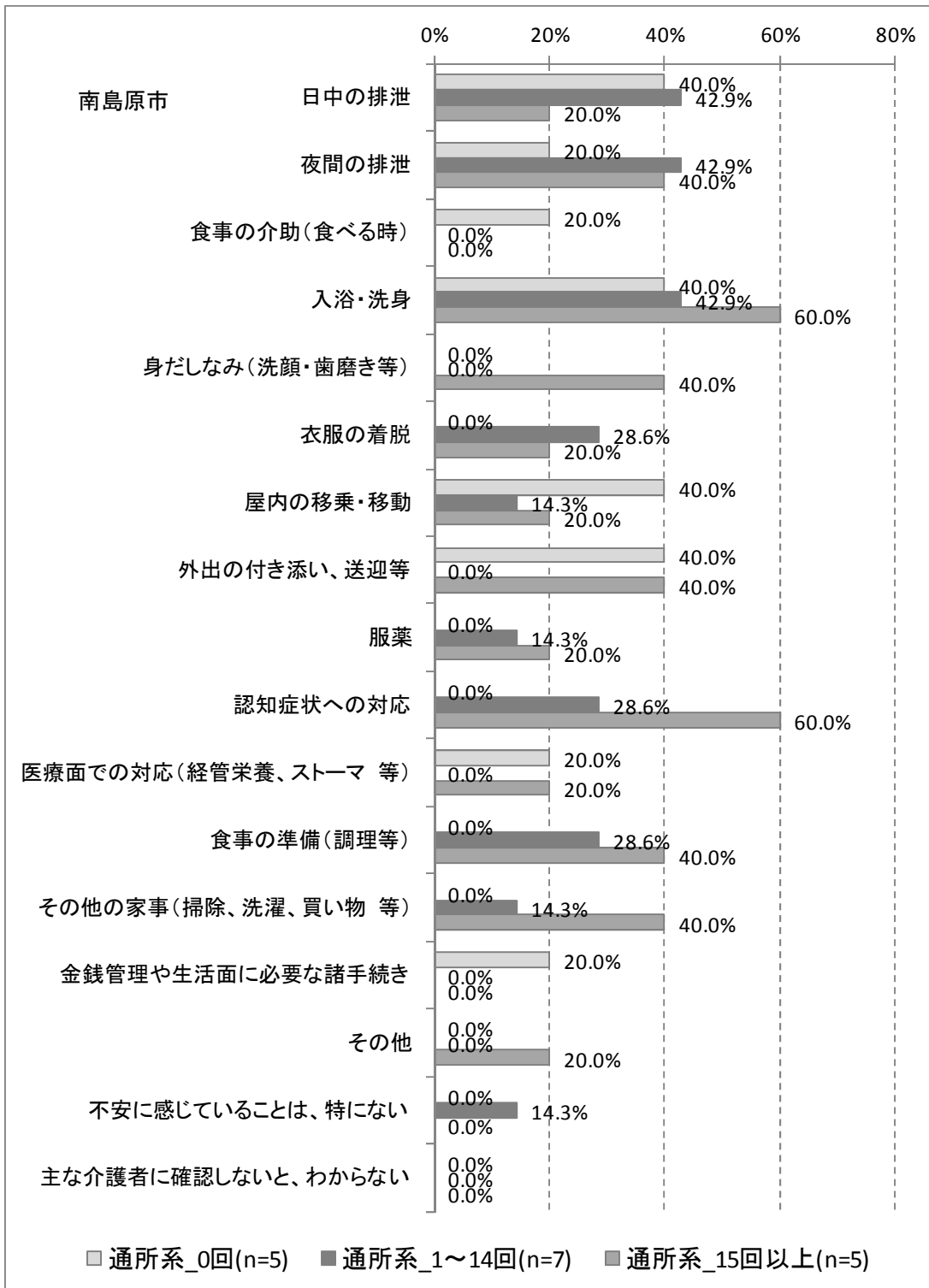


- 通所系と短期系のサービスについても、利用回数の増加が、介護者の「日中の排泄」に係る不安を軽減する傾向がみられませんでした(図表 1-26～図表 1-29)。

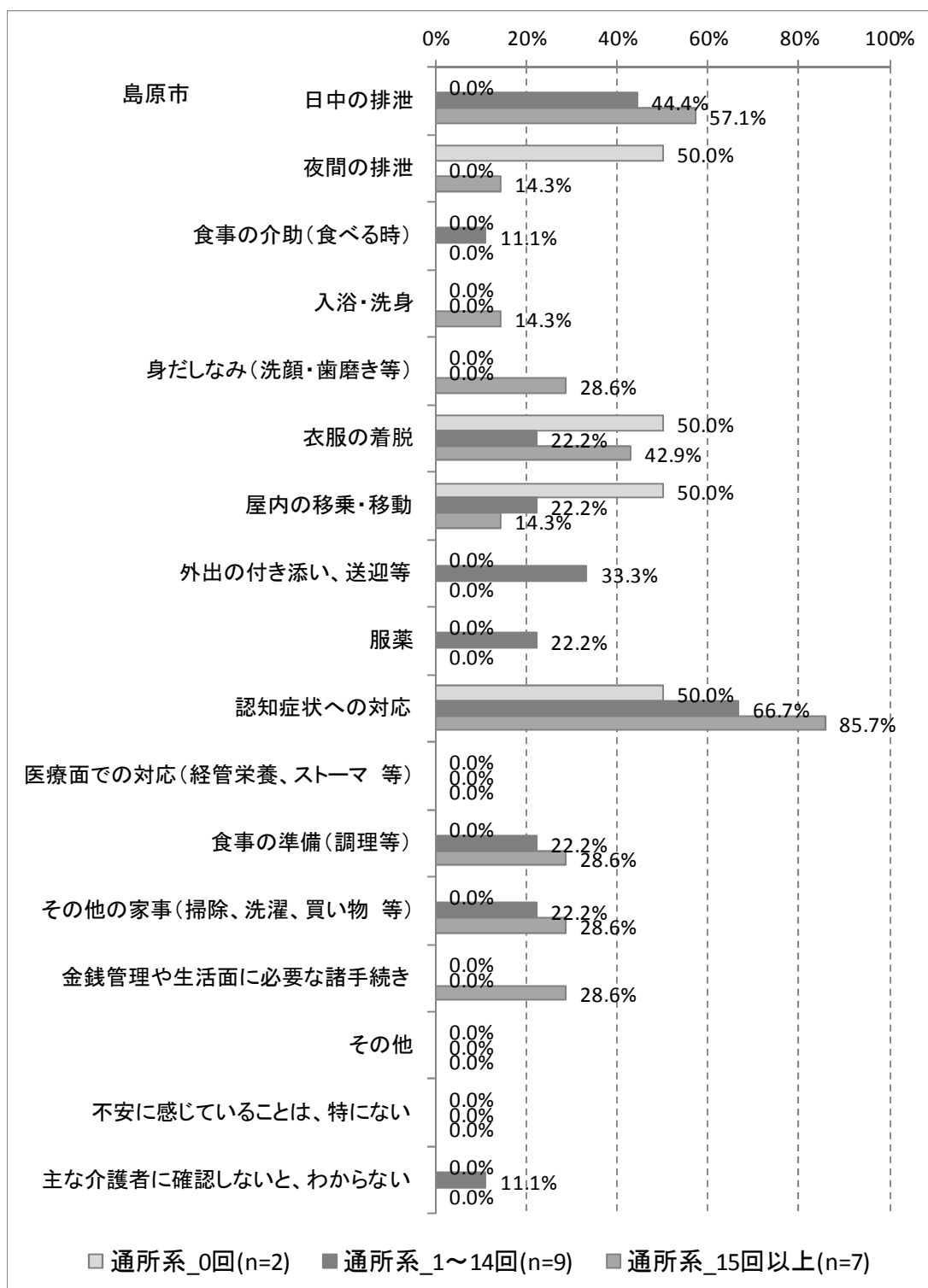
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)

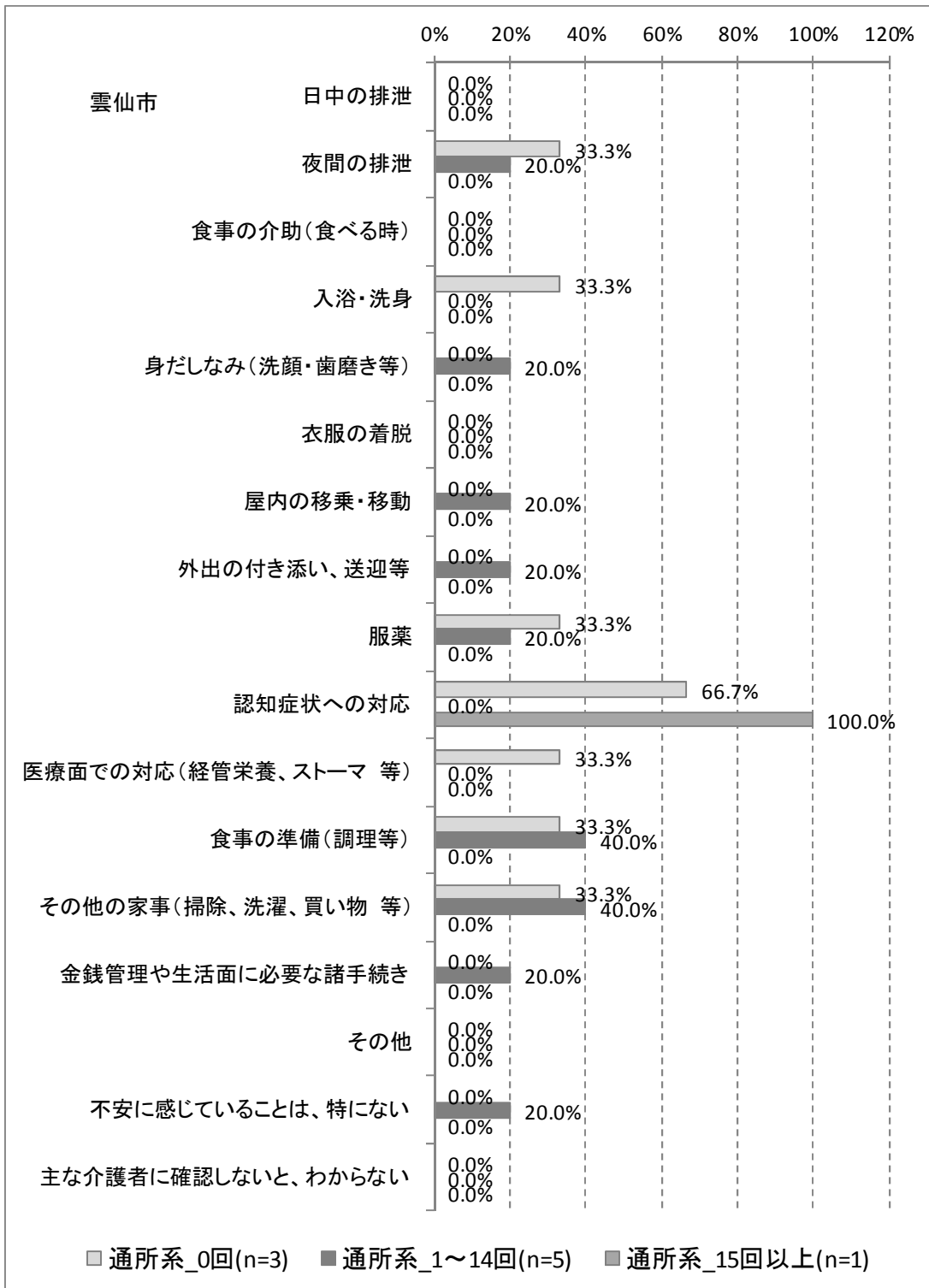


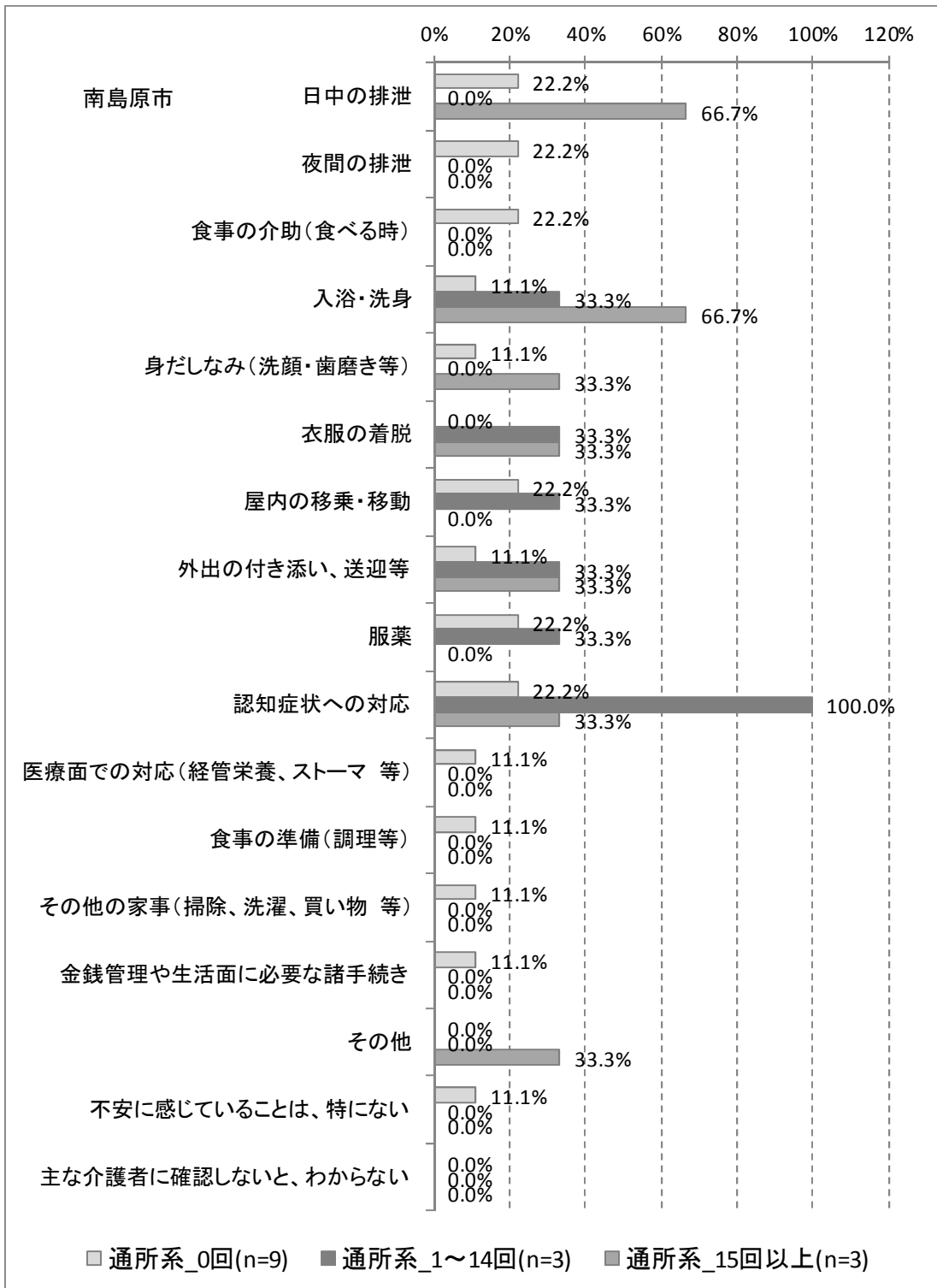




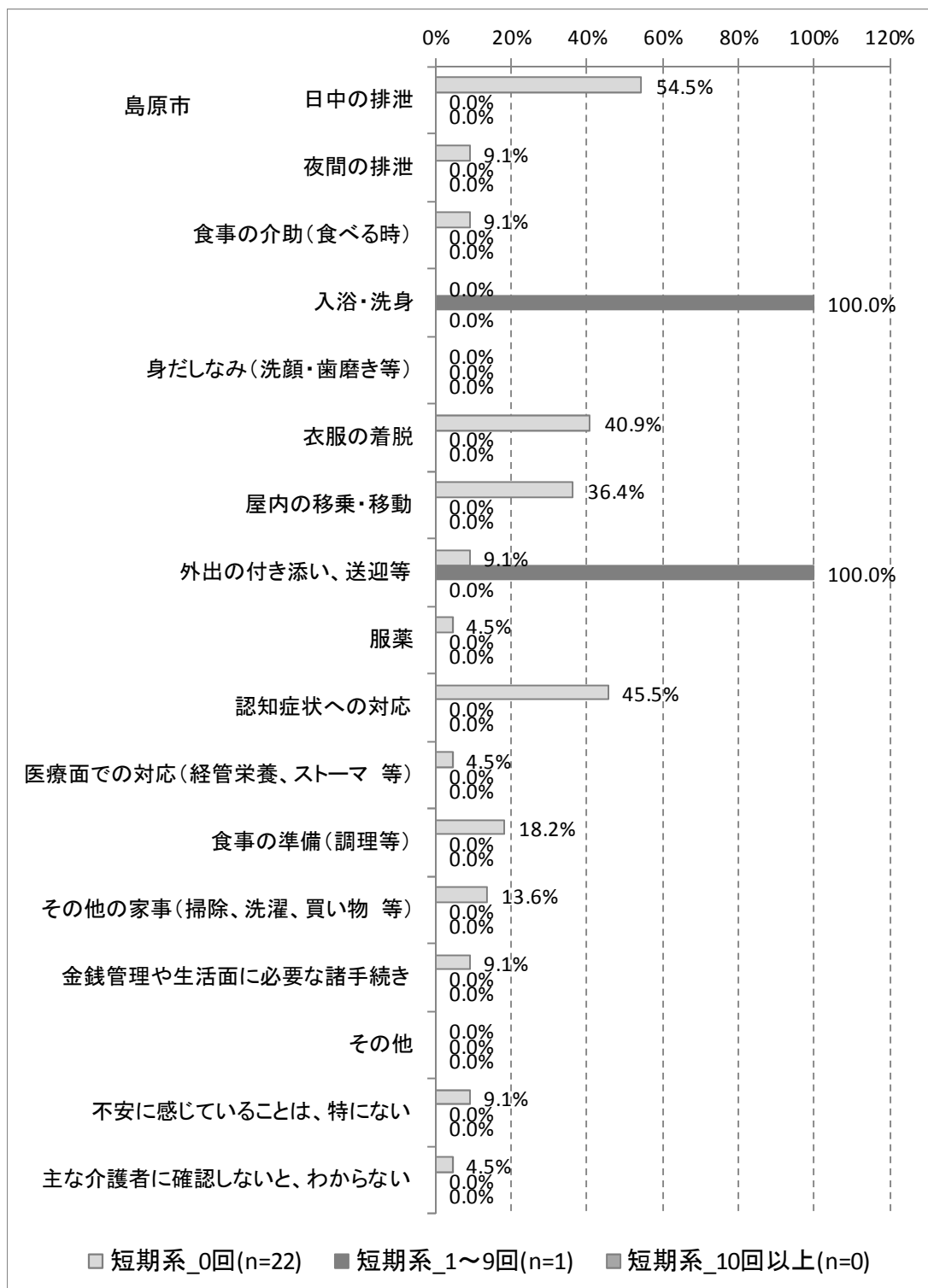
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）

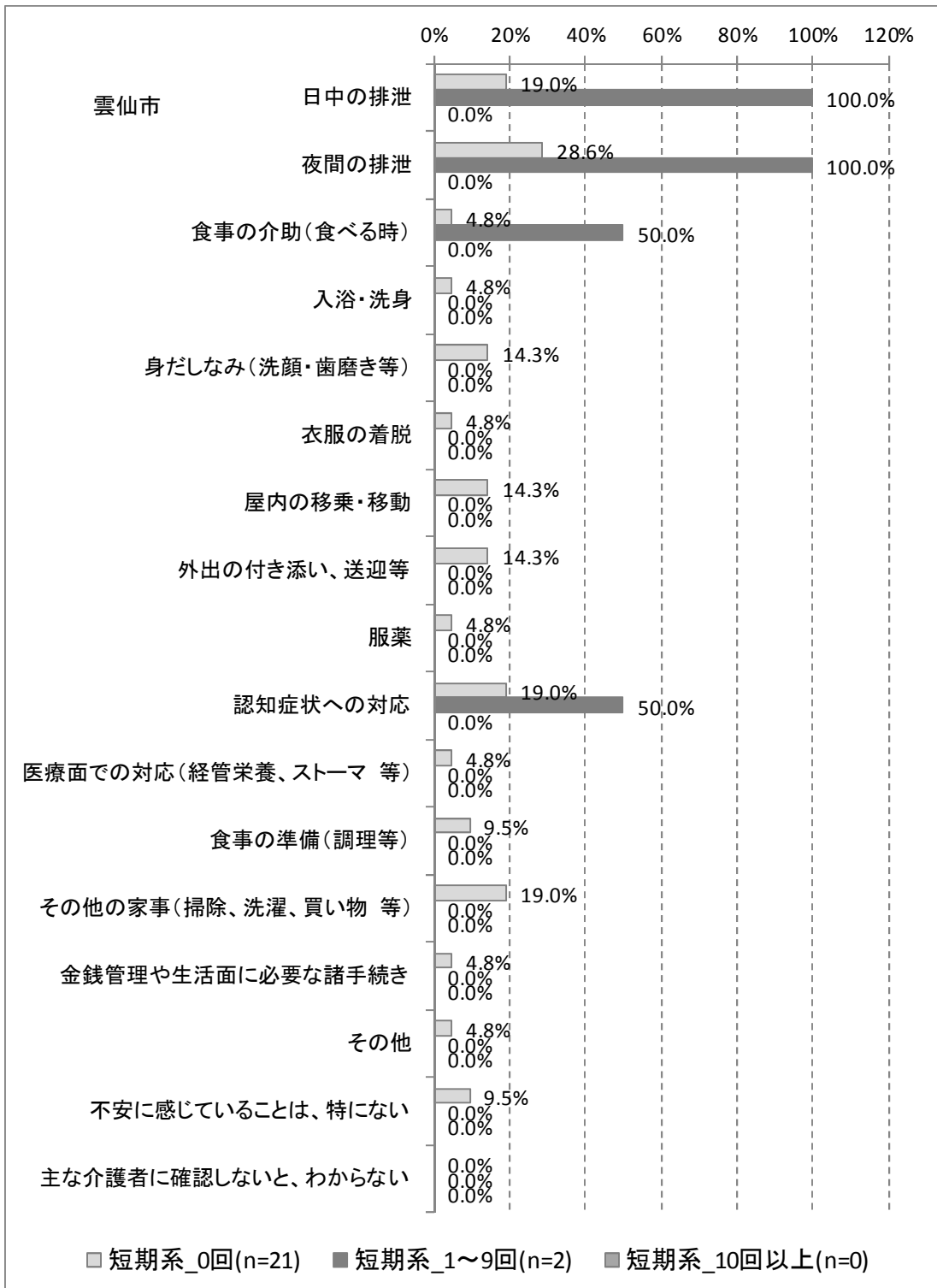


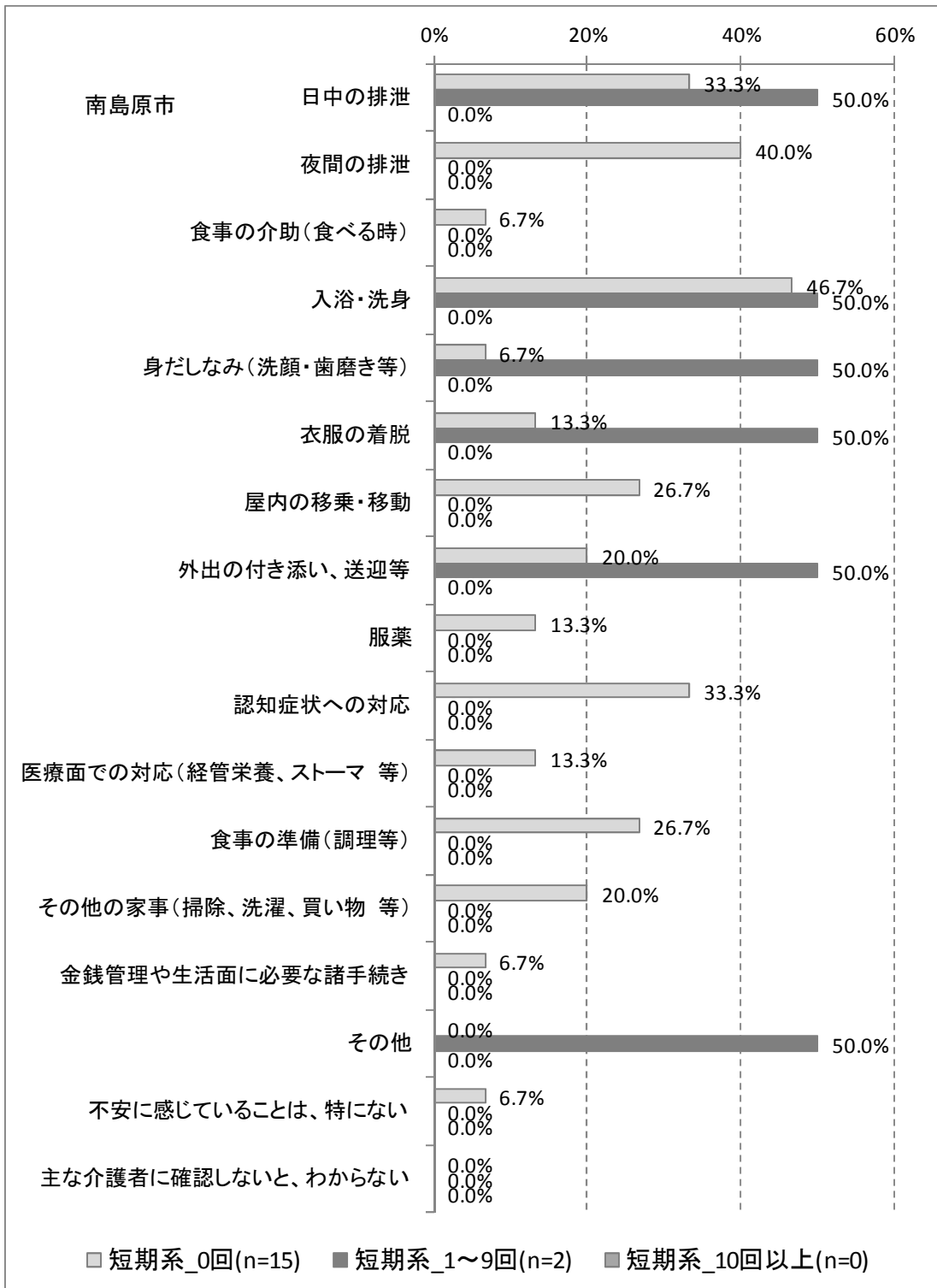




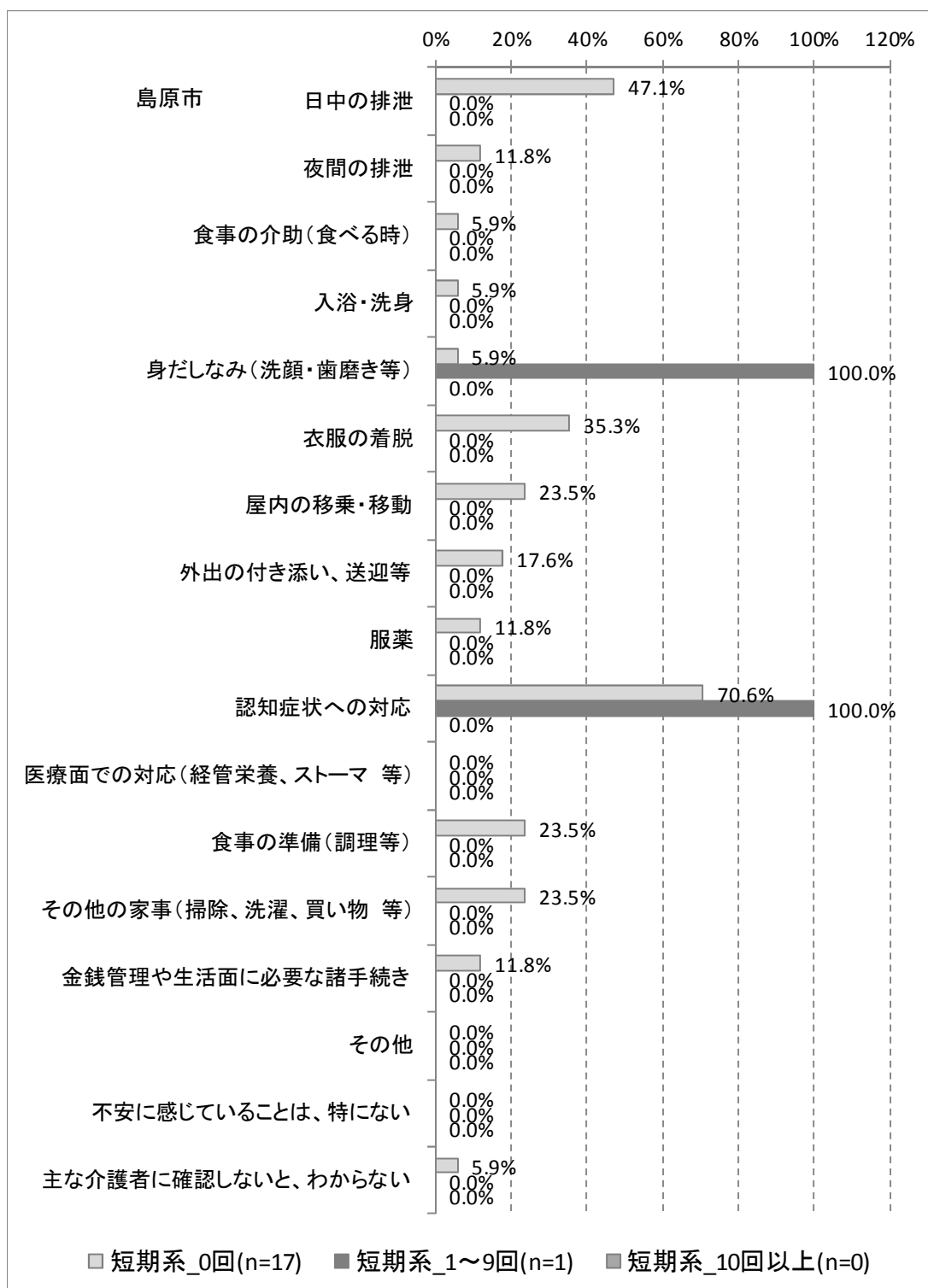
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）

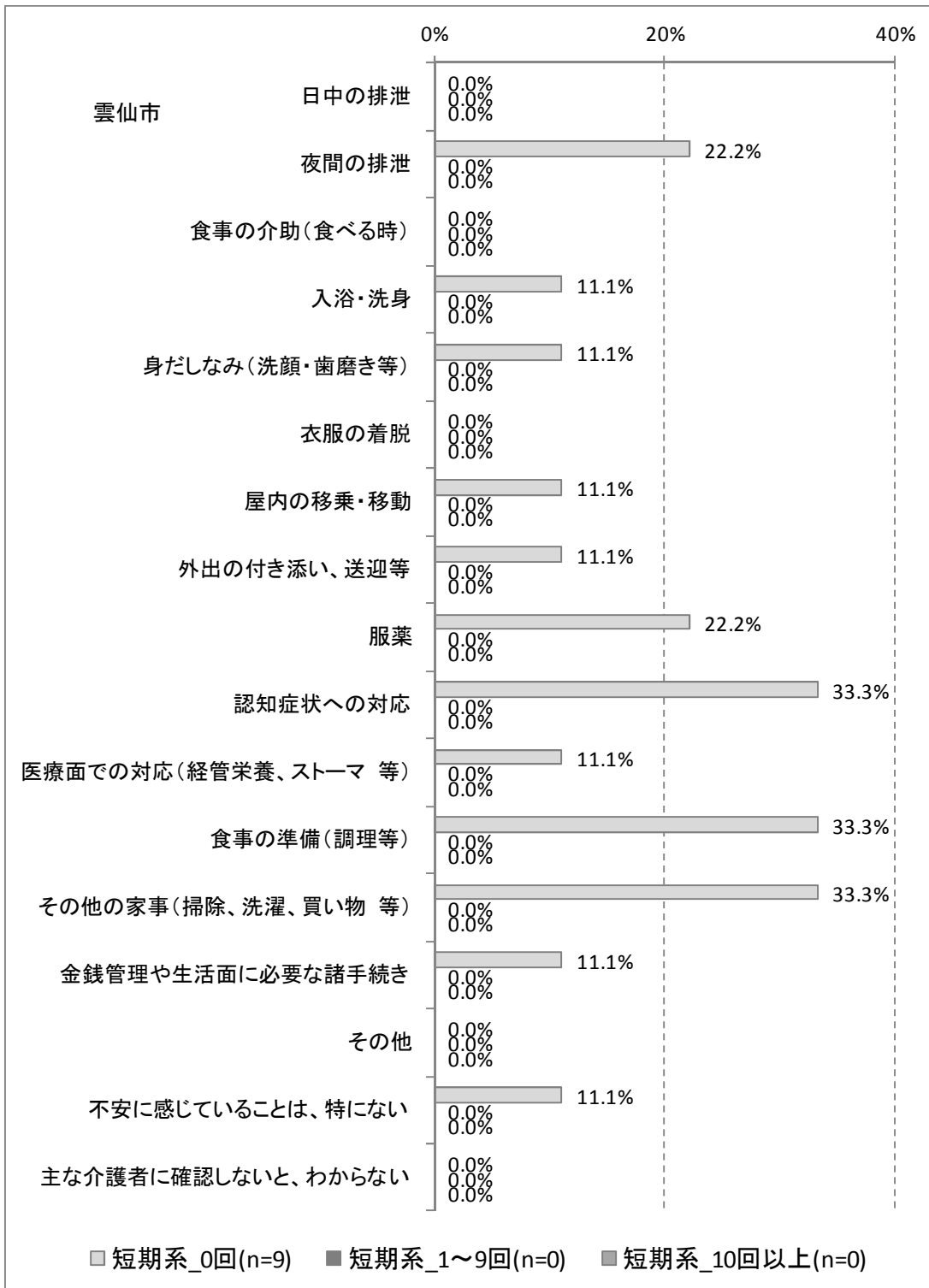


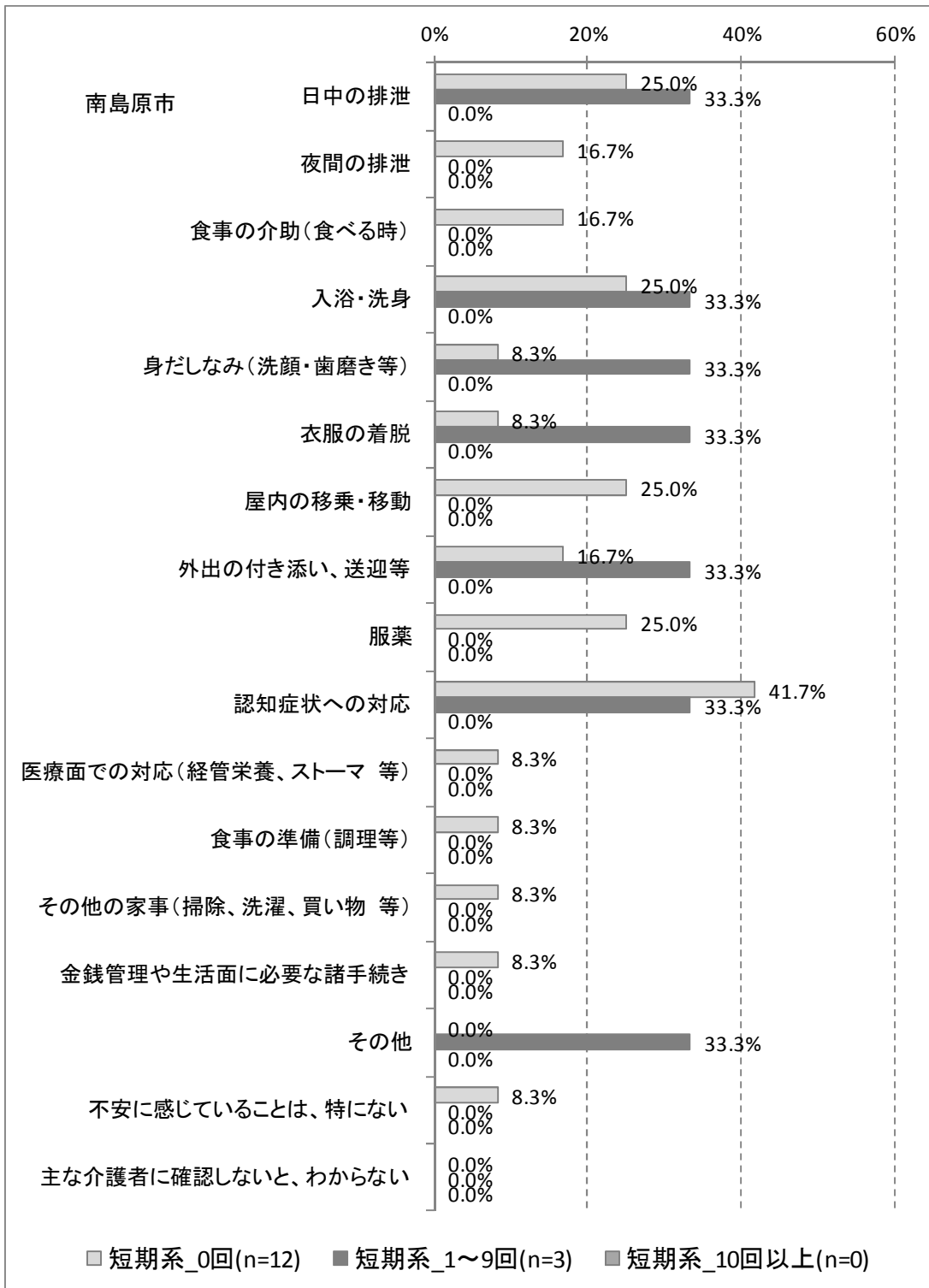




図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）







1.3 考察

- (1) 「認知症状への対応」、「排泄」、「外出支援」に焦点を当てた対応策の検討
 - 介護者の方の「認知症状への対応」と「排泄」、「外出支援」に係る介護不安を如何に軽減していくかが、在宅限界点の向上を図るための重要なポイントになると考えられます。
- (2) 複数の支援・サービスの一体的な提供に向けた支援・サービスの検討
 - 在宅生活の継続に向けては、訪問系サービスの利用を軸としながら、必要に応じて通所系・短期系といったサービスを組み合わせて利用していくことが効果的であり、今後は中重度の在宅療養者が増加していく中で、これらの複数のサービスの一体的な提供を、円滑な連携のもとに実現していくためには、小規模多機能型居宅介護など複数のサービス機能を一体的に提供する包括的サービスを進めていくことが効果的であると考えられます。
- (3) 多頻度の訪問を含む、複数の支援・サービスを組み合わせたサービス提供
 - 多頻度の訪問系サービスの利用を軸としながら、介護者の負担を軽減するレスパイト機能をもつ通所系・短期系サービスを組み合わせて利用していくことが、在宅限界点の向上に寄与すると考えられます。
- (4) 一体的な支援・サービスの提供に向けた地域内における連携の強化
 - 具体的な取り組みとしては、すべての事業者を対象とした「情報共有手法の統一化」、「合同研修を通じた相互理解の推進」などが考えられます。

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

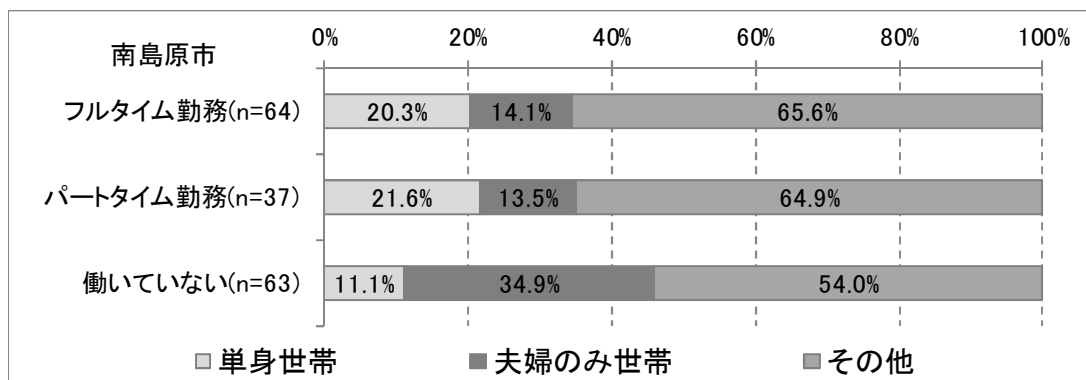
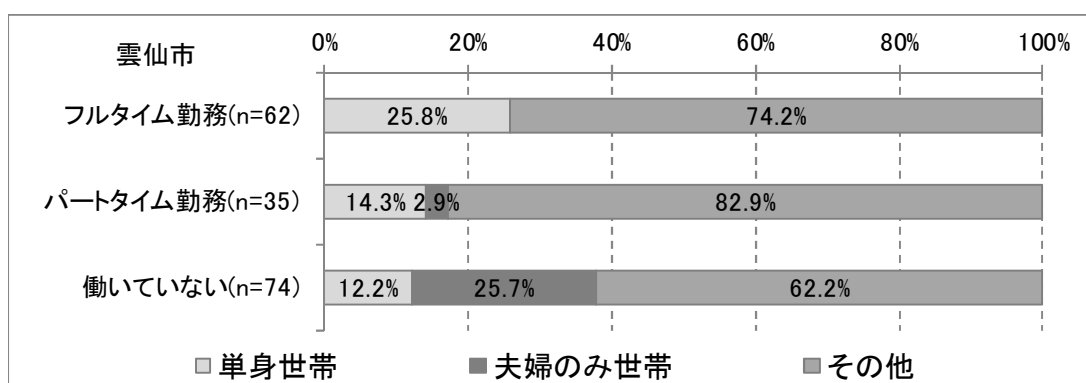
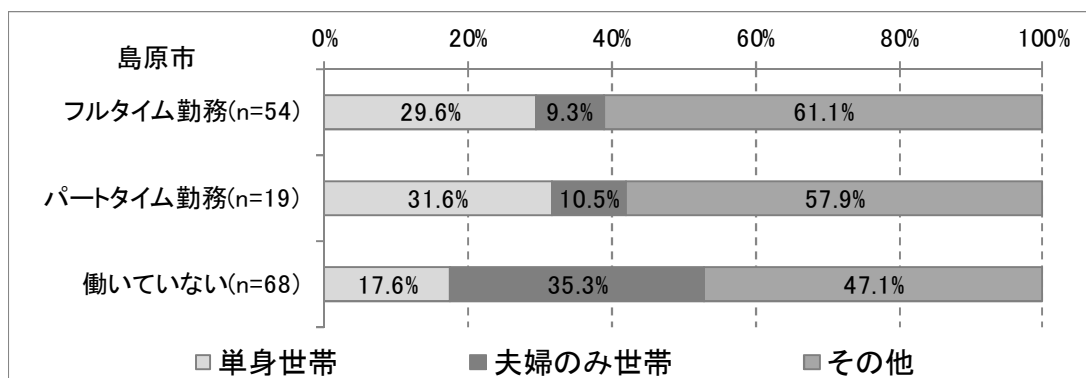
- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

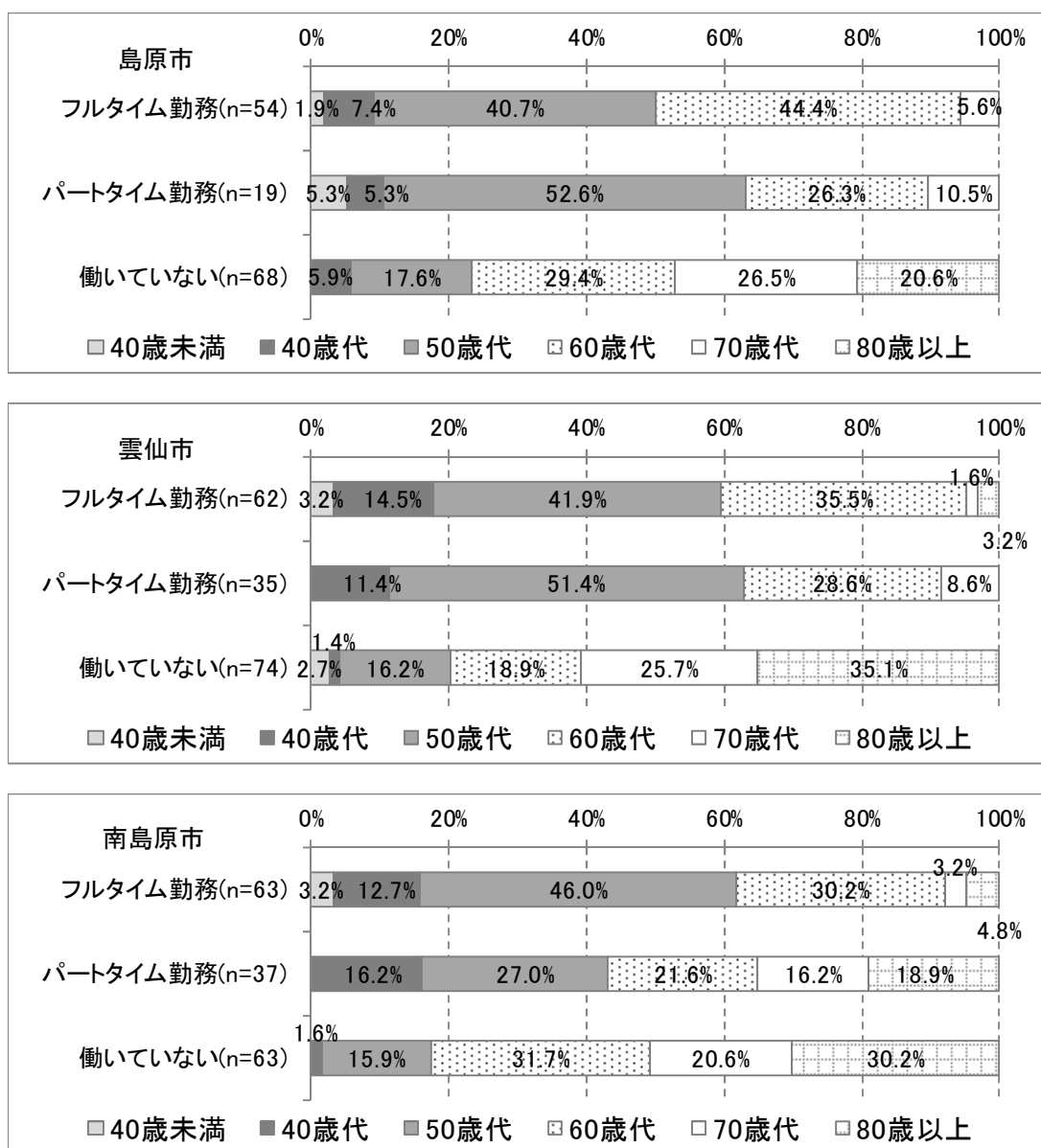
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 要介護者の世帯類型については、主な介護者がフルタイム勤務・パートタイム勤務の場合、「その他世帯」の割合が高くなっています。また、主な介護者の年齢は「50 歳代」～「60 歳代」が高くなっています（図表 2-1～図表 2-2）。
- 一方、主な介護者が働いていない場合は、要介護者の世帯類型は「夫婦のみ世帯」の割合が高く、年齢は「60 歳代」～「80 歳以上」が高くなっています（図表 2-1～図表 2-2）。
- 要介護者の要介護度については、就労している介護者に比べ就労していない介護者では、「要支援」の割合がやや低く、「要介護 3」以上の割合もわずかに低い傾向がみられます（図表 2-3）。認知症自立度についても、就労していない介護者では、「Ⅲ以上」の割合が高い傾向がみられます（図表 2-4）。

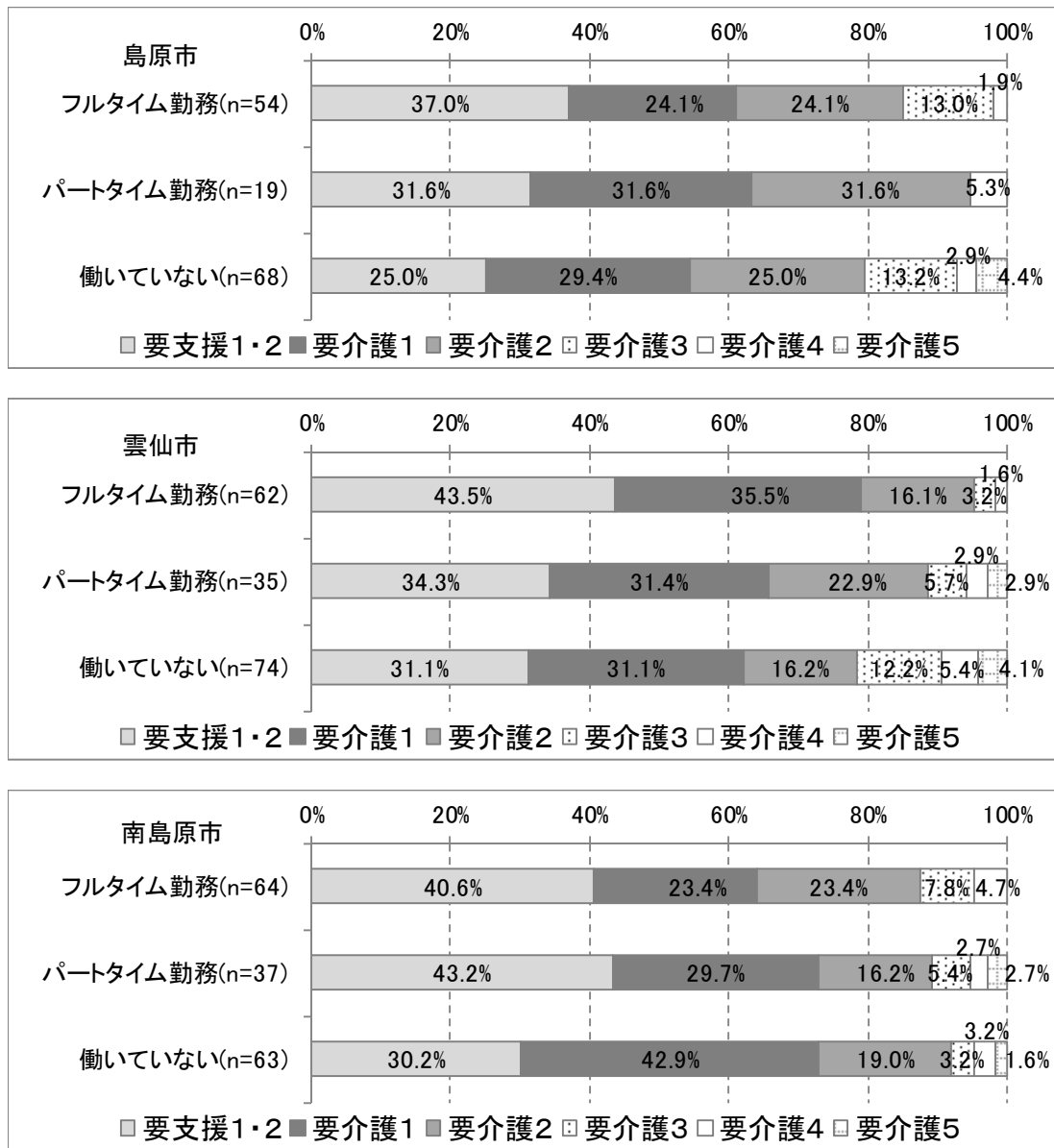
図表 2-1 就労状況別・世帯類型



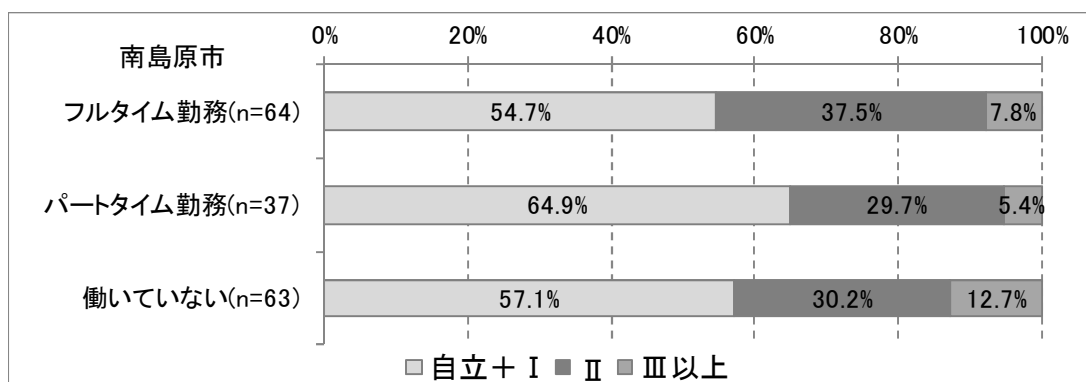
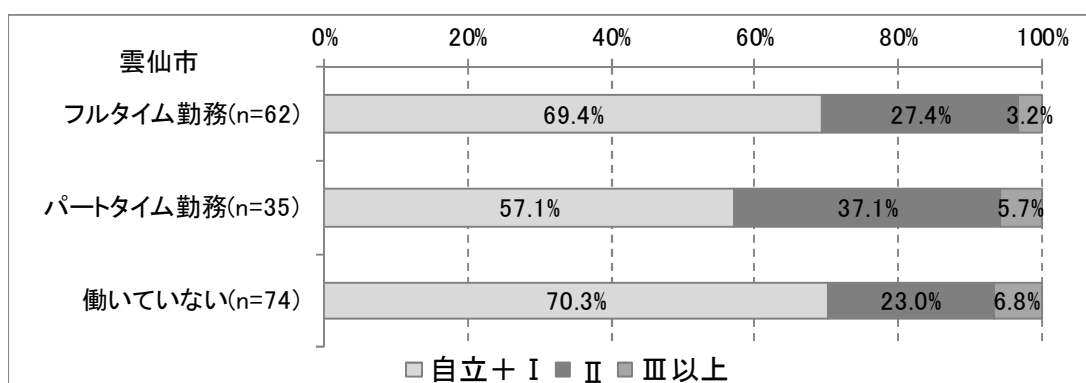
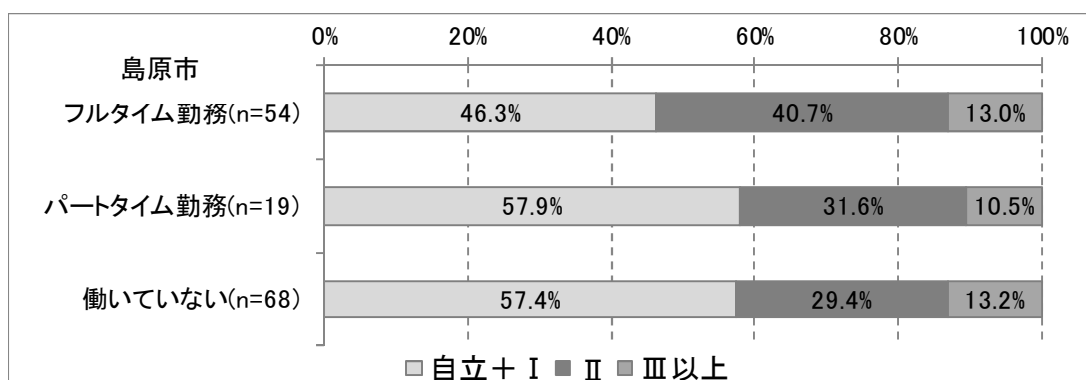
図表 2-2 就労状況別・主な介護者の年齢



図表 2-3 就労状況別・要介護度



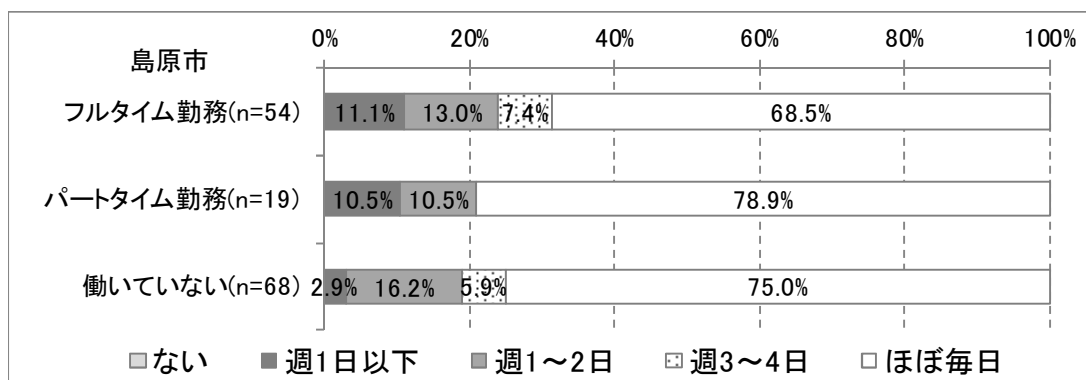
図表 2-4 就労状況別・認知症自立度

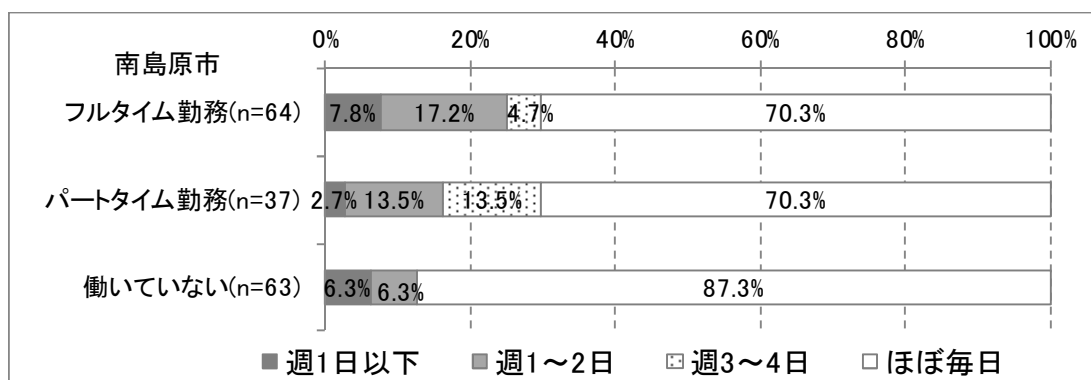
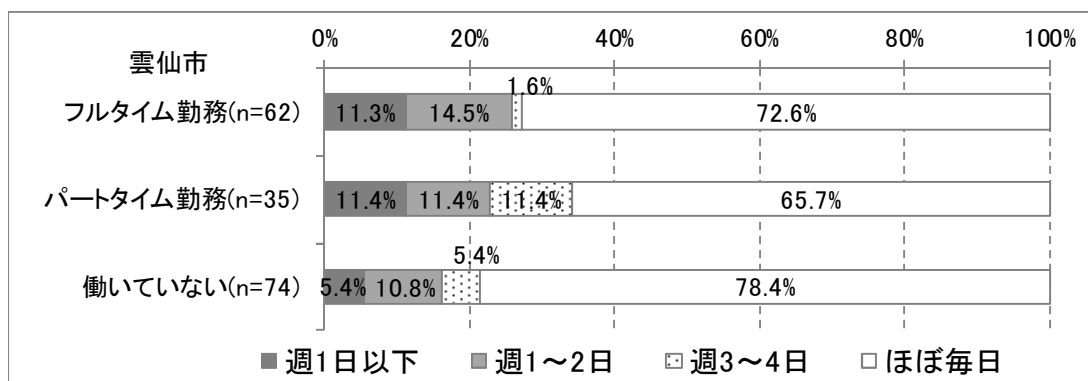


(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

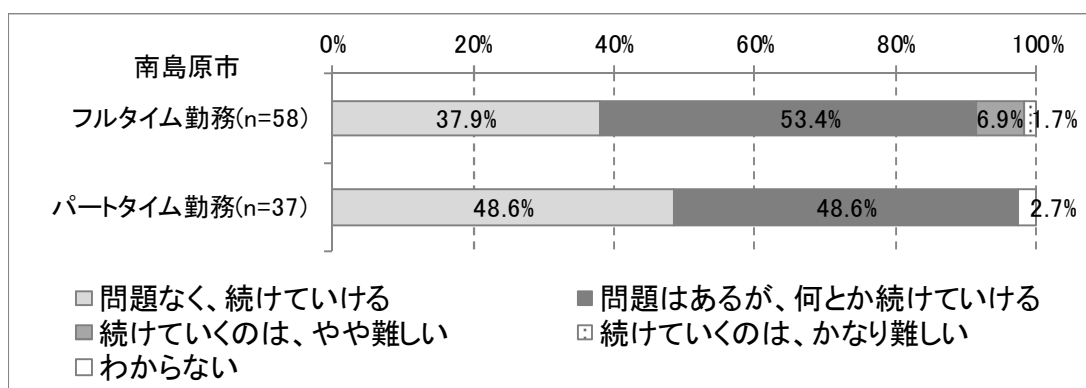
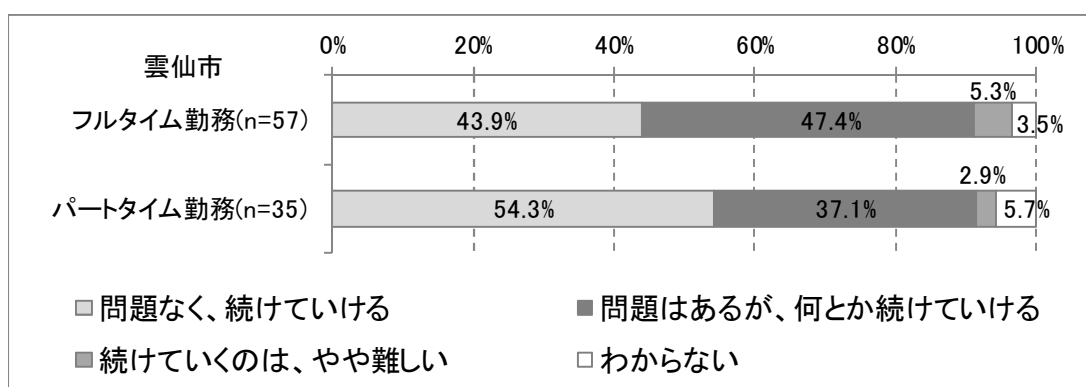
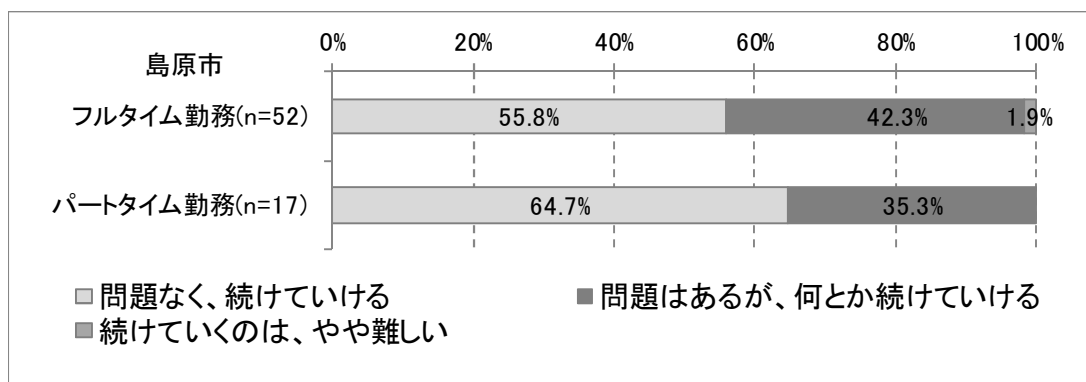
- 家族等による介護の頻度は、フルタイム勤務・パートタイム勤務では、「週1日以下」もしくは「週1～2日」が高くなっており、就労していない場合と比べて、介護の頻度は低くなっています(図表 2-5)。
- 就労している介護者の今後の就労継続見込みを見ると、パートタイム勤務よりフルタイム勤務の方が、今後の就業継続が困難（問題はあるが何とか続けていける）と考えている割合が高くなっています（図表 2-6）。
- さらに要介護度別に就労している介護者の就労継続見込みを見ると、「要支援1～要介護1」と「要支援2以上」では、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた割合で「続けていける」割合をみると、ほとんど差がみられません(図表 2-7)。
- 認知症自立度についても、「自立+Ⅰ」と「Ⅱ以上」で就労継続見込みを見ると、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた割合で「続けていける」割合をみると、ほとんど差がみられません(図表 2-8)。
- 要介護度よりも、認知症自立度の方が就労継続見込みに影響を与えている可能性があります。

図表 2-5 就労状況別・家族等による介護の頻度

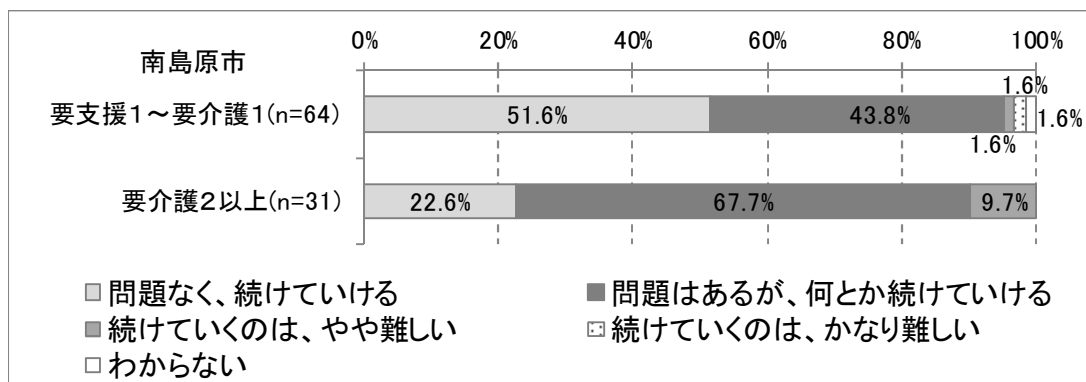
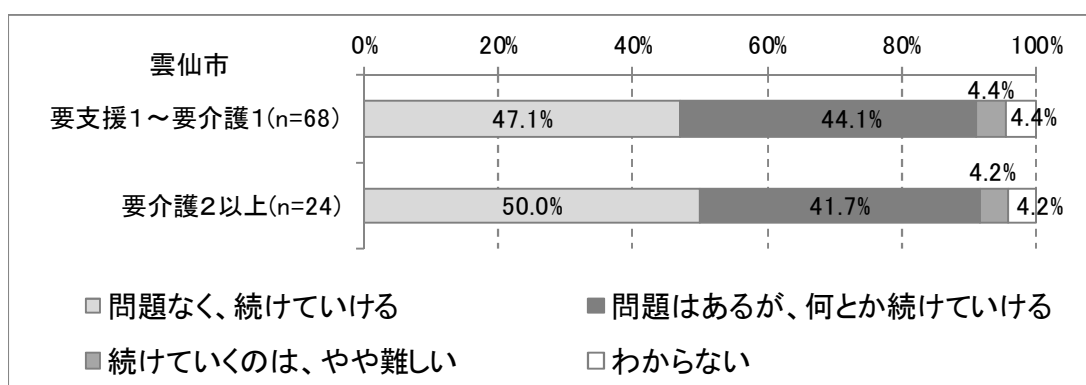
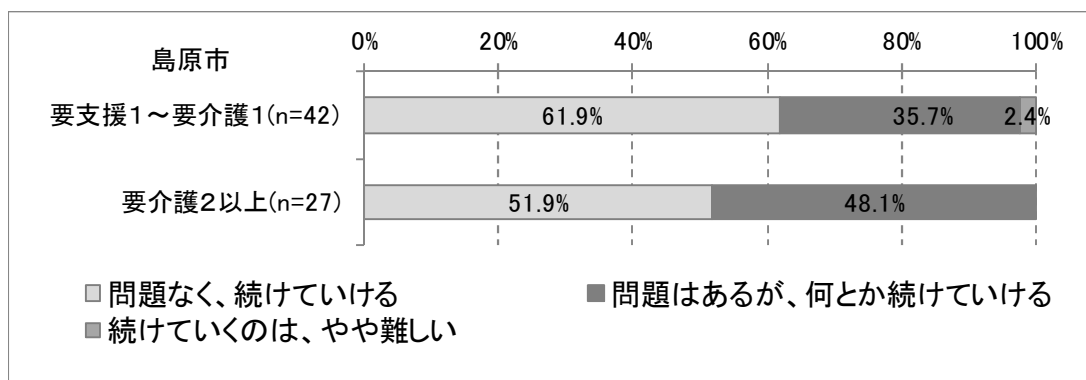




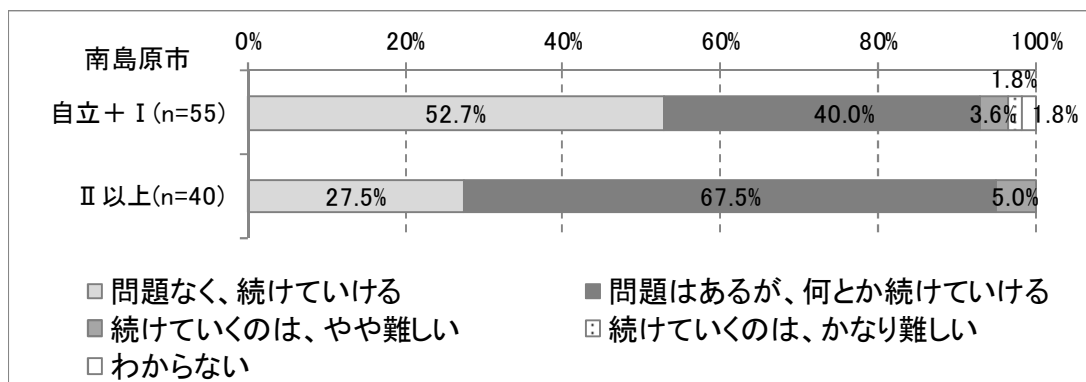
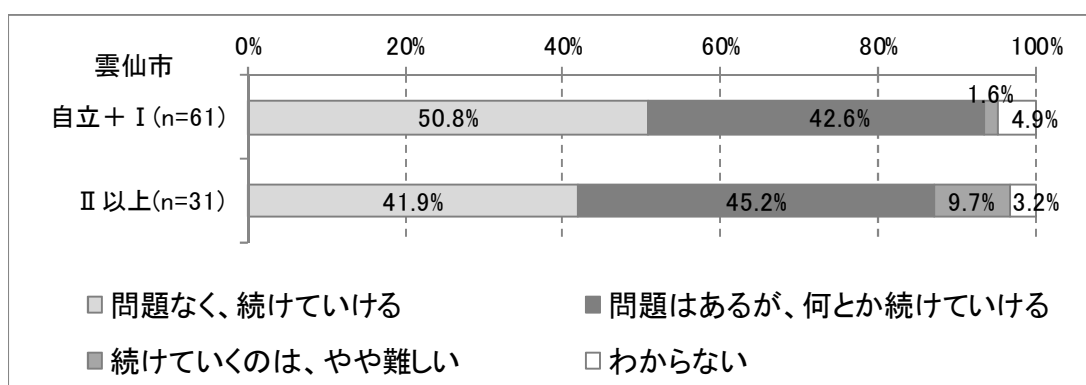
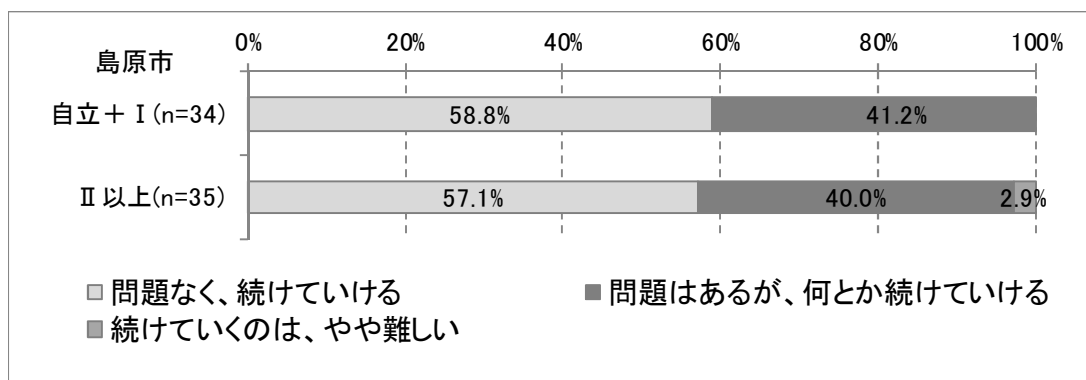
図表 2-6 就労状況別・就労継続見込み



図表 2-7 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



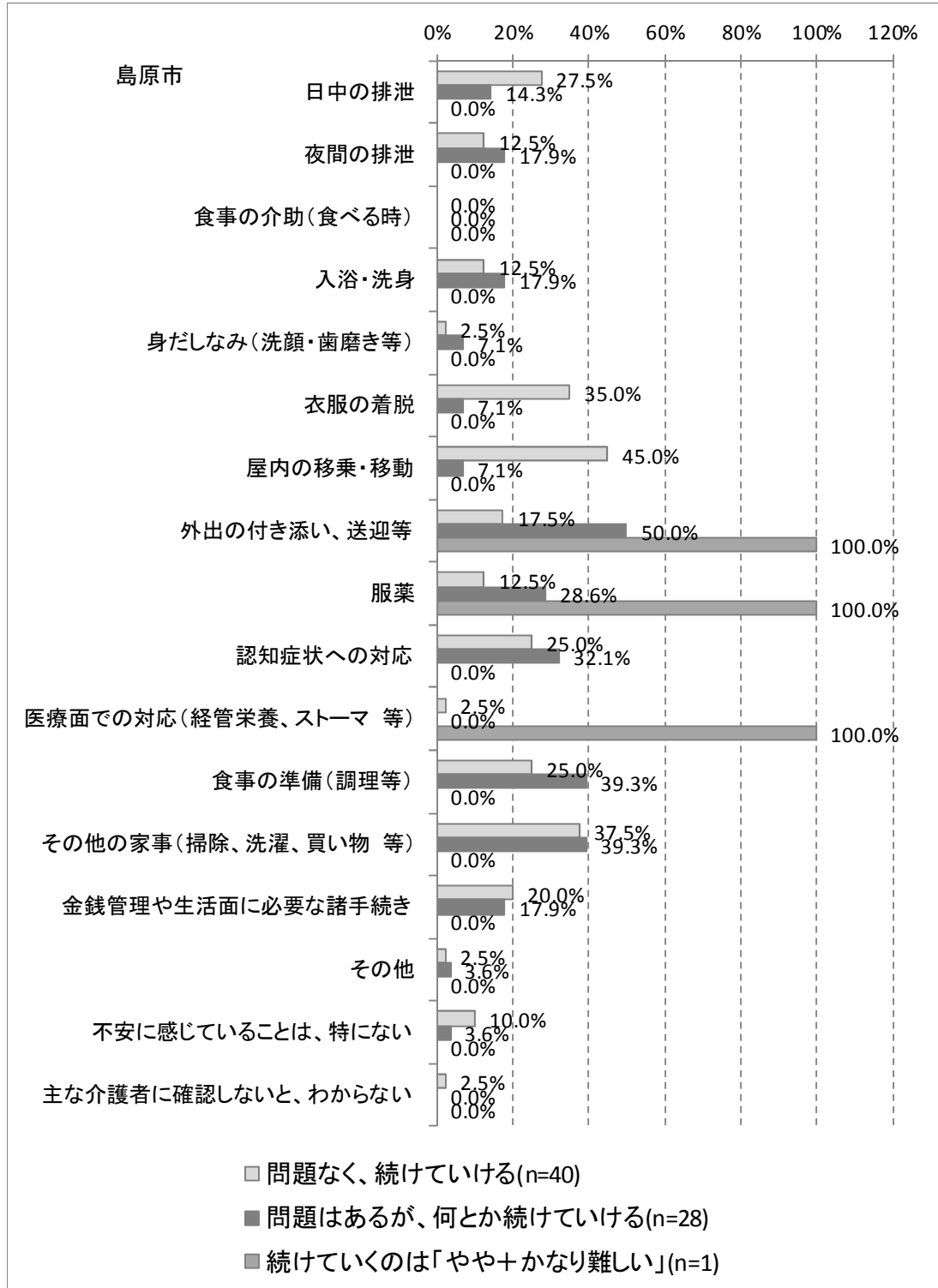
図表 2-8 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

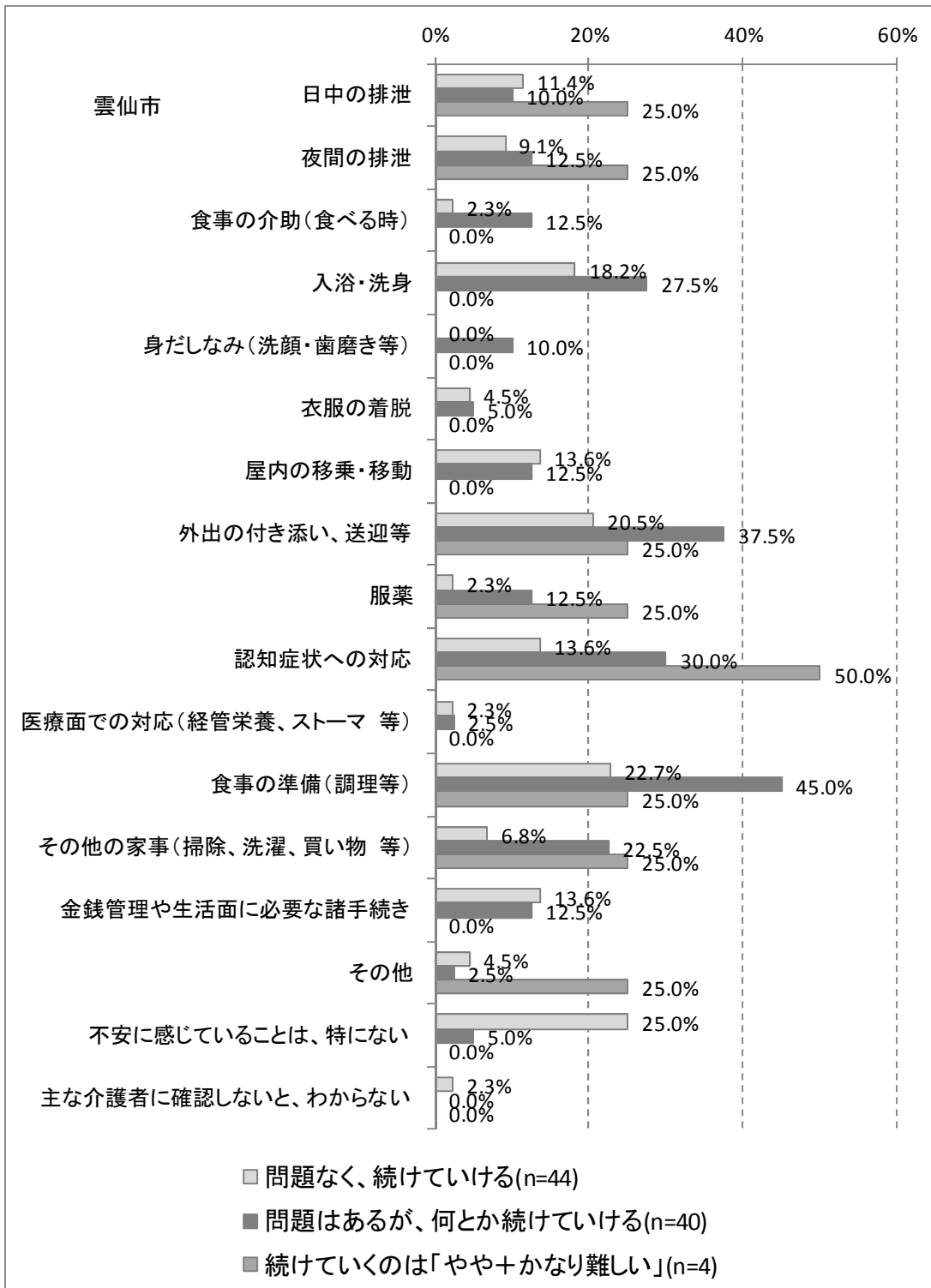


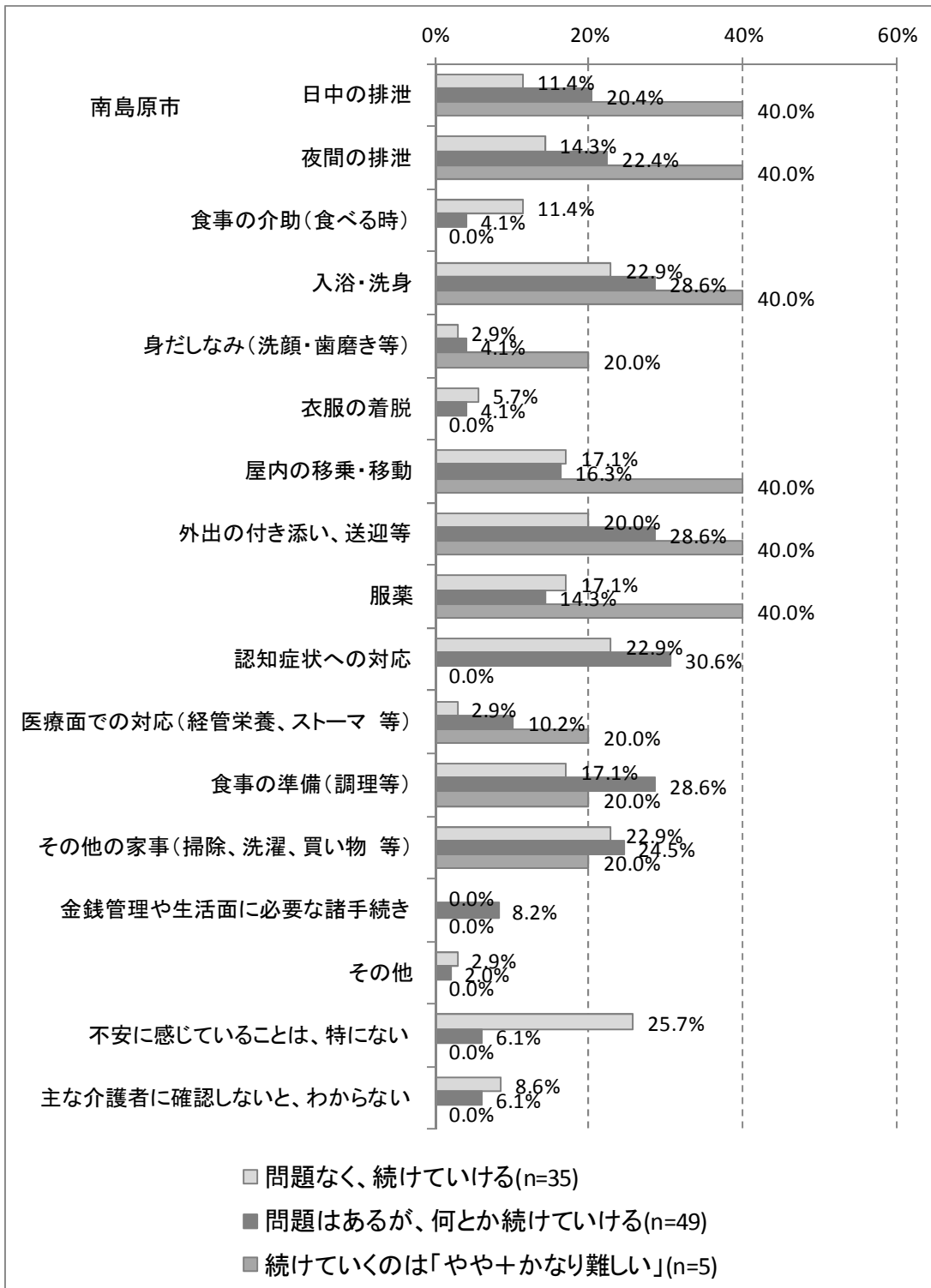
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。
- 「今後の在宅生活継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護」については、島原市では、「続けていくのは難しい」とする人では、「外出の付き添い、送迎等」「服薬」「医療面での対応」が高くなっています。雲仙市では、「続けていくのは難しい」とする人では、「認知症状への対応」が高くなっています。南島原市では、「続けていくのは難しい」とする人では、「日中・夜間の排泄」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「服薬」が高くなっています(図表 2-9)。
- これらの介護が「在宅生活を継続しながらの就労継続」について、介護者が可否を判断するポイントとなっている可能性があります。

図表 2-9 就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



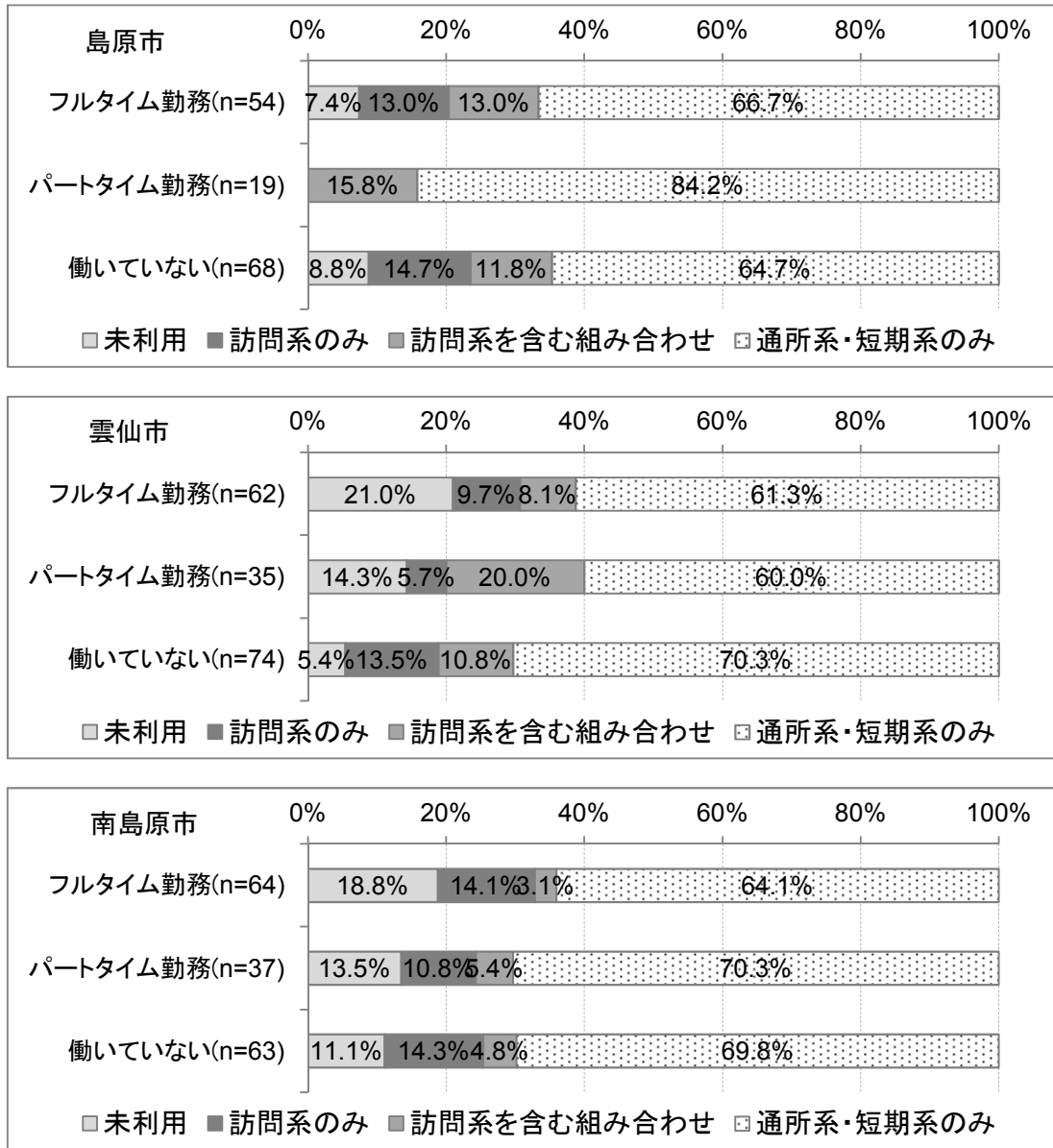




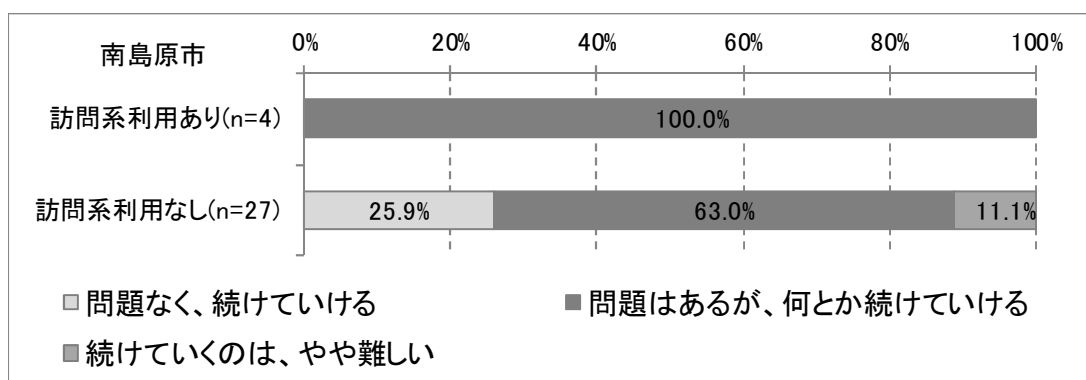
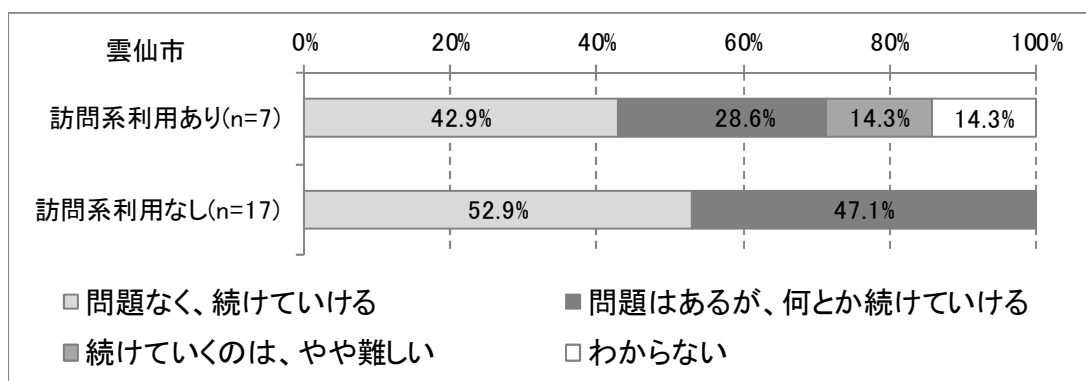
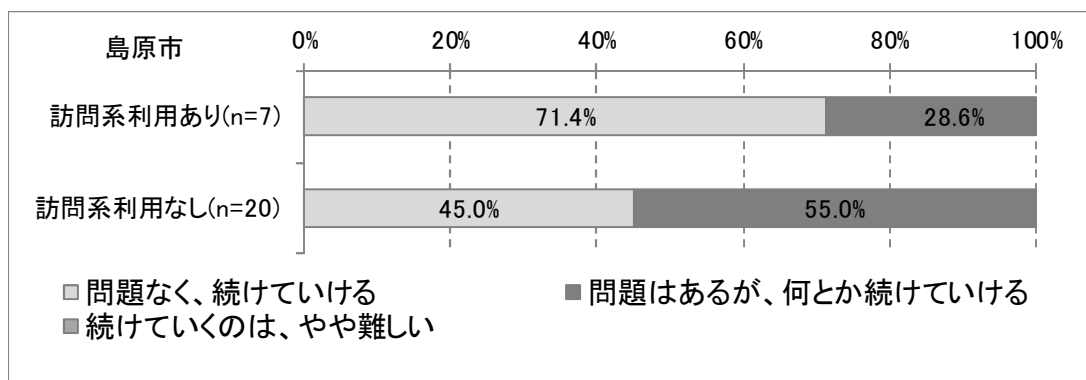
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

- 利用している介護保険サービスの組み合わせをみると、「通所系・短期系のみ」の割合が高い状況です(図表 2-10～図表 2-12)。
- 要介護2以上でサービスの組み合わせと就労継続見込みとの関係をみると、島原市では、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」までをあわせた「続けていける」割合が100%です。雲仙市では、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」までを合わせた「続けていける」割合が、訪問系利用なしが高い状況です。南島原市では、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」までを合わせた「続けていける」の割合が、訪問系利用ありが高い状況です。
- また、認知症自立度Ⅱ以上についても、島原市では、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」までを合わせた「続けていける」割合が、訪問系利用なしが高い状況です。雲仙市では、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」までを合わせた「続けていける」の割合が、訪問系利用なしが高い状況です。南島原市では、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」までを合わせた「続けていける」の割合が、訪問系利用ありが高い状況です。

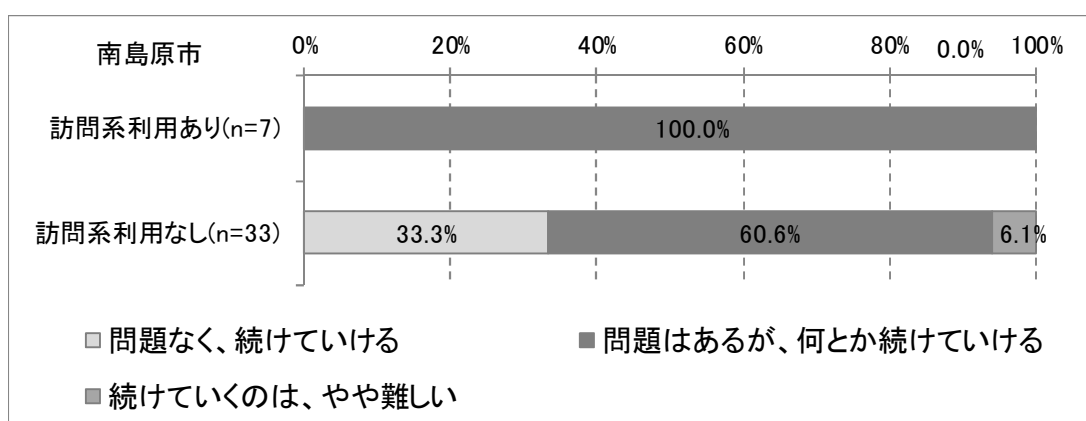
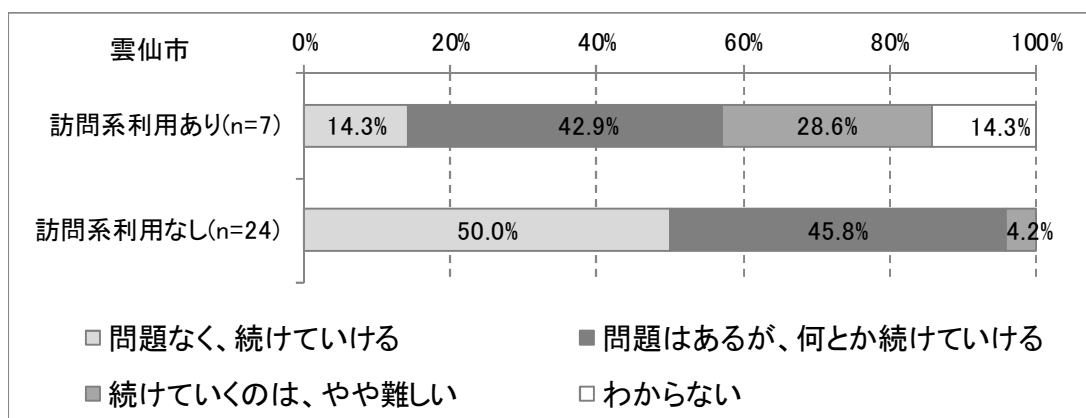
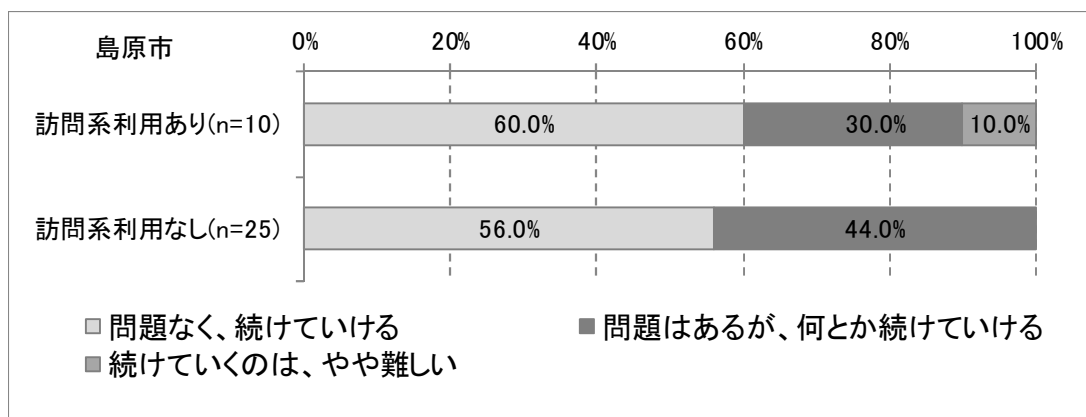
図表 2-10 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



図表 2-11 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



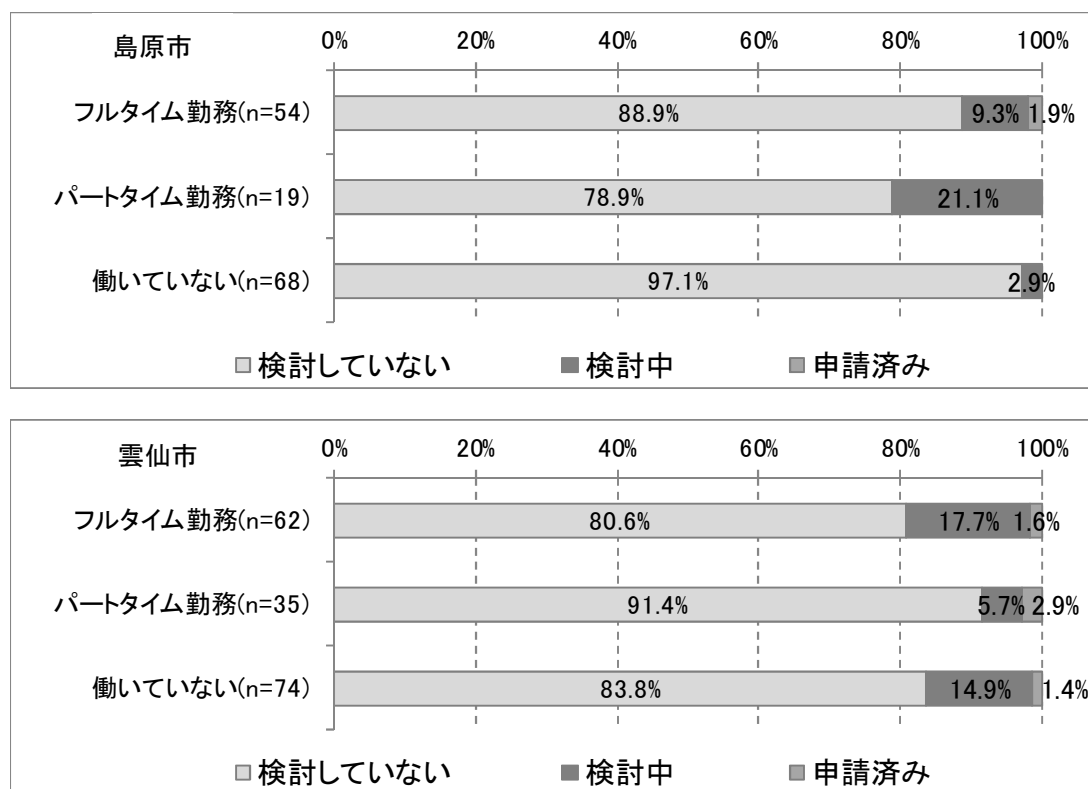
図表 2-12 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

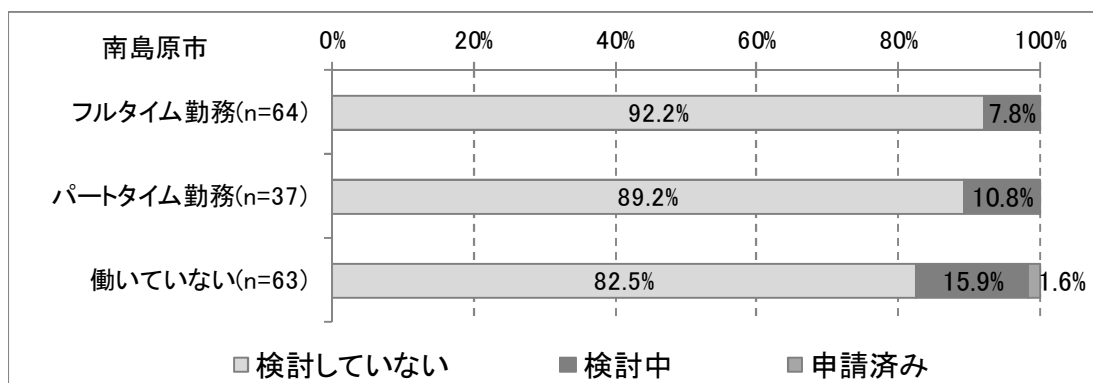


(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

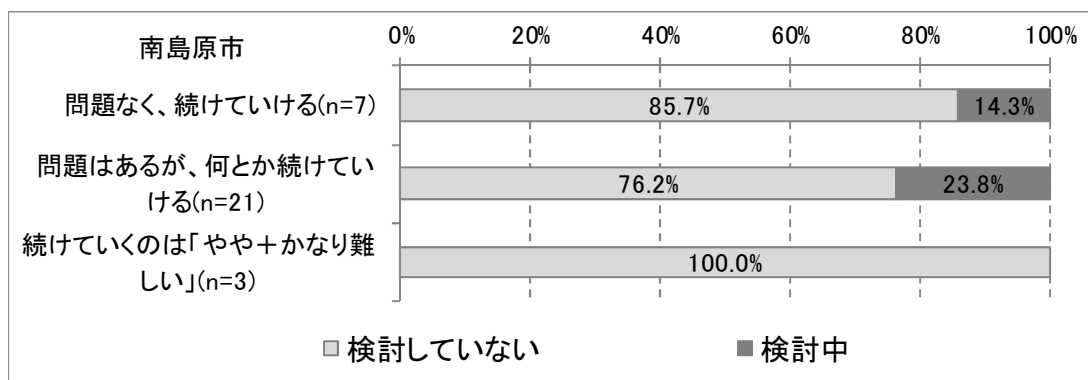
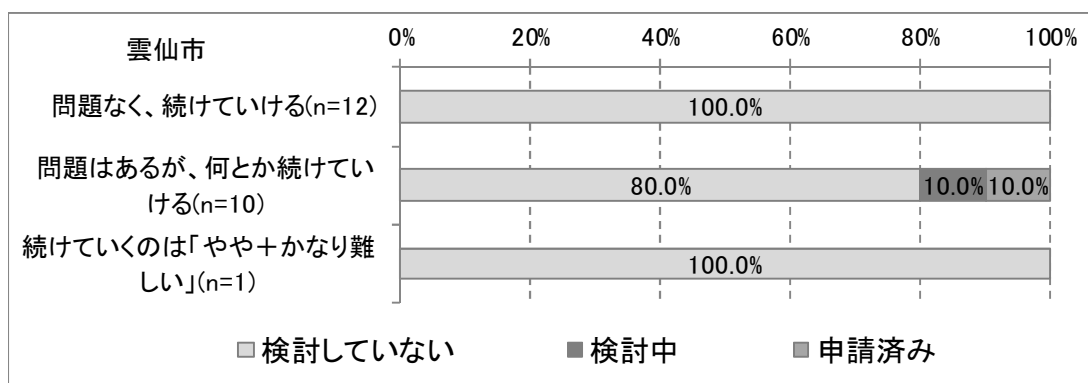
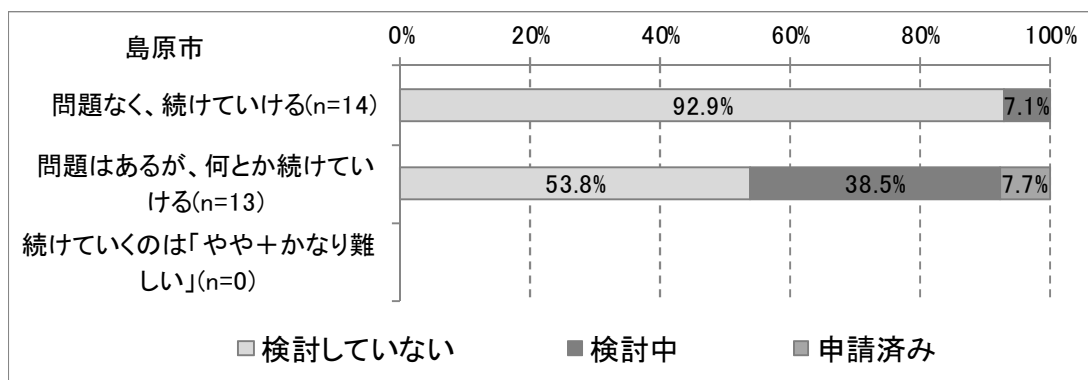
- 施設入所の検討については、働いている人よりも働いていない介護者の方が、検討している割合がやや低い状況です(図表 2-13)。
- さらに、要介護2以上について、施設等の検討状況を見ると、島原市では、「問題なく続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」では、「検討していない」と考える人の割合に大きな差が見られます。雲仙市では、「問題なく、続けていける」と「続けていくのは「やや+かなり難しい」では、「検討していない」と考える人の割合が100%です。南島原市では、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」でも、「検討していない」と考える人の割合が高いですが、「続けていくのは「やや+かなり難しい」では、「検討していない」と考える人の割合が100%です(図表 2-14)。

図表 2-13 就労状況別・施設等検討の状況





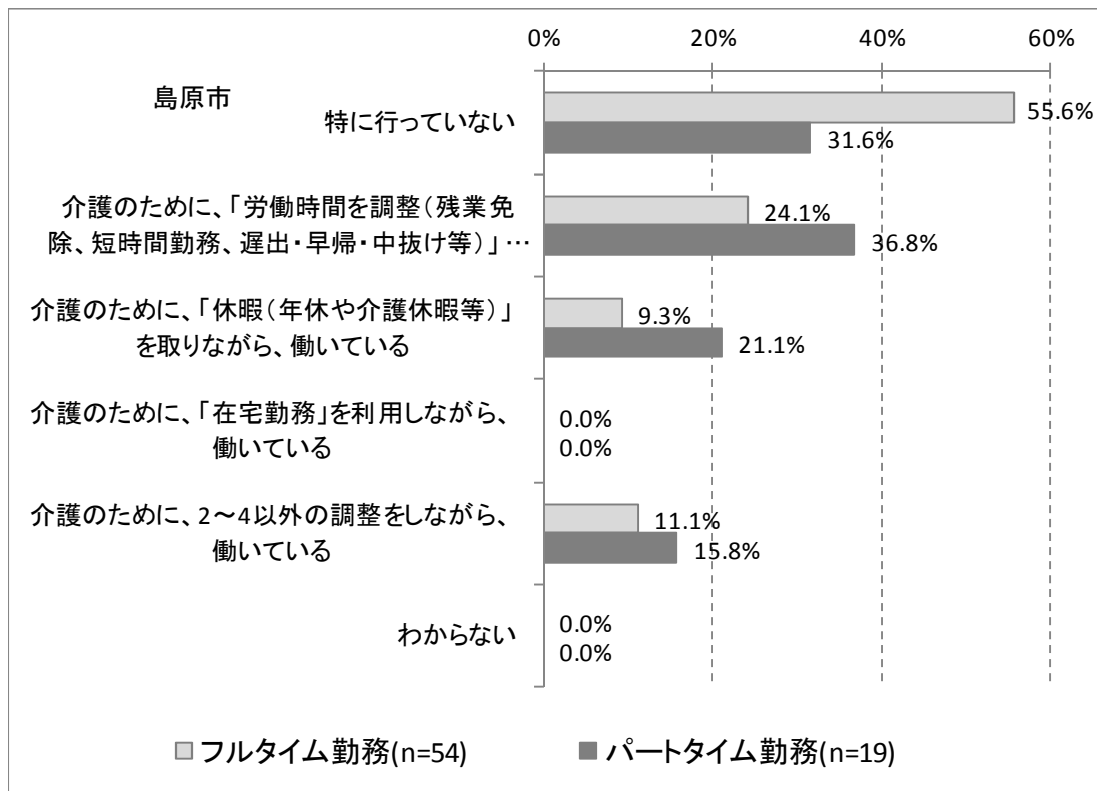
図表 2-14 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

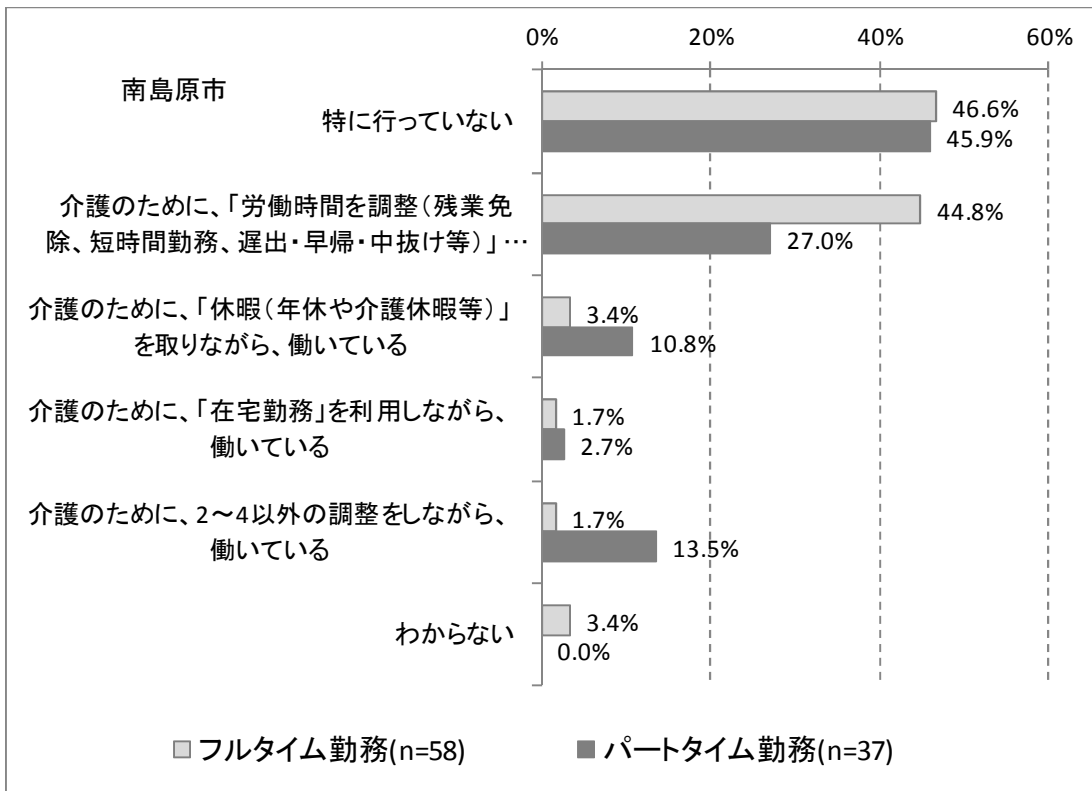
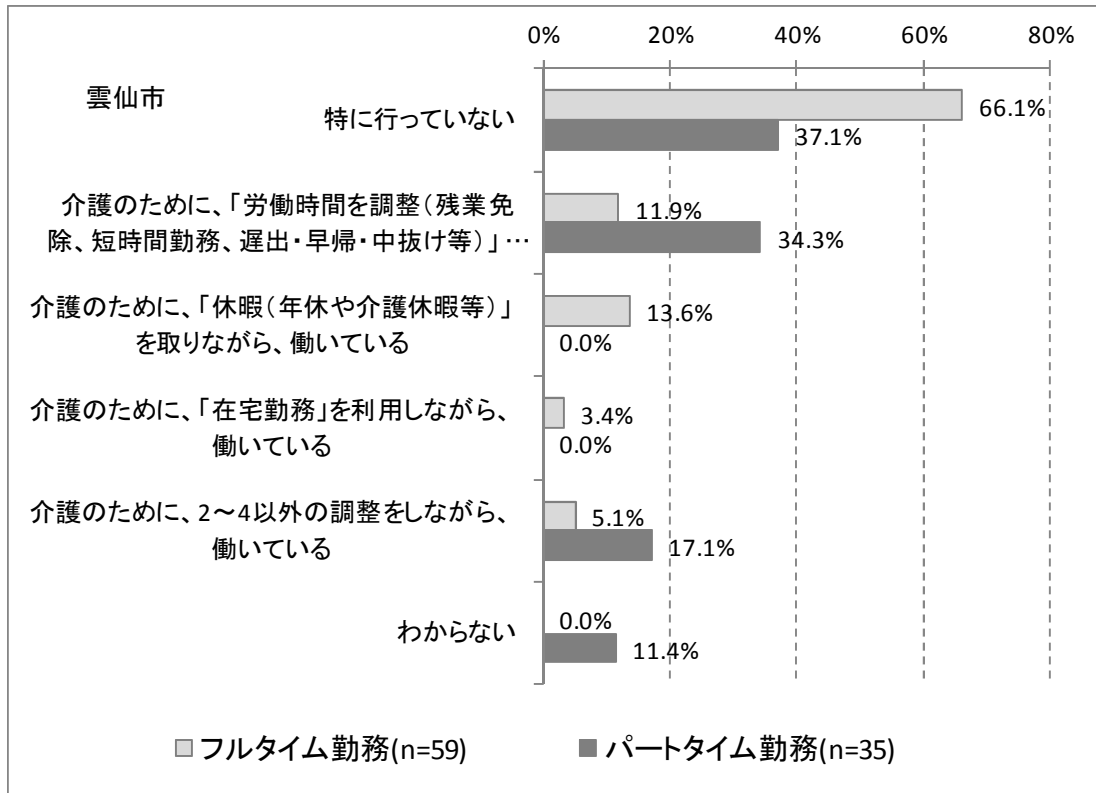


(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

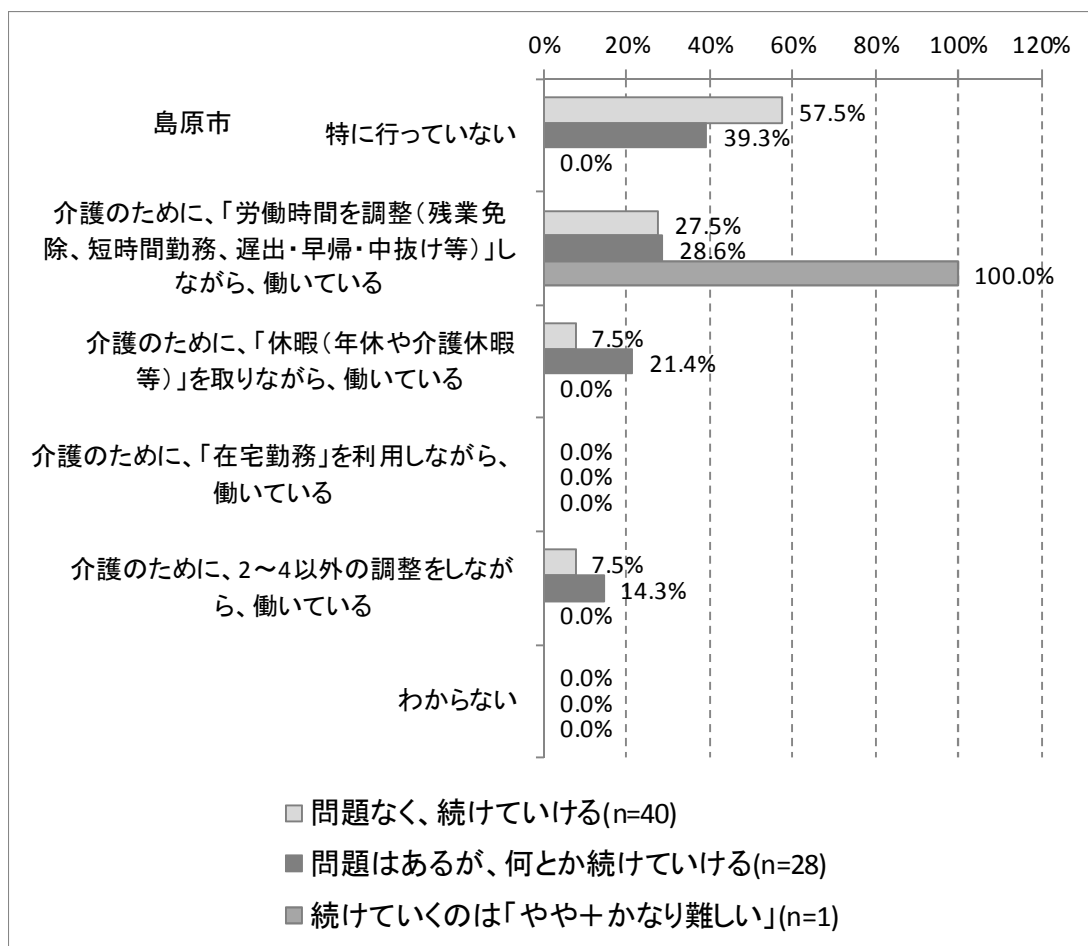
- 職場における働き方の調整状況をみると、フルタイム勤務・パートタイム勤務ともに、半数弱では、特に調整を行っていない状況です。何らかの調整を行っている人では、「労働時間」が最も高く、フルタイム勤務では、パートタイム勤務に比べて「休暇」の割合は低くなっています(図表 2-15)。
- これを就労継続見込み別にみると、「問題なく、続けていける」とする人は、「特に行っていない」の割合が高くなっています。一方、「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは難しい」では、「労働時間」「休暇」「在宅勤務」等、何らかの調整を行っている人の割合が高くなっています(図表 2-16)。
- 「問題なく、続けていける」とする人の職場においては、恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。

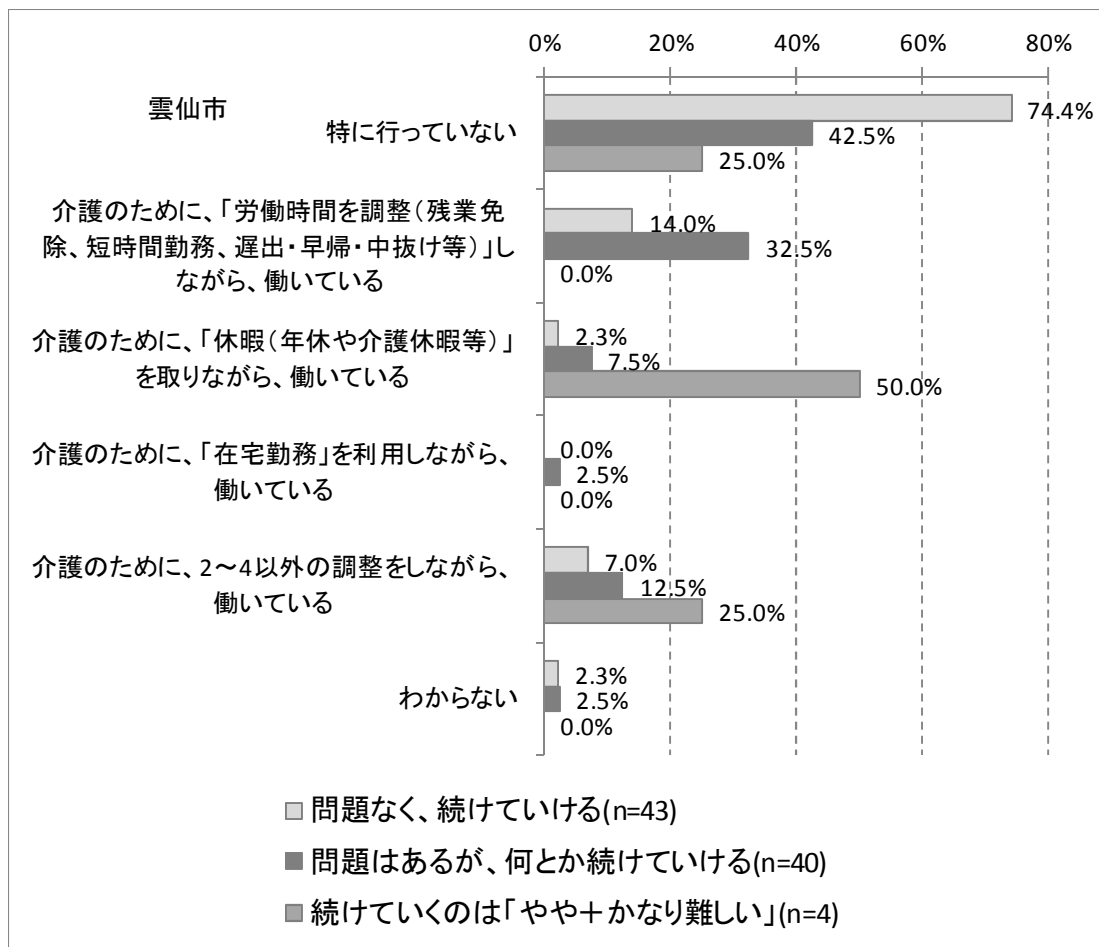
図表 2-15 就労状況別・介護のための働き方の調整

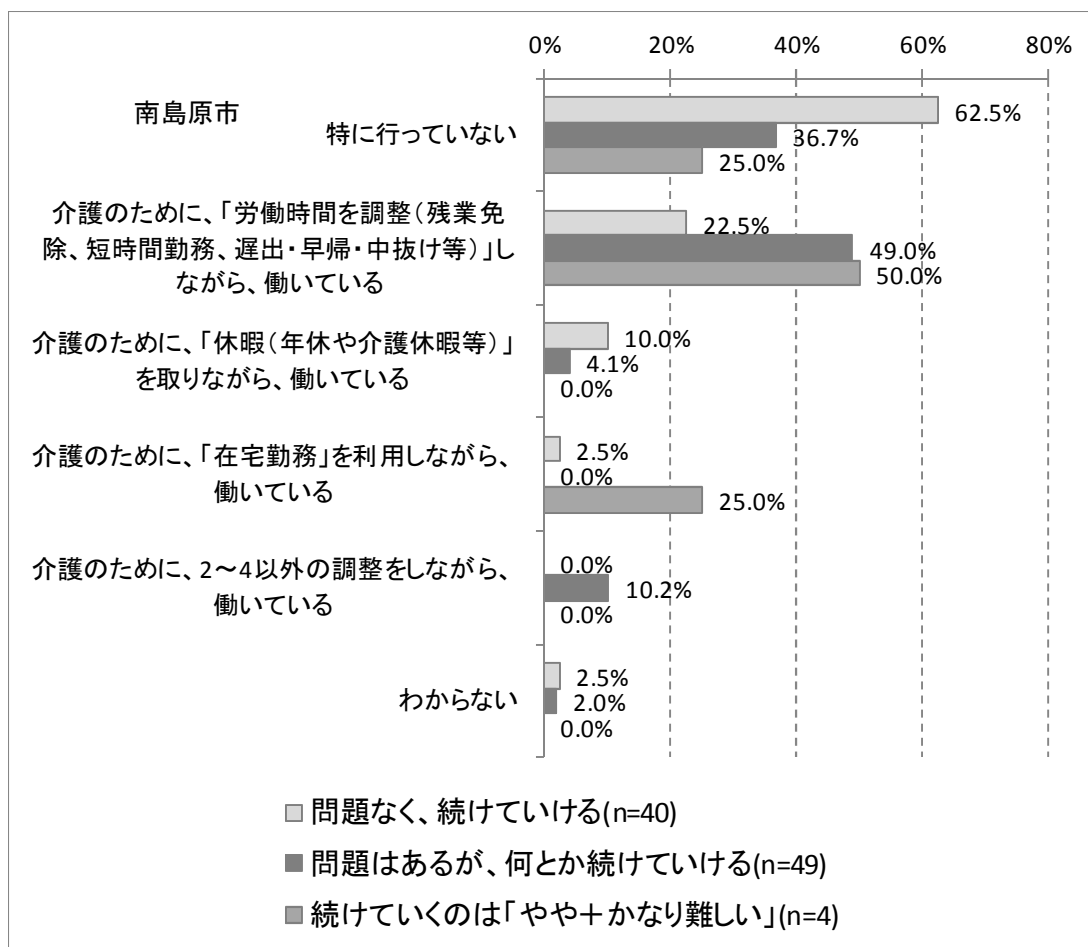




図表 2-16 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）







2.3 考察

- (1) 「就労継続に問題はあるが、何とか続けていける」層の仕事と介護の両立関わる課題を解決するための支援の検討
 - 介護者の就労状況により、家族介護者が関わる介護や不安を感じる介護が異なることから、介護サービスに対するニーズは、要介護者の状況だけでなく、介護者の就労状況等によっても異なると考えられます。介護者の多様な就労状況に合わせた柔軟な対応が可能となる訪問系サービスや通所系サービスの組み合わせ、小規模多機能型居宅介護などの包括的サービスを活用することが、仕事と介護の両立を継続させるポイントになると考えられます。
- (2) 必要となるサービスの詳細な把握と、適切なサービス利用の推進
 - 介護サービスの利用について、就労が困難となっている介護者においては、適切なサービスを利用するための体制構築が不十分である可能性が高いと考えられるため、必要となるサービスの詳細な把握と、そのサービス利用の推進を図っていくことが重要と考えられます。なお、その際には介護保険サービスだけではなく、保険外の支援・サービスも含めて、生活を支える視点での検討が重要です。
- (3) 男性介護者や単身世帯の要介護者のニーズ・特徴に応じた、支援・サービスの検討
 - 介護者が就労している場合とそうでない場合では、介護者の属性や要介護者の世帯類型などが大きく異なるため、そうした違いに応じた支援。サービスを検討して行くことが重要になると考えられます。
- (4) 仕事と介護の両立に向けた、職場における支援・サービスの検討
 - 介護者のために何らかの調整が必要となった場合は、介護休業・介護休暇等の取得や、所定外労働の免除・短時間勤務等による労働時間の調整など、介護の状況に応じて必要な制度が、必要な期間、利用できることが重要です。そのためには、企業が介護休業等の両立支援制度を導入するだけでなく、従業員に対して介護に直面する前から、「介護」や「仕事と介護の両立」に関する情報提供（介護保険制度や企業内の両立支援制度等）を行うよう促すことが有用だと考えられます。また、介護について相談しやすい雰囲気づくりとともに、働き方の見直しを通じ、介護等の時間的制約を持ちながら働く人を受け入れることが可能な職場づくりを日頃から進めておくことが、介護に直面した社員の離職防止のために効果的であると考えられます。

3 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

3.1 集計・分析の狙い

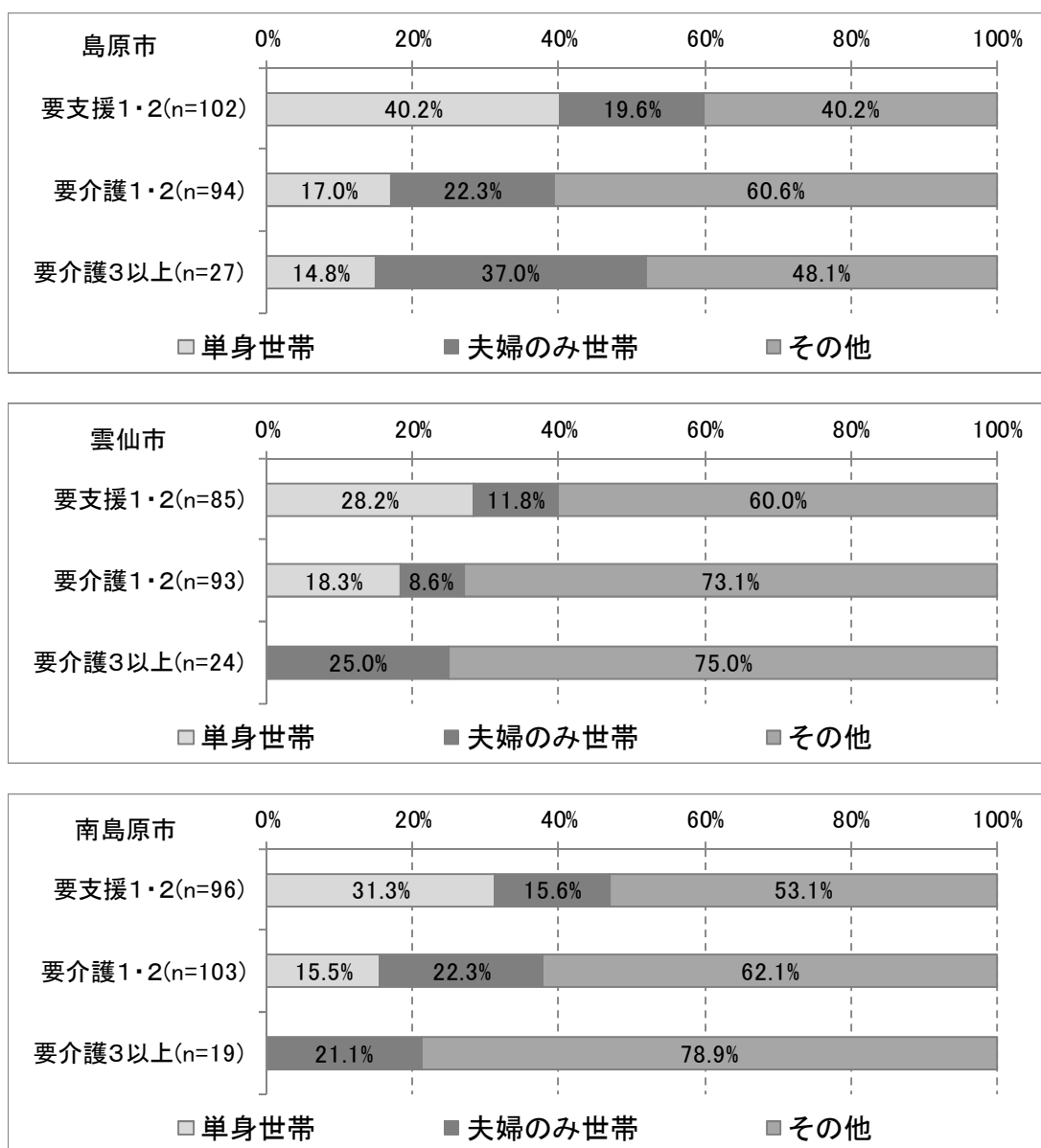
- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

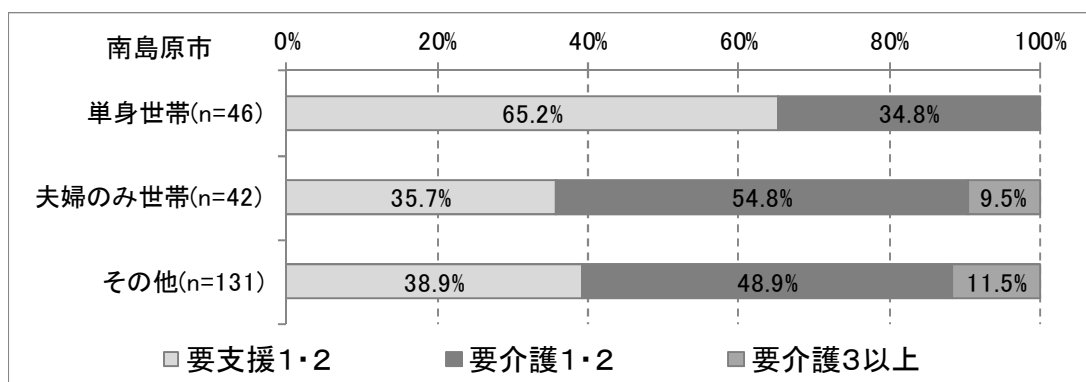
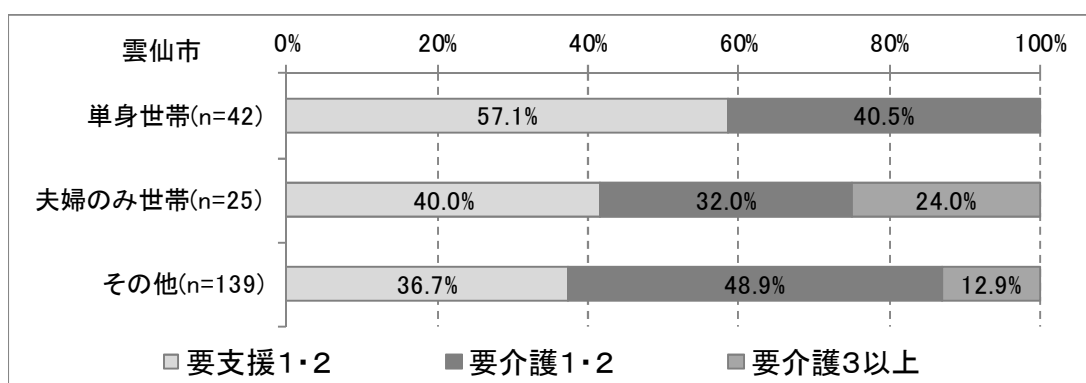
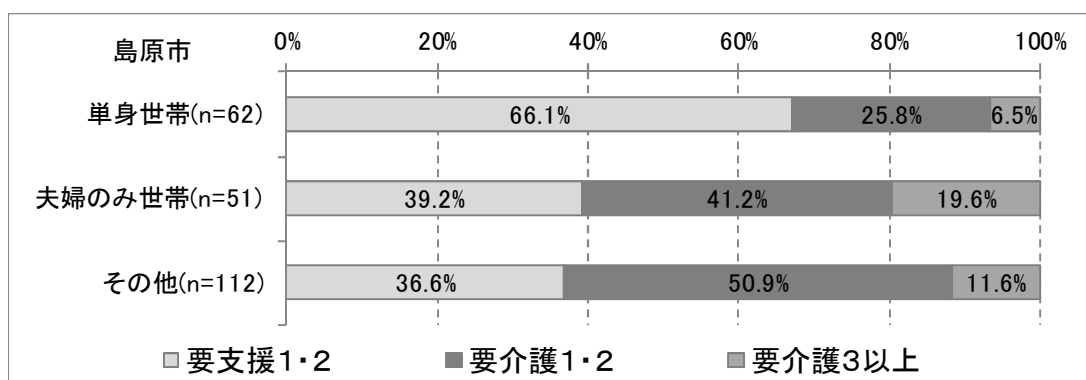
(1) 基礎集計

- 要介護度別で見ると、3市とも要介護度が重度化すると、「単身世帯」の割合が減少しており、在宅生活の継続が困難になっていることが考えられます（図表 3-1）。
- 世帯類型別で見ると、島原市と雲仙市では、「夫婦のみ世帯」で「要介護3以上」の割合が「単身世帯」、「その他」に比べ高くなっています（図表 3-2）。

図表 3-1 要介護度別・世帯類型



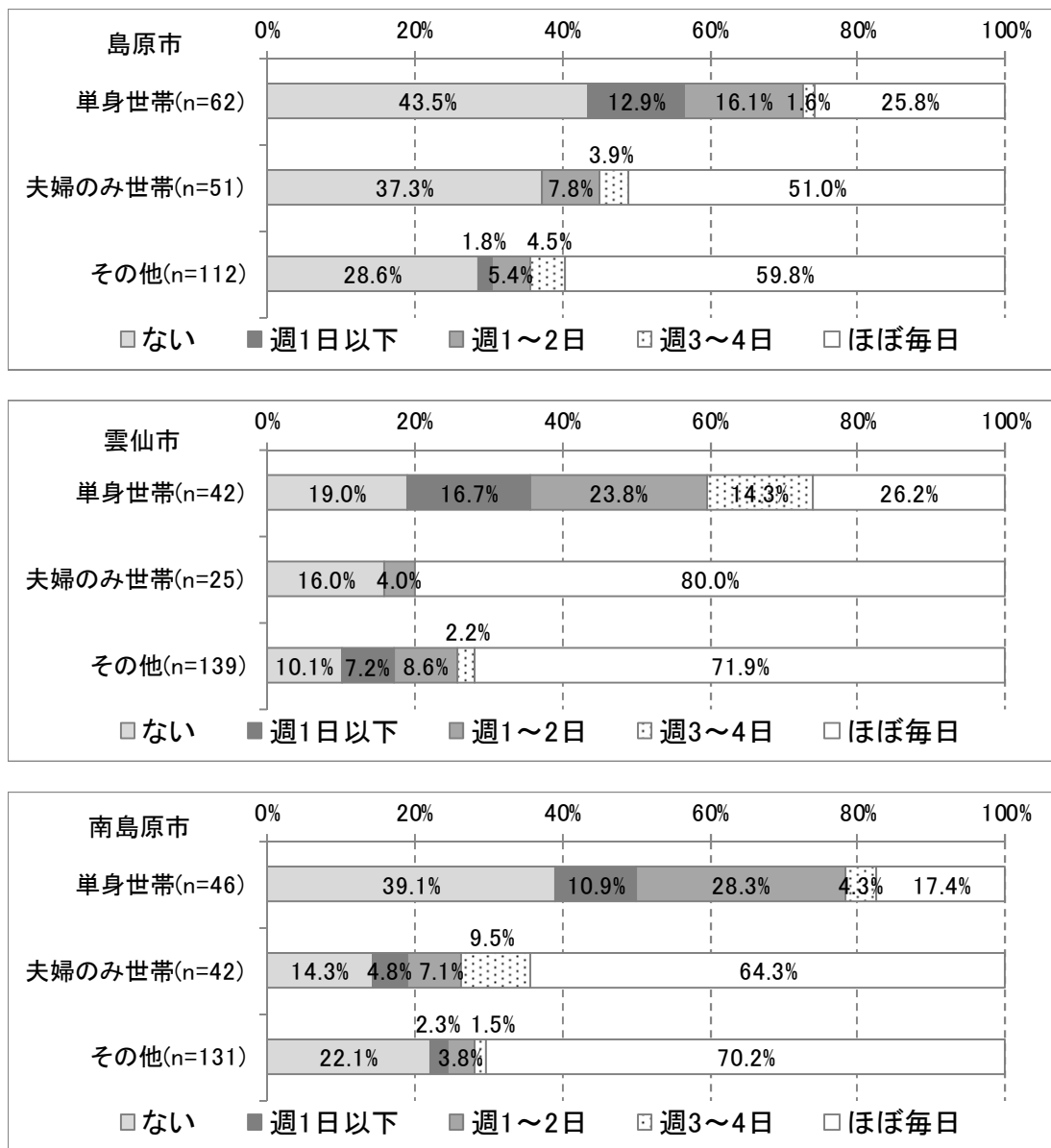
図表 3-2 世帯類型別・要介護度



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

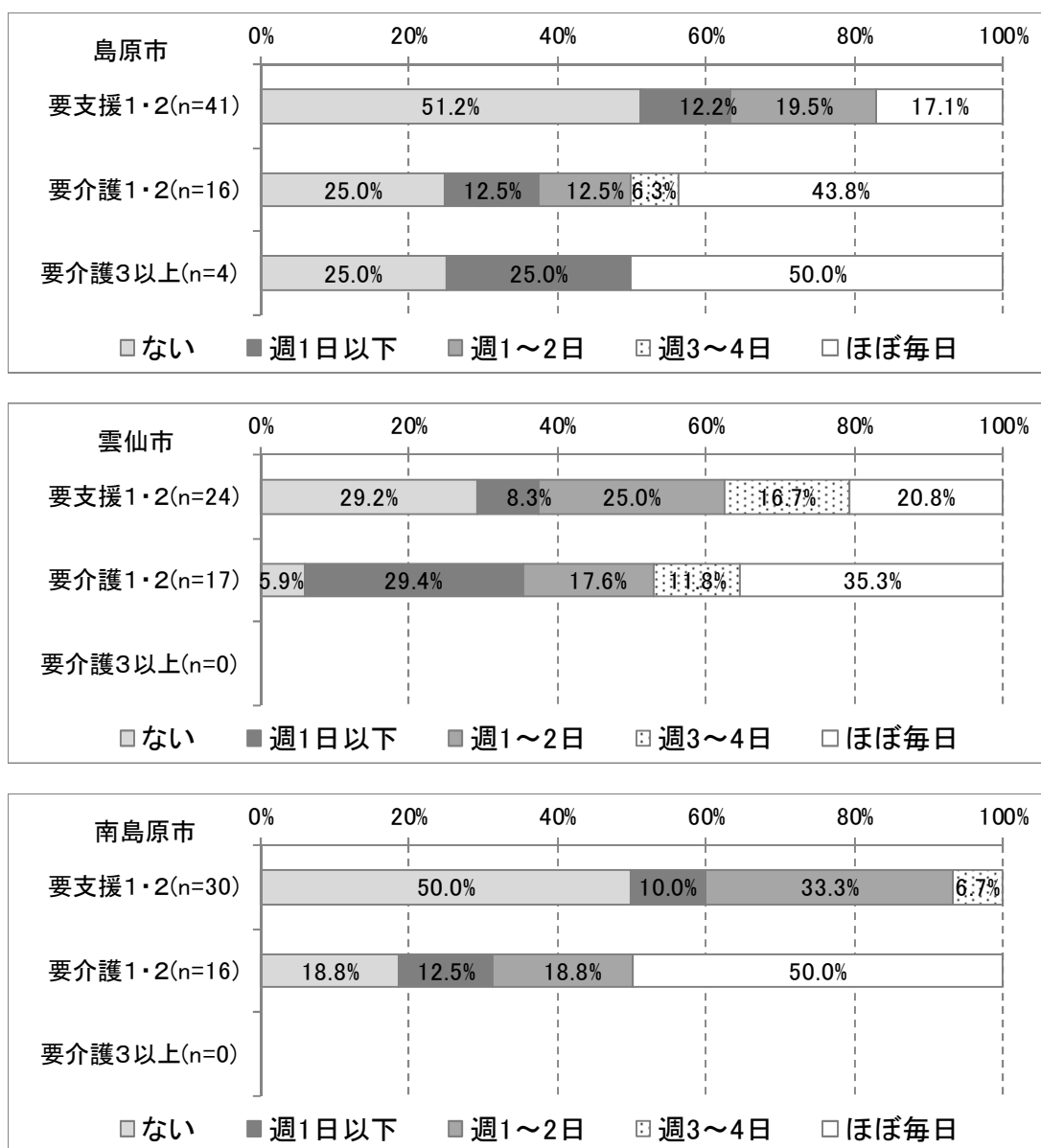
- 世帯類型別・家族等による介護の頻度では、3市とも「単身世帯」以外で、「ほぼ毎日」が50%以上を超えており、雲仙市の「夫婦のみ世帯」では、80%と高い割合になっています。同居世帯においては、単身世帯と比べて家族等による介護の頻度が高いことがわかります（図表 3-3）。

図表 3-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度

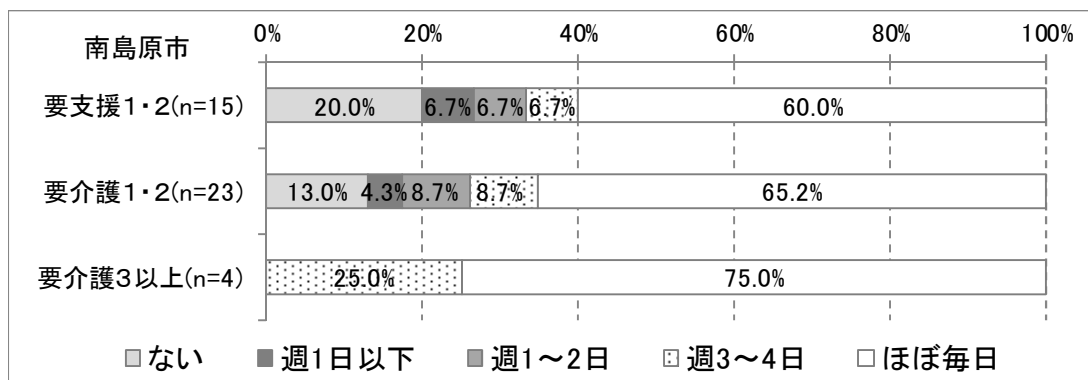
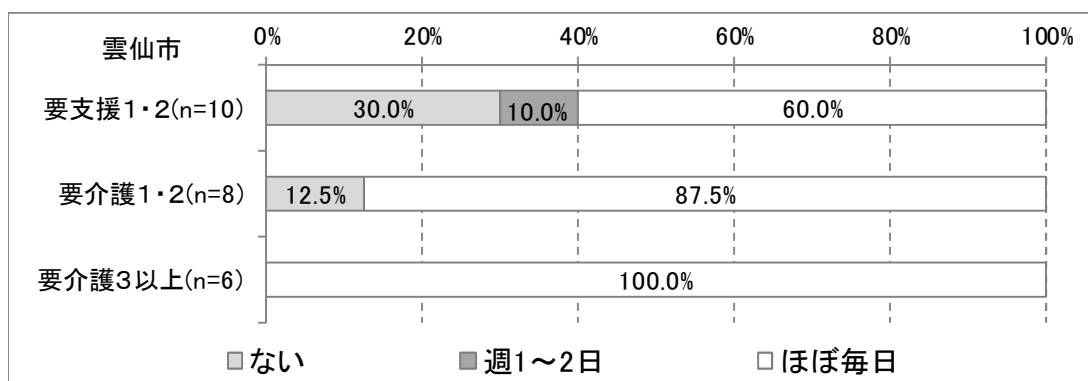
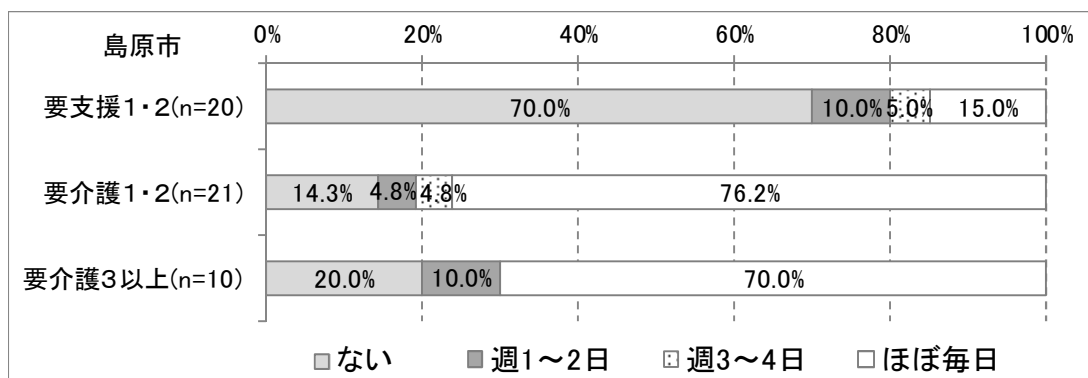


- 要介護度別・家族等による介護の頻度について、どの世帯類型においても3市とも介護度が重度化するに従い、「ほぼ毎日」の割合が高くなっています(図表3-4～図表3-6)。

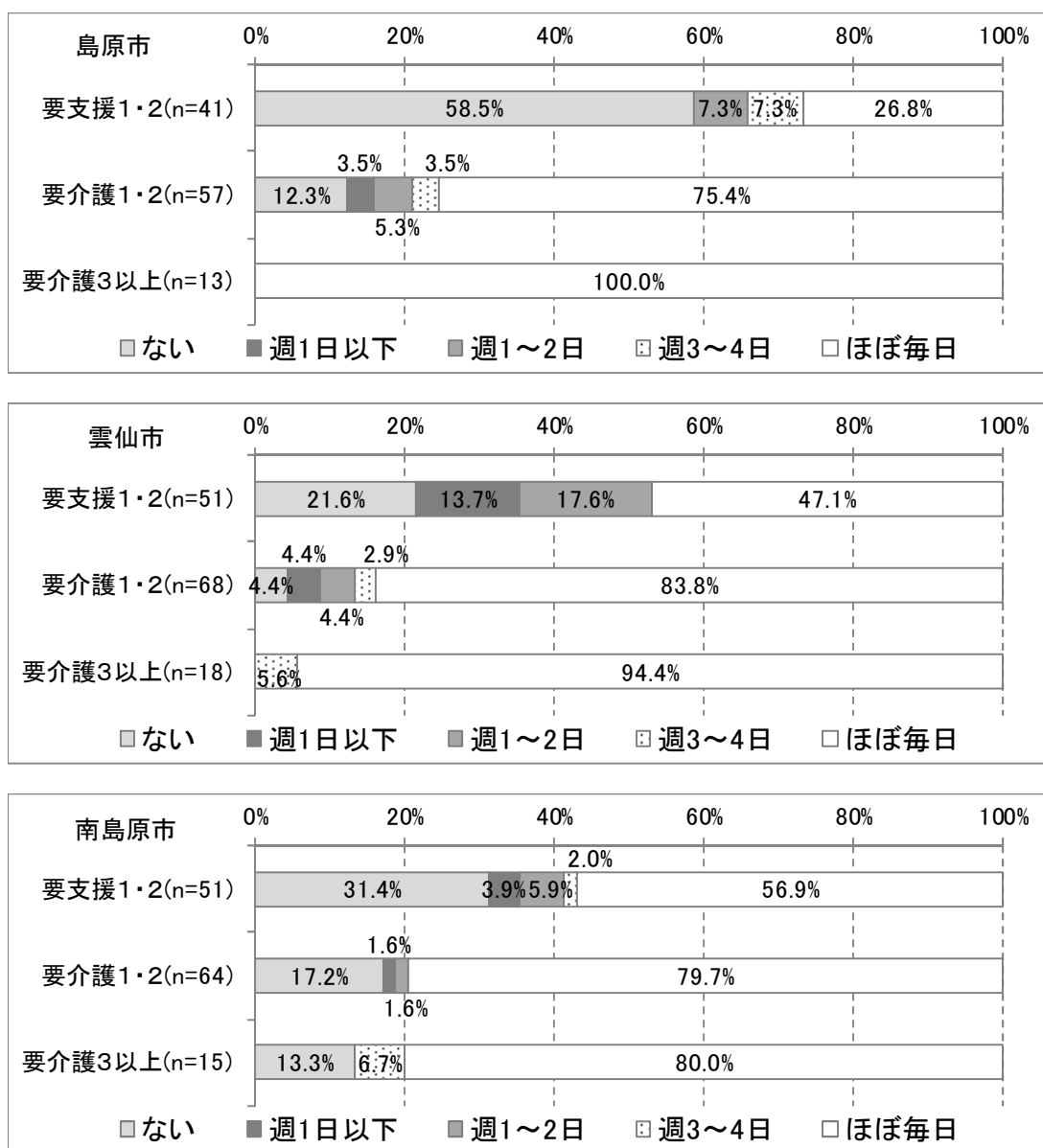
図表3-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



図表 3-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



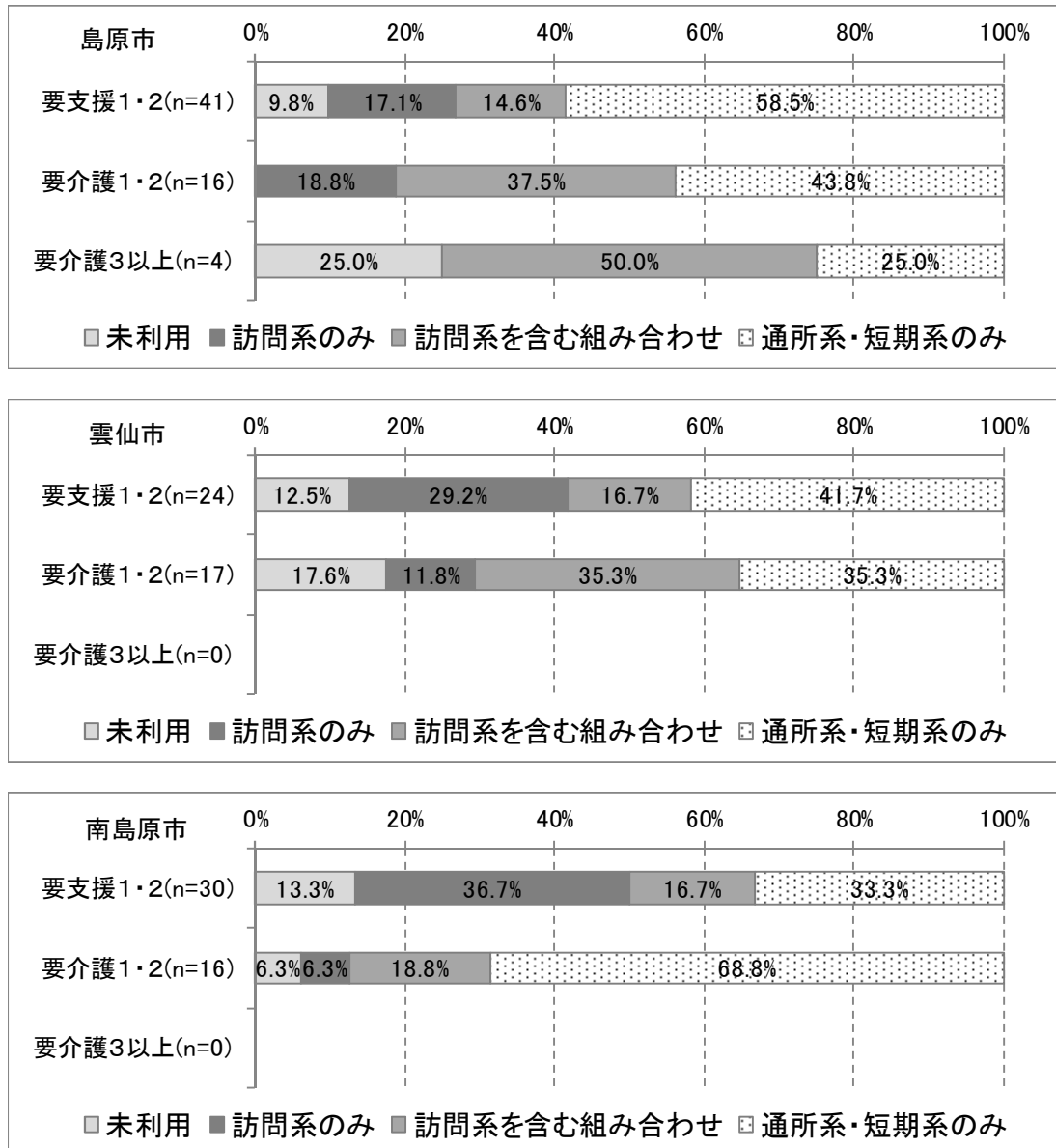
図表 3-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



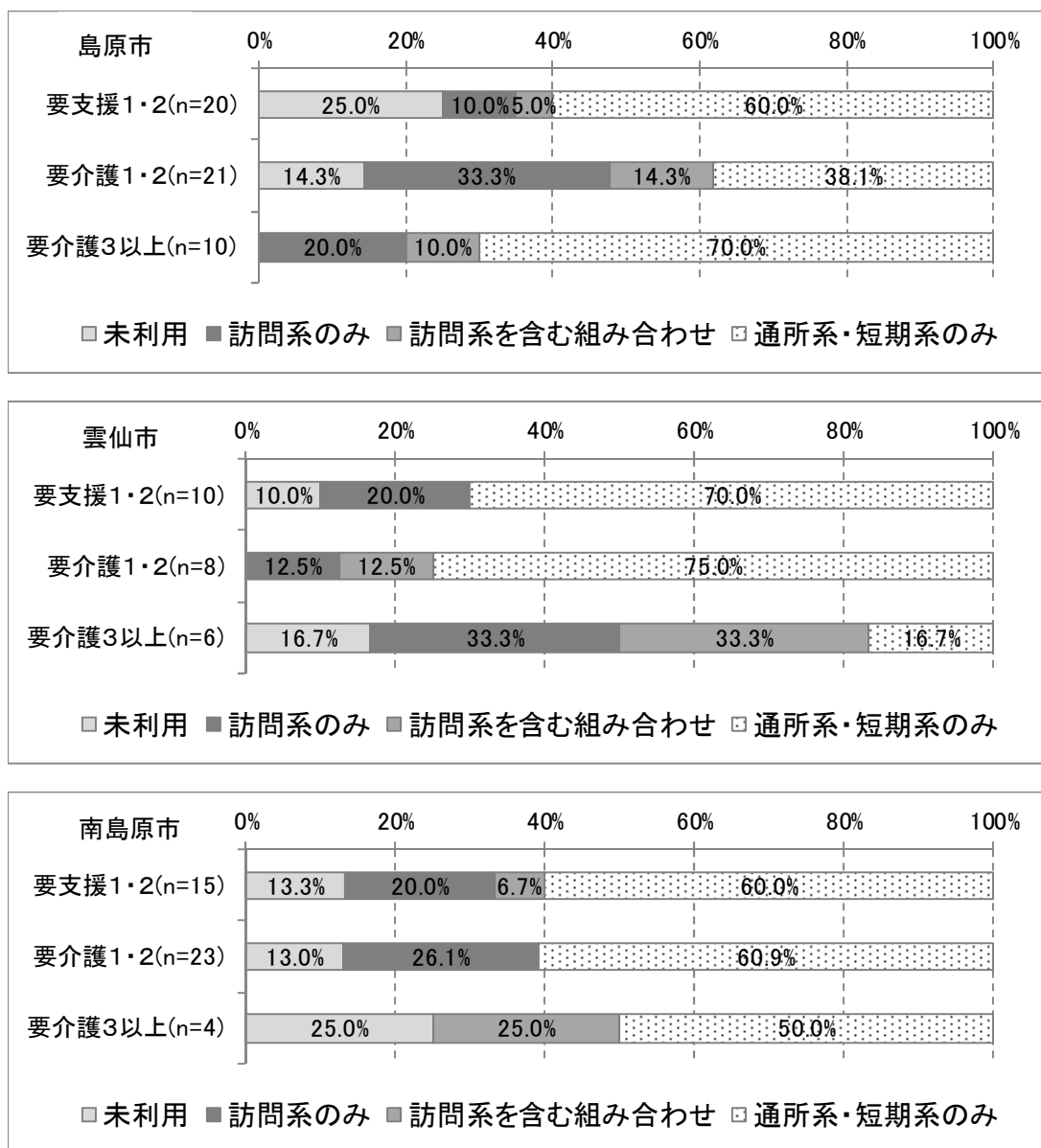
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

- 要介護度別・サービス利用の組み合わせについて、「単身世帯」「夫婦のみ世帯」「その他世帯」では、3市とも「通所系・短期系のみ」の割合がやや高くなっています(図表3-7～図表3-9)。

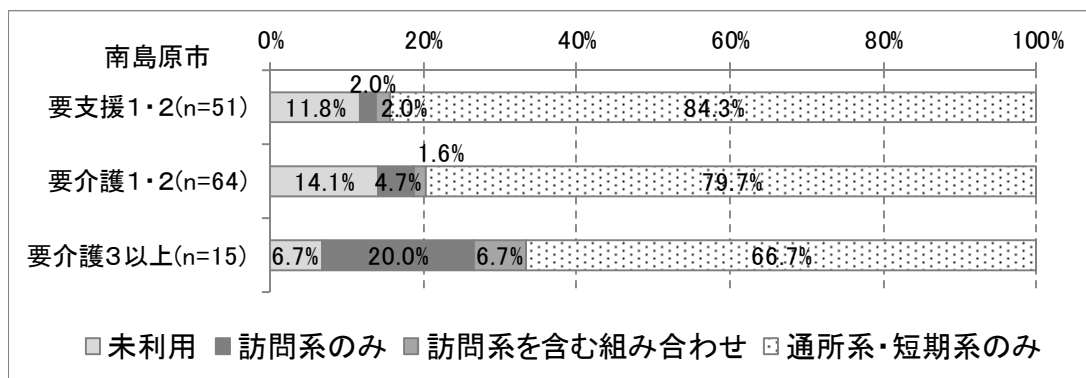
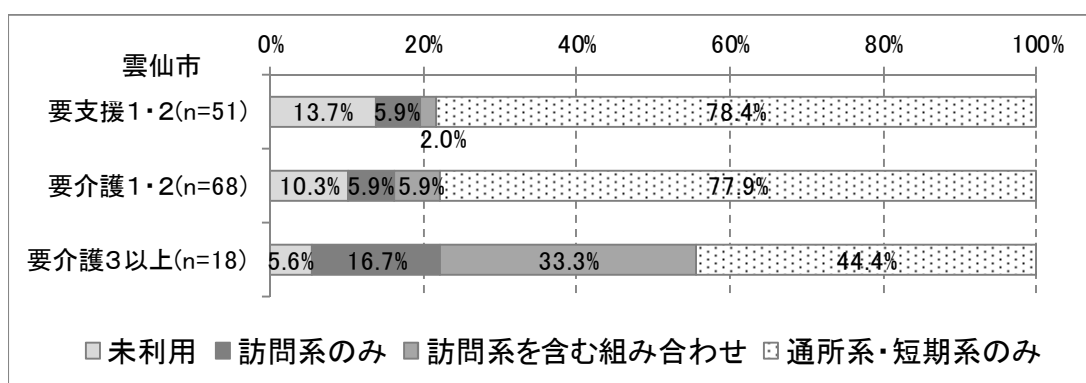
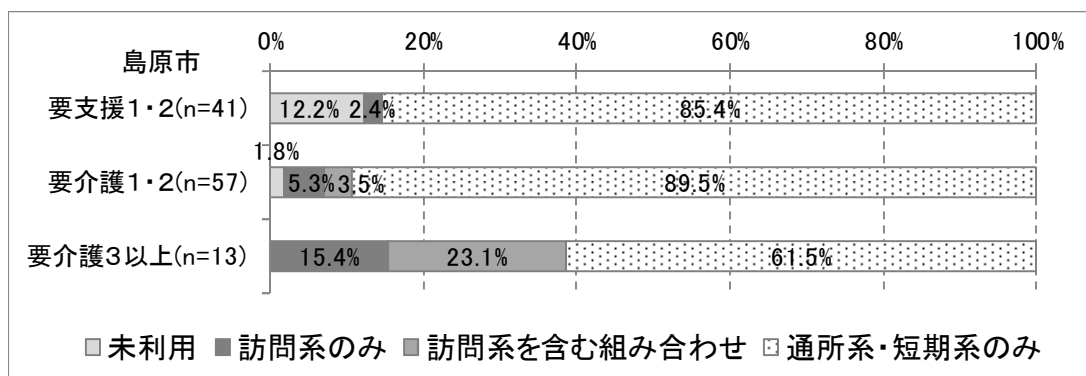
図表 3-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



図表 3-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）

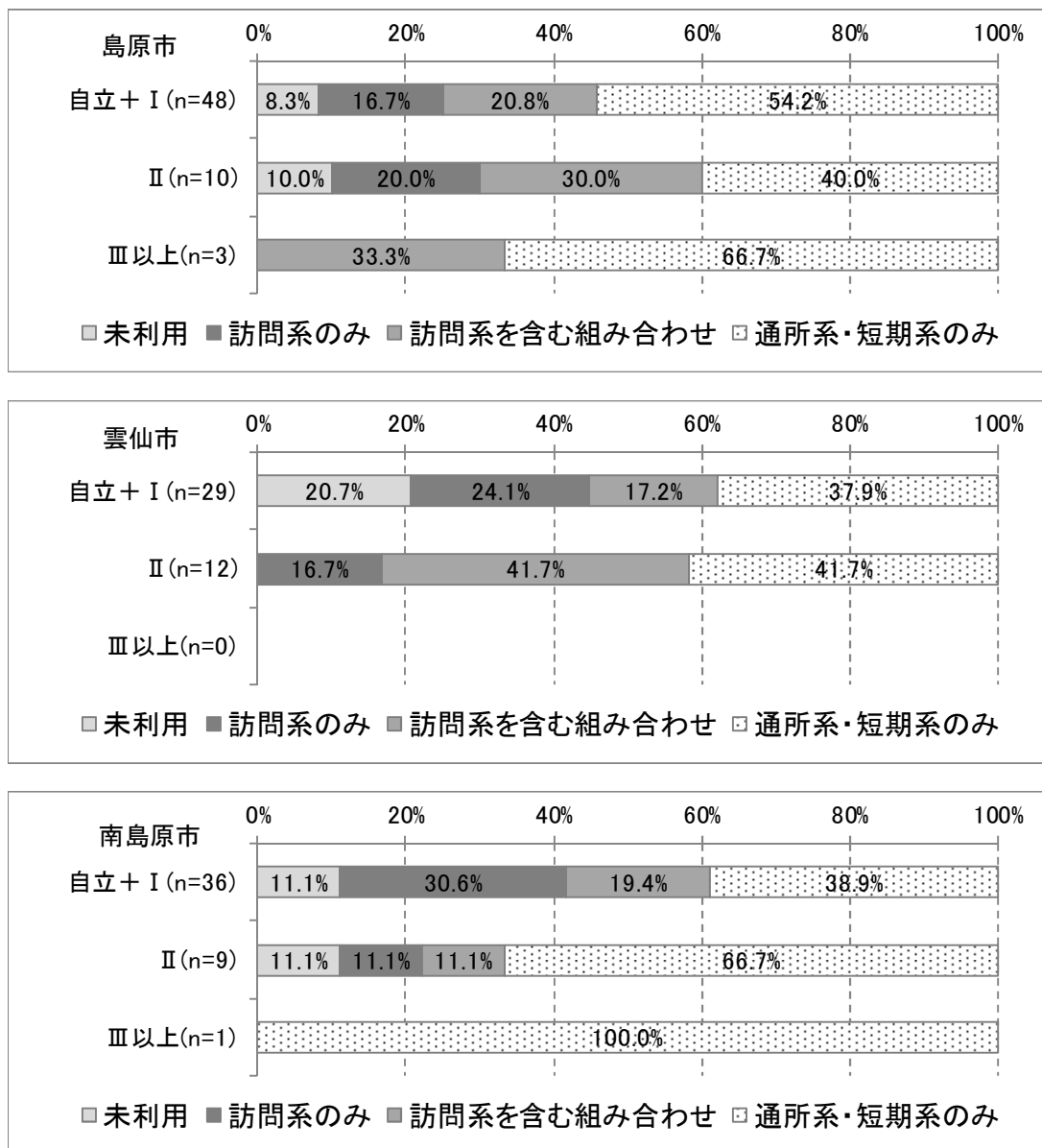


図表 3-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

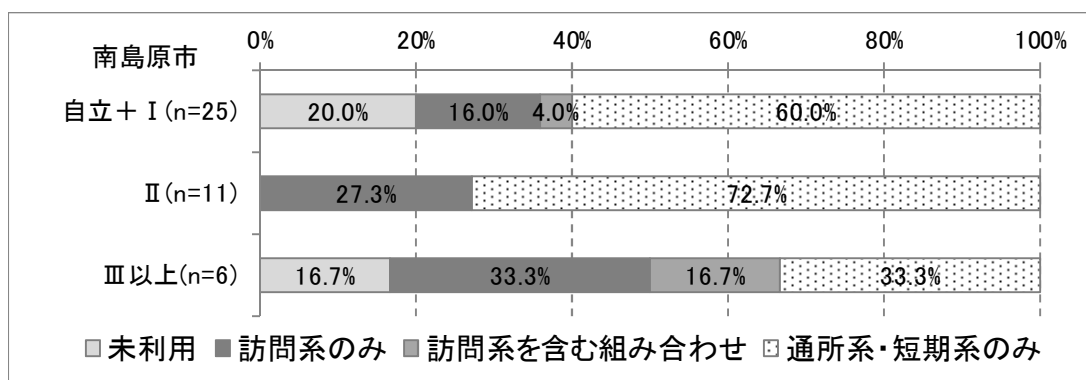
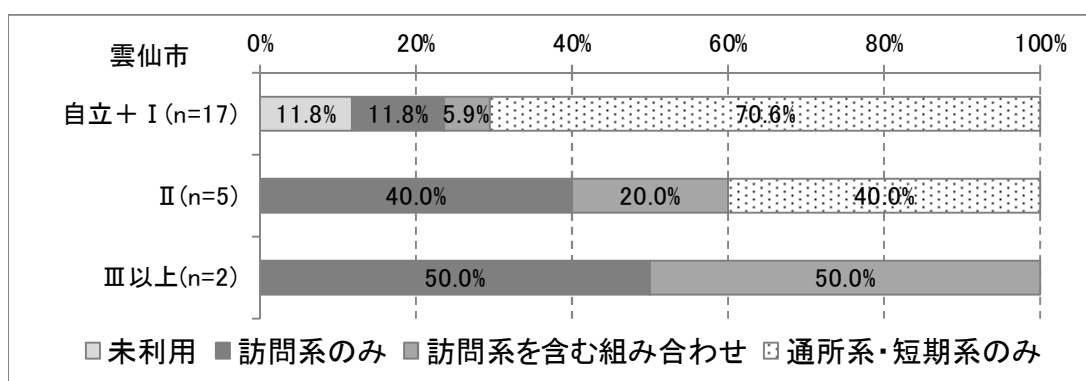
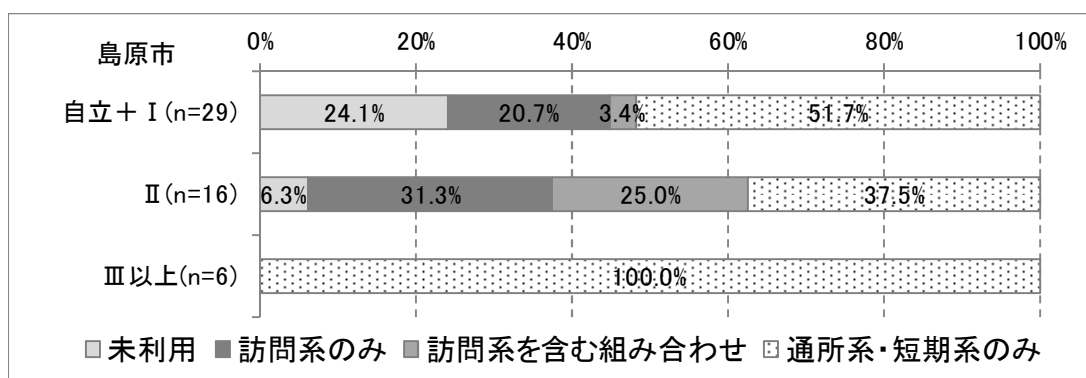


- 世帯類型別・認知症自立度別のサービス利用をみると、認知症の重度化に伴い、「単身世帯」と「その他世帯」では「通所系・短期系のみ」の割合がやや高く、「夫婦のみ世帯」では、島原市は「通所系・短期系のみ」の割合が高く、雲仙市は「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」で100%、南島原市は「訪問系のみ」と「通所系・短期系のみ」の割合がやや高くなっています(図表 3-10～図表 3-12)。

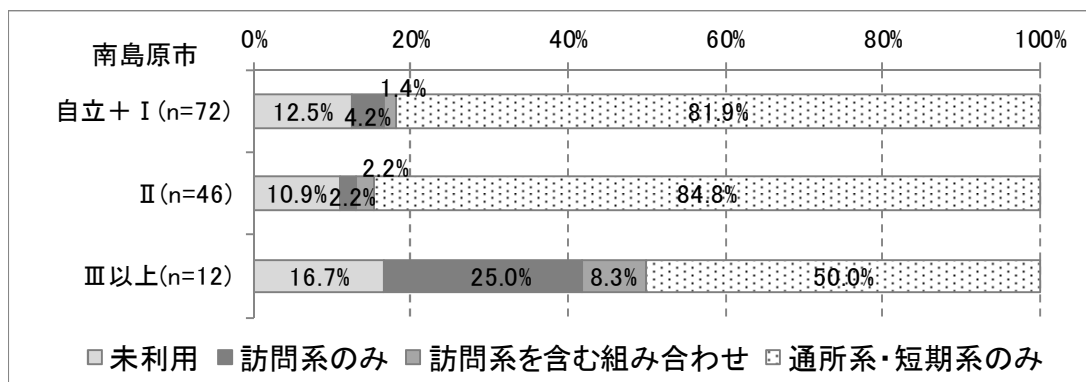
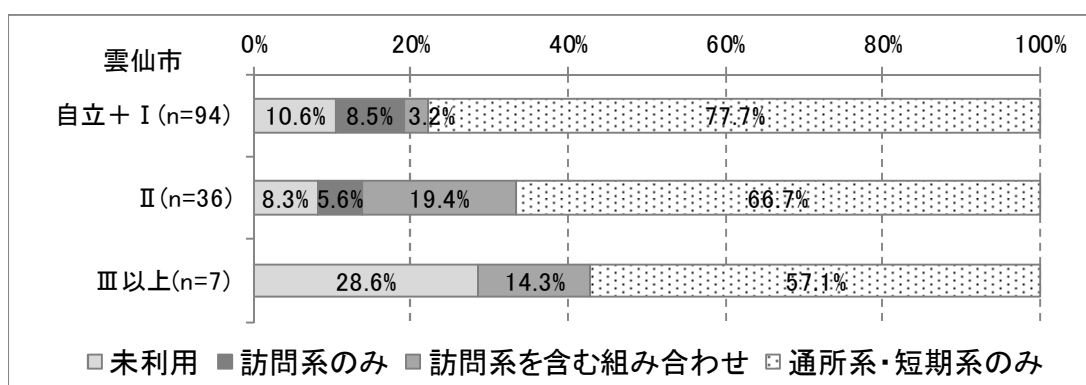
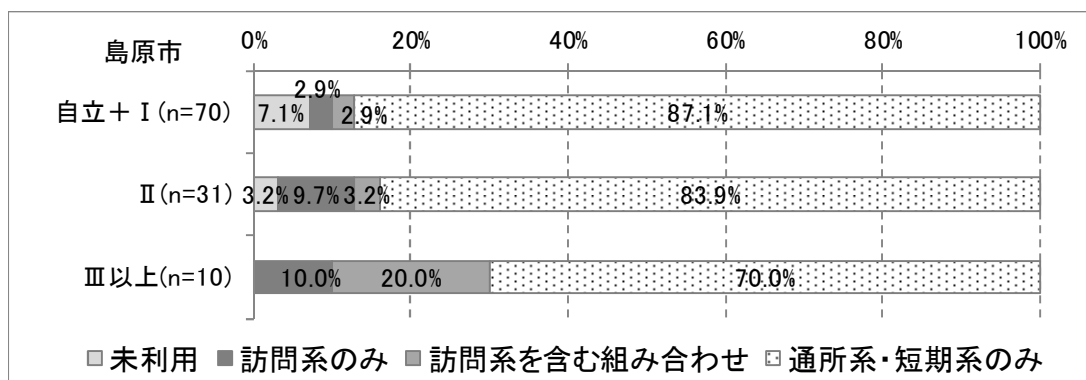
図表 3-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 3-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



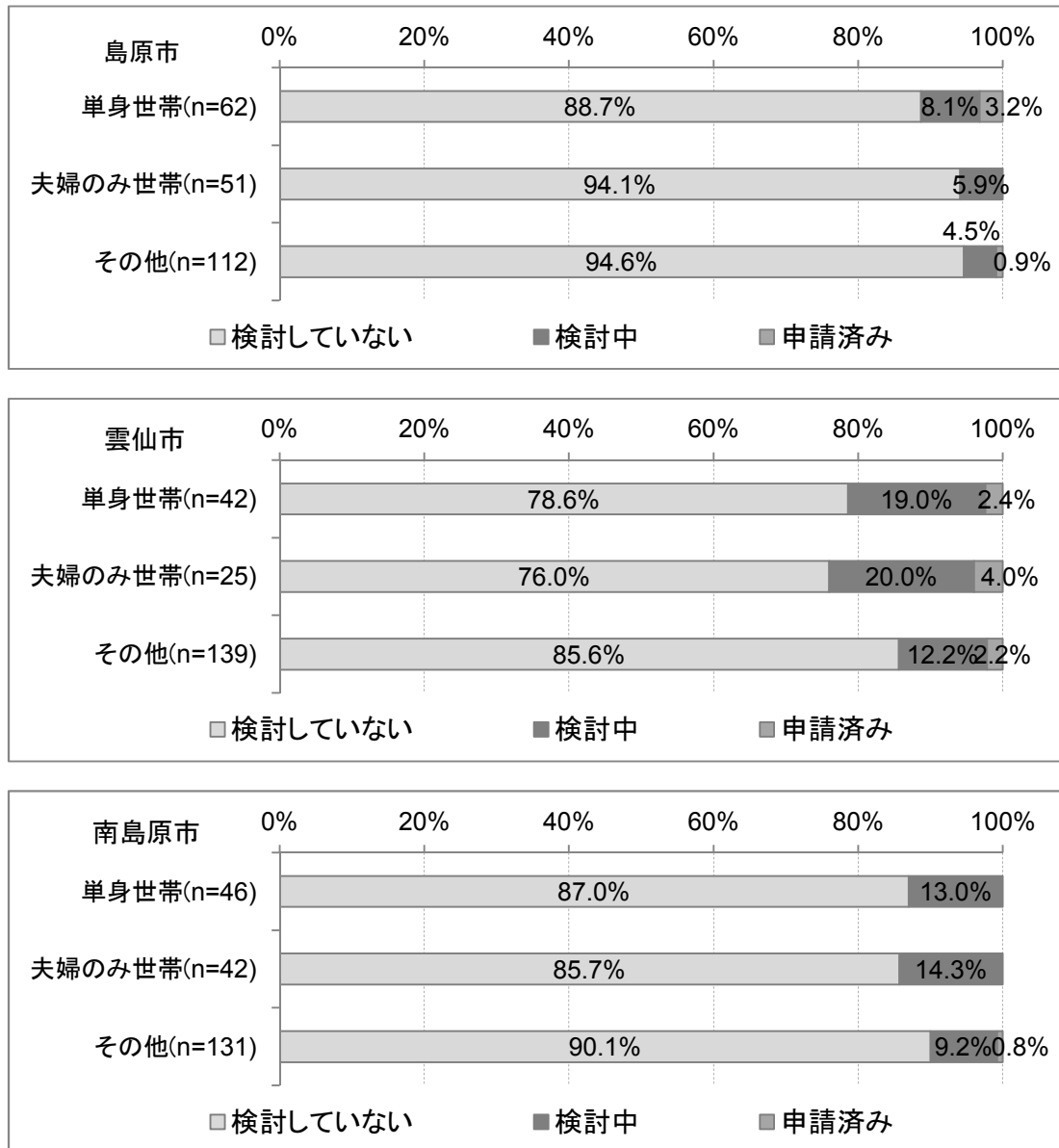
図表 3-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



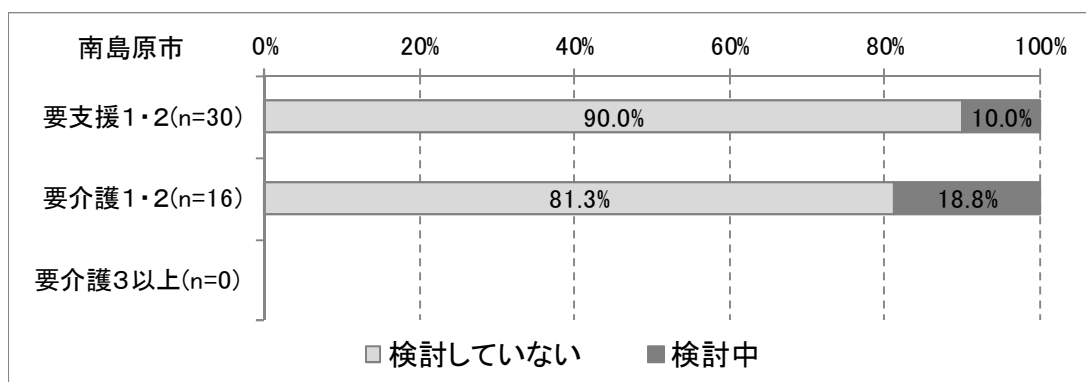
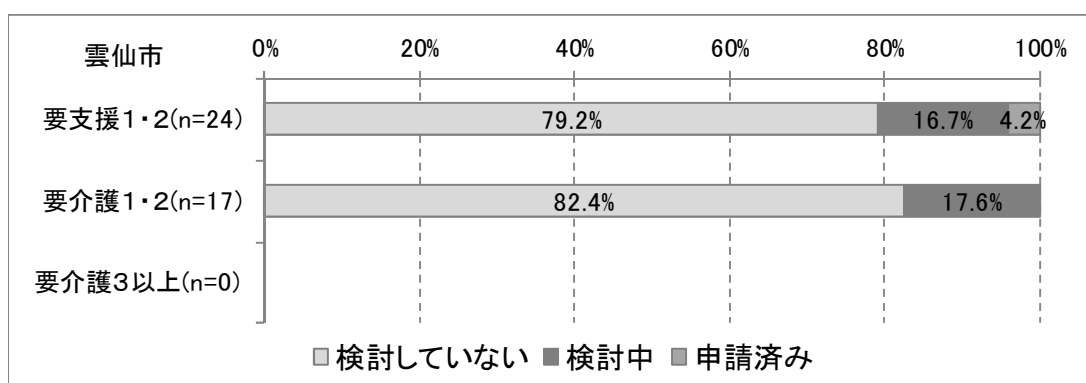
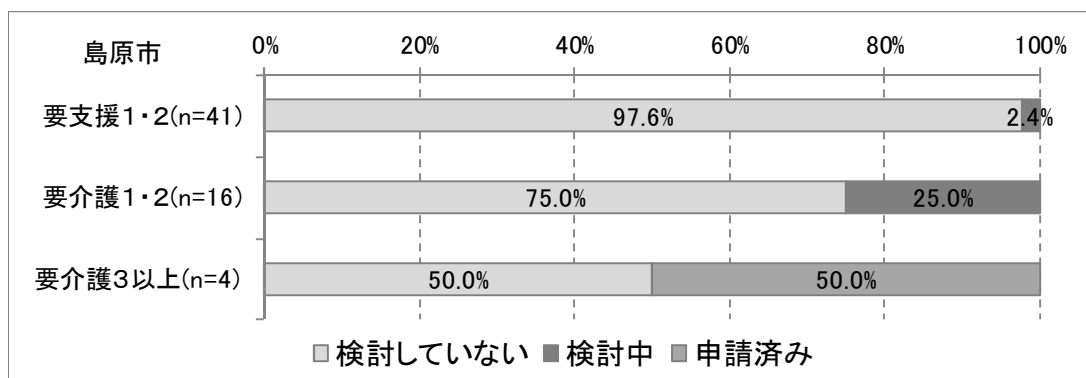
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

- 世帯類型別の施設等検討の状況を見ると、「要介護度別」「認知症自立度別」ともに、「検討していない」の割合が高くなっています(図表 3-13～図表 3-19)。

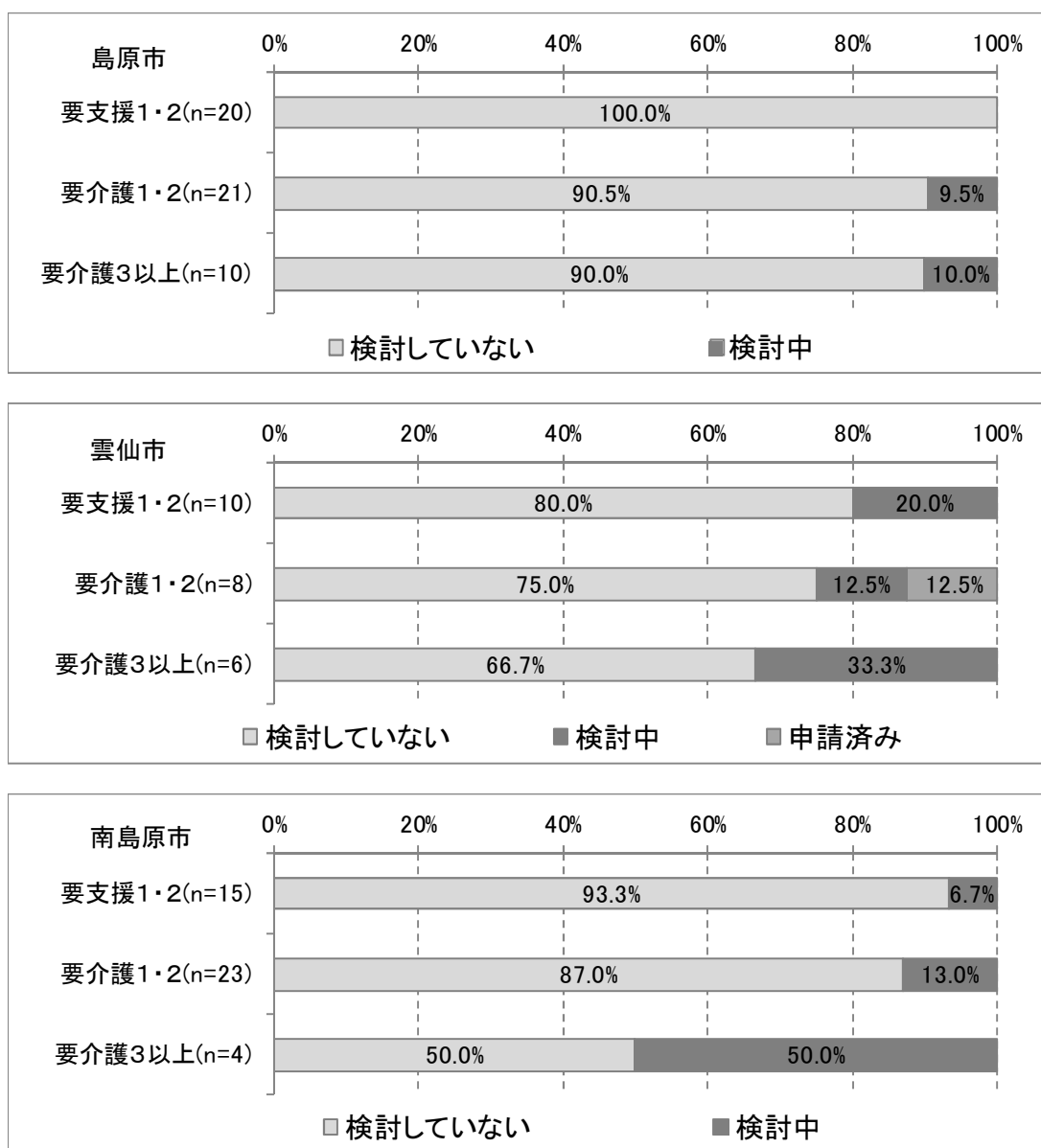
図表 3-13 世帯類型別・施設等検討の状況 (全要介護度)



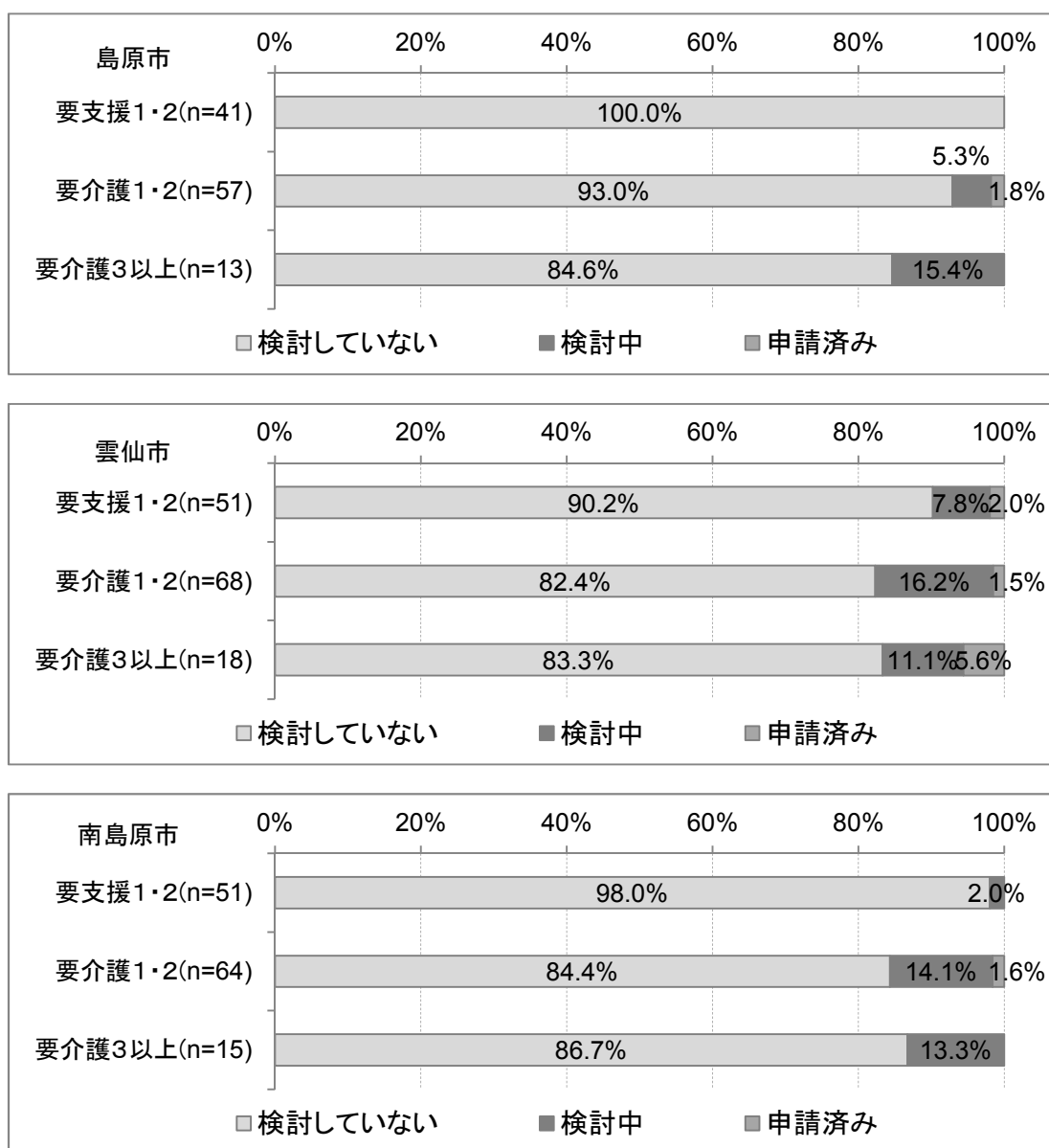
図表 3-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



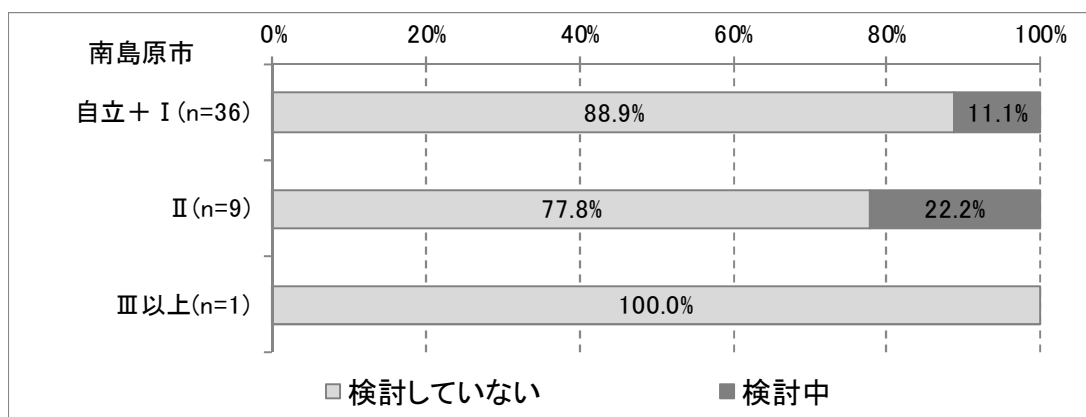
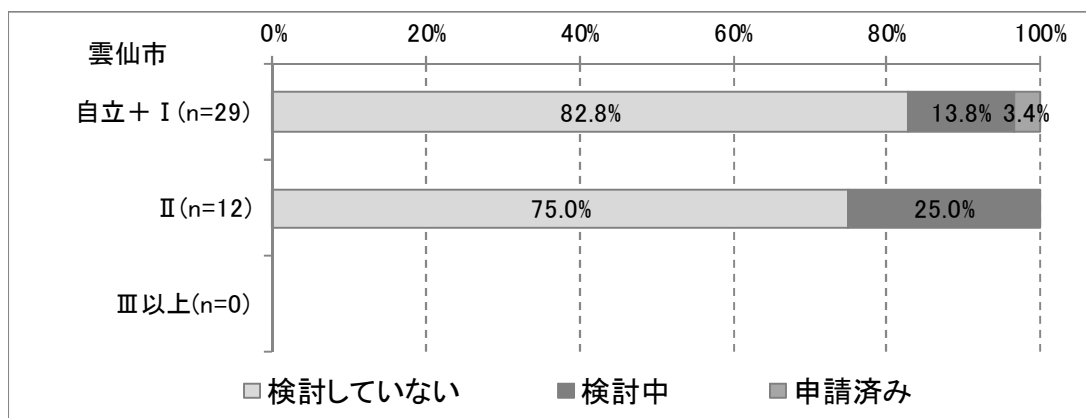
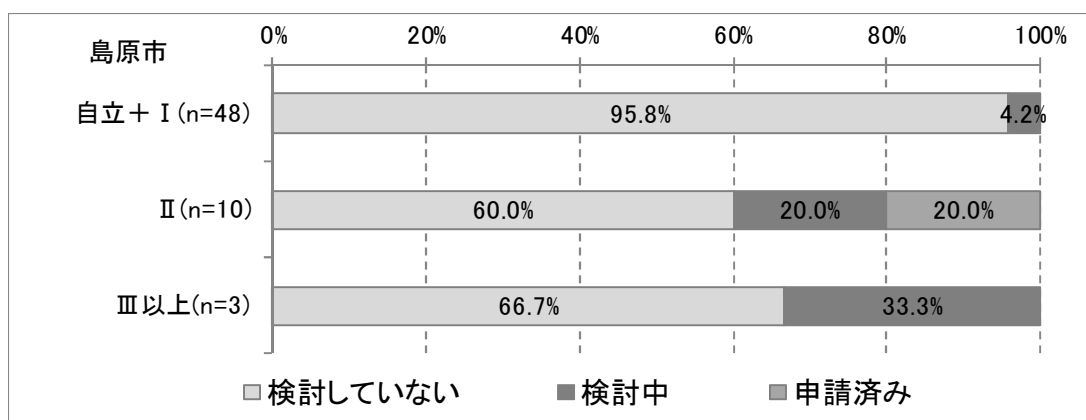
図表 3-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



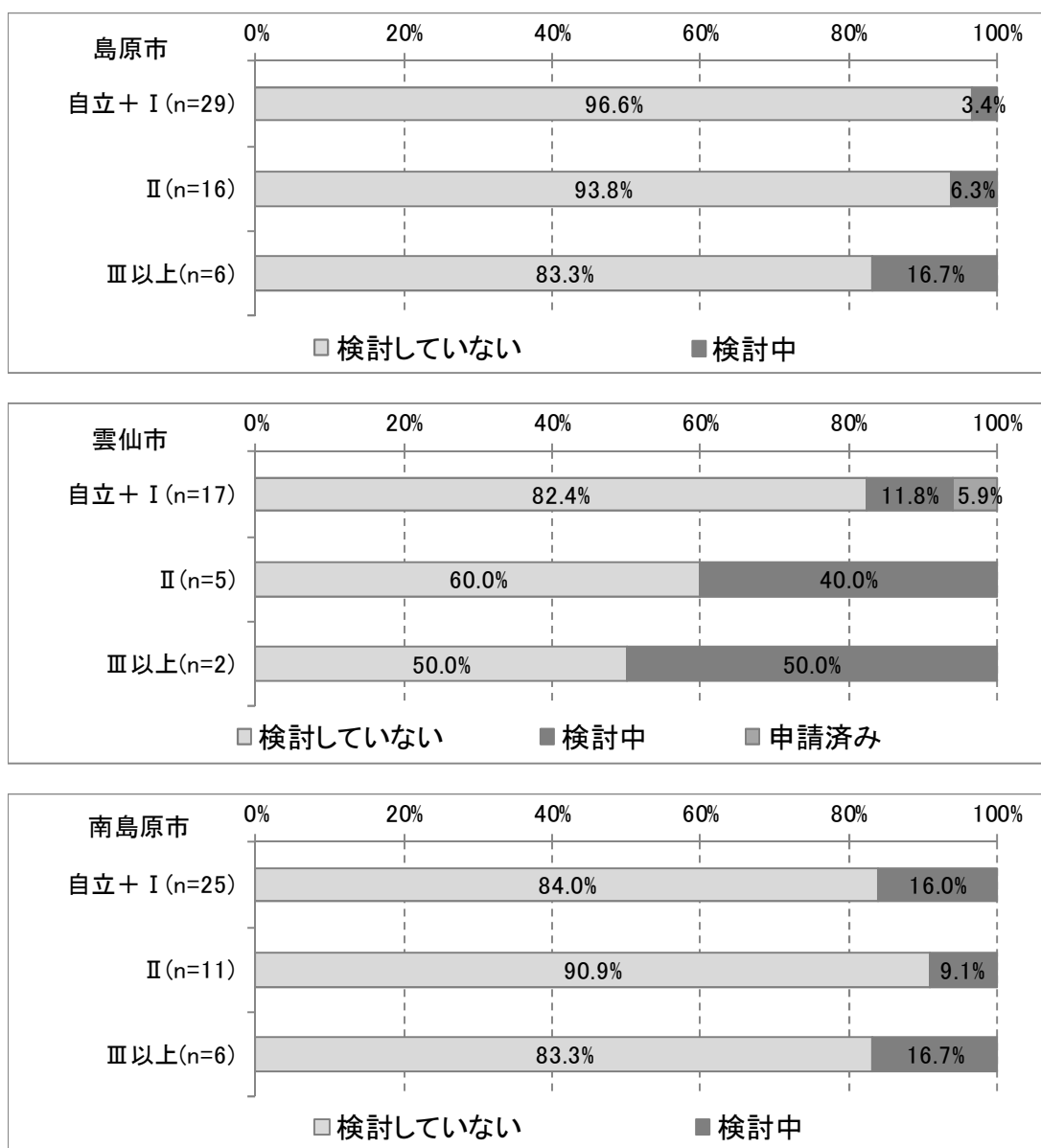
図表 3-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



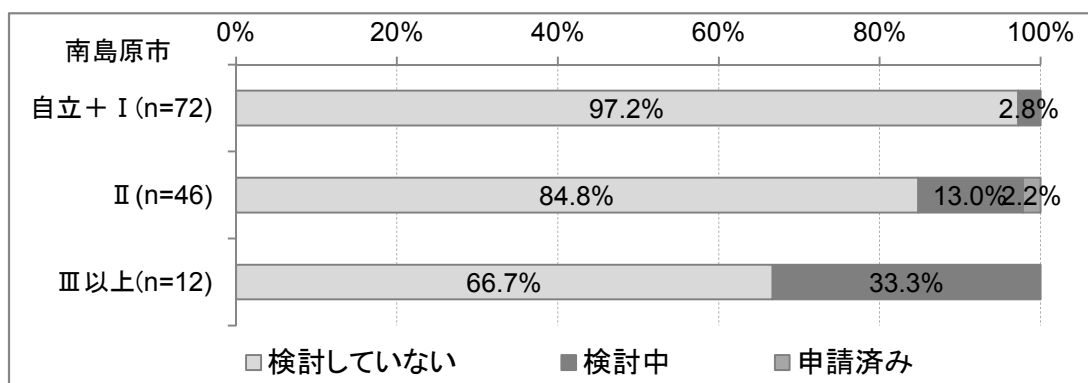
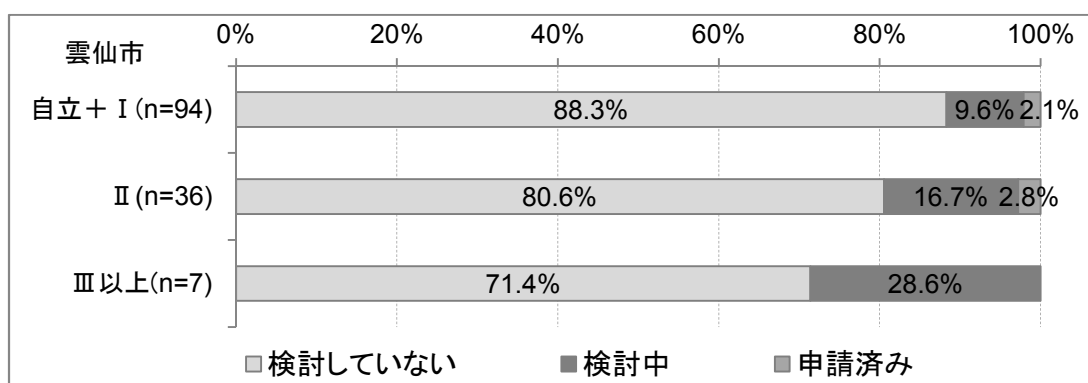
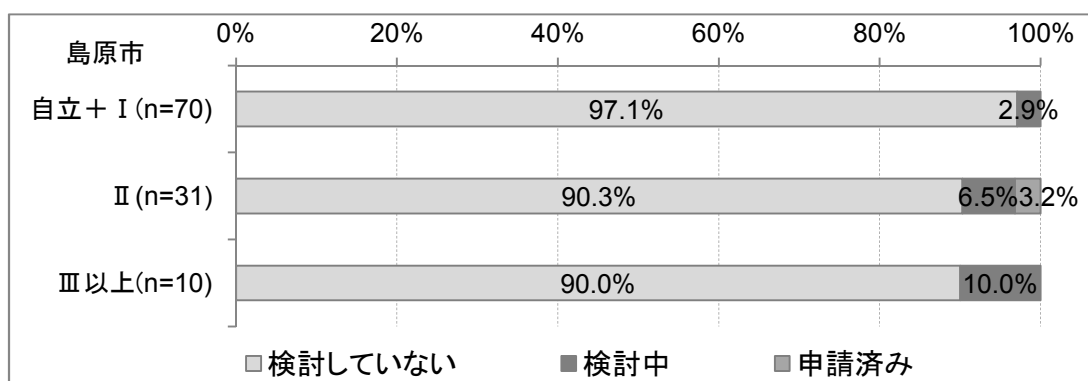
図表 3-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表 3-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表 3-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



3.3 考察

- (1) 単身世帯の要介護者の在宅療養生活を支えるための、支援・サービスの検討
 - 「単身世帯である中重度の要介護者」の増加が見込まれる中で、このような単身世帯の在宅療養生活を支えていくための支援・サービスの提供体制の構築が急務となっています。
- (2) 夫婦のみの世帯・その他の世帯の生活を支えるための、支援・サービスの検討
 - サービスが未利用の中重度の要介護者については、家族等の介護者の負担が過大となることも懸念されることから、必要に応じて要介護者とその家族等への援助を推進していくことが必要であると考えられます。

4 サービス未利用の理由など

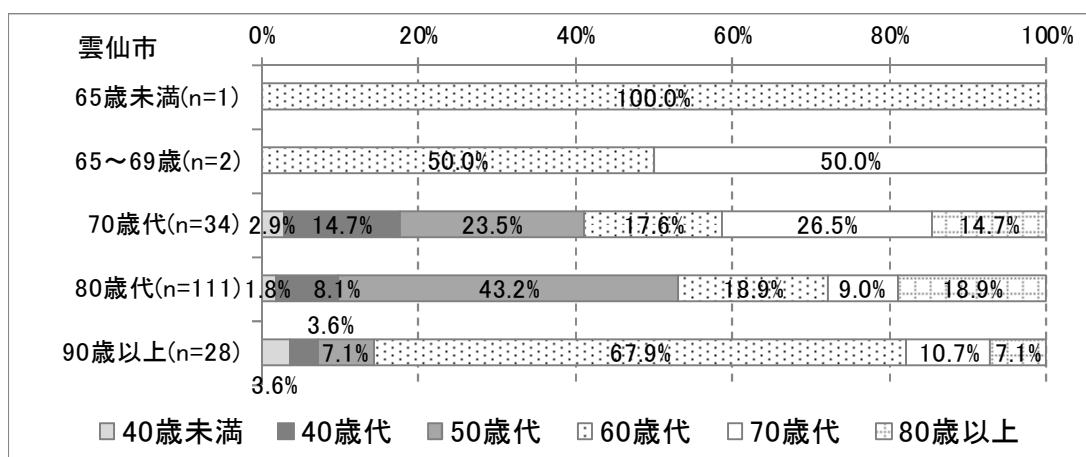
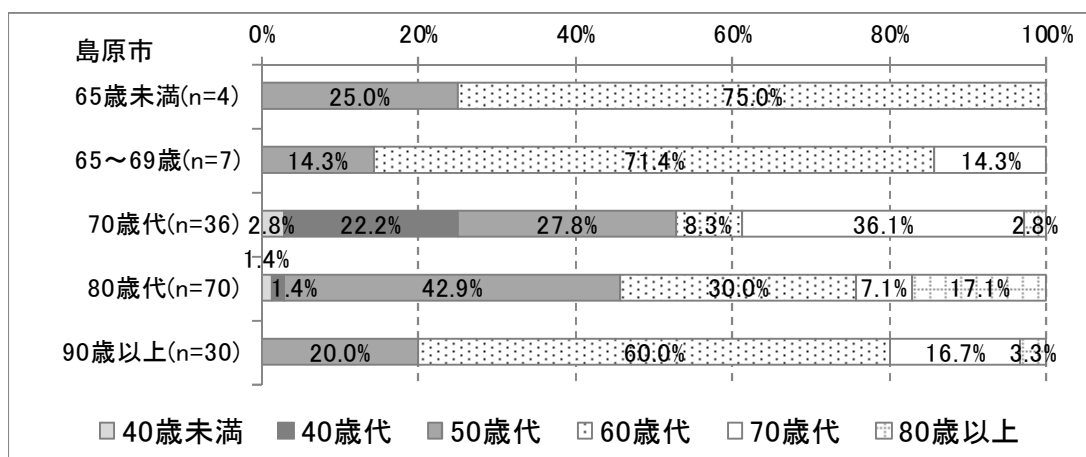
4.1 集計・分析の狙い

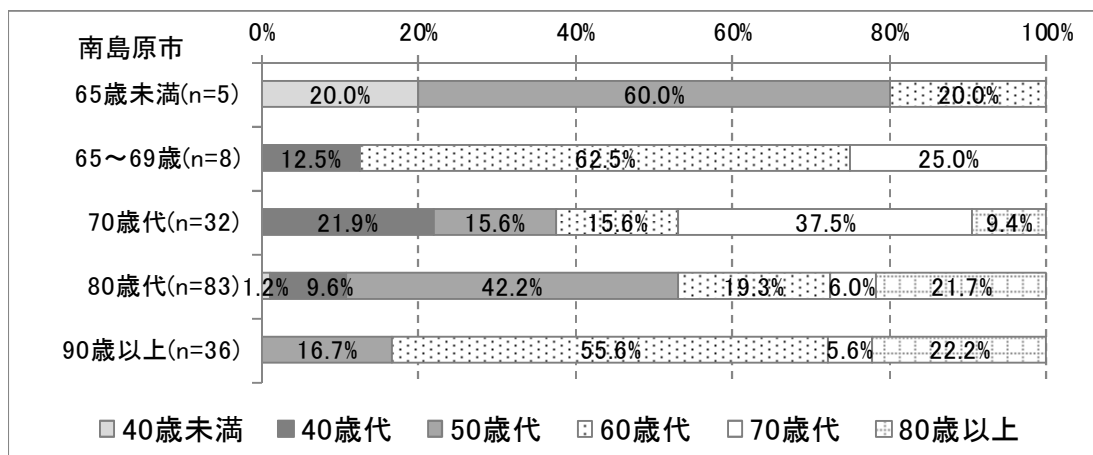
- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。

4.2 集計結果（参考）

(1) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

図表 4-1 本人の年齢別・主な介護者の年齢





在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号[_____]

【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問5を回答し、調査は終了です

問3～問5を回答し、B票へ

問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

問4 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● **ここから再び、全員に調査してください。**

問5 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

● 問2で「2.」～「5.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いしてください。

● 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|-----------------------|---|--------|
| 1. フルタイムで働いている | } | 問2～問4へ |
| 2. パートタイムで働いている | | |
| 3. 働いていない | } | 問4へ |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | | |

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 問題なく、続けていける | 2. 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

介護者に対するニーズ調査

ここからは、主に介護をしている方がお答えください。

Q1 あなた(介護をしている方)の年齢はおいくつですか。

1. 20から30歳代 2. 40から50歳代 3. 60から70歳代 4. 80歳以上

Q2 あなた(介護をしている方)の性別は。

1. 男性 2. 女性

Q3 介護を受けている方ご本人からみた、あなた(介護をしている方)の続柄は。

1. 配偶者 2. 子 3. 子の配偶者 4. 孫 5. 兄弟・姉妹 6. その他()

Q4 あなた(介護をしている方)の家族状況について

Q4-1 あなたは、何人の方を介護していますか 人

Q4-2 あなたは、介護を受けている方と同居されていますか

1. 同居している 2. 同居していない

Q4-3 あなたの家族構成を教えてください

あなたを含めて何人で暮らしていますか(介護を受けている方と同居の場合は含めてください)

人

また、同居されている方はどなたですか。
(あなたからみた続柄をお答えください。いくつでも)

1. 父 2. 母 3. 配偶者(夫・妻) 4. 子 5. 子の配偶者 6. 兄弟・姉妹 7. 祖父母 8. その他

Q5 介護をはじめてどのくらいですか。

1. 1年未満 2. 1～3年未満 3. 3～5年未満 4. 5～10年未満 5. 10年以上

Q6 あなた(介護をしている方)ご自身の現在の健康状態はどうですか。

1. とても健康 2. まあまあ健康 3. あまり健康ではない 4. 健康ではない

Q7 介護を行ううえで困っていることや望んでいることはなんですか。(主なものを3つまで)

1. 介護の方法がわからない 2. 介護サービスの利用方法がわからない
3. 介護サービスをもっと利用させたいが、本人が介護サービスを受けたがらない
4. 家族や近隣の方の理解や協力が足りない 5. 体力的に介護が困難である
6. 精神的に負担が大きい 7. 経済的に負担が大きい
8. 自分の時間がもてない 9. 仕事(パートを含む)に出られない
10. 介護者が交流する機会がない(交流する機会が欲しい)
11. 心身の悩みを相談できる人や窓口がない(相談する機会が欲しい)
12. その他()

Q8 困ったとき、誰に相談していますか。(主なものを3つまで)

1. 配偶者 2. 子どもなど家族や親族 3. 知人・友人 4. 隣近所の人 5. 民生委員
6. ケアマネージャー 7. ホームヘルパー 8. 地域包括支援センター
9. 市町及び県の相談窓口(介護・福祉担当職員、保健師など) 10. 病院や診療所の医師など
11. 薬局・介護用品店 12. 介護される本人
13. その他(具体的に)

Q9 今後、どのような介護をしたいですか。

1. なるべく家族のみで、在宅で介護したい
2. 介護保険サービス(ホームヘルパー等)や福祉サービスを活用しながら在宅で介護したい
3. グループホームのように小規模で家庭的な施設に入所させたい
4. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの大きな施設に入所(院)させたい
5. 要介護になっていない(自立)配偶者と一緒に生活できる施設に入所させたい
6. その他(具体的に)

Q10 家族が介護することについてご意見がありましたら自由にご記入ください

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

「在宅介護実態調査」に係るデータの活用についての同意書

私は、「在宅介護実態調査」に係るデータの活用について、下記の事項を確認のうえ、同意します。

記

○「在宅介護実態調査」に係るデータの利用目的について

本日実施する在宅介護実態調査に係るデータは、国、県及び本組合が実施する高齢者等支援施策の検討の際の基礎資料として活用することを目的に使用させていただきます。本人の許可なく、目的以外の使用はいたしません。

平成 年 月 日

ご署名 _____

